令和２(2020)年度

履修の手引

徳島大学総合科学部

令和２（2020）年度　総合科学部年間行事予定表

前　期（４月１日～９月30日）

新入生オリエンテーション	４月１日㈬　から　４月７日㈫
履修登録期間（Web登録期間）	４月２日㈭　から　４月17日㈮
入学式	４月６日㈪
授業開始	４月８日㈬
履修登録確認期間（Web修正期間）	４月20日㈪　から　５月８日㈮
履修登録確認期限（履修登録修正願提出期限）	５月15日㈮
卒業研究題目届提出期限	５月29日㈮
総括授業・定期試験	７月16日㈭, 17日㈮, 27日㈪　から　８月５日㈬
夏季休業	８月６日㈭　から　８月31日㈪
成績の通知日（追・再試験は10月末までに適宜実施）	８月28日㈮

後　期（10月１日～３月31日）

履修登録期間（Web登録期間）	９月23日㈬　から　９月30日㈬
授業開始	10月１日㈭
履修登録確認期間（Web修正期間）	10月１日㈭　から　10月21日㈬
大学祭（休業日）	10月31日㈯　から　11月１日㈰
開学記念日	11月２日㈪
授業振替日（月曜日）	11月４日㈬
履修登録確認期限（履修登録修正願提出期限）	11月６日㈮
授業振替日（月曜日）	11月26日㈭
冬季休業	12月26日㈯　から　１月８日㈮
大学入学共通テスト試験場設営のため休業	１月15日㈮
コース配属・転学科・転コース願提出期限	１月21日㈭
卒業研究提出期間	１月27日㈬　から　１月29日㈮
総括授業・定期試験	１月28日㈭　から　２月10日㈬
成績の通知日	２月15日㈪
追試験・再試験（４年次生は２月19日㈮まで）	２月26日㈮　から　３月４日㈭
卒業式・修了式	３月23日㈫
学年末休業	３月25日㈭　から　３月31日㈬

大学における自律的学習と社会で求められる能力

徳島大学総合科学部新入生の皆さん，ご入学おめでとうございます。皆さんの入学を教職員一同心よりお祝い申し上げます。

総合科学部は，平成28年４月に学部改組を行い，社会総合科学科の１学科４コース体制で新たに再出発いたしました。

総合科学部社会総合科学科では，人文・人間・社会・地域・情報等の諸科学における専門知識や専門技能，技術を身につけるとともに，専門分野の融合を図ることでグローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解し，問題解決に対応し得る実践的な人材を養成することを目的としています。

これから新たに大学生活を始めるにあたって，皆さんは大きな夢や希望，目標をお持ちだと思います。この『履修の手引』は，皆さんが卒業するまでの総合科学部での履修方法や単位・資格の修得方法，２年次以降に各コースに所属して専門教育を履修する上で必要な要件や規則をまとめたものです。言わば，皆さんが総合科学部で学修するためのナビゲーターです。皆さんには卒業時までこれらの規則が適用されますので，この『履修の手引』に必ず目を通すとともに，卒業時まで大切に保管しておいてください。

これからの４年間は，徳島大学総合科学部での学びを基礎に，皆さんが「社会で活躍する」ための準備期間となります。その研鑽・学修の「場」が徳島大学であり，総合科学部であるということになります。

徳島大学が掲げる教育の理念は，人間性に富む人格の形成を促し，優れた専門的能力と，自立して未来社会の諸問題に立ち向かう，進取の気風を身につけた人材の育成にあります。すなわち，自らの問題関心あるいは社会の諸課題に対して，自らが培った能力をもって積極的に行動できる人材の育成が，徳島大学の教育目標となっています。

明治７年（1874）以来140年以上の歴史をもつ総合科学部もまた，そうした教育理念のもとに，総合的・学際的な広い視野を持ちつつ核となる自らの専門性を深めることで，グローバル化する現代社会の諸課題について考察・分析し，その解決方法を模索できる人材の育成を目指しています。「探求心」をもって自らの問題関心・課題テーマに取り組むことで，皆さんは総合科学部において「学問」や「研究」の醍醐味を知ることになります。

もちろん，社会が大学生に求める能力は，大学で培った教養的知識・専門的知識ばかりではありません。「人間力」あるいは「社会人基礎力」とも言われますが，主体性や行動力，チャレンジ精神，問題発見・解決能力や発想力，コミュニケーション能力や協調性・協働性といった，「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」も，社会から期待されている能力です。コミュニケーション

能力とは，相手の話を聞き，それに対して自分の意見を伝えられる能力のことです。友達とのコミュニケーションであれば簡単でしょうが，見知らぬ他者との間で相手の立場・考えを理解し，自分の考えを相手にどう伝えるか，となると難しいものです。これらの能力は，「学修する力」にも求められます。

それゆえ，総合科学部では，広い視野の育成や社会人としての人格形成教育の観点から，教養教育科目や学部共通科目・実践学習科目の履修も重視しています。このような能力は，大学での学修の場だけではなく，学内外のサークル活動や社会活動などを通じて会得することもできます。時間の許す限り，こうした活動に積極的に参加し，様々な社会体験を通じて自分を研鑽することが，将来にわたっての皆さんの自己形成につながるといえます。

「大学」には，リベラルアーツ（教養教育），学術研究（専門教育），職業教育（キャリア教育），という３つの顔があります。総合科学部でもこれらの教育プログラム（カリキュラム）が展開されており，これらの教育プログラムを通じて，大学生としての能力･資質を高め，自らの目標に向かってのキャリアデザイン（将来設計）が求められることになります。ただし，大学は高校までのように集団生活をおくる場ではありません。自己責任と自己管理のもとに，大学生には自律的な学修が求められることになります。そのことを皆さんが充分に理解し行動することで，ぜひ，皆さんが将来，「総合科学部で学んで良かった」「総合科学部で有為な学生生活を送ることができた」と振り返ることができる，充実した学生時代を送られることを期待しています。

令和２年４月

徳島大学総合科学部長
栗　栖　　聡

目　　次

Ⅰ．総合科学部における学びと生活…… 1
1．総合科学部で学ぶための基本事項…… 3
⑴　総合科学部の学びの特長…… 3
⑵　専門教育と教養教育の区別…… 3
⑶　学年暦と授業の形態…… 4
⑷　授業出席確認システムについて…… 4
⑸　履修登録単位の上限（CAP 制）…… 4
⑹　単位と進級・卒業…… 5
⑺　成績の評価…… 5
⑻　試験などにおける不正行為…… 6
⑼　コース配属と転コース…… 6
⑽　教員免許状や各種資格…… 7
2．コース毎の履修上の要望事項・履修例…… 8
国際教養コース…… 8
心身健康コース…… 14
公共政策コース…… 17
地域創生コース…… 19
3．学生生活の基本事項…… 23
学生への連絡方法／大学の連絡先…… 23
学生証の交付…… 23
学生支援の体制…… 23
キャリア支援・就職情報…… 24
定期健康診断…… 25
休学および退学の手続き…… 25
授業料納付および授業料免除…… 26
海外学術交流協定校等への長期交換留学および短期留学…… 27
奨学金制度…… 30
賞罰・表彰…… 30
証明書や届出…… 31
学部内施設の使用方法…… 32
建物・講義室などの使用および入退室…… 32
喫煙の禁止…… 32
構内の交通規制…… 32
交通事故に遭ったとき…… 33
その他…… 33

Ⅱ　規　則　集…… 35
1．徳島大学総合科学部規則…… 37
2．履修細則…… 42
3．試験細則…… 65
4．コース細則…… 67
5．徳島大学総合科学部学友会会則…… 68
6．徳島大学語学マイレージ・プログラム実施要領…… 70

Ⅲ　語学マイレージ・プログラム…… 73
1．目的…… 75
2．概要…… 75
3．卒業要件…… 76
4．特別な単位認定に伴うマイレージポイントの認定…… 78
5．マイレージポイント等の確認…… 82
6．表彰…… 82
7．証明書の発行…… 82

Ⅳ　教員免許状と各種資格…… 83
1．教員免許状の取得…… 85
2．学芸員の資格取得……102
3．公認心理師の資格取得……103
4．認定心理士の資格取得……105
5．健康運動指導士の資格取得……107
6．公認スポーツ指導者養成講習会「免除適応コース」（共通科目Ⅰ）……109
7．アシスタントマネジャーの資格取得……110
8．ジュニアスポーツ指導員の資格取得……111
9．社会調査士の資格取得……112
10．社会福祉主事の資格取得……114
11．GIS 学術士の資格取得……116
12．日本語教員の養成……118
13．グローバル人材育成学習プログラム……120

Ⅴ　授業概要（シラバス）……123

Ⅵ　そ　の　他……159
コース担当教員一覧表……161
総合科学部（教養教育棟を含む）建物配置図……163

Ⅰ．総合科学部における学びと生活

1．総合科学部で学ぶための基本事項

ここでは総合科学部で学んでいくうえで，もっとも基本的な事柄を説明します。詳細は別のページや，『教養教育履修の手引』『学生生活の手引』を参照してください。

(1) 総合科学部の学びの特長

① 専門性と総合性の融合

人文科学や社会科学，人間科学，地域科学，情報科学などの垣根を越えて，幅広く学際的に学ぶと同時に，特定の分野を専門的に深化させていきます。

② 手厚い教員体制による少人数教育

１学年の学生定員が170名であるのに対し，教員は64名（H 31．4．1現在）を数えます。学部の学生約10人（1学年の学生３人）に教員１人という手厚い体制で丁寧，親身な教育を行います。

③ 地域社会との連携や寄与

学生，教員とも学内での学習・教育にとどまらず，地域社会の課題を知り，積極的な協働を図ります。様々な形で学外の自治体や企業・団体などと連携して課題解決にあたることを目指します。

④ キャリア教育の重視

卒業後の就職・進学や人生設計について早い段階から考えていきます。自分の関心，特性，人生観などを振り返りつつ，社会の今と未来を見据える学習です。

⑤ グローバル人材の育成

グローバル化する内外の社会に対応でき，新しい諸問題に対応できる力を身につけます。その一環として語学力の向上や留学・海外研修などを重視します。

⑥ 汎用的技能の習得

情報リテラシーや外国語の基本的運用力，日本語の文章読解・表現力，国際感覚，コミュニケーション力，プレゼンテーション力，リーダーシップ，チームワークなど，社会で必要とされる基礎的技能を身につけます。

⑦ 教員免許などの資格取得

教員免許をはじめ，在学中に様々な資格が取得できます。ただし，そのためには卒業要件に加えてより多くの学習が必要です。特に，教員免許状の取得要件は近年厳しくなっていることから，真剣な取り組みが求められます。

(2) 専門教育と教養教育の区別

教育課程は，総合科学部で行う「専門教育」と教養教育院で行う「教養教育」とに分かれます。主に１年次で教養教育科目を履修し，２～４年次で専門教育科目を履修します。専門教育と教養教育とでは，時間割や履修の手続き，建物・教室，事務担当係なども別になります。

⑶　学年暦と授業の形態

２学期制で，年度は前期（４月～９月）と後期（10 月～３月）とに分かれ，毎学期の初めに授業の履修登録を行います。授業科目により多少の違いがありますが，それぞれ 16 週（16 回）の授業が実施され，学期中の小テストやレポート課題，あるいは学期末試験によって，成績が評価されます。祝日が多い曜日の授業は，他の曜日と振替られる場合があるので注意が必要です。学年暦をよく確認してください。

授業の形態は講義，演習（ゼミ），実験，実習などがあります。授業時間は，１講時を 45 分とし，原則として２講時 90 分を１コマ（ひとまとまり）として実施されます。90 分の講義の場合，予習と復習をそれぞれ，２時間行うのが前提です。演習（ゼミ）や実験，実習など，２コマ連続して実施する授業もあります。

⑷　授業出席確認システムについて

①　システムを利用するかどうかは授業によって異なり，各授業の出席確認方法は，初回の授業等において教員から説明があります。

②　システムを利用する場合は，毎回の授業において自分の学生証をカードリーダにかざして登録操作を行ってください（初回の授業がカードリーダを設置した講義室で行われるときは，システムを利用した出席確認が行われることを仮定し，授業開始前 10 分間に登録操作が必要です）。

③　カードリーダへの登録操作時，正常な登録を「表示」や「音」等で確認してください。教室によってシステムが異なる場合があります。

④　カードリーダに登録した時刻が，出席扱い時間に含まれる場合を出席，出席扱い時間に含まれず遅刻扱い時間に含まれる場合を遅刻，出席扱い時間及び遅刻扱い時間のいずれにも含まれない場合を欠席とします。ここに，出席等扱い時間は以下を基準としますが，担当教員の変更指定があればこれを優先します。

・出席扱い時間：正規の授業開始時刻の 10 分前から 15 分間

・遅刻扱い時間：出席扱い終了時刻から 15 分間

⑤　学生証を所持していない場合，授業開始前に教員に申し出ることが必要です。授業開始後及び頻繁に学生証を忘れている場合は，原則として申し出は許可されません。

⑥　出席記録は定期試験の受験資格に関わり，出席を偽る登録操作は不正行為です。偽登録を行った場合，当該授業科目の試験を受けることができません。この処分は，システムを用いた場合に限らず，他の出席確認方法で不正行為を行った場合においても適用されます。

⑸　履修登録単位の上限（CAP 制）

履修する科目が多すぎると学修時間や内容が不十分になりますので，履修登録できる授業の単位数に上限を設けています。総合科学部では学年に関わらず，１年間で最大 48 単位（前期と後期の合計）までしか履修ができません。きちんと履修計画を立て，学びたい授業をじっくり選び，しっかり勉強して，確実に単位を修得する必要があります。

ただし，次の科目は単位数の上限に関係なく履修登録できます。①グローバル人材育成学習プログラム（120 ページ参照）で指定されている科目（ただし 24 単位まで），②「教育相談」以外の教職科目，③学

芸員科目，④前期・後期の授業期間中以外に行われる集中講義，⑤「SIH 道場」の科目，⑥語学検定により単位が認定される科目，⑦海外の学術交流協定校へ長期留学する場合，現地で単位を修得した科目（＝総合科学部で認定された科目），⑧その他，教務委員会が認めた科目。

また，年間 30 単位以上修得し，その GPA（⑺を参照のこと）が 3.0 以上の場合，次年度は 8 単位を上限に追加して履修登録できます。

⑹　単位と進級・卒業

授業を受け，試験に合格すると単位が与えられ，その単位の合計数によって進級や卒業が認められます。卒業するためには，大学に 4 年以上在学し，教養教育科目 35 単位以上，専門教育科目 95 単位以上，合計 130 単位以上を修得し，徳島大学語学マイレージ・プログラムについて，マイレージレベルのうちプラチナクラス，ゴールドクラス，ブロンズクラスのいずれかを有していなければなりません（進級に必要な単位数は「履修細則」の 50 頁，語学マイレージ・プログラムについては 76 頁を参照）。通常の講義形式の授業科目の場合，半期受講し試験に合格すると 2 単位が与えられます。授業科目は自分の知的関心に応じて基本的に自由に選べますが，一定の条件にしたがって履修し，進級や卒業に必要な単位をそろえる必要があります。「必修」とされている授業は必ず履修し，「選択必修」とされている授業は，そのカテゴリーの中にある複数の授業科目の中から必ず選択し履修します。コースによって履修要件が異なりますので，所属コースの履修上の要望事項を確認してください。

また，授業科目ごとに配当学年が定められています。たとえば配当学年が「2 年」の場合，2 年生以上の学生は履修できますが，1 年生は履修できません。ほとんどの授業は毎年開講されますが，一部，隔年開講の授業科目もあるので，計画的に履修する必要があります。

⑺　成績の評価

授業ごとにその内容を説明するシラバス（授業概要）があります。皆さんは，シラバスを読んで学びたい授業科目を選択履修します。シラバスに書いてある「到達目標」に照らして，受講生の到達度が成績として示されます。成績は 100 点満点で「秀」（100 ～ 90 点），「優」（89 ～ 80 点），「良」（79 ～ 70 点），「可」（69 ～ 60 点），「不可」（59 点以下）等に区分されます。

また，成績の総合的な指標として GPA（Grade Point Average）があります。GPA には，「総合科学部 GPA」と「徳島大学標準 GPA」の 2 種類があります。

「総合科学部 GPA」は次のような仕組みです。まず，学生が履修した個別の授業科目 GP（Grade Point）を算出します。

・点数が 60 点以上の場合：GP ＝（点数評価－ 50）÷ 10

・点数が 60 点未満の場合：GP ＝ 0

つまり，100 点なら GP は 5.0，73 点なら 2.3，60 点なら 1.0，58 点なら 0 となります。不可や欠席の場合，GP は 0 です。「認定」の評価は，GP の対象外となります。GP を総合して，個人の成績の平均値 Grade Point Average（GPA）が算出されます。

・GPA ＝（科目の単位数× GP）の総和÷（履修登録した単位数の合計）

この GPA の値で個人の成績全体が客観的に示されます。

「徳島大学標準 GPA」は，基本的には「総合科学部 GPA」と同様に成績評価値を示す指標ですが，GP の計算方法が異なり，90 点以上が 4，80 ～ 89 点が 3，70 ～ 79 点が 2，60 ～ 69 点が 1，59 点以下が 0，と整数での段階評価となります。GPA はこの GP 整数値の平均値です。

「総合科学部 GPA」のほうが成績の指標としては精度が高いことから，学内の成績評価にはこちらを用います。他方，国際的に使用されるのは「徳島大学標準 GPA」の形ですので，成績証明書など学外向けの指標としては「徳島大学標準 GPA」の GPA を使用します。

正規の手続きで履修を取り消した科目は GPA に換算されませんが，履修登録したままの出席不足や試験を受けなかった場合などは GP ＝ 0 として計算されます。

⑻　試験などにおける不正行為

試験やレポートなどにおいては，言うまでもなく不正行為をしてはいけません。定期試験等において不正行為が明らかになった場合には，懲戒処分と合わせて，当該の学期に履修した単位がすべて取り消されます。そうなると，その時点でほぼ留年が確定します。

試験における不正行為とは，以下のものをさします。①カンニング（カンニングペーパー，IT 機器，参考書または他の受験者の答案などを見ること。他の受験者から答えを知るなど）をすること，また，答を教えたり，カンニングに協力したりすること。②使用を禁じられた用具を使用して問題を解くこと。③試験場において，試験監督者などの指示に従わないこと。④そのほか，試験の公平性を損なう行為をすること。

また，試験以外であっても，以下のようなことは不正行為とみなされ，上記に準じて処分の対象となりえます。①単位認定にかかわるレポートの作成において，他人のレポートを写すこと，またインターネット上のホームページや著書，論文などから他人の意見やデータを盗用，剽窃（ひょうせつ）すること。②単位認定にかかわるレポートや小テストなどの代筆を行うこと，および代筆をさせること。③授業の出席確認において，不正を行うこと，および不正をさせること。

⑼　コース配属と転コース

２年次に進級すると，コースに分かれて所属します。１年次の 12 月にコースガイダンスがあり，翌１月に志望コースを決めることになります。コースの受入可能数（各コースともに 60 名）を超えた場合は，成績や面接などにもとづいて選抜が行われます。３年・４年次になると，コース内でさらにゼミ・研究室に分かれて専門的に学びます。卒業研究は，原則として，その所属するゼミ・研究室の指導教員の下で取り組みます。いずれの配属についても，自分の知的関心，適性，将来設計などふまえてじっくり考えて決めましょう。

２年生以上で所属コースを変更したい場合は，転コース制度があり，教育上支障がない場合にのみ許可されます。転コースを希望する場合，熟慮の上，担当の教員や学務係と相談し，所定の願書を１月の定められた日までに提出します。転コースはあくまで例外的な扱いですので，所属コースは当初から慎重に選択してください。

⑽　教員免許状や各種資格

教員免許状や各種資格の取得が可能です。（詳しくは「Ⅳ　教員免許状と各種資格」を参照）。教員免許状取得には多くの学生が関心を示しますが，通常の履修に加えて，卒業要件にはカウントされない教職課程の科目を履修する必要があります。近年，教職課程は厳格化されているので安易な気持ちでは教員免許は取得できません。説明会などに必ず参加し，教員養成推進委員会の担当教員にも相談してください。

2．コース毎の履修上の要望事項・履修例

学　科　名	コ　ー　ス　名	受入可能数
社会総合科学科	国　際　教　養	60　名

Ⅰ　国際教養コースとは

国際教養コースは，高度な語学力にもとづき，多様な価値観に寛容で，異なる文化背景をもつ人々とコミュニケーションをおこないながら，社会や経済のグローバル化がもたらす諸課題に主体性と幅広い視野を持って解決にあたることができる人材を育てることを目指します。

こうした異なる文化やグローバル社会の諸課題への洞察力は，海外留学などの様々な社会体験とともに，自文化や自らの住む地域への深い理解という土台があってこそ育まれます。徳島はドイツ兵捕虜による「第九」の日本初演の地として知られ，ポルトガル人作家モラエスが晩年を過ごした地であり，現代では国際展開する企業を多数有しています。このような自分の暮らす地域と世界とのつながりを認識し，地域のグローバル化によって生じる課題を解決する能力がこれからの時代には必要となるでしょう。

そこで，本コースの学生には，自ら課題を見つけ，問題を掘り下げ研究を完成させる課題解決型の教育により，グローバル化の時代の中で地に足のついた問題意識と主体性，行動力を身につけ，将来，さまざまな組織的なプロジェクトの立案，作成，運営にかかわっていくことが期待されます。

Ⅱ　教育目標

国際教養コースは，異文化および自文化を理解し多面的な思考力を可能にする「教養」，広く世界に情報発信ができ，グローバル化がもたらす地域社会の諸課題に主体的に取り組むための「コミュニケーション能力」，そして，海外留学･海外研修などの社会体験，さらにはキャンパス内外での留学生との交流を通して「異文化対応力」を育成することを目標としています。

このような教育目標を実現するために，本コースでは多様な海外留学プログラム，外国語演習科目，英語による講義科目，日本を含む世界の国や地域の特徴について学ぶ科目，そして国際理解と自文化理解のための授業科目などを段階的に配置しています。まず１年次には，基本的な調査・発表能力を養いつつ，さまざまな分野についての基礎的な知識と技能を身につけます。こうした基礎的な学力にもとづいて，２年次からは，実践力を養っていきます。とりわけ，実践的な外国語教育・体験プログラムなどで語学力とコミュニケーション能力を磨いていきます。そのうえで，3・４年次には応用力を培っていきます。短期・長期の留学や国際交流体験を通じて異文化対応能力を培いつつ，自文化理解と国際理解を深めるために，個々の関心や資質に応じて日本・アジアや欧米，その他の地域の言語や文学，文化，思想，歴史，経済，政治，社会について学んでいきます。またそれらの地域を相互に比較して学ぶこともできます。そして，ゼミナールを中心に自ら設定した問題を掘り下げ，議論を積み上げながら卒業研究にまとめていきます。

Ⅲ　履修パターン

本コースでは，こうした教育目標を実現するために次の５つの履修パターンを設けています。

1）グローバル履修パターン：豊かなコミュニケーション力，国際的視野をもって企業や諸団体の国際展開に必要とされる人材を育成する。

2）ヨーロッパ履修パターン：ヨーロッパの歴史や文化を学ぶなかで，異文化としての西洋の視点や価値観に対する理解を深め，そこから国内および国外のさまざまな現象や問題について考察し発信する能力を育成する。

3）東アジア履修パターン：東アジア地域に関する知見を高め，中国語を中心に国際社会で活躍できる人材を育成する。

4）日本語教育履修パターン：日本語・日本文学，異文化，外国語への理解を深め，国際人に求められる幅広い知識を習得することで，外国語としての日本語を教授できる人材を育成する。

5）日本文化履修パターン：国際教養を基盤としながら日本文学・日本語学を中心とする日本文化を深く理解し，修得した知見を広く発信できる人材を育成する。

主な進路としては，国際機関やNGO，外資系企業，貿易商社，グローバル展開する地元企業，外国人観光客交流支援機関，文化交流機関，さらには博物館学芸員，公務員，中学校・高等学校教員，大学院への進学が考えられます。取得可能な資格としては，中学校・高等学校教諭１種，日本語教員資格，学芸員資格などがあります。

Ⅳ　履修上の要望事項

【一般的な要望事項】

国際教養コースでは，さまざまな専門分野にわたる授業を履修することができます。これは「総合科学」を学ぶうえで重要な特徴です。ただし，しっかりとした問題意識・目的意識がないと，学習が散漫になってしまう可能性もあります。指導教員とよく相談し，履修計画を立てるようにしてください。

１年次の指導教員は，学部の教務委員・学生委員です。２年次には「コース入門講座」の担当教員が指導教員となります。３年次以降には，「演習」の担当教員が指導教員となります。

また，卒業に必要な単位を間違いなくそろえるために，この『履修の手引』と，別冊の『教養教育履修の手引』を熟読してください。

【国際教養コースでの履修の道筋】

１年次末にみなさんは国際教養コースを選択します。国際教養コースでは，みなさんが履修計画を立てる際の指針となるように上述の５つの「履修パターン」を用意しています。この５つの「履修パターン」から１つを選択し，そこに示された科目を中心に選択することで，ある領域について一貫性のある履修計画を立てることができます。

２年次初めに５つの「履修パターン」のうちの１つを仮選択し，その「履修パターン」に即して履修します。

３年次初めには，「履修パターン」を本選択します。必ずしも，２年次で仮選択した「履修パターン」と

同じパターンを選択する必要はありません。ただし，履修内容が大きく異なる「履修パターン」への変更は勧めません。

【１年次の履修】

１年次には，教養教育科目と学部共通科目，実践学習科目の授業から履修します。

１）教養教育科目

・別冊の『教養教育履修の手引』を参照して履修してください。

２）学部共通科目

・学部共通科目は，必修科目を１単位，選択必修科目Ⅰを２単位，選択必修科目Ⅱを10単位以上，合計13単位以上修得するように履修してください。

３）実践学習科目

・実践学習科目はまず，必修科目を４単位修得するように履修してください。

【２年次の履修】

２年次には，教養教育科目，学部共通科目，実践学習科目に加えて，コース入門科目とコース基礎科目，一部のコース応用科目を受講します。実践学習科目，コース入門科目，コース基礎科目，コース応用科目については，自分が仮選択した「履修パターン」に提示された科目を中心に履修してください。

１）教養教育科目

・別冊の『教養教育履修の手引』を参照して履修してください。

２）学部共通科目

・学部共通科目は，選択必修科目Ⅱの残った単位分の科目を修得するように履修してください。

３）実践学習科目

・実践学習科目は，自分が仮選択した「履修パターン」が推奨する科目の中から選択してください。選択必修科目Ⅰを８単位以上，選択必修科目Ⅱを２単位以上，１年次の必修科目と合計で14単位修得するように履修してください。なお，「総合科学実践プロジェクトＪ（海外体験単位認定科目）」で４単位を修得した場合，そのうちの２単位は他コース選択科目に含めることができます。

４）コース入門科目

・コース入門科目は，自分が仮選択した「履修パターン」が推奨する科目の中から選択してください。必修科目を２単位，選択必修科目を12単位以上，合計14単位以上修得するように履修してください。

５）コース基礎科目

・コース基礎科目は，自分が仮選択した「履修パターン」が推奨する科目の中から選択してください。選択必須科目を12単位以上修得するように履修してください。

６）コース応用科目

・コース応用科目は，自分が仮選択した「履修パターン」が推奨する科目の中から選択してください。

７）コース自由選択科目・他コース選択科目

・コース自由選択科目・他コース選択科目は，自分が仮選択した「履修パターン」が推奨する科目の中から選択してください。

【３・４年次の履修】

３・４年次では，コース基礎科目，コース応用科目を中心に履修します。自分が選択した「履修パターン」に即して履修してください。コース自由選択科目や他コース選択科目については，視野を広げて自分の専門領域外も俯瞰できるように履修してください。

１）コース基礎科目

・コース基礎科目は，「履修パターン」を参考にして履修計画を立て，選択してください。

２）コース応用科目

・コース応用科目は，「履修パターン」を参考にして履修計画を立て，選択してください。

３）コース自由選択科目・他コース選択科目

・コース自由選択科目・他コース選択科目は，自分が選択した「履修パターン」を参考にして履修計画を立て，選択してください。

４）卒業研究

「演習」での指導に基づいて，卒業研究（必修）を行ってください。

【４年生進級のための語学力要件】

総合科学部では，全卒業生が，国際化の進む社会で必要な語学力を有することを保証するため，４年生に進級し，卒業研究を開始するための要件となる語学試験基準点を設けています。国際教養コース所属学生については，英語についての要件が他コース所属学生よりも高いので，下記 ACE プログラムを計画的に履修することが必要です。４年生進級のための語学力要件については，本冊子の 50 頁を熟読しておいてください。

【ACE プログラム】

国際教養コースの目標である国際的なコミュニケーション･情報発信の力，　海外での社会体験にもとづく多様な価値観への理解力，グローバル化が進む現代社会・国際経済の問題への対処能力を身につけるためには，そのためのツールとしての高度な語学力が要求されます。とくに，英語による資料調査，レポート，ディベート，交渉やプレゼンテーションの能力をつけるために，国際教養コースでは，１年次より一貫して，英語の運用能力を高めてゆくためのプログラムを用意しています。それが ACE プログラム（Academic Communications in English）です。

国際キャリアでの実務をこなすための英語力の目安としては，海外の大学での英語開講授業でのレベルが基準になります。そこで「アカデミック」（academic）というのは，「大学での授業にかかわる」という意味で，大学レベルの学習活動を行うために必要な，英語での「読む」「書く」「聞く」「話す」のコミュニケーション四技能を身につけることを目標としています。この目標は，同時に，国際教養コースの中で重要な位置づけをされている海外長期留学に必要な英語力を身につけるということも意味します。ACE プログラムで伸ばした英語力を長期留学で国際的実戦レベルまで高め，それを卒業後国際キャリアで生かしてもらうことを意図しています。

国際教養コースを選ぶことを考えている学生は１年次より Academic English Ⅰ・Ⅱを履修してください。２年次の Academic Communications Ⅰ・Ⅱにおいては，英語で行われるそれぞれ週２回の授業により，留

学先での英語で授業を受けるのに必要なレベルに到達できるようにします。同時に Extensive Reading も受講して速読力を養成してください。３年次の Advanced Academic Communications Ⅰ・Ⅱにおいては，国際キャリアで必要な英語力をつけるため，留学先で課されるのに近いレベルのライティング，プレゼンテーションの活動を行います。ACE プログラムは，修了することでTOEIC得点にして730点以上のレベルまで英語力を高めることができるよう組まれています。

【留学による修得単位の認定】

国際教養コースに所属するみなさんの多くは，短期あるいは長期の海外留学を経験することになるでしょう。留学先で修得した単位は 40 単位まで卒業要件に算定されます。これについては，本冊子の 27 頁および 46 頁を熟読しておいてください。

【履修パターンごとの履修推奨科目】

パターン名称				グローバル	東アジア	日本語教育	日本文化	ヨーロッパ
学部共通科目	必修	1	総合科学入門講座	※	※	※	※	※
	選択必修Ⅰ	２以上	科学論	○		†		○
			情報処理基礎論			○	○	
	選択必修Ⅱ	10以上	総合科学の基礎A		○	◎	◎	
			総合科学の基礎B	○	○		○	○
			総合科学の基礎C	○	○		○	○
			総合科学の基礎D					
			総合科学の基礎E					
			総合科学の基礎F		○			
			総合科学の基礎G	○	○			
			総合科学の基礎H	○	○			○
			総合科学の基礎Ｊ					
			Academic English Ⅰ	◎	○	◎	◎	◎
			Academic English Ⅱ	◎	○	◎	◎	◎
			Extensive Reading	◎			○	
実践学習科目	必修	4	キャリアプラン入門	※	※	※	※	※
			課題発見ゼミナール	※	※	※	※	※
	選択必修Ⅰ	８以上	キャリアプラン	○	○	○	○	○
			短期インターンシップ	○	○	○	○	○
			総合科学実践講義A	◎	◎	◎	◎	◎
			総合科学実践講義B					
			総合科学実践講義C	○				
			総合科学実践講義D					
			総合科学実践講義E					
			総合科学実践講義F	◎	◎	◎	◎	◎
	選択必修Ⅱ	２以上	総合科学実践プロジェクトA		○	◎	○	○
			総合科学実践プロジェクトB			○		○
			総合科学実践プロジェクトC					
			総合科学実践プロジェクトD					
			総合科学実践プロジェクトE		○			○
			総合科学実践プロジェクトF					
			総合科学実践プロジェクトG					
			総合科学実践プロジェクトH					
			総合科学実践プロジェクトＪ	◎	◎	○	○	◎
コース入門科目	必修	2	コース入門講座	※	※	※	※	※
	選択必修	12以上	ジェンダー論	○	○			○
			比較宗教学	○	○			◎
			国際語としての英語	◎				○
			英語圏文学研究	○				○
			国際関係論	◎	○			○
			近現代世界の成立と展開	○	○			○
			グローバル交渉史	◎	○			○
			東アジア文化研究		◎		◎	○
			日本史研究Ⅰ				◎	
			地理学の基礎Ⅰ				○	
コース基礎科目	選択必修	12以上	日本研究Ⅰ（Japanese Studies I）	○			○	○
			日本研究Ⅱ（Japanese Studies II）	○			○	○
			現代日本社会論（Contemporary Japanese Society）	○			○	
			日本言語概説				◎	
			方言と社会				◎	
			日本表象文化論Ⅰ				◎	
			日本表象文化論Ⅱ				◎	
			現代アジア社会Ⅰ		○		○	
			現代アジア社会Ⅱ		○		○	
			異文化間コミュニケーション	○				○
			現代国際情勢概論（Current World Issues）	○				○
			国際ジャーナリズム	○				○
			Academic Communications Ⅰ	◎		◎	○	◎
			Academic Communications Ⅱ	◎		◎	○	◎
			実用外国語基礎演習Ⅰ		◎		○	○
			実用外国語基礎演習Ⅱ		◎		○	○
			実用中国語演習		◎		○	

			Advanced Academic Communications Ⅰ	○		○		
			Advanced Academic Communications Ⅱ	○		○		
			英語研究Ⅰ	○				
			英語研究Ⅱ	○				
			英語研究Ⅲ	○				
			カルチュラルスタディーズ	○	○	○		○
			比較社会論	○	○			○
			国際協力論	○	○			○
			平和学	○	○			○
			グローバル・ヒストリー	○	○	○		○
			ヨーロッパ史研究	○	○			○
			北米地域研究	○	○			○
			イスラーム世界研究	○	○			○
			アフリカ地域研究	○	○			○
			東アジア社会文化研究Ⅰ		◎	◎		○
			東アジア社会文化研究Ⅱ		◎	◎		○
			現代科学論研究	○				○
			環境倫理学	○				○
			芸術文化論	○		○		○
			比較文化研究	○	○	○		○
			ヨーロッパ研究	○	○			○
			ヨーロッパ文化研究	○	○			○
			応用日本語学概説		○		◎	
コース応用科目	選択必修	16以上	日本言語研究		○	◎	◎	
			日本語教授法Ⅰ		○	◎		
			日本語教授法Ⅱ		○	◎		
			日本語教育方法論Ⅰ		○	◎		
			日本語教育方法論Ⅱ		○	◎		
			日本語教材研究		○	◎		
			応用日本語学研究		○	◎	◎	
			日本文化研究Ⅰ		○	○	†	
			日本文化研究Ⅱ		○	○	†	
			書道			○		
			日本史基礎研究Ⅰ				○	
			日本史基礎研究Ⅱ				○	
			日本史研究Ⅱ		○		○	
			考古学概説		○		○	
			日本文化研究演習Ⅰ				†	
			日本文化研究演習Ⅱ				†	
			言語コミュニケーション演習Ⅰ	○				
			言語コミュニケーション演習Ⅱ	○				
			言語メディア研究演習Ⅰ	○				
			言語メディア研究演習Ⅱ	○				
			国際教養演習Ⅰ	○	○			○
			国際教養演習Ⅱ	○	○			○
			日本言語演習Ⅰ（地域言語）			○	†	
			日本言語演習Ⅱ（地域言語）			○	†	
コース自由選択科目	選択必修	10以上	「コース入門科目」,「コース基礎科目」,「コース応用科目」から選択					
			学習心理学			○		
			社会心理学					○
			認知心理学			○		
			マクロ経済学入門					○
			地域経済論	○				
			国際経済学Ⅰ	○	○			○
他コース選択科目	選択必修	10以上	国際経済学Ⅱ	○	○			
			ブランド戦略論	○				
			社会変動論		○	○		
			地域文化論Ⅰ	○	○	○	○	○
			地域文化論Ⅱ		○	○	○	
			市民活動論					○
			地域変容論					○
			美術概論				○	
卒業研究	必修	6		※	※	※	※	※
専門教育科目　合計		95以上						

必修　※　　強く推奨　◎　　推奨　○　　担当教員の指導による　†

学　科　名	コ　ー　ス　名	受入可能数
社会総合科学科	**心　身　健　康**	60　名

Ⅰ　心身健康コースとは

キーワードは「健康・心理・身体・スポーツ」です。心身健康コースでは，心と身体，および，人間を取り巻く社会環境について，心理学とスポーツ健康科学の二つの領域から学び，それぞれの専門性を高めます。また，心身相関の観点から人間の心と身体の健康を理解し，心理的支援や健康増進の面から健康社会づくりや対人支援に寄与できる人材となるための能力を身につけることを目指します。

Ⅱ　教育目標

心身健康コースでは，人間の健康な生活や社会づくりに向けた諸問題を，人間行動と社会環境という視点から広く学際的な視野に立って理解し，現実の課題と関連付けて実践的に処理する能力を身につけるための教育を目標にしています。具体的な教育目標は以下の通りです。

1）人間の心の仕組みについて心理学的に理解し，心理現象一般および心と関連する健康問題について研究および評価・支援できる能力を身につける。
2）人間の身体の仕組みと働きについて生理学や解剖学を中心に理解し，健康に関わる身体の諸問題について分析・評価できる能力を身につける。
3）人間の健康行動を生活環境・文化環境・社会環境との関連性から捉え，地域における人々の健康的な暮らしや健康維持のための取り組みを企画・経営・評価できる能力を身につける。
4）海外の健康づくり政策や健康課題を学び，グローバルな視点にたった健康社会づくりの知識を身につけ，地域における健康問題の解決に還元できる能力を身につける。

心身健康コースの授業は，心の働きとその仕組みを個人・集団・社会との関わりから探求する心理学と，健康体力づくりに関わる科学的・実践的アプローチであるスポーツ健康科学の二領域から構成されており，自分の興味にあわせてテーマごとに学ぶことができます。

知覚・認知心理学，社会・集団・家族心理学，臨床心理学概論をはじめとする心理学諸分野の講義，運動生理学，スポーツ社会学などのスポーツ健康科学諸分野の講義をとおして，基礎的な知識を体系的に学ぶとともに，心理学実験，スポーツ科学実験実習などをとおして心身健康支援のためのデータ解析の知識とスキルを習得します。また，総合科学実践講義・プロジェクトにおいて実践的な取り組みに触れるとともに，地域スポーツ文化論や心理学的支援法をとおして地域社会と心身健康との関連を学びます。さらに，社会福祉に関する科目など，その周辺諸科学の知識を身につけることによって，理論と実践の両面を兼ね備えた学際的視点から，その成果を全人的な健康増進に生かし，教育・福祉・医療などの分野で，人々の心身の健康生活を総合的に支援できる人材を養成します。

Ⅲ　履修上の要望事項

【コース入門科目・コース基礎科目について】

心身健康コースにおける基礎的な知識を習得するために，コース入門科目とコース基礎科目が開設されています。心理学とスポーツ健康科学の専門的な教育の前に，２年生で履修することが望まれます。コース入門科目は14単位以上必要で，各コースの研究目的・方法や基礎的知識を学びます。コース基礎科目は12単位以上必要で，専門領域を学ぶにあたっての基礎的知識・スキルを習得します。なお，「心身行動研究法（心理学研究法)」（コース入門科目）および「行動統計学（心理学統計法)」（コース基礎科目）は，「心身健康総合演習Ⅰ・Ⅱ」等で必要となりますので，履修してください。

【コース応用科目について】

「心身健康総合演習Ⅰ・Ⅱ」は3，４年生で履修します。ⅠからⅡへと段階的に進み，卒業研究に直接繋がっていく科目ですので，原則として同一教員の演習と卒業研究をひとまとまりで履修してください。演習の受講者調整は２年生の後期に行います。また，中学校・高等学校の「保健体育」の教員免許取得を目指す場合，スポーツ健康科学教室の教員による「心身健康総合演習」を履修してください。

その他のコース応用科目は，各自の興味や進路に合わせて選択し，心身健康総合演習と合わせて16単位以上履修します。

また，コース自由選択科目（10単位以上)，および他コース選択科目（10単位以上）についても，各自の興味や進路を十分に考慮して総合的な視点から履修してください。

【取得資格について】

心身健康コースでは，次の資格取得ができます。取得を希望する場合は，第Ⅳ章（pp.83‐122）および以下の補足説明を参照し，履修計画を立ててください。

１）公認心理師（国家資格）について

公認心理師は我が国初の国家資格で，許可を受けた４年制大学および大学院において指定の科目を履修すること等で受験資格を得ることができます。心理学に関する専門的知識及び技術をもって，心理学的支援を必要とする方に適切な援助を行うこと等を通して，国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的とした資格です。

２）認定心理士（(公社）日本心理学会）について

この資格は，公益社団法人日本心理学会が認定する心理学の基礎資格で，大学で心理学に関する標準的な基礎知識と基礎技術を修得していることを認定するものです。ただし，専門職としての職務を遂行することを想定したものではありません。

３）中学校・高等学校「保健体育」の教員免許の履修クラスについて

２年次のコース配属から，中学校・高等学校「保健体育」の教員免許の取得希望者を履修クラスに編成し，担当教員がついて履修指導します。また，応用科目における地域実習（ウェルネス・プロジェク

ト実習等）では教員免許取得のために，受け入れ先は学校関係や競技団体等に限定されます。また，履修クラスでは，2年から3年間，保健体育教育の学生ゼミを授業以外で行い，指導実践力を高めていきます。

4）健康運動指導士養成クラスについて

2年次のコース配属から，健康運動指導士養成クラスを編成し，指導教員を置き，資格取得のためにサポートを行います。

5）日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者資格に関して，次のコースが承認されています。

・共通科目Ⅰ（講習免除）コース
・アシスタントマネジャー（講習免除）コース
・ジュニアスポーツ指導員（講習免除）コース

学　科　名	コ　ー　ス　名	受入可能数
社会総合科学科	公　共　政　策	60　名

Ⅰ　公共政策コースとは

本コースは，社会科学のうち，法律学，政治学，経済学，並びに経営学の基盤となる知識を総合的に習得した上で，現代社会が抱える様々な問題に対して，公共政策的観点から解決策を提示できる能力を身につけることを目指します。

Ⅱ　教育目標

持続可能な社会を創生することに貢献できる人材を養成するために，専門の講義，演習，実習などの履修を通じて以下のような教育目標を追求していきます。

1）法律学，政治学，経済学，経営学という社会科学の四分野をそれぞれ理解する能力の習得

2）法律学，政治学，経済学，経営学という社会科学の四分野を，総合的・融合的に理解する能力の習得

3）上記1），2）の能力を基礎として，現代社会が直面している具体的な課題に対し，公共政策的観点からの解決策を提示，実行できる能力の習得

それらの能力を習得した上，グローバル化が進む現代社会や経済などの課題に対応できるジェネラリストを養成し，公共政策的視点から問題解決策を提示できるマネジメント能力を育成する。

また本コースでは，社会科学を総合的・融合的に理解する能力を習得できるように，各分野間に単位修得上の垣根を設けておりません。さらに公共政策の基礎能力を習得できるよう，公共政策学を開講しています。

Ⅲ　履修上の要望事項

1）演習（ゼミナール）について

本コースのカリキュラムの中核は，3・4年次に開講される「演習」（ゼミナール）です。所属する演習によって専攻が確定し，原則として演習担当教員の指導の下に，専門についての学習が深められ，卒業研究が行われます。2年生後期に演習の所属が決定されますが，できるだけ早い時期にどの演習を選択するのが自分にとってふさわしいか，関係各教員と十分に相談の上，慎重に検討してください。具体的には以下の演習が開講されます。

公共政策総合演習Ⅰ：3年次配当の法律・政治・経済学系演習

公共政策総合演習Ⅱ：4年次配当の法律・政治・経済学系演習

2）卒論について

本コースでは，卒業研究（6単位）が必修となります。4年次に所属する演習の担当教員の指導の下，卒業研究（卒論）を作成します。

3）学修モデルについて

本コースでは，上記の教育目標を達成するために，標準的な学修モデルをふたつ用意しております。

① ビジネス学修モデル

ビジネス学修モデルは経済学と経営学を中心に学び，グローバル化が進む現代社会や経済などの課題に対応できるジェネラリストを養成するためのモデルであり，たとえば企業経営，少子高齢化，地域興しなどに関心を持ち，あるいは年金，財政や雇用創出などの問題に取り組みたい学生のための履修例です。この学修モデルを中心に履修する学生は，以下の分野の科目を受講することを強く推奨します。

経営学
会計学
総合科学の基礎Ｇ（経済学の基礎），ミクロ経済学
マクロ経済学入門，マクロ経済学
財政学
地域経済論
国際経済学
公共政策学
なお，演習に関しては，経済学系演習を推奨します。

② 政策学修モデル

政策学修モデルは法律学と政治学を中心に学び，公共政策的観点から問題解決策を提示し，それをマネジメントできる人材を育成するためのモデルであり，例えば政策設計のあり方，政治とメディアの関係，憲法改正などに興味を持ち，あるいは環境保護や男女平等をはじめとするさまざまな社会問題に関わる法律に取り組みたい学生のための履修例です。この学修モデルを中心に履修する学生は，以下の分野の科目を受講することを強く推奨します。

憲法
民法
商法
行政法
平和学
国際関係論
環境政策論
総合科学の基礎Ｆ（公共政策学の基礎），公共政策学
なお，演習に関しては，法律・政治学系演習を推奨します。

4）その他

教養教育科目でも法律学，政治学，経済学，経営学の授業が多数開講されています。これらの授業科目を履修しておかないと公共政策コースの専門科目として開講される科目を受講できないわけではありませんが，当然両者は関連していますので，自分の関心の分野がある程度絞れているのであれば，教養教育科目の授業でもその関心分野に沿ったテーマの授業の履修を心がけてください。

学　科　名	コ　ー　ス　名	受入可能数
社会総合科学科	**地　域　創　生**	60　名

Ⅰ　地域創生コースとは

キーワードは「まちづくり・地域づくり」です。実際のまちづくり活動に関わりながら，現代社会を，社会学，文化人類学・民俗学，地理学，都市計画，地域政策，歴史学・考古学，言語学，情報，芸術の視点で総合的・重層的に捉え，表現し，創造できる人材を養成することを目指しています。

Ⅱ　教育目標

グローバリゼーションが進行するなか，産業空洞化や経済的不均衡の拡大，過疎化，少子高齢化やコミュニティの変質，ICT 社会への適応など，現代の地域社会は多くの問題に直面しています。これらの問題の改善や解決に向けて，的確な判断と柔軟な発想に基づき，ICT（Information and Communication Technology）に関する知識とスキルを身につけた文理融合型「まちづくり・地域づくり」政策を，積極的に推進する人材を養成することを目標にしています。公共政策コース開講の科目も専門科目として多く取り入れ，政策に実践的に関わる人材を育成します。

４年間の学びを通じて育てたいのは，以下に掲げる５つの能力です。

① 統計データの活用と分析（データサイエンス），GIS（地理情報システム）を用いた空間解析など，高度な社会情報処理能力（GIS 学術士）

② 地域社会の現場におけるフィールドワークを重視し，調査の企画･設計から，インタビューやアンケートの実施，報告書の作成，プレゼンテーションに至るトータルなプロセスをこなせる能力（社会調査士）

③ 地域の歴史や文化に対する基本的な知識を身につけ，郷土史や伝統行事の継承と活用に際して指導的な立場で関われる能力（学芸員）

④ 情報処理に関連する基礎的な知識と技術を身につけ，地域づくりに活用できる能力（システムエンジニア・プログラマー）

⑤ コンテンツクリエーターとして論理的な思考能力とともに，それを芸術的に表現する能力（コンテンツクリエーター）

本コース在学生には，上記のうちの少なくとも１つの能力をコアに，複数の能力を横断的に身につけてもらいたいと考えています。

Ⅲ　履修上の要望事項

【卒業研究について】

地域創生コースでは，卒業研究が必修になっています。２年次の１月に希望する指導教員を届け出て，３年次からゼミを受講し，最終的には４年次に指導教員を決定します。教員のアドバイスを参考にしながら，体系的な履修計画を心がけてください。卒業研究は，卒業論文または卒業制作のどちらかになります。卒業研究を指導する教員ごとに異なりますので，指導教員に相談してください。

【学修モデルについて】

本コースでは，それぞれ関連し合った３つの学修モデルを想定しており，それぞれのモデルの科目を体系的に受講してもらうことで，教育目標の５つの能力を身につけてもらいたいと考えています。これらの科目は，学部共通科目，コース入門科目，コース基礎科目，コース応用科目にまたがっています。各自，自分なりの履修計画を立ててください。

地　域　社　会　学　修　モ　デ　ル	
地域社会学修モデルは，「地域」と「調査実習」をキーワードにしています。地理学や社会学の観点から地域社会の構造を理解し，都市計画・地域政策学の観点から政策を立案できるような履修が可能となります。現地調査（フィールドワーク）に加えて，GIS や社会統計分析など，基礎的な調査に必要な手法も学ぶことができます。地方公務員となって地域づくり・まちづくりを担ってみたい方にお勧めのモデルです。このモデルを中心に履修する学生は，以下の科目を受講することを強く推奨します。	
地理学の基礎Ⅰ・Ⅱ	２前後（コース入門科目）
地域政策論Ⅰ	２前（コース入門科目）
社会変動論	２前（コース入門科目）
地域計画Ⅰ	２前（コース基礎科目）
空間情報論Ⅰ	２前（コース基礎科目）
比較社会論	２後（コース応用科目）
福祉社会論	２前（コース応用科目）
まちづくり地域社会論	２後（コース入門科目）
地域調査法Ａ・Ｂ	２前後（コース基礎科目）
地域調査演習Ａ・Ｂ	２前後（コース応用科目）

調 査 実 習 （ フ ィ ー ル ド ワ ー ク ）	
この学修モデルで卒業論文を執筆される方は，２年次か３年次で地域調査法と地域調査演習を通年で履修することが前提となります。「地域調査法」は調査に必要な基礎的な理論や分析手法を身につけるための授業で，「地域調査演習」はその応用と実践（フィールドワーク）にあたります。調査法と調査演習は一体として運営され，担当する教員によって特色ある内容から構成されます。GIS 学術士や社会調査士の資格を取得するには，地域調査法と地域調査演習の履修が必須となります。	
地域調査法Ａ・Ｂ	２前後（コース基礎科目）
地域調査演習Ａ・Ｂ	２前後（コース応用科目）

地　域　文　化　学　修　モ　デ　ル

地域文化学修モデルは，「行動する文化・歴史研究」をキーワードにしています。歴史学・考古学，文化人類学・民俗学，社会言語学，地理学の観点から地域の歴史と文化を学ぶ科目から成り立っています。地域に根ざした「発展」のあり方について考え，実践するためには，その地域の歴史的な成り立ちや文化，言語について深く理解する必要があります。そのために，GIS を用いて過去の景観を復原する時空間分析の手法や，フィールドワークによる地域の文化や方言に関する調査，古文書や考古学的な資料の収集・分析・保存など多様な学びが可能です。博物館の学芸員や社会科の教員，国家・地方公務員やメディアや観光業界といった，ひろく地域ならではの歴史・文化資源の探究と活用に関わりたい方にお勧めのモデルです。この学修モデルでは，以下の科目の履修を強く推奨します。なお，卒業論文執筆については，文化人類学・民俗学と地理学では地域調査法と地域調査演習，考古学では考古学調査法と考古学調査実習，日本史学では日本史基礎研究Ⅰ又は日本史基礎研究Ⅱ，社会言語学では応用日本語学概説，日本言語研究を２年次か３年次に受講しておくことが前提となります。

日本史研究Ⅰ	２前（コース入門科目）
考古学概説	２前（コース入門科目）
日本言語概説	２前（コース基礎科目）
地域変容論	２後（コース応用科目）
地域文化論Ⅰ・Ⅱ	２後（コース応用科目）

調 査 実 習 （ フ ィ ー ル ド ワ ー ク ）

この学修モデルで文化人類学・民俗学や地理学に関連した卒業論文を執筆する学生は，２年次か３年次で地域調査法と地域調査演習を通年で履修することが前提となります。「地域調査法」は調査に必要な基礎的な理論や分析手法を身につけるための授業で，「地域調査演習」その応用と実践（フィールドワーク）にあたります。調査法と調査演習は一体として運営され，担当する教員によって特色ある内容から構成されます。GIS 学術士や社会調査士の資格を取得するには，地域調査法と地域調査演習の履修が必須となります。

地域調査法Ａ・Ｂ	２前後（コース基礎科目）
地域調査演習Ａ・Ｂ	２前後（コース応用科目）

情　報　・　表　現　学　修　モ　デ　ル

情報・表現学修モデルは，プログラミングやアプリ開発のような情報学とデザインや絵画表現のようなアートの融合を目指しています。情報という観点により，地域社会をネットワークやコミュニケーションの視点から分析できるようにします。プログラミングを通じて，コンピューターに自分の意図した情報処理を行わせるスキルを習得できるようになります。その上で，アートや言語といった対象に即して効果的に表現する手法を習得し，実践します。この学修モデルでは，以下の科目をまず受講しておくことを強く推奨します。

ネットワーク・アプリケーション研究	２前（コース入門科目）
情報創生プロジェクト	２前（コース基礎科目）
環境アート	２前（コース基礎科目）
メディア情報論	２後（コース応用科目）

【コース独自の教育でとれる資格】

社　会　調　査　士	
社会調査士の資格取得には，社会調査士認定機構により認定されたＡ～Ｇの中から６科目を受講する必要があります（詳しくは履修の手引の社会調査士の項目を参照）。調査設計から実査･フィールドワークを通じての報告書作成といった社会調査に必要な能力が身につきます。認定科目は年度ごとに変わるので，申請の際には必ず，社会調査士認定機構の HP を参照すること。	
フィールドワーク入門Ⅰ	１前（教養教育科目）
フィールドワーク入門Ⅱ	１後（教養教育科目）
情報処理基礎論	１後（学部共通科目）
社会統計学Ⅰ	２前（コース基礎科目）
社会統計学Ⅱ	２後（コース基礎科目）
地域調査法Ａ・Ｂ	２前後（コース基礎科目）
地域調査演習Ａ・Ｂ	２前後（コース応用科目）

Ｇ　Ｉ　Ｓ　学　術　士	
GIS 学術士の資格取得には，日本地理学会より認定されたＡ～Ｄに対応する科目を受講する必要があります（詳しくは履修の手引の GIS 学術士の項目を参照）。地理情報をコンピューターで系統的に取得・構築，管理，分析，総合，表示・伝達することに関わる能力が身につきます。対応科目は，年度ごとに多少の変動があるので，申請の際には必ず日本地理学会の GIS 学術士の HP を参照すること。	
情報科学入門	１前（教養教育科目）
地理空間情報と人間社会	１前（教養教育科目）
空間情報論入門	１後（教養教育科目）
情報処理基礎論	１後（学部共通科目）
社会統計学Ⅰ	２前（コース基礎科目）
空間情報論Ⅰ	２前（コース基礎科目）
空間情報論Ⅱ	２後（コース応用科目）
地域調査演習Ａ・Ｂ	２前後（コース応用科目）
地域総合演習Ⅰ・Ⅱ	３・４前後（コース応用科目）

3．学生生活の基本事項

総合科学部では，みなさんが充実した学生生活を送ることができるように，様々な支援体制をとっています。以下では，そうした情報や学生生活を送る上での注意事項を紹介しています。よく目を通し，有意義な学生生活を送るようにしてください。

なお，学務部発行の『学生生活の手引』も併せてよく読んでおいてください。

学生への連絡方法／大学の連絡先

みなさんに対する通知や連絡（講義室の変更，試験，休講，呼び出しなど）は，すべて掲示によって伝えられます。常に所定の掲示板（教養教育については教養教育４号館１階，専門教育については総合科学部１号館学務係前および１号館西側の外）を一日に一回は必ず見るようにして，自己に不利な結果を招かないように注意してください。また，総合科学部のホームページ（https://www.tokushima-u.ac.jp/ias/）や，学生用教務事務システムにも主要な事項が掲載されています。

大学への問い合わせや**緊急連絡**等が必要な場合には，総合科学部事務課学務係まで連絡してください。

◎総合科学部事務課学務係（総合科学部１号館西棟１階）

TEL. 088 － 656 － 7108　　FAX.088 － 656 － 9314　　E-mail：skgakumk@tokushima-u.ac.jp

学生証の交付

学生証は，本学の学生であることの証明ですから，常に携帯してください。学生証を所持していないと，講義室，研究室，図書館，情報センターなどの本学諸施設が利用できなかったり，証明書等の交付や試験が受けられない場合があります。紛失した場合には，直ちに学生証汚損（紛失）届に写真（更新する場合のみ）を添え，学務部教育支援課教務・情報係で再交付を受けてください（徳島大学学部共通細則第７条～第11条,『学生生活の手引』関係諸規則参照）。

学生支援の体制

総合科学部では，留学生・社会人・帰国子女・編入生を含むすべての学生の大学生活を支援する体制を組織的に整えています。

授業の履修や学習等の支援については「教務委員会」，学生生活の支援については「学生委員会」，将来の進路や就職に関わる支援については「就職委員会」が中心になって担当しています。

また，それ以外の教員も含めて，各学年に担任教員を配置しています。１年生については，各コースの教務委員･学生委員のいずれかが主担任であり，「課題発見ゼミナール」の各クラス担当教員が副担任です。２年生については，所属するコースの教員のいずれかが主担任であり，そのコースの教務委員・学生委員が副担任です。３・４年生については，所属するゼミ（卒業研究のための演習）の担当教員が主担任であり，所属コースの教務委員・学生委員が副担任です。

この他，各コースに就職委員がいます。何かわからないこと，気になることがあれば，これらの教員に遠慮なく相談してください。また，どこに相談してよいかわからないときは，総合科学部事務課学務係に尋ねてください。

オフィスアワー

総合科学部の教員が，毎週決まった曜日・時間に研究室で皆さんの相談に応じています。また，相談内容によっては，専門分野の先生方を紹介しています（詳しくは，総合科学部のホームページ，シラバスおよび各教員研究室のドアの表示をご覧ください）。

キャリア支援・就職情報

将来の進路とキャリア教育

将来の進路（就職・進学）をどうするかは，学生生活で最大の課題です。就職・進学それぞれの進路には，それなりの準備と能力が求められます。早めに自分の将来設計（キャリアデザイン）を立て，その実現に向けて努力が必要になります。

総合科学部では，そうした皆さんの将来設計を支援するキャリア教育として，必修科目「キャリアプラン入門」を１年次の前期に履修することになります。この科目では，大学での学びの意義と社会との関わり方についてを学修するとともに，社会人基礎力（人間力・就業力）やキャリアデザイン設計について学びます。コース配属後の２年次以降も，「キャリアプラン」あるいは「短期インターンシップ」という授業科目を履修することができますので，自らの専門分野を深める中で，将来設計の一助としてください。

キャリア支援室

就職に関する情報は，キャリア支援室（教養教育４号館１階）で提供されています。ここでは，皆さんが将来の進路を考える参考になるように，全国の企業および公務員試験・教員採用試験等の情報が整理されており，必要に応じて自由に閲覧できるようになっています。

また，キャリアカウンセラーや職員が皆さんの相談に応じていますので，3・４年生のみならず１・２年生の皆さんも気軽に相談してください。なお，キャリア支援室には次のような資料等があります。

○企業からの求人票・企業パンフレットなど
○就職ガイダンスや企業説明会・業界研究セミナーの案内
○公務員等受験案内
○教員採用試験案内
○就職関係図書・DVD
○各種就職雑誌（受験ジャーナル・教職課程など）
○新聞（徳島新聞・日本経済新聞）
○卒業生の就職先一覧
○企業等受験報告書
○就職に関する情報検索のためのパソコン，プリンター　　など

就職委員会

就職については，各コースの就職委員（教員）で組織する就職委員会を中心に，企業開拓，情報収集，就職説明会・講演会，就職相談，助言指導，進路調査などにあたっています。就職委員は皆さんの進路選択へのアドバイスも行っていますので，将来設計についても積極的に相談してください。就職は人生の一大選択です。家族や指導教員，就職委員，あるいはキャリア支援室のキャリアカウンセラーや職員などともよく相談しながら，悔いのない選択をしてください。

なお，民間企業を中心とした就職ガイダンスや企業説明会，業界研究セミナー，求人紹介などは，全学組織である「キャリア支援室」を中心に実施しています。早い段階から積極的に利用し，自らの意識を高めるように心がけてください。

就活サポート室

総合科学部では独自に就活サポート室を設けており，人事担当等経験豊富なキャリアコーディネーターが，就活のアドバイスを始め，企業紹介，履歴書・エントリーシートの添削指導，企業研究，面接練習といった個人指導や，経済・雇用状況についての分析を行っています。

３年生後期になって実際の就職活動が始まってみると戸惑う人も多いのですが，ベテランのキャリアコーディネーターの助言は有益です。少しでも就職活動を有利に進めるために就活サポート室を活用してください。

また１・２年の皆さんも，将来に向けて役立つ情報を提供しておりますので立ち寄ってください。

定期健康診断

毎年４月～５月に健康診断を実施していますので，**必ず受診してください**。また，４年次学生で就職活動などに必要な健康診断証明書は，定期健康診断受診者に対して諸証明自動発行機で発行しています。

休学および退学の手続き

１）休学の理由

次の理由により，２か月以上就学できない場合，許可されれば休学できます。休学にあたっては保護者（保証人）や指導教員と事前に十分に話し合ってください。それぞれの理由に応じて休学願のほか，カッコ内の書類が必要です。休学願は学務係で随時受け付けます。

① 疾病又は負傷（医師の診断書）
② 学資の支弁が困難な場合（理由書）
③ 災害等により修学困難と認められた場合（罹災証明書）
④ 海外の教育・研究施設において修学する場合（受入先の証明書（写））
⑤ 自主的な海外留学や長期海外生活体験のための休学（理由書及び指導教員等の意見書）
⑥ 大学院における研究を継続するために必要な期間の休学（理由書及び指導教員等の意見書）
⑦ 勤務の都合（理由書）（夜間主コース及び大学院各教育部の学生のみを対象とする）
⑧ 出産又は育児に従事する場合（母子健康手帳の写し等）
⑨ 家族の看病又は介護をする場合（理由書）
⑩ 公共的な事業に参加する場合（受入先の証明書（写））
⑪ その他，やむを得ない理由であると認められた場合（理由書及び指導教員等の意見書）

２）休学にともなう授業料の免除

休学しようとする学期の前に休学が許可されれば，当該の学期中，授業料は発生しません。そのためには学期の始まる１か月前（前期だと２月中，後期であれば８月中）までに休学願を提出してください。学期が始まってからの休学は一部または全額の授業料が必要です。

3）退学

退学の場合は，退学願のほか，指導教員等の意見書が必要です。学務係で随時受け付けますが，学期の途中での退学の場合は授業料が発生します。学期が始まる前に退学を許可されたい場合，学期の始まる１か月前（前期だと２月中，後期であれば８月中）までに退学願を出してください。在学期間中の授業料の納付は必要です。

退学にあたっては保護者（保証人）や指導教員と事前に十分に話し合ってください。

授業料納付および授業料免除

1）授業料納付

授業料は前期（４月から９月）分を４月末日までに，後期（10 月から翌年３月）分を 10 月末日までに納入しなければなりません。

なお，申出により，前期分納入の際，後期分もまとめて納入することができます。

入学年の前期分授業料は，銀行窓口にて，本学専用の振込用紙を使った銀行振込となりますが，後期分～卒業までの授業料の納入方法として，本学では，「口座振替制度」を実施しています。口座振替制度とは，指定金融機関（阿波銀行・三菱東京 UFJ 銀行・四国銀行・徳島銀行・ゆうちょ銀行）に開設された学生，保護者又は保証人名義の預金口座から，前・後期ごとに自動引落が行われる納入方法で，手数料は不要です。

■注意事項

① 授業料口座振替申込書は合格通知書に同封されています。

② 正当な理由もなく納付を怠り，催告してもなお納付しない者は，学則第28条第２号により除籍されます。

2）授業料免除

経済的理由により授業料の納付が困難な本学学部学生の申請者に対し，審査の上，日本学生支援機構の給付奨学金の支給と授業料免除（全額免除，２／３免除，１／３免除）の支援を行います。

【対象者】

日本学生支援機構給付奨学金に申請して認定を受けた者

※日本学生支援機構の給付奨学金の申請と授業料免除の申請はセットで行います。どちらか一方だけの申請は原則できません

上記申請希望者は徳島大学ホームページから申請用紙をダウンロードして，必要事項をご記入の上，受付期間中に学生支援課へご提出ください。

※受付期間等詳細については，本学ホームページ，学内メール，掲示等にてお知らせします。

海外学術交流協定校等への長期交換留学および短期留学

徳島大学は海外の大学と学術交流協定を結んでおり，協定校への交換留学制度などを整えています（大学院生対象分も含む）。また，さまざまな奨学金制度もあります。ここでは概要のみを示しますので，詳細は以下に問い合わせてください。カルチャー・ラウンジ（１号館北棟２階）でも資料を閲覧できます。

・国際課留学生支援係（地域創生・国際交流会館４階，メールアドレス　ryugakuk@tokushima-u.ac.jp）

・田久保　浩　教員（英語圏の場合）h.takubo@tokushima-u.ac.jp

・荒武　達朗　教員（中国語圏の場合）aratake@tokushima-u.ac.jp

１．学術交流協定締結校への長期留学（単位取得を目的とする１学期以上の留学）

学術交流協定締結校へ交換留学をするためには，応募要件として次の３点を満たすことが必要です。希望する学生は計画的に準備をしておく必要があります。

１）グローバル人材育成学習プログラム（120 頁参照）に登録すること

２）現地使用言語の充分な能力

英　語：以下に示すいずれかの検定試験の得点以上のスコアを持っていなければ派遣候補にはなれません。また，高スコアを持っているほうが選考上有利です。

TOEIC　スコア 500，TOEFL　スコア 470

（TOEIC IP，TOEFL は ITP Level １を基準とする）

中国語：HSK，中国語検定試験，TECC による資格に基づいて審査をします。未取得でも応募できますが，上級，高スコアを持っているほうが有利になります。

３）応募時点での「総合科学部 GPA」2.6 以上

（2.6 未満では派遣候補になれません）

これらの条件を満たした上で，書類選考，面接により派遣が決定されますが，同時に各受入れ校の語学基準を満たさなければなりません。なお，「外国留学願」および「海外留学誓約書」は出発の２ヶ月前までに国際課留学生支援係に，「海外渡航届」は学務係に提出すること（短期留学の場合も提出する必要あり）。

さらに長期留学をする者は「留学に伴う履修計画書」を学務係に提出する必要があります。これには単位認定を希望する科目などの情報を書き込みます。また，留学により修得した単位の本学部での認定については，「９　留学及び外国語技能検定試験による単位認定」（46 頁）を参照してください。

・学術交流協定締結校等と使用言語

①　ルンド大学（スウェーデン）（英語）

②　ビショップス大学（カナダ）（英語）

③　ヴァレンシアカレッジ*（アメリカ合衆国）（英語）

④　ラトヴィア大学（ラトヴィア）（英語）

⑤　ザグレブ大学（クロアチア）（英語）

⑥　ゲント大学（ベルギー）（英語）

⑦　リュブリャナ大学（スロベニア）（英語）

⑧　ベトナム国家大学ハノイ校外国語大学（ベトナム）（英語）

⑨　慶北大学校（韓国）（英語）

⑩　サビトリバイ　プーレ　プネ大学（インド）（英語）

⑪　マラヤ大学（マレーシア）（英語）

⑫　開南大学（台湾）（英語）（中国語）

⑬　復旦大学（中国）（中国語）

⑭　武漢大学（中国）（中国語）

⑮　南京大学（中国）（中国語）

⑯　寧波大学（中国）（中国語）

⑰　吉林大学（中国）（中国語）

⑱　西安交通大学（中国）（中国語）

⑲　国立嘉義大学（台湾）（中国語）

⑳　育達科技大学（台湾）（中国語）

人数，締め切り時期については問い合わせてください。なお，毎年複数回，留学制度の説明会を開催します。

＊ヴァレンシアカレッジへの留学は，ディズニー・ワールド（カリフォルニア州オーランド）でのインターンシップを含みます。英語でのジョブ・インタビューに合格する必要があります。

＊協定校等へ長期留学する学生は，渡航日程の関係上，不都合があれば学部専門科目の定期試験を繰り上げて受験できる場合があります。詳しくは学務係に問い合わせてください。

2．短期留学プログラム

	プログラム	派遣先	海外研修期間	単位
1	南イリノイ大学 CESL 英語研修	アメリカ	8月中旬～9月中旬	4
2	モナッシュ大学 MULEC 英語研修	オーストラリア	8月中旬～9月中旬	4
3	クイーンズ大学　英語研修	カナダ	8月上旬～9月上旬	4
4	慶北大学校韓国文化体験研	韓国	8月上旬～中旬	2
5	復旦大学中国語研修	中国	8月上旬～下旬	4
6	US-JAPAN FORUM カリフォルニア・イノベーション研修	アメリカ	9月中旬	2
7	グレナンガ国際高校　美術・日本語教育インターンシップ	オーストラリア	8月～9月	4
8	ラトヴィア文化交流研修	ラトヴィア	9月中旬～下旬	2
9	スペイン　地域創生文化研修	スペイン	8月～9月	2
10	ディズニー・ユース・カレッジプログラム	アメリカ	8月下旬～9月中旬	2
11	開南大学での中国語／英語研修	台湾	8月中旬～下旬	2
12	寧波大学　日中文化交流研修	中国	9月中旬～下旬	2
13	ネパール海外フィールドワーク	ネパール	9月中旬～下旬	4
14	フリンダーズ大学　演劇専攻学生との共同学習プログラム	オーストラリア	9月下旬～10月上旬	2
15	オークランド大学 ELA　英語研修	ニュージーランド	2月中旬～3月中旬	4
16	クイーンズ大学　英語研修	カナダ	2月中旬～3月中旬	4
17	南イリノイ大学　CESL　英語研修	アメリカ	2月中旬～3月中旬	4
18	ベトナム文化体験研修	ベトナム	2月中旬～下旬	2
19	US-JAPAN FORUM グローバルプロ基礎コース	アメリカ	2月中旬～3月中旬	2
20	ケニア海外フィールドワーク	ケニア	12月下旬～1月上旬	2
21	復旦大学中国語研修	中国	2月下旬～3月下旬	4
22	台湾育達科技大学文化交流研修	台湾	3月上旬～中旬	2
23	ポルトガル　文化交流研修	ポルトガル	3月上旬～中旬	2

・上記語学研修はいずれも「総合科学実践プロジェクト J」（44 頁，155 頁）による単位認定のプログラムです。
・南イリノイ大学，モナシュ大学，オークランド大学，復旦大学，開南大学の語学研修については，教養教育院の語学科目の単位認定を受けることも可能です。（ただし，開南大学の語学研修で教養教育院の語学科目の単位に認定されるのは中国語のみです。）
・同一のプログラムについては，「総合科学実践プロジェクト J」，教養教育院科目いずれかでしか単位認定を申請できません。
・事情により，これらのプログラムが実施されない年があります。

3．学術交流協定締結校への長期留学及び短期留学に対する援助

① JASSO（独立行政法人日本学生支援機構）奨学金
申請プログラムが採択された場合のみ。
派遣期間：８日以上１年以内，月額６～８万円
支給実績：2017 年度～ 2019 年度（予定者含む）
短期　74 名／長期　35 名
2020 年度　支給可能数
短期　22 名／長期　23 名

② 「徳島大学海外留学支援制度　徳島大学アスパイア奨学金」
派遣期間：12 ヶ月未満
奨学金額：短期（８日以上２ヶ月未満）　５万円～７万円
長期（２ヶ月以上 12 ヶ月未満）　月額４万円～６万円
応募締切：募集要項（国際センターホームページ https://www.isc.tokushima-u.ac.jp/ 内）を参照。
支援実績：2017 年度～ 2019 年度（予定者含む）
短期 72 名／長期６名

③ 「徳島大学学生後援会」による学生の海外派遣支援助成
派遣期間：28 日以上
奨学金額：大学院生　５万円
学部学生　３万円　※１度の派遣につき１回限り
応募締切：随　時

いずれも「外国留学願」を提出し，学長の許可を得る必要があります。また，本学及び他の機関から海外留学に関わる他の奨学金による給付を受ける場合は，原則として支給対象となりません。上記以外に援助が出る場合もありますので，国際課留学生支援係に問い合わせてください。

海外留学プログラムについては下記のページを参照してください。随時新しい情報がアップされます。また，カルチャー・ラウンジでも情報を提供していますので訪問してみてください。

http://www.souka-international-tokushima-u.net

徳島大学の留学生のための奨学金制度

私費留学生が応募できる奨学金には下記のようなものがあります。

・日本学生支援機構による文部科学省外国人留学生学習奨励費
　申請時期：３月末～４月初旬

・徳島大学国際教育研究交流資金による外国人留学生に対する奨学金事業
　申請時期：３月～４月末頃

・各種民間財団による奨学金
　詳細については国際課留学生支援係に問い合わせてください。

奨学金制度

日本学生支援機構奨学金は，経済的理由で修学が困難な優れた学生に学資の給付又は貸与される奨学金制度で，給付型奨学金及び貸与型奨学金（第一種（無利子）奨学金，第二種（有利子）奨学金）があります。学業成績が著しく不良な者は，奨学金の給付又は貸与が停止になることがあります。

これ以外にも，地方公共団体および民間奨学会による奨学金制度があります。募集等の条件は，団体により種々異なり，大学を通して応募するものと団体へ直接応募するものがあります。

奨学生の募集は掲示により通知しますので，希望者は学務部学生支援課（教養教育４号館１階）へ申し出てください（詳細は学務部発行の『学生生活の手引』を参照）。

賞罰・表彰

学業や課外活動，社会活動において高い評価を受けた学生は，「徳島大学学生表彰」を受けることがあります。また，学業・人物が優秀な学生は「康楽賞」による表彰制度もあります。一方，本学学生としての本分に反した者は，退学・停学などの懲戒処分を受ける場合があります（「徳島大学学則第 51・52 条」）。

１）徳島大学学生表彰

「徳島大学学生表彰要項」にもとづいて推薦されますが，表彰を受ける基準は次のようになっています。

① 学業その他において得られた成果が，学会又は国内外の公的機関等において表彰された者
② 全国規模のスポーツ競技会等において３位以内に入賞した者
③ 西日本大会等において優勝した者
④ 中・四国大会等において優勝した者
⑤ 四国地区大学総合体育大会（通称インカレ）において優勝した者
⑥ 文学，絵画，彫刻，音楽，演劇等の芸術・文化活動で作品・公演等が，全国規模の審査等で賞を受けた者
⑦ ボランティア活動，人命救助，犯罪または火災防止等で，国内外の公的機関等において表彰された者

２）総合科学部学生表彰

総合科学部では，学業成績（GPA）が優秀であった３年生及び４年生を「総合科学部学生表彰要項」に基づいて表彰します。

3）康（こう）　楽（らく）　賞

本学には，康楽会から贈られる康楽賞（学術研究と奨学金の２種類）の制度があります。いずれも，各年度の卒業年次学生に対して優先的に授与されます。募集は毎年７月頃に掲示により通知されますので，希望者は推薦書などの所定の書類を揃えて総合科学部事務課学務係へ提出してください。

康楽賞（学術研究）は人物および学業成績が優秀で，卒業研究などで優れた研究成果等をあげた者（３件）に賞状と賞金（５万円）が授与されます。応募時には研究報告書が必要です。また，康楽賞（奨学金）は学業成績が優秀で，経済的に困難である者（３名）に賞状と賞金（10万円）が授与されます。

4）徳島大学総合科学部渭水会会長賞

本学部には，同窓会である渭水会から贈られる渭水会会長賞の制度があります。渭水会会長賞は，指導教員の推薦に基づき，学業成績優秀で研究活動及び学生としての活動全般について，模範となる優れた学生（３名）に賞状と副賞（５万円）が授与されます。

5）試験などの不正行為

試験でカンニングをはじめ不正行為をした者は，徳島大学学則により懲戒処分（退学，停学，訓告）を受けます。また，当該の科目はもとより，その学期中に履修した他のすべての科目の成績が取り消されます。

不正行為とは，次の行為をいいます。

① カンニング（カンニングペーパー・IT 機器・参考書・他の受験者の答案等を見ること，他人から答えを教わることなど）をすること。カンニングに協力することも不正行為です。

② 使用を禁じられた用具を使用して問題を解くこと。

③ 試験場において，試験監督者等の指示に従わないこと。

④ 試験場において，他の受験者の迷惑となる行為をすること。

⑤ その他，試験の公平性を損なう行為をすること。

試験時以外に，不正行為と見なされるものとして，次のような行為があります。

① インターネット上からのコピペや文献・書籍を丸写しすること。レポートなどで，他人の書いた文章を自分が書いた文章のようにして提出するのは盗作です。他人の文章を引用，参照する際は出典を明記します。

② 代筆や代返など他人がなりすまして出席を装うこと。

学業成績も考慮されます

授業料免除と同様に，学生交流協定締結校への留学や，奨学資金・康楽賞の応募には，「学業成績が優秀」であることも条件となっています。各選考の学業成績基準は若干異なりますが，１）１年次の場合には高校の評点が3.5以上，2年生以上は標準修得単位数（２年32単位，3年64単位，4年96単位以上）を取得したうえで，２）成績が学科の同学年で上位１／２以上か，3) 修得単位ごとの各科目の成績に［優５／良３／可１］の数字を乗じ，その総和を総単位数で除した成績が3.0以上であることが，一つの目安になります。

証明書や届出

各種証明書の発行や各種届の手続き・窓口は，内容によって違います。成績証明書，在学証明書，学割証，

卒業（修了）見込証明書，健康診断書などは，諸証明自動発行機（４号館１階・教育支援課）で発行されます。他の証明や届は総合科学部事務課学務係，学務部教育支援課・学生支援課（４号館１階）などに分かれますので，詳細は『学生生活の手引』で確認してください。

身上調書に記入した内容に変更があった場合は，１週間以内に学務係に届け出てください。

学部内施設の使用方法

運動場およびテニスコートの使用

⑴　使用の受付は総合科学部事務課学務係が担当しています。

⑵　使用調整のため，前期･後期に使用の希望調査（仮予約）を実施します。希望調査は「希望調査表」を学務係に提出してください。

⑶　希望調査期間等は，それぞれの学期の初めに掲示板で周知します。

⑷　「希望調査表」に基づき「使用日の仮予約」を学務係が行います。

⑸　使用責任者は，仮予約後に実際に使用する場合は必ず使用日の３日前までには，「運動場及びテニスコート使用願」を学務係に提出してください。

⑹　仮予約をしていない使用予定者は学務係で「使用状況表」を確認し，「運動場及びテニスコート使用願」を必ず提出してください。

建物・講義室などの使用および入退室

建物や部屋は夜間・休日は施錠されますが，学生証（カードキー）をかざせば開錠できます。ただし建物や部屋，学年，学科，コースなどにより入場できる条件は違いますので，掲示や説明会などで確認してください。各教室やゼミ室は空いている時間に限り利用できます。使用については，総合科学部事務課学務係まで問い合わせてください。

喫煙の禁止

キャンパス内は原則禁煙です。常三島キャンパスでは，非喫煙者の受動的喫煙による不快感を解消し，その健康被害を予防するために，建物内を全面禁煙としています。喫煙場所は生協前の憩い広場（喫煙コーナー）など指定された場所のみです。

構内の交通規制

交通事故防止のため構内では自転車，オートバイ，自動車等の車両の通行が規制されていますので，次の事を厳守してください。

１）**自転車**は自転車置場に整然と駐輪してください。通路をふさぎ歩行者の迷惑にならないように。

２）**オートバイ**

ア．学内に駐輪する場合は，登録申請が必要です。総合科学部オートバイ登録申請書を総合科学部事務課学務係へ提出してください。

イ．オートバイの構内走行は禁止しています。

ウ．オートバイは必ずオートバイ専用置場に駐輪してください。

3）自　動　車

ア．公共交通機関を利用して通学するのが原則ですが，通学距離が片道10㎞以上で，公共交通機関による通学が著しく不便である第４年次生（卒業研究受講資格者）に限り，希望すれば自動車通学が可能です。駐車許可申請書を総合科学部事務課総務係へ提出してください。選考の上，駐車許可証を発行します。なお，駐車許可証の発行は年１回で，申請時期は３月下旬～４月です。詳細は掲示で通知します。

イ．駐車許可証の交付を受けた者の駐車場は，附属図書館南側の第１駐車場です。入構時には，駐車許可証を車外から確認できるようにしてください。

ウ．休日や休業期間も含め，総合科学部構内への学生の乗り入れは原則禁止しています。

交通事故に遭ったとき

日頃から交通安全及び交通規則の遵守を心掛けてください。万一，学内外で交通事故が発生し，事故の当事者になった場合は，すみやかに以下へ届けてください。

・平　日　昼　間　　総合科学部事務課学務係　　TEL　088－656－7108

・平日夜間と休日　　セ　コ　ム　　TEL　088－655－4001

その他

エレベーターの利用は，障がいのある人，けがや病気の人，大きな荷物を持つ人などに限られます。

学生個人や団体が総合科学部の掲示板を利用したい場合は，掲示物を学務係に持参して許可を受けてください。掲示期間は１週間です。期限後は責任者が撤去してください。

Ⅱ. 規　　則　　集

1．徳島大学総合科学部規則

第１章　総則

（通則）

第１条　徳島大学総合科学部（以下「本学部」という。）に関する事項は，徳島大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか，この規則の定めるところによる。

２　学則及びこの規則に定めるもののほか，本学部に関する事項は，本学部教授会が定める。

（教育研究上の目的）

第１条の２　本学部は，人文，人間，社会，地域及び情報等の諸科学における専門知識や専門技能及び技術を身につけるとともに，専門分野の融合を図ることでグローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解し，問題解決に対応し得る実践的な人材の育成を目的とし，人類の福祉と文化の向上に貢献することをめざす。

第２章　入学者選考

（入学者選考）

第２条　本学部の入学者の選考は，学則の定めるところによって行うものとする。

第３章　教育課程及び履修方法

（コース）

第３条　本学部社会総合科学科に次のコースを置く。

国際教養コース
心身健康コース
公共政策コース
地域創生コース

（コースの決定及び変更）

第４条　本学部の学生は，前条に掲げる各コースのうち，いずれか一つに所属するものとする。

２　前項のコースの決定時期は，第２年次の初めとする。

３　第１項のコースを変更しようとするときは，第２年次以降の学年末に，所定の願書を本学部長に提出しなければならない。

４　前項の願出については，教育上支障がない場合に限り選考の上，許可することがある。

（教育課程）

第４条の２　本学部の教育課程は，教養教育の授業科目（以下「教養教育科目」という。）及び専門教育の授業科目（以下「専門教育科目」という。）により編成する。

（教養教育科目の履修等）

第４条の３　教養教育科目の履修等に関することは，徳島大学教養教育履修規則（以下「教養教育履修規則」という。）の定めるところによる。

２　教養教育履修規則第５条に定める履修要件は，別表第１のとおりとする。

（専門教育科目）

第５条　専門教育科目は，学部共通科目，実践学習科目，コース入門科目，コース基礎科目，コース応用科目，コース自由選択科目，他コース選択科目及び卒業研究に区分する。

２　専門教育科目及びその単位数は，別表第２のとおりとする。この場合において，コース自由選択科目は所属コースの授業科目を，他コース選択科目は所属以外のコースの授業科目を選択するものとする。

３　他の学部に属する専門教育科目は自由科目とし，これを履修することができる。

４　前項の規定により修得した単位は，20単位を超えない範囲で本学部における修得単位として認定することができる。

（履修手続）

第６条　専門教育科目を履修するためには，所定の期日までに当該専門教育科目担当教員に受講申請し，承認を受けるものとする。

第７条　第５条第３項の規定により履修するためには，本学部長を経て関係学部長の許可を得た後，当該専門教育科目担当教員に受講申請するものとする。

（進級要件）

第７条の２　上級学年に進級するためには，本学部長が別に定める要件を満たさなければならない。

（卒業研究）

第８条　卒業研究を行うには，各コースにおいて必要と認めた授業科目について，その単位を修得していなければならない。

（留学及び他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第９条　学則第27条の２の規定に基づき外国の大学又は短期大学に留学しようとする者及び第34条の２の規定に基づき他の大学又は短期大学の授業科目を履修しようとする者は，所定の願書を本学部長を経て学長に提出し，許可を受けなければならない。

（単位の認定）

第10条　前条の規定により許可を受けた者（以下「派遣学生」という。）が修得した単位又は学則第34条の４第１項の規定に基づき学生が休学期間中に，外国の大学若しくは短期大学において履修した授業科目について修得した単位の認定は，当該大学又は短期大学が発行する成績証明書により行う。

２　学則第34条の３第１項の規定に基づき大学以外の教育施設等において学修した授業科目について修得した単位の認定は，当該教育施設等が発行する成績証明書等により行う。

（履修報告書）

第11条　派遣学生は，履修を終えたときは，速やかに（外国の大学又は短期大学に留学する者については，帰国の日から１月以内），所定の履修報告書を本学部長を経て学長に提出しなければならない。

（外国人留学生に対する特例）

第11条の２　学則第49条の規定により入学を許可されたものに対し，日本語科目を置く。

２　日本語科目の授業科目，単位数及び履修方法については，本学部長が別に定める。

第４章　試験，卒業，教員の免許状及び学芸員の資格

（試験）

第12条　授業科目の試験は，原則として定められた試験期間に行う。ただし，演習，実験及び実習については，試験を行わないことがある。

２　授業科目の試験を受けるには，授業時間数の３分の２以上出席していなければならない。

（成績評価等）

第13条　試験及び卒業研究の成績は，100点をもって満点とし，秀（90点以上），優（80点以上），良（70点以上），可（60点以上）及び不（59点以下）の評語をもってあらわし，秀，優，良及び可を合格とし，不を不合格とする。

２　秀，優，良，可及び不の評価基準は，次の表のとおりとする。

評語	評価基準
秀	科目の到達目標を充分に達成し，極めて優秀な成果を収めている。
優	科目の到達目標を充分に達成している。
良	科目の到達目標を達成している。
可	科目の到達目標を最低限達成している。
不	科目の到達目標の項目の全て又はほとんどを達成していない。

３　前２項の規定にかかわらず，入学前の既修得単位，放送大学の修得単位，外国語技能検定試験等による単位により判定する授業科目の成績は，認の評語をもってあらわすことができるものとし，合格とする。

（追試験）

第14条　病気その他やむを得ない事情のため，定められた期日に受験できなかった者は，その学年末までに追試験を受けることができる。

（再試験）

第15条　試験を受けて合格しなかった者は，その学年末までに再試験を受けることができる。

（卒業）

第16条　本学部を卒業するためには，次の単位を修得し，徳島大学語学マイレージ・プログラムについて本学部が定める基準を満たさなければならない。

教育課程	授業科目区分	単位数
教養教育科目		35単位以上
専門教育科目	学部共通科目	13単位以上 （ただし，選択必修科目Ⅰから２単位以上必修，選択必修科目Ⅱから10単位以上必修）

	実践学習科目	14単位以上 (ただし，選択必修科目Ⅰから8単位以上必修，選択必修科目Ⅱから2単位以上必修)
	コース入門科目	14単位以上
	コース基礎科目	12単位以上
	コース応用科目	16単位以上
	コース自由選択科目	10単位以上
	他コース選択科目	10単位以上
	卒業研究	6単位
	計	95単位以上
合　　計		130単位以上

2　前項の基準については，別に定める。

（教員の免許状）

第17条　教育職員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は，教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

2　前項の単位を修得するために必要な授業科目及び履修方法については，本学部長が別に定める。

（学芸員の資格）

第17条の2　学芸員となる資格を取得しようとする者は，博物館法（昭和26年法律第285号）及び博物館法施行規則（昭和30年文部省令第24号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

2　前項の単位を修得するために必要な授業科目及び履修方法については，本学部長が別に定める。

（公認心理師試験の受験資格）

第17条の3　公認心理師試験の受験資格を取得しようとする者は，公認心理師法（平成27年法律第68号）及び公認心理師法施行規則（平成29年文部科学省・厚生労働省令第3号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

2　前項の単位を修得するために必要な授業科目及び履修方法については，本学部長が別に定める。

第5章　転学部並びに再入学及び補欠入学

（転学部）

第18条　学則第22条の3の規定により本学部に転学部を願い出た者があるときは，教育上支障がない場合に限り選考の上，許可することがある。

2　転学部を許可する時期は，入学後1年以上を経過した学年の初めとする。

3　転学部を許可した学生を在籍させる年次は，本学部教授会の議を経て定める。

4　転学部を許可した学生の既修得単位の認定は，本学部教授会の議を経て定める。

（再入学及び補欠入学）

第19条　学則第21条の5及び第22条の規定により入学した者の在学期間及び既修得単位の認定については，次のとおりとする。

⑴　在学期間は，第2年次に入学した者は6年，第3年次に入学した者は4年とする。

⑵　既修得単位の認定は，本学部教授会の議を経て定める。

別表第1

教養教育科目の履修要件

区　　分	授　業　科　目	所要単位数
一般教養教育科目群	歴史と文化 人間と生命 生活と社会 自然と技術	2単位 2単位 2単位 4単位
グローバル化教育科目群	グローバル化教育科目	4単位
イノベーション教育科目群	イノベーション教育科目	2単位
基礎基盤教育科目群	ウェルネス総合演習	2単位
汎用的技能教育科目群	SIH道場	1単位
	情報科学	2単位
地域科学教育科目群	地域科学教育科目	2単位
外国語教育科目群	英語	8単位
	英語以外の外国語科目	4単位
合　　計		35単位

別表第2

専門教育科目表

学部共通科目

区　　分	授　業　科　目	単位数
必修科目	総合科学入門講座	1
選択必修科目Ⅰ	科学論	2
	情報処理基礎論	2
選択必修科目Ⅱ	総合科学の基礎A	2
	総合科学の基礎B	2
	総合科学の基礎C	2
	総合科学の基礎D	2
	総合科学の基礎E	2
	総合科学の基礎F	2
	総合科学の基礎G	2
	総合科学の基礎H	2
	総合科学の基礎J	2
	Academic English Ⅰ	2
	Academic English Ⅱ	2
	Extensive Reading	2

実践学習科目

区　　分	授　業　科　目	単位数
必修科目	キャリアプラン入門	2
	課題発見ゼミナール	2
選択必修科目Ⅰ	キャリアプラン	2
	短期インターンシップ	2
	総合科学実践講義A	2
	総合科学実践講義B	2
	総合科学実践講義C	2
	総合科学実践講義D	2
	総合科学実践講義E	2
	総合科学実践講義F	2
選択必修科目Ⅱ	総合科学実践プロジェクトA	2
	総合科学実践プロジェクトB	2
	総合科学実践プロジェクトC	2
	総合科学実践プロジェクトD	2
	総合科学実践プロジェクトE	2
	総合科学実践プロジェクトF	2
	総合科学実践プロジェクトG	2
	総合科学実践プロジェクトH	2
	総合科学実践プロジェクトJ	4

国際教養コース

コース入門科目

区　　分	授　業　科　目	単位数
必修科目	コース入門講座	2
選択必修科目	ジェンダー論	2
	比較宗教学	2
	国際語としての英語	2
	英語圏文学研究	2
	国際関係論	2
	近現代世界の成立と展開	2
	グローバル交渉史	2
	東アジア文化研究	2
	日本史研究Ⅰ	2
	地理学の基礎Ⅰ	2

国際教養コース
コース基礎科目

授業科目	単位数
日本研究Ⅰ（Japanese Studies Ⅰ）	2
日本研究Ⅱ（Japanese Studies Ⅱ）	2
現代日本社会論	2
日本言語概説	2
方言と社会	2
日本表象文化論Ⅰ	2
日本表象文化論Ⅱ	2
現代アジア社会Ⅰ	2
現代アジア社会Ⅱ	2
異文化間コミュニケーション	2
現代国際情勢概論	2
国際ジャーナリズム	2
Academic Communications Ⅰ	4
Academic Communications Ⅱ	4
実用外国語基礎演習Ⅰ	2
実用外国語基礎演習Ⅱ	2
実用中国語演習	4

国際教養コース
コース応用科目

授業科目	単位数
Advanced Academic Communications Ⅰ	4
Advanced Academic Communications Ⅱ	2
英語研究Ⅰ	2
英語研究Ⅱ	2
英語研究Ⅲ	2
カルチュラルスタディーズ	2
比較社会論	2
国際協力論	2
平和学	2
グローバル・ヒストリー	2
ヨーロッパ史研究	2
北米地域研究	2
イスラーム世界研究	2
アフリカ地域研究	2
東アジア社会文化研究Ⅰ	2
東アジア社会文化研究Ⅱ	2
現代科学論研究	2
環境倫理学	2
芸術文化論	2
比較文化研究	2
ヨーロッパ研究	2
ヨーロッパ文化研究	2
応用日本語学概説	2
日本言語研究	2
日本語教授法Ⅰ	2
日本語教授法Ⅱ	2
日本語教育方法論Ⅰ	2
日本語教育方法論Ⅱ	2
日本語教材研究	2
応用日本語学研究	2
日本文化研究Ⅰ	2
日本文化研究Ⅱ	2
書道	2
日本史基礎研究Ⅰ	2
日本史基礎研究Ⅱ	2
日本史研究Ⅱ	2
考古学概説	2
日本文化研究演習Ⅰ	8
日本文化研究演習Ⅱ	4
言語コミュニケーション演習Ⅰ	4
言語コミュニケーション演習Ⅱ	4
言語メディア研究演習Ⅰ	4
言語メディア研究演習Ⅱ	4
国際教養演習Ⅰ	4
国際教養演習Ⅱ	4
日本言語演習Ⅰ	8
日本言語演習Ⅱ	4

心身健康コース
コース入門科目

区分	授業科目	単位数
必修科目	コース入門講座	2
選択必修科目	心身行動研究法（心理学研究法）	2
	健康教育学	2
	健康科学の基礎	2
	健康体力科学の展開	2
	発達心理学	2
	臨床心理学概論	2
	神経・生理心理学	2
	心理学概論	2

心身健康コース
コース基礎科目

授業科目	単位数
障害者・障害児心理学	2
教育・学校心理学	2
心理学実験A	2
コーチング論	2
スポーツ心理学	2
学習・言語心理学	2
行動統計学（心理学統計法）	2
運動生理学	2
知覚・認知心理学	2
社会・集団・家族心理学	2
スポーツ社会学	2
スポーツ経営学	2

心身健康コース
コース応用科目

授業科目	単位数
心理学的支援法	2
精神疾患とその治療	2
心理学実験B	2
応用解剖生理学	2
衛生・公衆衛生学	2
コーチング論実習Ⅰ	1
コーチング論実習Ⅱ	1
コーチング論実習Ⅲ	1
コーチング論実習Ⅳ	1
コーチング論実習Ⅴ	1
コーチング論実習Ⅵ	1
コーチング論実習Ⅶ	1
コーチング論実習Ⅷ	1
地域スポーツ文化論	2
スポーツ栄養学	2
心身健康総合演習Ⅰ	4
心身健康総合演習Ⅱ	4
感情・人格心理学	2
教育相談	2
健康・医療心理学	2
スポーツマーケティング論	2
救急処置法	2
スポーツ科学実験実習	2
ウェルネス・プロジェクト実習（武道実習を含む）	2
ウェルネス・プロジェクト実習（健康増進施設実習）	2
応用生理学	2
福祉心理学	2
健康行動論	2
司法・犯罪心理学	2
産業・組織心理学	2
人体の構造と機能及び疾病	2
心理的アセスメント	2
学校保健論	2

公共政策コース
コース入門科目

区　　分	授　業　科　目	単　位　数
必　修　科　目	コース入門講座	2
選択必修科目	マクロ経済学入門	2
	経営学Ⅰ	2
	憲法Ⅰ	2
	民法Ⅰ	2
	国際関係論	2
	地域政策論Ⅰ	2
	地理学の基礎Ⅰ	2
	地理学の基礎Ⅱ	2
	まちづくり地域社会論	2

公共政策コース
コース基礎科目

授　業　科　目	単　位　数
公共政策学	2
環境政策論Ⅰ	2
行政法Ⅰ	2
商法Ⅰ	2
地域経済論	2
マクロ経済学Ⅰ	2
ミクロ経済学Ⅰ	2
財政学Ⅰ	2
国際経済学Ⅰ	2
会計学Ⅰ	2

公共政策コース
コース応用科目

授　業　科　目	単　位　数
憲法Ⅱ	2
行政法Ⅱ	2
商法Ⅱ	2
経営学Ⅱ	2
民法Ⅱ	2
民法Ⅲ	2
マクロ経済学Ⅱ	2
ミクロ経済学Ⅱ	2
国際経済学Ⅱ	2
財政学Ⅱ	2
平和学	2
環境政策論Ⅱ	2
会計学Ⅱ	2
近現代世界の成立と展開	2
グローバル・ヒストリー	2
国際協力論	2
公共政策総合演習Ⅰ	4
公共政策総合演習Ⅱ	4
知的財産の基礎と活用	2
ブランド戦略論	2
社会変動論	2
福祉社会論	2
比較社会論	2
市民活動論	2
スポーツ社会学	2
スポーツ経営学	2
スポーツマーケティング論	2
地域計画Ⅰ	2
地域計画Ⅱ	2
都市・交通計画	2
アフリカ地域研究	2
現代国際情勢概論	2
国際ジャーナリズム	2
現代アジア社会Ⅱ	2

地域創生コース
コース入門科目

区　　分	授　業　科　目	単　位　数
必　修　科　目	コース入門講座	2
選択必修科目	地理学の基礎Ⅰ	2
	地理学の基礎Ⅱ	2
	社会変動論	2
	まちづくり地域社会論	2
	日本史研究Ⅰ	2
	考古学概説	2
	グローバル交渉史	2
	近現代世界の成立と展開	2
	地域政策論Ⅰ	2
	経営学Ⅰ	2
	ネットワーク・アプリケーション研究	2
	国際関係論	2
	憲法Ⅰ	2
	マクロ経済学Ⅰ	2

地域創生コース
コース基礎科目

授　業　科　目	単　位　数
社会統計学Ⅰ	2
社会統計学Ⅱ	2
行政法Ⅰ	2
C言語プログラミング	2
情報創生プロジェクト	2
環境アート	2
日本言語概説	2
空間情報論Ⅰ	2
地域調査法A	4
地域調査法B	4
地域計画Ⅰ	2
考古学調査法	2
日本史基礎研究Ⅰ	2
日本史基礎研究Ⅱ	2
東アジア社会文化研究Ⅰ	2
方言と社会	2
現代絵画論	2
写真画像保存技術概論	2

地域創生コース
コース応用科目

授　業　科　目	単　位　数
総合情報研究	2
地域文化論Ⅰ	2
福祉社会論	2
比較社会論	2
国際協力論	2
市民活動論	2
日本言語研究	2
応用日本語学研究	2
応用日本語学概説	2
地域環境論	2
地域文化論Ⅱ	2
地域構造論	2
空間情報論Ⅱ	2
地域変容論	2
地域計画Ⅱ	2
アフリカ地域研究	2
地域政策論Ⅱ	2
地域調査演習A	4
地域調査演習B	4
日本史研究Ⅱ	2
日本史基礎研究Ⅲ	2
日本史基礎研究Ⅳ	2
考古学調査演習	2
メディア表現	2
メディア情報研究	2
映像デザイン	2

アート表現基礎	2
工芸表現と技法	2
彫刻研究	2
美術概論	2
データ表現研究	2
芸術創生基礎演習	2
メディア情報論	2
日本言語演習Ⅰ	8
日本言語演習Ⅱ	4
絵画表現演習Ⅰ	4
絵画表現演習Ⅱ	4
デザイン表現演習Ⅰ	4
デザイン表現演習Ⅱ	4
メディア表現演習Ⅰ	4
メディア表現演習Ⅱ	4
メディア情報演習Ⅰ	4
メディア情報演習Ⅱ	4
情報創生演習Ⅰ	4
情報創生演習Ⅱ	4
地域総合演習Ⅰ	4
地域総合演習Ⅱ	4
スポーツ経営学	2
商法Ⅰ	2
民法Ⅰ	2
財政学Ⅰ	2
行政法Ⅱ	2
平和学	2
比較文化研究	2
スポーツ社会学	2
現代日本社会論	2
東アジア社会文化研究Ⅱ	2
グローバル・ヒストリー	2
北米地域研究	2
ヨーロッパ史研究	2
環境倫理学	2
計画の論理	2
環境を考える	2
自然災害のリスクマネジメント	2
生態系の保全	2
都市・交通計画	2
最適化論	2
データベース基礎論	2
計算機概論	2
計算機数学	2
ネットワーク論	2
制御概論	2
現象数理１	2
コンピュータ・グラフィックス基礎論	2
知的財産の基礎と活用	2
地域経済論	2

卒業研究

授業科目	単位数
卒業研究	6

2．履　修　細　則

1　授業科目の科目区分

⑴　授業科目は，教養教育科目及び専門教育科目に大別される。

⑵　専門教育科目は，学部共通科目，実践学習科目，コース入門科目，コース基礎科目，コース応用科目，コース自由選択科目，他コース選択科目，卒業研究（必修科目）とする。

2　科目区分と卒業に必要な単位数

詳しくは，16 コース別履修科目表を参照すること。

教育課程	授業科目群	授業科目名	単位数
教養教育科目	一般教養教育科目群	歴史と文化 人間と生命 生活と社会 自然と技術	２単位以上 ２単位以上 ２単位以上 ４単位以上
	グローバル化教育科目群	グローバル化教育科目	４単位以上
	イノベーション教育科目群	イノベーション教育科目	２単位以上
	基礎基盤教育科目群	ウェルネス総合演習	２単位以上
	汎用的技能教育科目群	SIH 道場 スタディスキル／コミュニケーション	１単位以上
		情報科学	２単位
	地域科学教育科目群	地域科学教育科目	２単位以上
	外国語教育科目群	英語	８単位以上
		中国語	４単位以上
		ドイツ語	
		フランス語	
教養教育科目　合　計			３５単位以上
教育課程	授業科目区分	副区分	単位数
専門教育科目	学部共通科目	必修科目	１単位
		選択必修科目Ⅰ	２単位以上
		選択必修科目Ⅱ	１０単位以上
	小　計		１３単位以上
	実践学習科目	必修科目	４単位
		選択必修科目Ⅰ	８単位以上
		選択必修科目Ⅱ	２単位以上
	小　計		１４単位以上
	コース入門科目	必修科目	２単位
		選択必修科目	１２単位以上
	小　計		１４単位以上
	コース基礎科目	選択必修科目	１２単位以上
	コース応用科目	選択必修科目	１６単位以上
	コース自由選択科目	選択必修科目	１０単位以上
	他コース選択科目	選択必修科目	１０単位以上
	卒業研究	必修科目	６単位
専門教育科目　合　計			９５単位以上
合　計（卒業要件単位数）			１３０単位以上

3　授業等に関する担当係及び掲示

教養教育科目に関する担当係は教育支援課教養教育係であり，関連事項は教養教育用の掲示板に掲示される。専門教育科目に関する担当係は総合科学部事務課学務係であり，関連事項は総合科学部掲示板に掲示される。

4　履修要件と履修方法

⑴　単位の定義

授業時間数と単位の関係は，徳島大学学則第30条の規定に基づき下表のように定められている。十分な予習及び復習をすることが，授業の理解と単位の修得のために必要となる。

単位の定義　　大学設置基準に準拠（学則第30条）

科　　目	1単位の時間	内　　容
講義・演習科目	45時間	（予習1時間＋授業1時間＋復習1時間）×15回
実験・実習科目	45時間	（予習・復習1時間＋授業2時間）×15回
卒　業　研　究		学修の成果を評価して定める

⑵　年間の履修単位数

①　各学年において1年間に履修する総単位数は，原則として48単位を上限とする。

②　前項の規定にかかわらず，総合科学部長が教育上特別の必要があると認める場合は，上限を超えて履修登録を認めることができる。

なお，上限を超えて履修登録を認めることができる要件及び単位数は別途定める。

⑶　教養教育科目の履修要件と履修方法

教養教育科目の詳しい説明は，「教養教育履修の手引」を参照すること。

⑷　専門教育科目の履修要件と履修方法

①　学部共通科目

ア　履修科目表に従って13単位以上修得すること。

イ　「総合科学入門講座」は必ず修得すること。

ウ　選択必修科目Ⅰから2単位，選択必修科目Ⅱから10単位以上を必ず修得すること。

エ　学部共通科目の必要単位数を超えて修得した単位数は，他コース選択科目の単位として自動的に算定する。

②　実践学習科目

ア　履修科目表に従って14単位以上修得すること。

イ　「キャリアプラン入門」及び「課題発見ゼミナール」は必ず修得すること。

ウ　選択必修科目Ⅰから8単位，選択必修科目Ⅱから2単位以上を必ず修得すること。

エ　「総合科学実践プロジェクトA～H」の履修に当たっては，関連する「総合科学実践講義A～F」を必ず履修済みであること。関連する総合科学実践講義は下記のとおりとする。

総合科学実践プロジェクト	関連する総合科学実践講義
総合科学実践プロジェクトA	総合科学実践講義A，F
総合科学実践プロジェクトB	総合科学実践講義A，F

総合科学実践プロジェクトC	総合科学実践講義B
総合科学実践プロジェクトD	総合科学実践講義B
総合科学実践プロジェクトE	総合科学実践講義A，F
総合科学実践プロジェクトF	総合科学実践講義C，E
総合科学実践プロジェクトG	総合科学実践講義D
総合科学実践プロジェクトH	総合科学実践講義C，D，E

オ　「総合科学実践プロジェクトJ」は，海外体験等による単位認定科目とし，短期語学研修（英語・中国語），海外フィールドスタディ，海外キャリア実習，長期インターンシップなどの研修等において，一定の条件を満たしたと認められる場合に2単位もしくは4単位を認定する。

カ　実践学習科目の必要単位数を超えて修得した単位数は，他コース選択科目の単位として自動的に算定する。

③　コース入門科目

ア　コース別履修科目表に従って14単位以上修得すること。

イ　「コース入門講座」は必ず修得すること。

ウ　選択必修科目から12単位以上を必ず修得すること。

エ　コース入門科目の必要単位数を超えて修得した単位数は，コース自由選択科目の単位として自動的に算定する。

④　コース基礎科目

ア　コース別履修科目表に従って12単位以上修得すること。

イ　コース基礎科目の必要単位数を超えて修得した単位数は，コース自由選択科目の単位として自動的に算定する。

⑤　コース応用科目

ア　コース別履修科目表に従って16単位以上修得すること。

イ　コース応用科目の必要単位数を超えて修得した単位数は，コース自由選択科目の単位として自動的に算定する。

⑥　コース自由選択科目

コース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目の中から選択し，原則として3年次以降に10単位以上履修すること。

⑦　他コース選択科目

自コース専門科目表の上記③から⑤以外の科目の中から10単位以上修得すること。

5　授業科目の配当学年

⑴　授業科目の配当学年は時間割表に記載する。

⑵　専門教育科目は，配当学年以上の学年の学生のみが履修できる。

6　受講申請

⑴　毎学期の始めに，履修しようとする科目の授業担当教員に受講申請を行わなければならない。

ただし講義室等の関係で受講者を制限する場合がある。

受講申請は，その学期に履修しようとする科目を履修登録期限までにWeb履修システムにおいて履修登録をすることにより行う。

⑵　履修登録していない科目は受講できない。

⑶　履修登録の変更について

①　履修登録確認期間中（Web修正期間）には担当教員の承認なしで履修登録を削除することができる。

②　履修登録確認期限までは履修登録の変更は可能であるが，担当教員の承認を必要とする。

なお，本人の責に帰さない事由で承認印を得られない場合は仮提出理由書（所定様式）を学務係に提出する。

③　履修登録確認期限（履修登録修正願提出期限）を過ぎての変更はできない。

7　授業科目区分の変更

転コースをした場合は，転コース先の科目区分に従って，修得した専門教育科目の科目区分を自動的に変更する。

8　他大学（単位互換協定校），本学理工学部及び生物資源産業学部における授業科目の履修

他大学（単位互換協定校），本学理工学部及び生物資源産業学部における授業科目の履修については次のように定める。

⑴　鳴門教育大学及び放送大学の授業科目の履修を希望する学生は事前に「願書」を担当係へ提出し，許可を受けなければならない。

⑵　履修可能な授業科目名及び科目区分等は学務係で閲覧できる。

⑶　修得した成績は本学部の評価に読み替え，修得大学名または学部名を付記する。

⑷　鳴門教育大学・放送大学，本学理工学部及び生物資源産業学部で修得した単位は，合計で20単位まで卒業要件に算定される。

①　鳴門教育大学での履修

鳴門教育大学で修得できる単位数は，他コース選択科目又は教職に関する科目で合計８単位までである。なお，教職に関する科目の単位は卒業要件に算定されない。

②　放送大学での履修

ア　放送大学で修得できる単位数は，専門教育科目と教養教育科目を合わせた12単位まで含めることができる。ただし，教養教育科目（外国教育科目を含む）はｅ－ラーニング科目（大学間の単位互換協定に基づく他大学開設の科目）を含めた８単位以下とする。

イ　放送大学の授業科目の単位数（２単位）は本学部の２単位とするが，外国語及び保健体育科目の２単位は本学部の１単位とする。

ウ　放送大学の授業科目は下記の範囲内で本学部の授業科目として履修できる。

㈠　放送大学の共通科目

ｉ）外国語科目と保健体育科目を除く共通科目は，教養教育科目における一般教養教育科目群の授業科目として履修できる。ただし，教養教育科目の４つの授業科目区分（一般教養教育科目

群・グローバル化教育科目群・イノベーション教育科目群・地域科学教育科目群）からは少なくとも合計６単位分は本学の授業題目で履修すること。

ⅱ）外国語科目（英語・ドイツ語・フランス語・中国語）は，教養教育の外国語教育科目として履修できる。

ⅲ）保健体育科目は，教養教育科目の基礎基盤教育科目（ウェルネス総合演習）として履修できる。

(ｲ) 放送大学の専門科目

本学部の他コース選択科目として履修できる。

③ 本学理工学部及び生物資源産業学部での履修

本学理工学部及び生物資源産業学部で修得した単位は８単位まで，他コース選択科目に含めることができる。

9 留学及び外国語技能検定試験による単位認定

留学により修得した成績や，外国語技能検定試験により修得した成績は，教養教育科目や本学部の専門教育科目の単位として認めることがある。教養教育科目の単位認定については，『教養教育履修の手引』に示される基準に基づいて行うものとする。

(1) 留学

留学の申請は，留学を希望する学生が，「外国留学願」に健康診断書を添えて担当係に提出することにより行うものとする。また，留学中に修得した成績を本学部の専門教育科目の単位として認定する申請は，帰国後速やかに「外国留学における成績に基づく単位認定申請書」等を学務係に提出することにより行うものとする。

① 交流協定校への留学

ア 修得した成績は審査により本学部の専門教育科目の単位として認める。

イ 修得した成績は「認定」と表記し，修得大学名を付記する。

ウ 修得した成績の科目区分は，留学時の学年及び所属するコースの科目区分に基づき判定する。

② 交流協定校以外への留学

ア 修得した成績は審査により本学部の専門教育科目の単位として認める。ただし，成績認定の申請時には留学先の大学概要・シラバス等を併せて学務係に提出し，認定可能かどうか審査を受けなければならない。この審査は出発前に受けておくのが望ましい。

イ 修得した成績は「認定」と表記し，修得大学名を付記する。

ウ 修得した成績の科目区分は，留学時の学年及び所属するコースの科目区分に基づき判定する。

③ 上記①，②において認定された単位は，40 単位まで卒業要件に算定される。

④ 上記①，②は本学部を休学する場合にも適用する。

(2) 外国語技能検定試験

外国語技能検定試験により修得した成績は本学部の専門教育科目の単位として審査の上認めることがある。単位の認定の申請は，学務係に所定の申請書を提出することにより行うものとする。申請の期限は，当該の試験を受験した日から２年以内とする。なお，入学前に受験した試験の結果，得られた級及び得点についても単位が認定される。下記の単位認定に際して，既に認定又は単位の修得がなされてい

る場合は，「Academic English Ⅰ」，「Academic English Ⅱ」においては各２単位から，「Academic Communications Ⅰ」，「Academic Communications Ⅱ」及び「Advanced Academic Communications Ⅰ」においては４単位から，既に認定及び修得された単位数の合計を差し引いた単位数を認定の上限とする。

認定基準については言語ごとに次のように定める。

① 英語

実用英語技能検定（英検）（財団法人　日本英語検定協会）

１級：「Academic English Ⅰ」２単位，「Academic English Ⅱ」２単位，
「Academic Communications Ⅰ」４単位，「Academic Communications Ⅱ」４単位
及び「Advanced Academic Communications Ⅰ」４単位

※　ただし，「教養教育」の「英語」に加えて認定することができる。

TOEFL（国際教育交換協議会）

iBT（Internet-based Testing）90 点以上もしくは

ITP（Institutional-Testing Program）577 点以上：「Academic English Ⅰ」２単位及び
「Academic English Ⅱ」２単位

iBT（Internet-based Testing）100 点以上もしくは

ITP（Institutional-Testing Program）600 点以上：「Academic Communications Ⅰ」４単位，
「Academic Communications Ⅱ」４単位及び
「Advanced Academic Communications Ⅰ」４単位

※　ただし，「教養教育」の「英語」に加えて認定することができる。

TOEIC（財団法人　国際ビジネスコミュニケーション協会）

800 点以上：「Academic English Ⅰ」２単位及び
「Academic English Ⅱ」２単位

900 点以上：「Academic Communications Ⅰ」４単位，
「Academic Communications Ⅱ」４単位及び
「Advanced Academic Communications Ⅰ」４単位

※　ただし，「教養教育」の「英語」に加えて認定することができる。

IELTS（ブリティッシュカウンシル他　日本英語検定協会）

6.5 以上：「Academic English Ⅰ」２単位及び
「Academic English Ⅱ」２単位

7.0 以上：「Academic Communications Ⅰ」４単位，
「Academic Communications Ⅱ」４単位及び
「Advanced Academic Communications Ⅰ」４単位

※　ただし，「教養教育」の「英語」に加えて認定することができる。

② ドイツ語

ドイツ語技能検定試験（独検）（財団法人　ドイツ語学文学振興会）

３級　　：「実用外国語基礎演習Ⅰ（ドイツ語）」２単位

２級以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（ドイツ語）」２単位及び

「実用外国語基礎演習Ⅱ（ドイツ語）」２単位

※　ただし，いずれの場合も「教養教育」の「ドイツ語」に加えて認定することができる。

③　フランス語

実用フランス語技能検定試験（仏検）（財団法人　フランス語教育振興協会）

準２級以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（フランス語）」２単位及び

「実用外国語基礎演習Ⅱ（フランス語）」２単位

※　ただし，「教養教育」の「フランス語」に加えて認定することができる。

④　中国語

中国語検定試験（日本中国語検定協会）

３級　　：「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」２単位及び

「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」２単位

２級以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」２単位，

「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」２単位及び

「実用中国語演習」４単位

※　ただし，「教養教育」の「中国語」に加えて認定することができる。

中国政府漢語水平考試（HSK）（中国国家漢語水平考試委員会）

４級　　：「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」２単位及び

「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」２単位

５級以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」２単位，

「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」２単位及び

「実用中国語演習」４単位

※　ただし，「教養教育」の「中国語」に加えて認定することができる。

なお，平成21年度以前に実施された旧HSKにおいて取得した級については，次のとおり認定する。

初等４級もしくは初等５級：「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」２単位及び

「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」２単位

中等６級以上：　「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」２単位，

「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」２単位及び

「実用中国語演習」４単位

※　ただし，「教養教育」の「中国語」に加えて認定することができる。

10　入学前の既修得単位の認定

⑴　他大学又は本学において修得した科目の単位（科目等履修生として修得した単位を含む）は，下記に定める単位を上限として，本学部で修得した単位として認めることがある。ただし，成績は，本学で修得した場合を除き，「認定」と表記する。

⑵　本学部において修得した科目の単位（科目等履修生等として修得した単位を含む）は⑴の上限規定にかかわらず上限なしで認めることができる。

⑶　科目及び単位認定は，入学時の学年及び所属するコースの科目区分に従って，対応する科目について行う。

⑷　既修得単位の認定申請は，本学部の入学時に行わなくてはならない。

①　第１年次入学者

ア　他大学卒業者又は中途退学者の場合

㈠	教養教育科目	３０単位まで
	一般教養教育科目	８単位まで
	グローバル化教育科	２単位まで
	イノベーション教育科目	２単位まで
	基礎基盤教育科目	２単位まで
	汎用技能教育科目	２単位まで
	地域科学教育科目	２単位まで
	外国語教育科目	１２単位まで
㈡	専門教育科目	８単位まで
	合　計	３８単位まで

イ　徳島大学卒業者又は中途退学者の場合

㈠	教養教育科目	３５単位まで
	一般教養教育科目	１０単位まで
	グローバル化教育科目	４単位まで
	イノベーション教育科目	２単位まで
	基礎基盤教育科目	２単位まで
	汎用技能教育科目	３単位まで
	地域科学教育科目	２単位まで
	外国語教育科目	１２単位まで
㈡	専門教育科目	８単位まで
	合　計	４３単位まで

②　第２年次入学者（転学部入学者が対象）

ア　教養教育科目

本学で修得した，あるいは認定された科目について，医療基盤教育科目を除きすべてそのまま認定する。

イ　専門教育科目　　６単位まで

③　第３年次入学者（転学部入学者及び補欠入学者が対象）

ア　転学部入学者の場合

㈠　教養教育科目

本学で修得した，あるいは認定された科目について，医療基盤教育科目を除きすべてそのまま認定する。

㈡　専門教育科目　　38 単位まで

イ　補欠入学者の場合

(ア)　教養教育科目

一般教養教育科目	１０単位まで
グローバル化教育科目	４単位まで
イノベーション教育科目	２単位まで
基礎基盤教育科目	２単位まで
汎用技能教育科目	３単位まで
地域科学教育科目	２単位まで
外国語教育科目	１２単位まで
合　計	３５単位まで

(イ)　専門教育科目　　３８単位まで

11　進級要件及び卒業研究の受講資格

(1)　修得単位による進級要件

①　２年次に進級するためには，１年次末において教養教育科目と専門教育科目を合わせて20単位以上を修得していなければならない。

②　３年次に進級するためには，２年次末において教養教育科目と専門教育科目を合わせて60単位以上を修得していなければならない。

③　４年次に進級するためには，３年次末において教養教育科目30単位以上，専門教育科目76単位以上，合計106単位以上を修得していなければならない。

④　上記の専門教育科目は，徳島大学総合科学部規則第５条第２項の別表第２に掲げる専門教育科目を言う。

⑤　後期より半年以上留学する学生は，翌年４月に進級するためには，出国前にあらかじめ留学先での修得単位の認定を希望する科目を申請するとともに，２月末までに留学先での単位修得見込みを証明する文書を提出し，その修得見込みの単位数を加算した単位数が上記の進級要件を満たしていなければならない。

(2)　語学検定成績・資格取得による進級要件

４年次に進級するためには，語学検定成績・資格取得において下記要件のいずれかを満たしていなければならない。４年次に進級するために必要な語学検定の成績及び資格は，本学部入学後に受験して取得したものを用いる。

ア　英語検定等

（国際教養コース）

実用英語技能検定（英検）	２級以上
TOEFL iBT	60点以上
TOEFL ITP	500点以上
TOEIC	550点以上
IELTS	5.0以上

（心身健康コース，公共政策コース，地域創生コース）

実用英語技能検定（英検）　準２級以上

TOEFL iBT　30 点以上

TOEFL ITP　397 点以上

TOEIC　350 点以上

IELTS　3.0 以上

イ　中国語検定等

（全コース）

中国語検定　３級以上

漢語水平考試（略称 HSK，筆記・リスニング試験）　３級以上

漢語水平考試口頭試験（略称 HSK 口試，会話能力試験）　初級以上

中国語コミュニケーション能力検定（TECC）　500 以上

ウ　ドイツ語検定等

（全コース）

ドイツ語技能検定試験（独検）　３級以上

エ　フランス語検定等

（全コース）

実用フランス語技能検定試験（仏検）　３級以上

ただし，３年次末の進級判定時までに，上記の語学検定成績・資格取得による要件のみ満たせない場合は，４年次への仮進級を認める。４年次への仮進級を認められた者（以下，「仮進級者」）は，「Extensive Reading（仮進級者用）」を４年次に履修して単位を修得した時点，または語学検定成績・資格取得による進級要件を満たした時点で，正式に進級したものと認める。

なお，「Extensive Reading（仮進級者用）」の単位は，卒業要件単位に含めることはできない。また，３年次以前に同名称の科目「Extensive Reading（ACE プログラム）」を修得していても，それをもって「Extensive Reading（仮進級者用）」の代替とすることはできず，新たに「Extensive Reading（仮進級者用）」を履修しなければならない。

４年次への仮進級後に「Extensive Reading（仮進級者用）」の単位取得ができず，語学検定成績・資格取得による要件を満たすこともできなかった場合は，卒業が認められない。

⑶　卒業研究の受講資格

卒業研究は４年生の履修科目であり，これを受講するには，４年次への進級要件を満たしていなければならない。なお，長期留学中の４年次生は，５月末までに卒業研究の題目とともに留学中における通信指導の方法などを示す，卒業研究指導教員の指導証明書を提出しなければならない。

12　卒業の要件

本学部を卒業するには，大学に４年以上在学して，総合科学部規則の規定に従って 130 単位以上を修得し，徳島大学語学マイレージ・プログラムについて，マイレージレベルのうちプラチナクラス，ゴールドクラス，ブロンズクラスのいずれかを有していなければならない。

13　卒業研究の題目の届出及び成果の提出

⑴　卒業研究の題目は，５月末日までに指導教員の認印を得て，学務係へ提出しなければならない。

なお，卒業研究の指導教員は，総合科学部の教員であれば必ずしも所属コースの教員であることを要しない。

⑵　卒業研究の成果は，１月末日までに指導教員又は学務係へ提出しなければならない。ただし，年度を超えて留学する学生については，卒業研究の成果の提出は次年度の７月末日又は１月末日までとする。

14　学習プログラムの単位修得による証明書の発行

総合科学部で開設している学習プログラムの所定の単位を修得した場合は，そのことを証明する証明書を本学部が発行するので，希望者は所定の手続きをとること。

15　気象警報が発令された場合の休講措置

台風等により，気象警報等が徳島市に発表された場合の授業の休講措置は，次のとおりとする。

⑴　昼間に開講する授業については，午前７時に「暴風警報と大雨警報」，「暴風警報と洪水警報」，「大雪警報」（以下「警報」という。）又は特別警報（波浪特別警報を除く。以下同じ。）が発表中の場合は，午前の授業を休講とする。午前11時に警報又は特別警報が発表中の場合は，午後の授業を休講とする。

⑵　夜間に開講する授業については，午後４時に警報又は特別警報が発表中の場合は，すべて授業を休講とする。

⑶　授業開始後に警報が発表された場合は，次の時限以降の授業を休講とする。ただし，特別警報が発表された場合は，直ちに休講とする。

⑷　⑴から⑶に定める以外の場合又は特別な事情がある場合は，総合科学部長が措置を決定する。

⑸　⑴から⑷の措置により休講となった授業は後日に補講を行う。

⑹　上記のほか，授業の休講措置に関し必要な事項は，総合科学部長が別に定める。

16　コース別履修科目表

国際教養コース

教養教育科目	一般教養教育科目群		歴史と文化	2単位以上
			人間と生命	2単位以上
			生活と社会	2単位以上
			自然と技術	4単位以上
	グローバル化教育科目群		グローバル化教育科目	4単位以上
	イノベーション教育科目群		イノベーション教育科目	2単位以上
	基礎基盤教育科目群		ウェルネス総合演習	2単位以上
	汎用的技能教育科目群		ＳＩＨ道場	1単位以上
			スタディスキル／コミュニケーション	
			情報科学	2単位以上
	地域科学教育科目群		地域科学教育科目	2単位以上
	外国語教育科目群		英語	8単位以上
			中国語，ドイツ語，フランス語	4単位以上
	教養教育科目　計			35単位以上
専門教育科目	学部共通科目	必修	総合科学入門講座	1
			計	1単位
		選択必修Ⅰ	科学論	2
			情報処理基礎論	2
			計	2単位以上
		選択必修Ⅱ	総合科学の基礎Ａ（日本語表現の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｂ（文化研究の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｃ（哲学・思想の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｄ（スポーツ科学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｅ（心理学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｆ（公共政策学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｇ（経済学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｈ（社会学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｊ（SDG's と地域イノベーション）	2
			Academic English Ⅰ（日本文化・時事発信型英語）	2
			Academic English Ⅱ（４技能アカデミック英語入門）	2
			Extensive Reading（英語文法・語彙構築プログラム）	2
			計	10単位以上
	実践学習科目	必修	キャリアプラン入門	2
			課題発見ゼミナール	2
			計	4単位
		選択必修Ⅰ	キャリアプラン	2
			短期インターンシップ	2
			総合科学実践講義Ａ（グローバル文化論）	2
			総合科学実践講義Ｂ（心身健康論）	2
			総合科学実践講義Ｃ（日本社会経済論）	2
			総合科学実践講義Ｄ（メディアアート論）	2
			総合科学実践講義Ｅ（地域創生論）	2
			総合科学実践講義Ｆ（多文化共生論） (Foundations of Integrated Arts and Sciences：F（Multicultural Society))	2
			計	8単位以上
		選択必修Ⅱ	総合科学実践プロジェクトＡ（グローバル日本語支援）	2
			総合科学実践プロジェクトＢ（サマープログラム協力）	2
			総合科学実践プロジェクトＣ（心身健康維持）	2
			総合科学実践プロジェクトＤ（心身健康問題）	2
			総合科学実践プロジェクトＥ（国際交流・協力体験）	2
			総合科学実践プロジェクトＦ（政策実践）	2
			総合科学実践プロジェクトＧ（アート創生）	2
			総合科学実践プロジェクトＨ（地域社会文化）	2
			総合科学実践プロジェクトＪ（海外体験単位認定科目）	4
			計	2単位以上
	コース入門科目	必修	コース入門講座	2
			計	2単位
		選択必修	ジェンダー論	2
			比較宗教学	2
			国際語としての英語（English as an International Language）	2
			英語圏文学研究	2
			国際関係論（国際法を含む）	2
			近現代世界の成立と展開	2
			グローバル交渉史	2
			東アジア文化研究（漢文学）	2
			日本史研究Ⅰ	2
			地理学の基礎Ⅰ（人文地理学）	2
			計	12単位以上
	コース基礎科目	選択必修	日本研究Ⅰ（Japanese Studies Ⅰ）	2
			日本研究Ⅱ（Japanese Studies Ⅱ）	2
			現代日本社会論（Contemporary Japanese Society）	2
			日本言語概説	2
			方言と社会	2
			日本表象文化論Ⅰ（日本古典文学）	2
			日本表象文化論Ⅱ（日本近現代文学）	2

専門教育科目	コース基礎科目	選択必修	現代アジア社会Ⅰ	2
			現代アジア社会Ⅱ	2
			異文化間コミュニケーション（Cross-Cultural Communication）	2
			現代国際情勢概論（Current World Issues）	2
			国際ジャーナリズム（International Journalism）	2
			Academic Communications Ⅰ（英語文章表現）	4
			Academic Communications Ⅱ（英語スピーチ＆ネゴシエーション）	4
			実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語） 実用外国語基礎演習Ⅰ（ドイツ語） 実用外国語基礎演習Ⅰ（フランス語）	2＊
			実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語） 実用外国語基礎演習Ⅱ（ドイツ語） 実用外国語基礎演習Ⅱ（フランス語）	2＊
			実用中国語演習	4
			計	12単位以上
	コース応用科目	選択必修	Advanced Academic Communications Ⅰ （ライティング＆ディスカッション）	4
			Advanced Academic Communications Ⅱ（論文作成＆ディベート）	2
			英語研究Ⅰ（Studies in English−Linguistic Approaches）	2
			英語研究Ⅱ（Studies in English−Phonetics）	2
			英語研究Ⅲ（Studies in English−Semantics and Pragmatics）	2
			カルチュラルスタディーズ	2
			比較社会論	2
			国際協力論	2
			平和学	2
			グローバル・ヒストリー（イギリス近代史）	2
			ヨーロッパ史研究	2
			北米地域研究	2
			イスラーム世界研究	2
			アフリカ地域研究	2
			東アジア社会文化研究Ⅰ	2
			東アジア社会文化研究Ⅱ	2
			現代科学論研究	2
			環境倫理学	2
			芸術文化論	2
			比較文化研究	2
			ヨーロッパ研究	2
			ヨーロッパ文化研究	2
			応用日本語学概説	2
			日本言語研究	2
			日本語教授法Ⅰ	2
			日本語教授法Ⅱ	2
			日本語教育方法論Ⅰ	2
			日本語教育方法論Ⅱ	2
			日本語教材研究	2
			応用日本語学研究	2
			日本文化研究Ⅰ（日本古典文学）	2
			日本文化研究Ⅱ（日本近現代文学）	2
			書道	2
			日本史基礎研究Ⅰ	2
			日本史基礎研究Ⅱ	2
			日本史研究Ⅱ	2
			考古学概説	2
			日本文化研究演習Ⅰ（日本古典文学）	4
			日本文化研究演習Ⅰ（日本近現代文学）	4
			日本文化研究演習Ⅱ（日本古典文学） 日本文化研究演習Ⅱ（日本近現代文学）	4＊
			言語コミュニケーション演習Ⅰ (Seminar in Language and Communication Ⅰ)	4
			言語コミュニケーション演習Ⅱ (Seminar in Language and Communication Ⅱ)	4
			言語メディア研究演習Ⅰ（Seminar in Language and Media Ⅰ）	4
			言語メディア研究演習Ⅱ（Seminar in Language and Media Ⅱ）	4
			国際教養演習Ⅰ	4
			国際教養演習Ⅱ	4
			日本言語演習Ⅰ（地域言語学）	4
			日本言語演習Ⅰ（社会言語学）	4
			日本言語演習Ⅱ（地域言語学） 日本言語演習Ⅱ（社会言語学）	4＊
			計	16単位以上
	コース自由選択科目	選択必修	コース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目の中から選択	
			計	10単位以上
	他コース選択科目	選択必修	自コース専門科目表のコース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目以外から選択	
			計	10単位以上
	卒業研究	必修		6単位
	専門教育科目　計			95単位以上
合計				130単位以上

＊２又は３科目の内，所定の単位までしか卒業に必要な単位に参入されない。

心身健康コース

教養教育科目	一般教養教育科目群		歴史と文化	2単位以上
			人間と生命	2単位以上
			生活と社会	2単位以上
			自然と技術	4単位以上
	グローバル化教育科目群		グローバル化教育科目	4単位以上
	イノベーション教育科目群		イノベーション教育科目	2単位以上
	基礎基盤教育科目群		ウェルネス総合演習	2単位以上
	汎用的技能教育科目		ＳＩＨ道場	1単位以上
			スタディスキル／コミュニケーション	
			情報科学	2単位以上
	地域科学教育科目群		地域科学教育科目	2単位以上
	外国語教育科目群		英語	8単位以上
			中国語，ドイツ語，フランス語	4単位以上
	教養教育科目　計			35単位以上
専門教育科目	学部共通科目	必修	総合科学入門講座	1
			計	1単位
		選択必修Ⅰ	科学論	2
			情報処理基礎論	2
			計	2単位以上
		選択必修Ⅱ	総合科学の基礎Ａ（日本語表現の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｂ（文化研究の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｃ（哲学・思想の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｄ（スポーツ科学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｅ（心理学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｆ（公共政策学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｇ（経済学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｈ（社会学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｊ（SDG’sと地域イノベーション）	2
			Academic English Ⅰ（日本文化・時事発信型英語）	2
			Academic English Ⅱ（４技能アカデミック英語入門）	2
			Extensive Reading（英語文法・語彙構築プログラム）	2
			計	10単位以上
	実践学習科目	必修	キャリアプラン入門	2
			課題発見ゼミナール	2
			計	4単位
		選択必修Ⅰ	キャリアプラン	2
			短期インターンシップ	2
			総合科学実践講義Ａ（グローバル文化論）	2
			総合科学実践講義Ｂ（心身健康論）	2
			総合科学実践講義Ｃ（日本社会経済論）	2
			総合科学実践講義Ｄ（メディアアート論）	2
			総合科学実践講義Ｅ（地域創生論）	2
			総合科学実践講義Ｆ（多文化共生論） (Foundations of Integrated Arts and Sciences：F（Multicultural Society))	2
			計	8単位以上
		選択必修Ⅱ	総合科学実践プロジェクトＡ（グローバル日本語支援）	2
			総合科学実践プロジェクトＢ（サマープログラム協力）	2
			総合科学実践プロジェクトＣ（心身健康維持）	2
			総合科学実践プロジェクトＤ（心身健康問題）	2
			総合科学実践プロジェクトＥ（国際交流・協力体験）	2
			総合科学実践プロジェクトＦ（政策実践）	2
			総合科学実践プロジェクトＧ（アート創生）	2
			総合科学実践プロジェクトＨ（地域社会文化）	2
			総合科学実践プロジェクトＪ（海外体験単位認定科目）	4
			計	2単位以上
	コース入門科目	必修	コース入門講座	2
			計	2単位
		選択必修	心身行動研究法（心理学研究法）	2
			健康教育学（小児保健・学校安全を含む）	2
			健康科学の基礎	2
			健康体力科学の展開（運動学（運動方法学を含む））	2
			発達心理学	2
			臨床心理学概論	2
			神経・生理心理学	2
			心理学概論	2
			計	12単位以上
	コース基礎科目	選択必修	障害者・障害児心理学	2
			教育・学校心理学	2
			心理学実験Ａ	2
			コーチング論（体育原理を含む）	2
			スポーツ心理学	2
			学習・言語心理学	2
			行動統計学（心理学統計法）	2
			運動生理学	2
			知覚・認知心理学	2
			社会・集団・家族心理学	2
			スポーツ社会学	2
			スポーツ経営学	2
			計	12単位以上

専門教育科目	コース応用科目	選択必修	心理学的支援法	2
			精神疾患とその治療	2
			心理学実験Ｂ	2
			応用解剖生理学	2
			衛生・公衆衛生学	2
			コーチング論実習Ⅰ（器械運動）	1
			コーチング論実習Ⅱ（ダンス）	1
			コーチング論実習Ⅲ（陸上競技）	1
			コーチング論実習Ⅳ（バスケットボール）	1
			コーチング論実習Ⅴ（ソフトボール）	1
			コーチング論実習Ⅵ（水泳）	1
			コーチング論実習Ⅶ（バレーボール）	1
			コーチング論実習Ⅷ（体つくり運動）	1
			地域スポーツ文化論（体育史を含む）	2
			スポーツ栄養学（生理学を含む）	2
			心身健康総合演習Ⅰ	4＊
			心身健康総合演習Ⅰ（スポーツ社会学）	
			心身健康総合演習Ⅰ（健康体力学）	
			心身健康総合演習Ⅰ（スポーツ心理学）	
			心身健康総合演習Ⅰ（応用生理学）	
			心身健康総合演習Ⅰ（健康教育学）	
			心身健康総合演習Ⅱ	4
			感情・人格心理学	2
			教育相談	2
			健康・医療心理学	2
			スポーツマーケティング論	2
			救急処置法	2
			スポーツ科学実験実習（運動生理学を含む）	2
			ウェルネス・プロジェクト実習（武道実習を含む）	2
			ウェルネス・プロジェクト実習（健康増進施設実習）	2
			応用生理学	2
			福祉心理学	2
			健康行動論（学校安全を含む）	2
			司法・犯罪心理学	2
			産業・組織心理学	2
			人体の構造と機能及び疾病	2
			心理的アセスメント	2
			学校保健論	2
			計	16 単位以上
	コース自由選択科目	選択必修	コース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目の中から選択	
			計	10 単位以上
	他コース選択科目	選択必修	自コース専門科目表のコース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目以外から選択	
			計	10 単位以上
	卒業研究	必修		6 単位
	専門教育科目　計			95 単位以上
合計				130 単位以上

＊８科目の内，所定の単位までしか卒業に必要な単位に参入されない。

公共政策コース

教養教育科目	一般教養教育科目群		歴史と文化	2単位以上
			人間と生命	2単位以上
			生活と社会	2単位以上
			自然と技術	4単位以上
	グローバル化教育科目群		グローバル化教育科目	4単位以上
	イノベーション教育科目群		イノベーション教育科目	2単位以上
	基礎基盤教育科目群		ウェルネス総合演習	2単位以上
	汎用的技能教育科目群		ＳＩＨ道場	1単位以上
			スタディスキル／コミュニケーション	
			情報科学	2単位以上
	地域科学教育科目群		地域科学教育科目	2単位以上
	外国語教育科目群		英語	8単位以上
			中国語，ドイツ語，フランス語	4単位以上
	教養教育科目　計			35単位以上
専門教育科目	学部共通科目	必修	総合科学入門講座	1
			計	1単位
		選択必修Ⅰ	科学論	2
			情報処理基礎論	2
			計	2単位以上
		選択必修Ⅱ	総合科学の基礎Ａ（日本語表現の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｂ（文化研究の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｃ（哲学・思想の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｄ（スポーツ科学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｅ（心理学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｆ（公共政策学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｇ（経済学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｈ（社会学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｊ（SDG's と地域イノベーション）	2
			Academic English Ⅰ（日本文化・時事発信型英語）	2
			Academic English Ⅱ（４技能アカデミック英語入門）	2
			Extensive Reading（英語文法・語彙構築プログラム）	2
			計	10単位以上
	実践学習科目	必修	キャリアプラン入門	2
			課題発見ゼミナール	2
			計	4単位
		選択必修Ⅰ	キャリアプラン	2
			短期インターンシップ	2
			総合科学実践講義Ａ（グローバル文化論）	2
			総合科学実践講義Ｂ（心身健康論）	2
			総合科学実践講義Ｃ（日本社会経済論）	2
			総合科学実践講義Ｄ（メディアアート論）	2
			総合科学実践講義Ｅ（地域創生論）	2
			総合科学実践講義Ｆ（多文化共生論） (Foundations of Integrated Arts and Sciences：F（Multicultural Society))	2
			計	8単位以上
		選択必修Ⅱ	総合科学実践プロジェクトＡ（グローバル日本語支援）	2
			総合科学実践プロジェクトＢ（サマープログラム協力）	2
			総合科学実践プロジェクトＣ（心身健康維持）	2
			総合科学実践プロジェクトＤ（心身健康問題）	2
			総合科学実践プロジェクトＥ（国際交流・協力体験）	2
			総合科学実践プロジェクトＦ（政策実践）	2
			総合科学実践プロジェクトＧ（アート創生）	2
			総合科学実践プロジェクトＨ（地域社会文化）	2
			総合科学実践プロジェクトＪ（海外体験単位認定科目）	4
			計	2単位以上
	コース入門科目	必修	コース入門講座	2
			計	2単位
		選択必修	マクロ経済学入門	2
			経営学Ⅰ	2
			憲法Ⅰ	2
			民法Ⅰ	2
			国際関係論（国際法を含む）	2
			地域政策論Ⅰ	2
			地理学の基礎Ⅰ（人文地理学）	2
			地理学の基礎Ⅱ（地誌学）	2
			まちづくり地域社会論	2
			計	12単位以上
	コース基礎科目	選択必修	公共政策学	2
			環境政策論Ⅰ	2
			行政法Ⅰ	2
			商法Ⅰ	2
			地域経済論	2
			マクロ経済学Ⅰ	2
			ミクロ経済学Ⅰ	2
			財政学Ⅰ	2
			国際経済学Ⅰ	2
			会計学Ⅰ	2
			計	12単位以上

専門教育科目	コース応用科目	選択必修	憲法Ⅱ	2
			行政法Ⅱ	2
			商法Ⅱ	2
			経営学Ⅱ	2
			民法Ⅱ	2
			民法Ⅲ	2
			マクロ経済学Ⅱ	2
			ミクロ経済学Ⅱ	2
			国際経済学Ⅱ	2
			財政学Ⅱ	2
			平和学	2
			環境政策論Ⅱ	2
			会計学Ⅱ	2
			近現代世界の成立と展開	2
			グローバル・ヒストリー（イギリス近代史）	2
			国際協力論	2
			公共政策総合演習Ⅰ	4
			公共政策総合演習Ⅱ	4
			知的財産の基礎と活用	2
			ブランド戦略論	2
			社会変動論	2
			福祉社会論	2
			比較社会論	2
			市民活動論	2
			スポーツ社会学	2
			スポーツ経営学	2
			スポーツマーケティング論	2
			地域計画Ⅰ	2
			地域計画Ⅱ	2
			都市・交通計画	2
			アフリカ地域研究	2
			現代国際情勢概論	2
			国際ジャーナリズム（International Journalism）	2
			現代アジア社会Ⅱ	2
			計	16 単位以上
	コース自由選択科目	選択必修	コース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目の中から選択	
			計	10 単位以上
	他コース選択科目	選択必修	自コース専門科目表のコース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目以外から選択	
			計	10 単位以上
	卒業研究	必修		6 単位
	専門教育科目　計			95 単位以上
合計				130 単位以上

地域創生コース

教養教育科目	一般教養教育科目群		歴史と文化	2単位以上
			人間と生命	2単位以上
			生活と社会	2単位以上
			自然と技術	4単位以上
	グローバル化教育科目群		グローバル化教育科目	4単位以上
	イノベーション教育科目群		イノベーション教育科目	2単位以上
	基礎基盤教育科目群		ウェルネス総合演習	2単位以上
	汎用的技能教育科目群		ＳＩＨ道場	1単位以上
			スタディスキル／コミュニケーション	
			情報科学	2単位以上
	地域科学教育科目群		地域科学教育科目	2単位以上
	外国語教育科目群		英語	8単位以上
			中国語，ドイツ語，フランス語	4単位以上
	教養教育科目　計			35単位以上
専門教育科目	学部共通科目	必修	総合科学入門講座	1
			計	1単位
		選択必修Ⅰ	科学論	2
			情報処理基礎論	2
			計	2単位以上
		選択必修Ⅱ	総合科学の基礎Ａ（日本語表現の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｂ（文化研究の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｃ（哲学・思想の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｄ（スポーツ科学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｅ（心理学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｆ（公共政策学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｇ（経済学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｈ（社会学の基礎）	2
			総合科学の基礎Ｊ（SDG's と地域イノベーション）	2
			Academic English Ⅰ（日本文化・時事発信型英語）	2
			Academic English Ⅱ（４技能アカデミック英語入門）	2
			Extensive Reading（英語文法・語彙構築プログラム）	2
			計	10単位以上
	実践学習科目	必修	キャリアプラン入門	2
			課題発見ゼミナール	2
			計	4単位
		選択必修Ⅰ	キャリアプラン	2
			短期インターンシップ	2
			総合科学実践講義Ａ（グローバル文化論）	2
			総合科学実践講義Ｂ（心身健康論）	2
			総合科学実践講義Ｃ（日本社会経済論）	2
			総合科学実践講義Ｄ（メディアアート論）	2
			総合科学実践講義Ｅ（地域創生論）	2
			総合科学実践講義Ｆ（多文化共生論） (Foundations of Integrated Arts and Sciences：F（Multicultural Society))	2
			計	8単位以上
		選択必修Ⅱ	総合科学実践プロジェクトＡ（グローバル日本語支援）	2
			総合科学実践プロジェクトＢ（サマープログラム協力）	2
			総合科学実践プロジェクトＣ（心身健康維持）	2
			総合科学実践プロジェクトＤ（心身健康問題）	2
			総合科学実践プロジェクトＥ（国際交流・協力体験）	2
			総合科学実践プロジェクトＦ（政策実践）	2
			総合科学実践プロジェクトＧ（アート創生）	2
			総合科学実践プロジェクトＨ（地域社会文化）	2
			総合科学実践プロジェクトＪ（海外体験単位認定科目）	4
			計	2単位以上
	コース入門科目	必修	コース入門講座	2
			計	2単位
		選択必修	地理学の基礎Ⅰ（人文地理学）	2
			地理学の基礎Ⅱ（地誌学）	2
			社会変動論	2
			まちづくり地域社会論	2
			日本史研究Ⅰ	2
			考古学概説	2
			グローバル交渉史	2
			近現代世界の成立と展開	2
			地域政策論Ⅰ	2
			経営学Ⅰ	2
			ネットワーク・アプリケーション研究	2
			国際関係論（国際法を含む）	2
			憲法Ⅰ	2
			マクロ経済学Ⅰ	2
			計	12単位以上
	コース基礎科目	選択必修	社会統計学Ⅰ	2
			社会統計学Ⅱ	2
			行政法Ⅰ	2
			Ｃ言語プログラミング（実習を含む）	2
			情報創生プロジェクト（実習を含む）	2

専門教育科目	コース基礎科目	選択必修	環境アート	2
			日本言語概説	2
			空間情報論Ⅰ	2
			地域調査法Ａ	4
			地域調査法Ｂ	4
			地域計画Ⅰ	2
			考古学調査法	2
			日本史基礎研究Ⅰ	2
			日本史基礎研究Ⅱ	2
			東アジア社会文化研究Ⅰ	2
			方言と社会	2
			現代絵画論	2
			写真画像保存技術概論	2
			計	12単位以上
	コース応用科目	選択必修	総合情報研究（実習を含む）	2
			地域文化論Ⅰ	2
			福祉社会論	2
			比較社会論	2
			国際協力論	2
			市民活動論	2
			日本言語研究	2
			応用日本語学研究	2
			応用日本語学概説	2
			地域環境論（自然地理学）	2
			地域文化論Ⅱ	2
			地域構造論（人文地理学）	2
			空間情報論Ⅱ	2
			地域変容論（地誌学）	2
			地域計画Ⅱ	2
			アフリカ地域研究	2
			地域政策論Ⅱ	2
			地域調査演習Ａ	4
			地域調査演習Ｂ	4
			日本史研究Ⅱ	2
			日本史基礎研究Ⅲ	2
			日本史基礎研究Ⅳ	2
			考古学調査演習	2
			メディア表現	2
			メディア情報研究（実習を含む）	2
			映像デザイン	2
			アート表現基礎	2
			工芸表現と技法	2
			彫刻研究	2
			美術概論	2
			データ表現研究	2
			芸術創生基礎演習	2
			メディア情報論	2
			日本言語演習Ⅰ（地域言語学）	4
			日本言語演習Ⅰ（社会言語学）	4
			日本言語演習Ⅱ（地域言語学）	4＊
			日本言語演習Ⅱ（社会言語学）	
			絵画表現演習Ⅰ（水性木版画）	2
			絵画表現演習Ⅰ（油性木版画）	2
			絵画表現演習Ⅱ（平面表現）	2
			絵画表現演習Ⅱ（造形表現）	2
			デザイン表現演習Ⅰ（映像とデザイン）	2
			デザイン表現演習Ⅰ（視覚伝達デザイン）	2
			デザイン表現演習Ⅱ（デザイン表現におけるテクノロジー）	2
			デザイン表現演習Ⅱ（映像メディア表現）	2
			メディア表現演習Ⅰ（メディアアート）	2
			メディア表現演習Ⅰ（インスタレーション）	2
			メディア表現演習Ⅱ（インタラクション）	2
			メディア表現演習Ⅱ（映像表現）	2
			メディア情報演習Ⅰ（バーチャルリアリティ）	2
			メディア情報演習Ⅰ（３ DCG シミュレーション）	2
			メディア情報演習Ⅱ（空間デザインへの応用）	2
			メディア情報演習Ⅱ（システム評価）	2
			情報創生演習Ⅰ（WEB アプリケーション）	2
			情報創生演習Ⅰ（オープンソース開発）	2
			情報創生演習Ⅱ（データ・マネジメント）	2
			情報創生演習Ⅱ（データ可視化）	2
			地域総合演習Ⅰ	4
			地域総合演習Ⅱ	4
			スポーツ経営学	2
			商法Ⅰ	2
			民法Ⅰ	2
			財政学Ⅰ	2

専門教育科目	コース応用科目	選択必修	行政法Ⅱ	2
			平和学	2
			比較文化研究	2
			スポーツ社会学	2
			現代日本社会論	2
			東アジア社会文化研究Ⅱ	2
			グローバル・ヒストリー（イギリス近代史）	2
			北米地域研究	2
			ヨーロッパ史研究	2
			環境倫理学	2
			計算機概論	2
			計算機数学	2
			制御概論	2
			現象数理１	2
			最適化論	2
			データベース基礎論	2
			ネットワーク論	2
			コンピュータ・グラフィックス基礎論	2
			計画の論理	2
			都市・交通計画	2
			環境を考える	2
			自然災害のリスクマネジメント	2
			生態系の保全	2
			知的財産の基礎と活用	2
			地域経済論	2
			計	16 単位以上
	コース自由選択科目	選択必修	コース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目の中から選択	
			計	10 単位以上
	他コース選択科目	選択必修	自コース専門科目表のコース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目以外から選択	
			計	10 単位以上
	卒業研究	必修		6 単位
	専門教育科目　計			95 単位以上
合計				130 単位以上

＊２科目の内，所定の単位までしか卒業に必要な単位に参入されない。

17　教職に関する科目

授業科目	単位数
教師論	2
教育学概論	2
学習・言語心理学	2
発達心理学	2
教育の制度と経営	2
特別支援教育概論	2
教育課程論	2
国語科教育法Ⅰ	2
国語科教育法Ⅱ	2
国語科教育法Ⅲ	2
国語科教育法Ⅳ	2
社会科教育法	2
社会科・地理歴史科教育法	2
社会科・地理歴史科教育方法論	2
社会科・公民科教育法	2
社会科・公民科教育方法論	2
英語科教育法Ⅰ	2
英語科教育法Ⅱ	2
英語科教育法Ⅲ	2
英語科教育法Ⅳ	2
美術科教育法Ⅰ	2
美術科教育法Ⅱ	2
美術科教育法Ⅲ	2
美術科教育法Ⅳ	2
保健体育科教育法Ⅰ	2
保健体育科教育法Ⅱ	2
保健体育科教育法Ⅲ	2
保健体育科教育法Ⅳ	2
道徳教育	2
総合的な学習の時間の指導法	1
特別活動論	2
教育方法学	2
生徒指導論（進路指導を含む）	2
教育相談	2
教育実習事前事後指導	1
教育実習（中学）	4
教育実習（高校）	2
介護等体験	1
教職実践演習（中・高）	2

上記の科目のうち，「教育相談」「学習・言語心理学」「発達心理学」以外は進級要件，卒業要件及び成績評価（GP・GPA）に算定されない。

18　学芸員資格に関する科目

授　業　科　目	単　位　数
生涯学習概論	2
博物館概論	2
博物館経営論	2
博物館資料論	2
博物館資料保存論	2
博物館展示論	2
博物館情報・メディア論	2
博物館教育論	2
博物館実習	3

上記の科目は，進級要件，卒業要件及び成績評価（GP・GPA）に算定されない。

19　公認心理師に関する科目

授　業　科　目	単　位　数
公認心理師の職責　＊	2
心理学概論	2
臨床心理学概論	2
心身行動研究法（心理学研究法）	2
行動統計学（心理学統計法）	2
心理学実験Ａ	2
心理学実験Ｂ	2
知覚・認知心理学	2
学習・言語心理学	2
感情・人格心理学	2
神経・生理心理学	2
社会・集団・家族心理学	2
発達心理学	2
障害者・障害児心理学	2
心理的アセスメント	2
心理学的支援法	2
健康・医療心理学	2
福祉心理学	2
教育・学校心理学	2
司法・犯罪心理学	2
産業・組織心理学	2
人体の構造と機能及び疾病	2
精神疾患とその治療	2
関係行政論　＊	2
心理演習　＊	2
心理実習　＊	2

1　上記の科目のうち，＊印の科目は進級要件，卒業要件及び成績評価（GP・GPA）に算定されない。
2　公認心理師の受験資格（大学）は，卒業要件を満たすことにより，取得することができる。

20　日本語科目

授　業　科　目	単　位　数
日本語Ⅰ	2
日本語Ⅱ	2
日本語Ⅲ	2
日本語Ⅳ	2

上記の科目は，進級要件，卒業要件及び成績評価（GP・GPA）に算定されない。

3．試　　験　　細　　則

1　試　　験

⑴　成績の考査の一環として学年暦に定める期間に試験（定期試験）を行う。

⑵　定期試験は，授業時間数の３分の２以上出席した者につき行う。

⑶　成績の考査を試験によらない科目は，論文，レポート，制作物の提出及び作業演習等をもって行う。

⑷　成績は，１科目につき100点をもって満点とし，60点以上をもって合格とする。

2　受 験 心 得

⑴　受講の許可を得ている科目に限り受験することができる。

⑵　遅刻した場合は，受験することができない。ただし，遅刻が20分以内で，やむを得ない理由があると監督教員が認めたときは，受験することができる。

⑶　受験の際は，学生証を携行し，机上の右上隅に置くこと。忘れた者は，学務部又は学務係で仮学生証の交付を受けること。

⑷　受験の際は，監督教員の指示に従うこと。

⑸　不正行為をした者は，徳島大学学則第52条に基づき処分される。

3　成績の通知・確認

⑴　履修科目の成績は，原則として前期・後期ともに学期内に通知する。ただし，前期の追試験・再試験及び９月に実施される集中講義等の成績は，11月上旬に通知する。

⑵　成績について疑義がある場合は，成績の通知日から１週間以内，ただし１週間後の同日が休業日である場合は，休業日明けの最初の平日までに学務係に申し出ることができる。申し出後の授業担当教員の対応に疑義がある場合は，文書により根拠を明示して学務係を通じて教務委員会に申し出ることができる。ただし，疑義の申し出ができるのは，以下の場合に限られる。

①　成績の誤記入など，明らかに授業担当教員の誤りであると思われるもの。

②　シラバスに記載されている到達目標，成績評価方法・基準などから，明らかに成績評価について疑義があると思われるもの。

⑶　成績記入は，次のとおりである。

１科目につき60点以上……合　格

不……不合格（再試験可）　　（不）……再受講（再試験不可）

欠……試験当日欠席（追試験又は再受講）　　（欠）……受験資格なし（再受講）

⑷　すべての学生は，入学時に「個別成績表の送付に係る同意書」を学務係に提出し，成績表の保証人への送付の可否について申し出ることとする。

ただし，成績表の送付を「否」とした場合でも，下記の事項に該当する場合には，保証人に成績表を送付する。

①　単位の修得状況の芳しくない者

②　進級要件又は卒業要件に満たない者

4　追　試　験

⑴　次の理由により定期検査が受けられなかった者は，「追試験」を願い出ることができる。

ア　本人の責に帰し得ない理由の場合

イ　病気の場合

願い出にあたっては，欠席の詳細な理由を記した「欠席届」，アまたはイを証明する「証明書」（医師の診断書など），「追試験願」を学務係に提出する。

「欠席届」「追試験願」の用紙は学務係で交付される。

⑵　追試験の願い出は，試験実施日から２週間以内に行うこと。ただし２週間後の同日が休業日である場合は，休業日あけの最初の平日までに行うこと。

⑶　追試験の許可は，教務委員会で審査のうえ行う。

⑷　追試験の受験を許可された者は，前期においては10月末までに，後期においては学期内に受験するものとする。

5　再　試　験

⑴　定期試験に不合格になり，かつ「再試験」の指示があった場合には，再試験を受けることができる。

⑵　再試験は，前期においては10月末までに，後期においては学期内に受験するものとする。

⑶　再試験を受験しようとするときは，学務係で願出用紙の交付を受け，当該試験の担当教員の認印を得たうえで，学務係に提出しなければならない。

⑷　願出用紙の提出は，その再試験が行われる日の前日までとする。

⑸　再試験に合格した者の成績は，１科目につき60点とする。

6　追試験・再試験成績の通知・確認

⑴　追試験・再試験の成績は，前期においては11月上旬に，後期においては学期内に学務係で本人に通知する。

⑵　通知を受けた者は，成績を確認して疑義のある場合は，成績の通知日から１週間以内，ただし１週間後の同日が休業日である場合は，休業日あけの最初の平日までに学務係まで申し出のうえ，確認すること。

4．コ　ー　ス　細　則

1　コ　ー　ス

社会総合科学科に３の表に示すコースを置く。

2　コース決定及び変更

⑴　１年次学生は，コース選考についてのガイダンスを受け，学年暦によって定められた期日までに，コース志望届を提出しなければならない。

⑵　２年次以上の全学生が所属学科のいずれか一つのコースに所属しなければならない。コースへの所属は２年次の初めとする。

⑶　各コースの受入可能数は３の表のとおりである。

⑷　受入可能数を超える志望者があるコースは，選抜を行う。選抜の方法は，次のうち一つまたは二つを用いる。

①成績，②面接，③筆記試験，④小論文，⑤実技

⑸　教育上支障がない場合に限り，選考の上，年度の初めにコースの変更を許可することがある。コース変更を希望する者は，２年次以降，学年暦によって定められた期日までにコース変更届を提出する。

3　コ ー ス 表

コ　ー　ス	受入可能数
国 際 教 養	60
心 身 健 康	60
公 共 政 策	60
地 域 創 生	60

5．徳島大学総合科学部学友会会則

（名称）

第１条　本会は，徳島大学総合科学部学友会と称し，事務所を徳島大学総合科学部内に置く。

（会員）

第２条　本会は，正会員（総合科学部）及び特別会員（総合科学部教職員）で組織する。

（目的）

第３条　本会は，学生の自治的活動を通じて，健全な学風の樹立，学生生活の向上及び将来における社会参加への準備を図ることを目的とする。

（事業）

第４条　本会は，前条の目的を達成するため，次の事業を行う。

一　学生が自治的に行う行事の企画及び実行。

二　学生のサークルに対する援助。

三　就職に関する学生の自治的活動。

四　その他本会が必要と認めた事項。

（役員）

第５条　本会に次の役員を置く。

一　会　　長　１名

二　副 会 長　１名

三　委 員 長　１名

四　副委員長　２名

五　監　　査　１名

六　幹　　事　３名

（役員の選出）

第６条　役員は，次の方法によって選出する。

一　会長は，学部長をもって充てる。

二　副会長は，学生委員会委員長をもって充てる。

三　委員長，副委員長，監査は，正会員から会長が指名する。

四　幹事は，正会員の中から委員長が委嘱する。

（役員の任務）

第７条　役員の任務は，次のとおりとする。

一　会長は，本会を代表し会務を総括する。

二　副会長は，会長を補佐し，会長に事故あるときは，その職務を代行する。

三　委員長は，正会員の代表として本会の事業を総括する。

四　副委員長は，委員長を補佐し，委員長に事故のあるときは，副委員長のうち１名が，その職務を代行する。

五　監査は，会計を監査する。

六　幹事は，会務を処理する。

（役員の任期）

第８条　役員の任期は，一年とし，再任を妨げない。

２　役員に欠員が生じた場合は，これを補充し，その任期は，前任者の残任期間とする。

（会議）

第９条　会長は，必要があると認めるときは，総会を招集することができる。

２　総会は，会則の改廃その他重要な事項を審議する。

３　総会の議事は，正会員の過半数の賛成によって議決し，議決にあたっては，あらかじめ作成された原案に対する委任状を認める。

（会計）

第10条　会計年度は，毎年４月１日に始まり，翌年３月31日に終わる。

２　本会の経費は，正会員の入会金（200円），会費（4,000円），寄付金及びその他の収入をもって充てる。

３　入会金及び会費は入学時に納入する。

４　既納の入会金及び会費は返還しない。

（情報開示）

第11条　情報開示は次に従うものとする。

一　開示請求書発行は委員長のみが発行できるものとする。

二　開示請求依頼者は発行依頼を委員長に対して行う。

三　開示請求が行える学生は，総合科学部の学生に限定する。

四　開示可能な情報は，監査を受けた最新の決算のみとする。

五　開示された情報はいかなる方法によっても，コピー，複製等は行わないものとする。

6．徳島大学語学マイレージ・プログラム実施要領

平成30年1月16日
学長制定

（目的）

第1条　この要領は，徳島大学（以下「本学」という。）の学部教育において学生に一定水準以上の語学力，コミュニケーション力及び自己主導型学修力を身に付けさせるため，徳島大学語学マイレージ・プログラム（以下「マイレージ・プログラム」という。）の実施について必要な事項を定めるものとする。

（マイレージ・プログラム）

第2条　マイレージ・プログラムは，語学に関して，学生が修得した内容を客観的に評価する。

（対象者）

第3条　マイレージ・プログラムの対象者は，本学の学部学生とする。

（マイレージポイント）

第4条　第2条の評価は，学生が修得した内容について，次の各号に掲げる事項ごとにマイレージポイントに数値化することにより行う。

⑴　教養教育科目のうち語学教育に関し各学部が指定する授業科目の成績
⑵　専門教育科目のうち語学教育に関し各学部が指定する授業科目の成績
⑶　外国語技能検定試験の成績
⑷　教養教育院語学教育センターが実施する語学教育プログラムの履修
⑸　語学留学の実績
⑹　各学部が実施する語学教育プログラムの履修
⑺　その他本学がマイレージ・プログラムの対象として認めた事項

（マイレージレベル）

第5条　学部長は，学生に対して，取得したマイレージポイントの合計に応じて次項に定めるマイレージレベルを付与する。

2　前項のマイレージレベルの区分は，次の各号に掲げるとおりとする。

⑴　プラチナクラス
⑵　ゴールドクラス
⑶　ブロンズクラス
⑷　フリークエントクラス
⑸　ビジタークラス

（マイレージポイントの認定）

第6条　学部長は，学生が次の各号に該当する場合は，学生の申し出に基づき，修得単位及び学修をマイレージポイントとして認定することができる。

⑴　学則第34条の2の規定により他の大学又は短期大学において単位を修得したとき。
⑵　学則第34条の3の規定により大学以外の教育施設等において学修したとき。

⑶　学則第34条の４の規定により外国の大学又は短期大学において単位を修得したとき。

⑷　学則第34条の５の規定により既修得単位の認定を受けたとき。

（表彰）

第７条　学部長は，マイレージレベルが上位にある学生に対し，学部長表彰を行うことができる。

２　学部長は，第５条第２項に定めるマイレージレベルにおいてプラチナクラスを付与された学生のうちから特に優秀な成績を修めた者を，学長表彰の対象として推薦することができる。

（証明書の交付）

第８条　学部長は，学生から当該学生の語学能力について証明の願い出があったときは，別記様式により証明書を交付するものとする。

（事務）

第９条　マイレージ・プログラムに関する事務は，学務部教育支援課及び各学部事務部が行う。

（雑則）

第10条　この要領に定めるもののほか，マイレージ・プログラムの実施について必要な事項は，学部長及び教養教育院長が別に定める。

附　則

この要領は，平成30年４月１日から実施し，平成30年度入学者から適用する。ただし，歯学部歯学科の２年次に編入学する者については平成31年10月１日から，医学部保健学科及び理工学部理工学科の３年次に編入学する者並びに生物資源産業学部生物資源産業学科に入学する者については平成32年４月１日から，生物資源産業学部生物資源産業学科の２年次に編入学する者については平成33年４月１日から，それぞれ適用する。

Ⅲ. 語学マイレージ・プログラム

語学マイレージ・プログラム

1　目　　的

語学マイレージ・プログラムは，学部教育において一貫した語学教育体制を構築し，学生の目標・目的に合った語学力，コミュニケーション力・自己主導型学修力を養うことにより，十分な語学運用能力を持つ人材を育成することを目的にしています。

2　概　　要

語学マイレージ・プログラムは英語を基本としますが，英語以外の語学を専攻している学生のために，総合科学部ではドイツ語，フランス語，中国語の語学マイレージ・プログラムを用意しています。

語学マイレージ・プログラムは，

①教養教育科目の外国語科目の成績

②専門教育科目の外国語関連科目の成績

③外国語技能検定試験の成績

④教養教育院語学教育センターが実施する語学教育プログラムの履修

⑤語学留学等の実績

⑥各学部が実施する語学教育プログラムの履修

⑦その他語学マイレージ・プログラムの対象として認めた事項

からなり，それぞれの点数をマイレージポイントとして加算します。マイレージポイントの合計によってマイレージレベルがアップしていき，ブロンズクラス以上（700 ポイント以上）が卒業要件となります。**ブロンズクラスに達しない場合は卒業できないので注意してください。**指定する科目やマイレージレベルのポイントは，学部によって異なります。

大部分の者は①～③でブロンズクラスに達するようになっていますが，それだけではブロンズクラスに達しない場合，④～⑦のプログラムを受講し，ポイントを加算することが可能です。

なお，④～⑦のプログラムは英語が苦手な人だけに提供するものではありません。積極的に選択プログラムにチャレンジし，さらに語学力の向上に努めてください。成績上位の者は，成績優秀者として学部長表彰・学長表彰の対象になりますので，就職活動等に生かすことができます。

①　教養教育科目の外国語科目の成績

外国語教育科目群の英語，ドイツ語，フランス語，中国語が指定されています。指定科目及びマイレージポイントの換算方法は，学部学科により異なります。

②　専門教育科目の外国語関連科目の成績

それぞれの学部で開講されている語学教育に関する専門教育科目のうち，数科目が指定されています。指定科目及びマイレージポイントの換算方法は，学部学科により異なります。

③　外国語技能検定試験の成績

学部によって，語学検定の種類が TOEIC-IP または TOEFL ITP のどちらかに指定されています。総合

科学部の場合は入学時に選択することができ，TOEFL ITP の点数は，TOEIC-IP の点数へ換算して使用します。

試験は１年次及び３年次にそれぞれ１回ずつ受験し，高得点のものを採用します。大学で一斉に実施する試験の他，在学中に個人で受験した試験の点数をマイレージポイントに認定することも可能です。在学中は何度でも高得点の成績に更新することができます。

TOEIC-IP，TOEFL ITP の他，TOEFL iBT や IELTS 等も使用できます。それぞれの換算点数は教育支援課教養教育係へ問い合わせてください。

④　語学教育センターが実施するプログラムの履修

地域創生・国際交流会館２階にある英語学習・コミュニケーションプラザ（English Learning Communication Spabe：通称ELCS（エルクス））では，正課外に多様なワークショップやイベント等の英語プログラムを実施しています。この英語プログラムを修了することで，マイレージポイントが認定されます。

英語プログラムは事前予約制です。プログラムの日程や内容等については，語学教育センター HP（http://las.tokushima-u.com/language-education-center/）で確認してください。

⑤　語学留学等の実績

本学の指定大学が主催する語学研修を受講し，成績評価が合格に達した者に対し，各学部が語学マイレージ・プログラムで指定した教養教育科目の単位を認定するとともに，語学マイレージ・プログラムの「語学留学等」のマイレージポイントを加算します。マイレージポイントは，研修内容，研修時間数や取得した成績等及び面接により認定されます。

ただし，各学部の語学マイレージ・プログラムで指定した教養教育科目について適用し，各学部が指定していない教養教育科目については単位認定とします。

その他，指定大学以外での語学留学についても，マイレージポイントを認定することがあります。

詳しくは教育支援課教養教育係へ問い合わせてください。

⑥　総合科学部が実施する語学教育プログラムの履修

総合科学部が独自に実施する語学プログラムに参加すれば，マイレージポイントが加算されます。

⑦　その他マイレージ・プログラムの対象として認めた事項

e-learning で受講できる「スーパー英語」のほか，各学部で独自の語学プログラムを用意しています。詳細は各学部にお問い合わせください。

3　卒業要件

卒業要件を満たすためには，各学部で定める修得単位のほか，マイレージレベルのうちブロンズクラス以上（700 ポイント以上）を取得していなければなりません。

総合科学部の学生には，４言語での語学マイレージ・プログラムを提供しています。基本は【英語】としていますが，【ドイツ語】【フランス語】【中国語】を希望する場合は，原則として２年次終了までに総合科学部学務係へ申請してください。

語学マイレージレベル（総合科学部共通）

クラス	ポイント合計	備考
プラチナクラス	1200 以上	
ゴールドクラス	1000 ～ 1199	
ブロンズクラス	700 ～ 999	700 ポイント以上が卒業要件
フリークエントクラス	600 ～ 699	
ビジタークラス	600 未満	

① 語学マイレージ・プログラム【英語】

区分／科目名等		必修／選択	ポイント	備考
教養教育科目	主題別英語	必修	120 ～ 200	注 1
	発信型英語	必修	120 ～ 200	
専門教育科目	Academic English Ⅰ	選択必修	120 ～ 200	注 2
	Academic English Ⅱ	選択必修		
	Extensive Reading	選択必修		
	総合科学実践講義Ｆ	選択必修		
	総合科学実践プロジェクトＡ	選択必修		
	総合科学実践プロジェクトＢ	選択必修		
	総合科学実践プロジェクトＥ	選択必修		
	現代日本社会論	選択必修		
外国語技能検定	TOEIC，TOEFL，実用英語技能検定又は IELTS	必修	10 ～ 990	注 3，入学時に選択
語学教育センターが実施するプログラム		選択	0 ～ 100	
語学留学等		選択	30 ～ 200	
総合科学実践プロジェクト J のプログラム（短期プログラム）		選択	0 ～上限なし	注 4
協定校への長期留学プログラム		選択	0 ～上限なし	
その他，総合科学部が留学と認定したプログラム		選択	0 ～上限なし	
スーパー英語		選択	0 ～ 80	
国際センターが実施するプログラム		選択	0 ～上限なし	
卒業要件（ポイント合計）			700 以上	

（注１）主題別英語，発信型英語については，それぞれ２授業題目を履修することとし，１授業題目に対して 60 ～ 100 ポイントを付与する。
（注２）８科目の中から高得点の２科目を採用する。
（注３）その他の外国語技能検定試験（英語）の成績については，TOEIC-IP 成績に換算してポイント化する。
（注４）認定単位１単位につき 25 ポイントを付与する。

② 語学マイレージ・プログラム【ドイツ語】

区分／科目名等		必修／選択	ポイント	備考
教養教育科目	ドイツ語入門	必修	120 ～ 200	注 1
	ドイツ語初級	必修	120 ～ 200	
専門教育科目	実用外国語基礎演習Ⅰ（ドイツ語）	選択必修	60 ～ 100	
	実用外国語基礎演習Ⅱ（ドイツ語）	選択必修	60 ～ 100	
外国語技能検定	ドイツ語技能検定試験	必修	0 ～ 950	
語学留学等		選択	30 ～ 200	
総合科学実践プロジェクト J のプログラム（短期プログラム）		選択	0 ～上限なし	注 2
協定校への長期留学プログラム		選択	0 ～上限なし	
その他，総合科学部が留学と認定したプログラム		選択	0 ～上限なし	
卒業要件（ポイント合計）			700 以上	

（注１）ドイツ語入門，ドイツ語初級については，それぞれ２授業題目を履修することとし，１授業題目に対して 60 ～ 100 ポイントを付与する。
（注２）認定単位１単位につき 25 ポイントを付与する。

③　語学マイレージ・プログラム【フランス語】

区分／科目名等		必修／選択	ポイント	備考
教養教育科目	フランス語入門	必修	120 ～ 200	注１
	フランス語初級	必修	120 ～ 200	
専門教育科目	実用外国語基礎演習Ⅰ（フランス語）	選択必修	60 ～ 100	
	実用外国語基礎演習Ⅱ（フランス語）	選択必修	60 ～ 100	
外国語技能検定	実用フランス語検定試験	選択	0 ～ 950	
語学留学等		選択	30 ～ 200	
総合科学実践プロジェクトＪのプログラム（短期プログラム）		選択	0～上限なし	注２
協定校への長期留学プログラム		選択	0～上限なし	
その他，総合科学部が留学と認定したプログラム		選択	0～上限なし	
卒業要件（ポイント合計）			700 以上	

（注１）フランス語入門，フランス語初級については，それぞれ２授業題目を履修することとし，１授業題目に対して 60 ～ 100 ポイントを付与する。
（注２）認定単位１単位につき 25 ポイントを付与する。

④　語学マイレージ・プログラム【中国語】

区分／科目名等		必修／選択	ポイント	備考
教養教育科目	中国語入門	必修	120 ～ 200	注１
	中国語初級	必修	120 ～ 200	
専門教育科目	実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）	選択必修	60 ～ 100	
	実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）	選択必修	60 ～ 100	
外国語技能検定	中国語検定試験	選択	0 ～ 950	どちらか１つを選択
	中国政府漢語水平考試(HSK)	選択	0 ～ 950	
語学留学等		選択	30 ～ 200	
総合科学実践プロジェクトＪのプログラム（短期プログラム）		選択	0～上限なし	注２
協定校への長期留学プログラム		選択	0～上限なし	
その他，総合科学部が留学と認定したプログラム		選択	0～上限なし	
卒業要件（ポイント合計）			700 以上	

（注１）中国語入門，中国語初級については，それぞれ２授業題目を履修することとし，１授業題目に対して 60 ～ 100 ポイントを付与する。
（注２）認定単位１単位につき 25 ポイントを付与する。

4　特別な単位認定に伴うマイレージポイントの認定

次の⑴～⑷の方法により教養教育科目の単位を認定した場合，併せてマイレージポイントも認定します。原則として，単位認定と併せてマイレージポイントを認定しますので，マイレージポイントのみの認定はありません。

また，単位認定された科目であっても，各学部で語学マイレージ・プログラムとして指定していない科目については，マイレージポイントの認定はありません。

⑴　入学前の既修得単位

本学入学前に単位を修得した大学・短期大学等の成績により，本学の教養教育科目の単位として認定するとともに，以下のとおりマイレージポイントを認定します。徳島大学の卒業生・中途退学者については，在学中に修得した点数がそのままマイレージポイントとなります。

① 大学又は短期大学等を卒業あるいは中途退学した者で，新たに第１年次に入学した者

入学前に修得した成績評価	マイレージポイント
秀（Ⓐ）	95
秀（Ⓐ）の定めがない場合の優（A）	90
秀（Ⓐ）の定めがある場合の優（A）	85
良（B）	75
可（C）	65
認定	70 又は面接により評価し 60 ～ 100 ポイントを認定する場合もある

② 編入学，補欠入学した者

①の取扱いに準じてマイレージポイントを認定します。

③ 本学の学生で転学部，転学科を許可された者

転学部（転学科）前に修得したマイレージポイントを，転学後の学部（学科）が指定する換算表に基づき再度付与します。

⑵ 放送大学で修得した単位の認定

本学在学中に放送大学で修得した単位を教養教育科目として単位認定するとともに，以下のとおりマイレージポイントを認定します。

放送大学の成績評価	マイレージポイント
Ⓐ	95
A	85
B	75
C	65

⑶ 外国語技能検定試験による単位認定

本学在学中に受験して取得した外国語技能検定試験の成績により，以下のとおり単位認定するとともに，その科目に対するマイレージポイントを認定します。なお，単位認定に使用した外国語技能検定試験は，「外国語技能検定試験」としてのマイレージポイントにはなりません。再度，外国語技能検定試験を受験する必要があります。

① 英語

検定試験の種類	評価等	単位認定	マイレージポイント認定（1授業題目につき）	備考
実用英語技能検定（英検）（公益財団法人　日本英語検定協会）	1級	基盤英語　2単位	なし	
		主題別英語2単位	95	
		発信型英語2単位	95	
	準1級	基盤英語　2単位	なし	
		主題別英語2単位	90	
TOEFL iBT（国際教育交換協議会）	100点以上	基盤英語　2単位	なし	
		主題別英語2単位	95	
		発信型英語2単位	95	
	80～99点	基盤英語　2単位	なし	
		主題別英語2単位	90	
TOEFL PBT TOEFL ITP（Level 1）（国際教育交換協議会）	600点以上	基盤英語　2単位	なし	
		主題別英語2単位	95	
		発信型英語2単位	95	
	550～599点	基盤英語　2単位	なし	
		主題別英語2単位	90	
TOEIC（一般財団法人　国際ビジネスコミュニケーション協会）	870点以上	基盤英語　2単位	なし	
		主題別英語2単位	95	
		発信型英語2単位	95	
	730～869点	基盤英語　2単位	なし	
		主題別英語2単位	90	
IELTS（Academic）（公益財団法人　日本英語検定協会，ブリティッシュ・カウンシル）	7以上	基盤英語　2単位	なし	
		主題別英語2単位	95	
		発信型英語2単位	95	
	6～6.5	基盤英語　2単位	なし	
		主題別英語2単位	90	

② ドイツ語

検定試験の種類	評価等	単位認定	マイレージポイント認定（1授業題目につき）	備考
ドイツ語技能検定試験（独検）（公益財団法人　ドイツ語学文学振興会）	準1級以上	ドイツ語入門2単位 ドイツ語初級2単位	95	
	2級		90	
	3級		80	
	4級	ドイツ語入門2単位	70	
	5級	ドイツ語入門1単位	60	

③ フランス語

検定試験の種類	評価等	単位認定	マイレージポイント認定（1授業題目につき）	備考
実用フランス語技能検定試験（仏検）（公益財団法人　フランス語教育振興協会）	2級以上	フランス語入門2単位 フランス語初級2単位	95	
	準2級		90	
	3級		80	
	4級	フランス語入門2単位	70	

④　中国語

検定試験の種類	評価等	単位認定	マイレージポイント認定（1授業題目につき）	備考
中国語検定試験（一般財団法人　日本中国語検定協会）	準１級以上	中国語入門２単位 中国語初級２単位	95	
	２級		90	
	３級		80	
	４級		70	
	準４級	中国語入門２単位	60	
中国政府漢語水平考試（HSK）（中国国家漢語水平考試委員会）	５級以上	中国語入門２単位 中国語初級２単位	95	
	４級		90	
	３級		80	
	２級		70	
	１級	中国語入門２単位	60	

⑷　留学による単位の認定

本学が指定する大学が主催する語学研修を受講し，成績評価が合格に達した者に対し，単位を認定するとともに，その科目に対するマイレージポイント及び「語学留学等」のマイレージポイントを認定します。それぞれのマイレージポイントは，研修内容，研修時間数や修得した成績等及び面接により認定ポイントを決定します。なお，留学によるマイレージポイントの認定は，該当科目が修得済みのために単位認定ができなかった場合であっても，留学によるマイレージポイントは単独で認定できることがあります。

その他，指定大学以外での語学留学についても，マイレージポイントを認定できることがあります。詳しくは教育支援課教養教育係へ問い合わせてください。

①　英語

研修時間	認定する題目及び単位数	マイレージポイント		備考
		科目ポイント	留学ポイント	
60～　89時間	主題別英語　２単位	60～100	90	
90～119時間			120	
120～150時間			150	

②　フランス語

２単位をひとまとまりに，４単位を上限として認定します。ただし，各クラスとも60時間以上の研修時間をもって２単位に相当するものとします。

研修クラス	認定する題目及び単位数	マイレージポイント		備考
		科目ポイント	留学ポイント	
初心者対象	フランス語入門　２単位	60～100	30～200	
既修90時間以上の能力を要するクラス	フランス語初級　２単位			

③　中国語

研修時間	認定する題目及び単位数	マイレージポイント		備考
		科目ポイント	留学ポイント	
30時間以上	中国語初級　1単位	60～100	60	
60時間以上	中国語入門　2単位		90	
120時間以上	中国語初級　2単位 中国語入門　2単位		150	

5　マイレージポイント等の確認

教務事務システムから，現在のマイレージポイントの合計やマイレージレベルを確認することができます。

詳しくは，**『徳島大学教養教育 2020 学びのファーストステップ』**を参照してください。

6　表　　彰

マイレージレベルが上位にある者は，学部長表彰の対象になります。さらに，プラチナレベルにあり特に優秀な成績を修めた者は，学長表彰されます。

7　証明書の発行

マイレージポイント及びマイレージレベルに応じた証明書を発行します。希望する者は，学務係へ申請してください。

Ⅳ．教員免許状と各種資格

1．教員免許状の取得

本学部では，「1　免許状の種類及び教科」に示す教員免許が取得できます。本学部では，教員免許状取得を希望する学生に対して，1年次の10月頃に説明会を実施し，免許状取得に関する指導を行っています。免許状の取得を希望する学生はこの説明会に必ず出席してください。

教員免許状を取得するためには，卒業に必要な単位のほかに，卒業要件とならない授業科目を多数履修し，４年次には「教育実習」や「教職実践演習」を受講しなければなりません。

また，中学校教員免許状を取得するためには，「介護等体験」の受講が必修となっています。これらの実習や演習で実施される学外での実習は，実習先のご好意によって受講が可能となっているものです。このような実情を踏まえ，本学部では実習を受講するために要件を定めています。それらは，４－６及び５－１に示していますので，各自で確認してください。

また，免許の取得に必修の科目の中には，隔年開講のものもあります。履修に際しては，各年次の時間割によく目を通して，履修計画を立てるようにしてください。

以下に大まかに，免許状取得までの説明会・事前指導等の実施予定を示しておきます。なお，教員免許状取得に関する単位履修について，詳細は，学務係前の「教職関連の掲示板」に掲示します。掲示板を毎日確認するようにしてください。

【教職課程スケジュール概要】

日　　程	「教育実習」と「介護等体験」	『教職キャリアノート』と「教職実践演習」
1年次10月	教員免許状取得希望者に対する説明会 (「介護等体験」受講希望調査を含む)	『教職キャリアノート』の配付
12月	「介護等体験」受講説明会	
2年次４月	「介護等体験」事前指導 (社会福祉施設実習について)	『教職キャリアノート』の提出（学務係まで）
６月		『教職キャリアノート』講習会
8，９月頃	「介護等体験」（社会福祉施設実習（５日間））	
10月		『教職キャリアノート』の提出（学務係まで）
11月	「介護等体験」事前指導 (鳴門教育大学附属特別支援学校実習について)	
12月	「介護等体験」(鳴門教育大学附属特別支援学校実習（２日間)) 右の講習会時に「教育実習」受講説明及び 「教育実習」受講希望調査	『教職キャリアノート』講習会
3年次４月	「教育実習」受講説明会	『教職キャリアノート』の提出（学務係まで）
６月		『教職キャリアノート』講習会
10月		『教職キャリアノート』の提出（学務係まで）
12月		『教職キャリアノート』講習会
4年次４月	「教育実習事前事後指導（事前指導）」(集中講義)	『教職キャリアノート』の提出（学務係まで）
５月～	「教育実習」※日程は実習校が指定する日程による。	「教職実践演習」開始
11月	「教育実習事前事後指導（事後指導）」(集中講義)	

総合科学部教育職員免許状取得に関する単位履修要領

1　教育職員免許状の種類及び教科

総合科学部で取得可能な免許状の種類及び教科は次のとおりです。

「2　法令で規定された基礎資格及び所要単位数」以降で示す単位修得方法を確認のうえ，必要な単位数を修得してください。

免許状の種類及び免許教科	関連するコース
中学校教諭一種免許状（国語） 高等学校教諭一種免許状（国語）	国際教養コース
中学校教諭一種免許状（社会）	国際教養コース 公共政策コース 地域創生コース
高等学校教諭一種免許状（地理歴史）	国際教養コース 公共政策コース 地域創生コース
高等学校教諭一種免許状（公民）	公共政策コース 地域創生コース
中学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語）	国際教養コース
中学校教諭一種免許状（保健体育） 高等学校教諭一種免許状（保健体育）	心身健康コース
中学校教諭一種免許状（美術） 高等学校教諭一種免許状（美術）	地域創生コース

2　法令で規定された基礎資格及び所要単位数

教員免許状を取得する場合の基礎資格及び科目履修は次のとおりです。

本学部の学生は，「4　本学で開設している授業科目」に従って修得してください。

中学校教諭一種免許状

基礎資格：学士の学位を有すること

科目の区分	各項目に含めることが必要な事項	単位数
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		8
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	28
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
教育の基礎的理解に関する科目	4－3に記載	10
道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	4－4に記載	10
教育実践に関する科目	教育実習	5
	教職実践演習	2
大学が独自に設定する科目		4
合計		67

高等学校教諭一種免許状

基礎資格：学士の学位を有すること

科目の区分	各項目に含めることが必要な事項	単位数
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		8
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	24
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
教育の基礎的理解に関する科目	４－３に記載	10
道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	４－４に記載	8
教育実践に関する科目	教育実習	3
	教職実践演習	2
大学が独自に設定する科目		12
合　　計		67

ただし，**「４　本学で開設している授業科目」のうち，必修の指定のある科目は上記の単位数にかかわらず必ず修得しなければなりません。**なお，本学部では，「介護等体験」を中学一種免許状の必修の科目として開設しています（４－６「大学が独自に設定する科目」参照）。

３　法令で規定された単位数

３－１　教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

法令上規定された単位数は次のとおりです。**本学部では４－１「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」に従って修得してください。**

免許状の種類	免許法に定める科目	単位数
中学校教諭一種免許状	日本国憲法	2
	体育	2
高等学校教諭一種免許状	外国語コミュニケーション	2
	情報機器の操作	2

３－２　「教科及び教科の指導法に関する科目」

免許状種別及び教科別等による法令上規定された単位数は次のとおりです。**本学部では４－２「教科及び教科の指導法に関する科目」に従って修得してください。**

中学校教諭一種免許状

教科	各項目に含めることが必要な事項		単　位　数	合計単位数
国語	教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。） 国文学（国文学史を含む。） 漢文学 書道（書写を中心とする。）	１単位以上 〃 〃 〃	28
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		８単位以上	

教科	各項目に含めることが必要な事項		単　位　数	合計単位数
社会	教科に関する専門的事項	日本史・外国史 地理学（地誌を含む。） 「法律学，政治学」 「社会学，経済学」 「哲学，倫理学，宗教学」	１単位以上 〃 〃 〃 〃	28
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		８単位以上	

教科	各項目に含めることが必要な事項		単　位　数	合計単位数
美術	教科に関する専門的事項	絵画（映像メディア表現を含む。） 彫刻 デザイン（映像メディア表現を含む。） 工芸 美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）	１単位以上 〃 〃 〃 〃	28
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		８単位以上	

教科	各項目に含めることが必要な事項		単　位　数	合計単位数
保健体育	教科に関する専門的事項	体育実技 「体育原理，体育心理学，体育経営管理学，体育社会学，体育史」・運動学（運動方法学を含む。） 生理学（運動生理学を含む。） 衛生学・公衆衛生学 学校保健（小児保健，精神保健，学校安全及び救急処置を含む。）	１単位以上 〃 〃 〃 〃	28
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		８単位以上	

教科	各項目に含めることが必要な事項		単　位　数	合計単位数
英語	教科に関する専門的事項	英語学 英語文学 英語コミュニケーション 異文化理解	１単位以上 〃 〃 〃	28
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		８単位以上	

高等学校教諭一種免許状

教科	各項目に含めることが必要な事項		単　位　数	合計単位数
国語	教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。） 国文学（国文学史を含む。） 漢文学	１単位以上 〃 〃	24
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		４単位以上	

教科	各項目に含めることが必要な事項		単　位　数	合計単位数
地理歴史	教科に関する専門的事項	日本史 外国史 人文地理学・自然地理学 地誌	１単位以上 〃 〃 〃	24
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		４単位以上	

教科	各項目に含めることが必要な事項		単　位　数	合計単位数
公民	教科に関する専門的事項	「法律学（国際法を含む。），政治学（国際政治を含む。）」 「社会学，経済学（国際経済を含む。）」 「哲学，倫理学，宗教学，心理学」	１単位以上 〃 〃	24
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		４単位以上	

教科	各項目に含めることが必要な事項		単　位　数	合計単位数
美術	教科に関する専門的事項	絵画（映像メディア表現を含む。） 彫刻 デザイン（映像メディア表現を含む。） 美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）	１単位以上 〃 〃 〃	24
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		４単位以上	

教科	各項目に含めることが必要な事項		単　位　数	合計単位数
保健体育	教科に関する専門的事項	体育実技 「体育原理，体育心理学，体育経営管理学，体育社会学，体育史」・運動学（運動方法学を含む。） 生理学（運動生理学を含む。） 衛生学及び公衆衛生学 学校保健（小児保健，精神保健，学校安全及び救急処置を含む。）	１単位以上 〃 〃 〃 〃	24
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		４単位以上	

教科	各項目に含めることが必要な事項		単　位　数	合計単位数
英語	教科に関する専門的事項	英語学 英語文学 英語コミュニケーション 異文化理解	１単位以上 〃 〃 〃	24
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		４単位以上	

4　本学で開設している授業科目

4－1「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」

教員免許状取得にあたっては，本学で開設している以下の「授業科目」又は「授業題目」の中から各2単位，計8単位を修得して下さい。

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法に定める科目	本学部で開設する授業科目・授業題目	中　学	高　校	摘　　要
日本国憲法	生活と社会：憲法と人権Ⅰ〔教養教育科目〕 生活と社会：憲法と人権Ⅱ〔教養教育科目〕 生活と社会：憲法と人権〔教養教育科目〕 生活と社会：憲法と市民自治〔教養教育科目〕 憲法Ⅰ〔専門教育科目〕 憲法Ⅱ〔専門教育科目〕	2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2	1科目選択必修
体育	ウェルネス総合演習〔教養教育科目〕	2	2	
外国語コミュニケーション	英語〔教養教育科目〕 英語以外の外国語〔教養教育科目〕	2 2	2 2	1科目選択必修
情報機器の操作	情報科学：情報科学入門〔教養教育科目〕	2	2	
合計		8	8	

4－2　「教科及び教科の指導法に関する科目」

「教科に関する専門的事項」及び「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」について，以下のとおり修得してください。

4－2－1　「教科に関する専門的事項」

本学部では「教科に関する専門的事項」に関する科目を別表のとおり開設していますので，該当する免許状の種類及び教科に応じて，3－2「教科及び教科の指導法に関する科目」に示されている単位数以上を修得してください。

4－2－2　「各教科の指導法（情報機器及び機材の活用を含む。）」

本学部では「各教科の指導法（情報機器及び機材の活用を含む。）」に関する科目を次表のとおり開設しているので，該当する免許状の種類及び教科に応じて，3－2「教科及び教科の指導法に関する科目」に示されている単位数以上を修得してください。

各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

<table>
<tr><th rowspan="2">各項目に含めることが必要な事項</th><th rowspan="2">授業科目</th><th rowspan="2">単位数</th><th colspan="2">中一種免</th><th colspan="2">高一種免</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th colspan="2">必修</th><th colspan="2">必修</th></tr>
<tr><td rowspan="22">各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）</td><td>国語科教育法Ⅰ</td><td>2</td><td colspan="2" rowspan="4">8</td><td colspan="2" rowspan="4">4
選択必修</td><td rowspan="22">「教科教育法」
取得したい教科免許状の教科教育法を修得しなければならない。また，他の教科教育法の単位は「大学が独自に設定する科目」に算入されない。

中一種免（社会）では社会科教育法の他に社会科・地理歴史科教育法，社会科・地理歴史科教育方法論，社会科・公民科教育法，社会科・公民科教育方法論のうち３科目以上を履修しなければならない。</td></tr>
<tr><td>国語科教育法Ⅱ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>国語科教育法Ⅲ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>国語科教育法Ⅳ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>社会科教育法</td><td>2</td><td colspan="2">2</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>社会科・
地理歴史科教育法</td><td>2</td><td colspan="2" rowspan="4">6
選択必修</td><td colspan="2" rowspan="2">4</td></tr>
<tr><td>社会科・
地理歴史科教育方法論</td><td>2</td></tr>
<tr><td>社会科・公民科教育法</td><td>2</td><td colspan="2" rowspan="2">4</td></tr>
<tr><td>社会科・
公民科教育方法論</td><td>2</td></tr>
<tr><td>英語科教育法Ⅰ</td><td>2</td><td colspan="2" rowspan="4">8</td><td colspan="2">2
選択必修</td></tr>
<tr><td>英語科教育法Ⅱ</td><td>2</td><td colspan="2" rowspan="2">2
選択必修</td></tr>
<tr><td>英語科教育法Ⅲ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>英語科教育法Ⅳ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>美術科教育法Ⅰ</td><td>2</td><td colspan="2" rowspan="4">8</td><td colspan="2" rowspan="4">4
選択必修</td></tr>
<tr><td>美術科教育法Ⅱ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>美術科教育法Ⅲ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>美術科教育法Ⅳ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>保健体育科教育法Ⅰ</td><td>2</td><td colspan="2" rowspan="4">8</td><td colspan="2" rowspan="4">4
選択必修</td></tr>
<tr><td>保健体育科教育法Ⅱ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>保健体育科教育法Ⅲ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>保健体育科教育法Ⅳ</td><td>2</td></tr>
</table>

４－３　「教育の基礎的理解に関する科目」

本学部では，「教育の基礎的理解に関する科目」を次表のとおり開設しているので，「２　法令で規定された基礎資格及び所要単位数」に示されている単位数に係わらず，必修の指定のある科目は必ず修得してください。

教育の基礎的理解に関する科目

各項目に含めることが必要な事項	授　業　科　目	単位数	中一種免	高一種免	備　　考
			必　　修	必　　修	
教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論	2	2	2	
教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教師論	2	2	2	
教育に関する社会的，制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育の制度と経営	2	2	2	
幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	学習・言語心理学	2	2	2	
	発達心理学	2	2	2	
特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解	特別支援教育概論	2	2	2	
教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論	2	2	2	

４－４　「道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目」

本学部では，「道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目」を次表のとおり開設しているので，「２　法令で規定された基礎資格及び所要単位数」に示されている単位数に係わらず，必修の指定のある科目は必ず修得してください。

道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目

各項目に含めることが必要な事項	授　業　科　目	単位数	中一種免	高一種免	備　　考
			必　　修	必　　修	
道徳の理論及び指導法	道徳教育	2	2		
総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法	1	1	1	
特別活動の指導法	特別活動論	2	2	2	
教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法学	2	2	2	
生徒指導の理論及び方法	生徒指導論（進路指導を含む）	2	2	2	
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2	2	2	

４－５　「教育実践に関する科目」

本学部では，「教育実践に関する科目」を次表のとおり開設しているので，「２　法令で規定された基礎資格及び所要単位数」に示されている単位数以上を修得してください。

教育実践に関する科目

各項目に含めることが必要な事項	授　業　科　目	単位数	中一種免	高一種免	備　　考
			必　　修	必　　修	
教育実習	教育実習事前事後指導	1	1	1	
	教育実習（中学）	4	4		3週間
	教育実習（高校）	2		2	2週間
教職実践演習	教職実践演習（中・高）	2	2	2	

4－6　「大学が独自に設定する科目」

本学部では，「大学が独自に設定する科目」を次表のとおり開設しています。

また，本科目の単位数には，「2　法令で規定された基礎資格及び所要単位数」及び3－2「教科及び教科の指導法に関する科目」で指定された単位数を超えて修得した単位数も単位数に算入されます。したがって，本科目の単位数は次表及び4－2－1「教科に関する専門的事項」，4－2－2「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。)」，4－3「教育の基礎的理解に関する科目」，4－4「道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目」から修得し，「2　法令で規定された基礎資格及び所要単位数」に示されている単位数以上を修得してください。

大学が独自に設定する科目

科目の区分	授業科目	単位数	中一種免	高一種免	摘　　要
			必修	必修	
大学が独自に設定する科目	介護等体験	1	1		社会福祉施設等で5日間 鳴門教育大学附属特別支援学校で2日間

本学部では「介護等体験」を中学校一種免許状の必修科目として開設しています。中学校一種免許状を取得する場合は，可能な限り2年次に履修してください。「介護等体験」を受講するには，受講の前年度に実施される「教員免許状取得希望者に対する説明会」及び「介護等体験」受講説明会に出席し，「希望調査票」を提出することが必要です。

また，「介護等体験」の実習までに開催される説明会・事前指導の全てに出席してください。全てに出席しなければ「介護等体験」を受講できません。

5　履修上の注意

5－1　受講要件と履修方法

「教育実習」および「教職実践演習」を受講するためには，受講の前年度末において，以下の要件を満たしていなければなりません。

1）4年次に進級できる者。

2）下記の単位数を修得していること。

科目名	受　講　要　件	
	「教科に関する専門的事項」	「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 「教育の基礎的理解に関する科目」 「道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目」
教育実習（中学）	24 単位以上	16 単位以上 （教師論２単位，教育課程論２単位，生徒指導論（進路指導を含む）２単位，教育相談２単位，教科教育法８単位を含む）
教育実習（高校）	24 単位以上	12 単位以上 （教師論２単位，教育課程論２単位，生徒指導論（進路指導を含む）２単位，教育相談２単位，教科教育法４単位を含む）
教職実践演習（中・高）	教育実習に必要な単位	

※教科教育法の修得単位数は原則とする。

①　「教育実習」を受講するには，次のことを行ってください。

〇受講の前々年度に「教育実習」希望調査票を提出する。

〇受講の前年度に実施される「教育実習」受講説明会に出席する。

〇受講年度の「教育実習事前事後指導」（集中講義）を受講し，「教育実習」の事前指導を受ける。

以上のことが全てできていなければ「教育実習」を受講できません。

なお，中学校教諭一種免許状と高等学校教諭一種免許状を同時に取得する場合，「教育実習」は中学または高校のいずれかで３週間の実習を行うことになります。その場合，履修登録は「教育実習（中学）」としてください。ただし，３週間実習を行っても「教育実習（高校）」の単位は２単位です。

②　「教職実践演習」を受講するには，次のことを行ってください。

〇１年次後期に実施される「教員免許状取得希望者に対する説明会」に出席し，「教職キャリアノート」の意義，書き方等の指導を受ける。

〇受講の前年度までに開催されるすべての「教職キャリアノート」講習会に出席する。

〇「教職キャリアノート」に授業担当教員の確認印が押されている。

〇受講年度又は受講年度までに「教育実習」を受講している。

以上のことが全てできていなければ「教職実践演習」を受講できません。

なお，２年次以降から教員免許状の取得をめざす学生は，毎年後期に開催される「教員免許状取得希望者に対する説明会」に出席し，授業担当教員の指示に従ってください。

５－２　その他

①　他大学等で修得した「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」に関する科目，「教育の基礎的理解に関する科目」，「道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目」，「教育実践に関する科目」及び「大学が独自に設定する科目」の単位は，その単位を修得した他大学等で取得できる免許状の必要最低単位数を上限として，本学部における当該科目を履修し修

得した単位として認められます。

② 他大学（鳴門教育大学など）で修得した単位を加えて免許状を取得しようとする場合には，前もって学務係に相談するようにしてください。なお，他大学（鳴門教育大学など）で修得した①に記載する科目の中には，本学での免許状の取得に必要な単位とはできない科目もあります。

③ 「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」に関する科目，「教育の基礎的理解に関する科目」，「道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目」，「教育実践に関する科目」及び「大学が独自に設定する科目」のうち，「教育の基礎的理解に関する科目」の「学習・言語心理学」，「発達心理学」及び「道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目」の「教育相談」は，進級および卒業に必要な単位に認められます。

別表

教科に関する専門的事項

免許教科　中一種免・高一種免「国語」

各項目に含めることが必要な事項	授業科目	中一種免 必修単位数		高一種免 必修単位数	
		必修	選択	必修	選択
国語学（音声表現及び文章表現に関するものを含む。）	総合科学の基礎Ａ（日本語表現の基礎）	2		2	
	日本言語概説	2		2	
	応用日本語学概説	2		2	
	日本言語研究	2		2	
	応用日本語学研究	2		2	
	日本言語演習Ⅰ（社会言語学）		4		4
	方言と社会		2		2
	グローバル化教育科目：世界の中の日本語〔教養教育科目〕		2		2
国文学（国文学史を含む。）	日本表象文化論Ⅰ（日本古典文学）	2		2	
	日本表象文化論Ⅱ（日本近現代文学）	2		2	
	日本文化研究Ⅰ（日本古典文学）	2		2	
	日本文化研究Ⅱ（日本近現代文学）	2		2	
	日本文化研究演習Ⅰ（日本古典文学）		4		4
	日本文化研究演習Ⅰ（日本近現代文学）		4		4
漢文学	東アジア文化研究（漢文学）	2		2	
	東アジア社会文化研究Ⅰ		2		2
	東アジア社会文化研究Ⅱ		2		2
書道（書写を中心とする。）（中一種免「国語」取得に関してのみ，「教科に関する科目」の単位として認められる。）	書道	2			

免許教科　中一種免「社会」

各項目に含める ことが必要な事項	授　業　科　目	中一種免 必修単位数 必修	選択
日本史・外国史	近現代世界の成立と展開	2	
	日本史基礎研究Ⅰ		2
	日本史基礎研究Ⅱ		2
	日本史研究Ⅰ	2	
	日本史研究Ⅱ		2
	考古学概説	2	
	現代アジア社会Ⅰ		2
	現代アジア社会Ⅱ	2	
	グローバル・ヒストリー（イギリス近代史）	2	
	ヨーロッパ史研究		2
	北米地域研究		2
	グローバル交渉史	2	
	歴史と文化：日本の古代史〔教養教育科目〕		2
	歴史と文化：古代・中世日本の社会〔教養教育科目〕		2
地理学（地誌を含む。）	地理学の基礎Ⅰ（人文地理学）	2 選択必修	2
	地域構造論（人文地理学）		2
	地理学の基礎Ⅱ（地誌学）	2 選択必修	2
	地域変容論（地誌学）		2
	空間情報論Ⅰ		2
	空間情報論Ⅱ		2
	地域環境論（自然地理学）	2	
	歴史と文化：世界遺産が語る地理と歴史〔教養教育科目〕		2
	生活と社会：地理空間情報と人間社会〔教養教育科目〕		2
	生活と社会：地球環境問題〔教養教育科目〕		2
「法律学，政治学」	憲法Ⅰ	2	
	憲法Ⅱ	2	
	国際関係論（国際法を含む）	2	
	民法Ⅰ		2
	民法Ⅱ		2
	民法Ⅲ		2
	行政法Ⅰ		2
	行政法Ⅱ		2
	平和学		2
	総合科学の基礎Ｆ（公共政策学の基礎）		2
	公共政策学		2
	商法Ⅰ		2
「社会学，経済学」	総合科学の基礎Ｇ（経済学の基礎）	2	
	マクロ経済学入門	2	
	総合科学の基礎Ｈ（社会学の基礎）	2	
	国際経済学Ⅰ	2	
	国際経済学Ⅱ		2
	社会変動論		2

	福祉社会論		2
	まちづくり地域社会論		2
	マクロ経済学Ⅰ		2
	マクロ経済学Ⅱ		2
	財政学Ⅰ		2
	財政学Ⅱ		2
	ミクロ経済学Ⅰ		2
	ミクロ経済学Ⅱ		2
「哲学，倫理学，宗教学」	総合科学の基礎Ｃ（哲学・思想の基礎）	2	
	現代科学論研究		2
	環境倫理学		2

免許教科　高一種免「地理歴史」

各項目に含めることが必要な事項	授業科目	高一種免 必修単位数	
		必修	選択
日本史	日本史基礎研究Ⅰ		2
	日本史基礎研究Ⅱ		2
	日本史研究Ⅰ	2	
	日本史研究Ⅱ		2
	考古学概説	2	
	歴史と文化：日本の古代史		2
	歴史と文化：古代・中世日本の社会		2
外国史	近現代世界の成立と展開	2	
	グローバル交渉史	2	
	現代アジア社会Ⅰ		2
	現代アジア社会Ⅱ	2	
	北米地域研究		2
	グローバル・ヒストリー（イギリス近代史）	2	
	ヨーロッパ史研究		2
人文地理学・自然地理学	地理学の基礎Ⅰ（人文地理学）	2 選択必修	2
	地域構造論（人文地理学）		2
	空間情報論Ⅰ		2
	空間情報論Ⅱ		2
	地域環境論（自然地理学）	2	
	歴史と文化：世界遺産が語る地理と歴史		2
	生活と社会：地理空間情報と人間社会		2
	生活と社会：地球環境問題		2
地誌	地理学の基礎Ⅱ（地誌学）	2 選択必修	2
	地域変容論（地誌学）		2

免許教科　高一種免「公民」

各項目に含めることが必要な事項	授業科目	高一種免 必修単位数	
		必修	選択
「法律学（国際法を含む。），政治学（国際政治を含む。）」	憲法Ⅰ	2	
	憲法Ⅱ	2	
	国際関係論（国際法を含む）	2	
	民法Ⅰ		2
	民法Ⅱ		2
	民法Ⅲ		2
	行政法Ⅰ		2
	行政法Ⅱ		2
	平和学		2
	総合科学の基礎Ｆ（公共政策学の基礎）		2
	公共政策学		2
	商法Ⅰ		2
「社会学，経済学（国際経済を含む。）」	総合科学の基礎Ｇ（経済学の基礎）	2	
	マクロ経済学入門	2	
	総合科学の基礎Ｈ（社会学の基礎）	2	
	国際経済学Ⅰ	2	
	国際経済学Ⅱ	2	
	社会変動論		2
	福祉社会論		2
	まちづくり地域社会論		2
	マクロ経済学Ⅰ		2
	マクロ経済学Ⅱ		2
	ミクロ経済学Ⅰ		2
	ミクロ経済学Ⅱ		2
	財政学Ⅰ		2
	財政学Ⅱ		2
「哲学，倫理学，宗教学，心理学」	総合科学の基礎Ｃ（哲学・思想の基礎）	2	
	現代科学論研究		2
	環境倫理学		2
	総合科学の基礎Ｅ（心理学の基礎）	2	

免許教科　中一種免・高一種免「美術」

各項目に含めることが必要な事項	授業科目	中一種免 必修単位数		高一種免 必修単位数	
		必修	選択	必修	選択
絵画（映像メディア表現を含む。）	環境アート	2		2	
	芸術創生基礎演習	2		2	
	絵画表現演習Ⅰ（水性木版画）		2		2
	絵画表現演習Ⅰ（油性木版画）		2		2
	メディア情報論	2		2	
	メディア表現	2		2	
	メディア表現演習Ⅰ（メディアアート）		2		2
	メディア表現演習Ⅰ（インスタレーション）		2		2
	アート表現基礎	2		2	
	現代絵画論		2		2
	イノベーション教育科目：絵画表現と技法の基礎〔教養教育科目〕		2		2
	イノベーション教育科目：絵画表現と技法の応用〔教養教育科目〕		2		2
彫刻	彫刻研究	2		2	
デザイン（映像メディア表現を含む。）	映像デザイン	2		2	
	デザイン表現演習Ⅰ（映像とデザイン）		2		2
	デザイン表現演習Ⅰ（視覚伝達デザイン）		2		2
	写真画像保存技術概論		2		2
	スタディスキル：ビジュアルコミュニケーション〔教養教育科目〕		2		2
	イノベーション教育科目：アーツ・アンド・テクノロジー〔教養教育科目〕		2		2
工芸（中一種免「美術」取得に関してのみ，「教科に関する科目」の単位として認められる。）	工芸表現と技法	2			
美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）	美術概論	2		2	
	芸術文化論	2		2	

免許教科　中一種免・高一種免「保健体育」

各項目に含めることが必要な事項	授業科目	中一種免 必修単位数 必修	中一種免 必修単位数 選択	高一種免 必修単位数 必修	高一種免 必修単位数 選択
体育実技	コーチング論実習Ⅰ（器械運動）	1		1	
	コーチング論実習Ⅱ（ダンス）	1		1	
	コーチング論実習Ⅲ（陸上競技）	1		1	
	コーチング論実習Ⅵ（水泳）	1		1	
	コーチング論実習Ⅷ（体つくり運動）	1		1	
	コーチング論実習Ⅳ（バスケットボール）	1		2 選択必修	1
	コーチング論実習Ⅴ（ソフトボール）	1			1
	コーチング論実習Ⅶ（バレーボール）	1			1
	ウェルネス・プロジェクト実習（武道実習を含む）	2		2	
「体育原理，体育心理学，体育経営管理学，体育社会学，体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	健康体力科学の展開（運動学（運動方法学を含む））	2		2	
	コーチング論（体育原理を含む）	2		2	
	地域スポーツ文化論（体育史を含む）	2		2	
	スポーツ心理学	2		2	
	スポーツ社会学	2		2	
	スポーツ経営学	2		2	
	心身健康総合演習Ⅰ（スポーツ社会学）		4		4
	心身健康総合演習Ⅰ（健康体力学）		4		4
	心身健康総合演習Ⅰ（スポーツ心理学）		4		4
生理学（運動生理学を含む。）	運動生理学	2		2	
	応用解剖生理学		2		2
	スポーツ栄養学（生理学を含む）	2		2	
	スポーツ科学実験実習（運動生理学を含む）	2		2	
	応用生理学		2		2
	心身健康総合演習Ⅰ（応用生理学）		4		4
衛生学・公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	2		2	
	健康科学の基礎		2		2
学校保健（小児保健，精神保健，学校安全及び救急処置を含む。）	健康教育学（小児保健・学校安全を含む）	2		2	
	心身健康総合演習Ⅰ（健康教育学）		4		4
	精神疾患とその治療	2		2	
	学校保健論	2		2	
	救急処置法	2		2	
	健康行動論（学校安全を含む）	2		2	

免許教科　中一種免・高一種免「英語」

各項目に含めることが必要な事項	授業科目	中一種免 必修単位数		高一種免 必修単位数	
		必修	選択	必修	選択
英語学	英語研究Ⅰ (Studies in English-Linguistic Approaches)	2		2	
	英語研究Ⅱ (Studies in English-Phonetics)		2		2
	英語研究Ⅲ (Studies in English-Semantics and Pragmatics)		2		2
	国際語としての英語 (English as an International Language)	2		2	
	言語コミュニケーション演習Ⅰ (Seminar in Language and Communication Ⅰ)		4		4
	Extensive Reading (英語文法・語彙構築プログラム)		2		2
英語文学	英語圏文学研究	2		2	
	言語メディア研究演習Ⅰ (Seminar in Language and Media Ⅰ)		4		4
英語コミュニケーション	Academic Communications Ⅰ (英語文章表現)	4		4	
	Academic Communications Ⅱ (英語スピーチ＆ネゴシエーション)	4		4	
	Advanced Academic Communications Ⅰ (ライティング＆ディスカッション)	4		4	
	Advanced Academic Communications Ⅱ (論文作成＆ディベート)		2		2
	Academic English Ⅰ (日本文化・時事発信型英語)		2		2
	Academic English Ⅱ (４技能アカデミック英語入門)		2		2
異文化理解	異文化間コミュニケーション (Cross-Cultural Communication)	2		2	
	カルチュラルスタディーズ		2		2
	国際ジャーナリズム (International Journalism)		2		2

2．学芸員の資格取得

1　学芸員の資格

学芸員の資格は，博物館法第五条第一項の規定により，次のように定められています。

学士の資格を有する者で，大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの。

2　文部科学省令で定められた博物館に関する科目

文部科学省令で定められた博物館に関する科目は以下のとおりです。

（開講学期は変更されることがありますので，受講前に時間割で必ず確認すること）

科　　目　　名	単　位　数	開講学年・学期
生涯学習概論	２単位	１年・後期集中
博物館概論	２単位	１年・前期集中
博物館経営論	２単位	２年・前期
博物館資料論	２単位	１年・後期集中
博物館資料保存論*	２単位	２年・前期集中
博物館展示論*	２単位	２年・後期集中
博物館教育論*	２単位	２年・後期集中
博物館情報メディア論	２単位	１年・前期集中
博物館実習	３単位	３年・前期集中
計	19 単位	

本学部では，すべて上記の科目名のままで開講します。また＊の付いた３科目は，徳島県文化の森総合公園内の県立博物館・県立美術館・県立文書館との連携によって，鳴門教育大学・四国大学の学生と合同で受講する科目です。会場も文化の森で受講することとなります。

3　受講に際しての注意事項

⑴　２で示された博物館に関する科目のすべては，学芸員の資格を取得するための必須科目ですが，卒業に必要な単位には算入されません。

⑵　博物館教育論，博物館展示論，博物館資料保存論及び博物館実習は，学外の施設において受講する科目であることを踏まえ，受講要件として，以下の①及び②の両方を満たす者とします。

①　本学部に在学もしくは本学部を卒業した者，及び学部長が特に認めた者

②　各科目を受講するまでに以下に示す要件を満たした者

科　目　名	受講までに修得すべき科目と単位数
博物館教育論	「博物館概論」　２単位
博物館展示論	「博物館概論」・「博物館情報・メディア論」　計４単位
博物館資料保存論	「博物館概論」「博物館資料論」　計４単位
博物館実習	「博物館概論」及び「博物館資料論」を含めて 12 単位以上

4　そ　の　他

⑴　学芸員の資格取得のための説明は，集中講義として開催される「博物館概論」の講義冒頭に実施します。２年生から資格取得を希望する学生は，学務係に申し出て学芸員推進班の指導を受けて下さい。

⑵　科目の受講など，重要な連絡は，学務係前の掲示板の掲示を通して行います。必ず掲示を確認してください。

⑶　学芸員の資格取得のために，単位互換協定校の単位を修得し単位の認定を希望する場合は，事前に学務係に照会してください。

3．公認心理師の資格取得

1　公認心理師とは

公認心理師とは，公認心理師登録簿への登録を受け，公認心理師の名称を用いて，保健医療，福祉，教育その他の分野において，心理学に関する専門的知識及び技術をもって，次に掲げる行為を行うことを業とする者をいいます。

⑴　心理に関する支援を要する者の心理状態の観察，その結果の分析

⑵　心理に関する支援を要する者に対する，その心理に関する相談及び助言，指導その他の援助

⑶　心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言，指導その他の援助

⑷　心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供

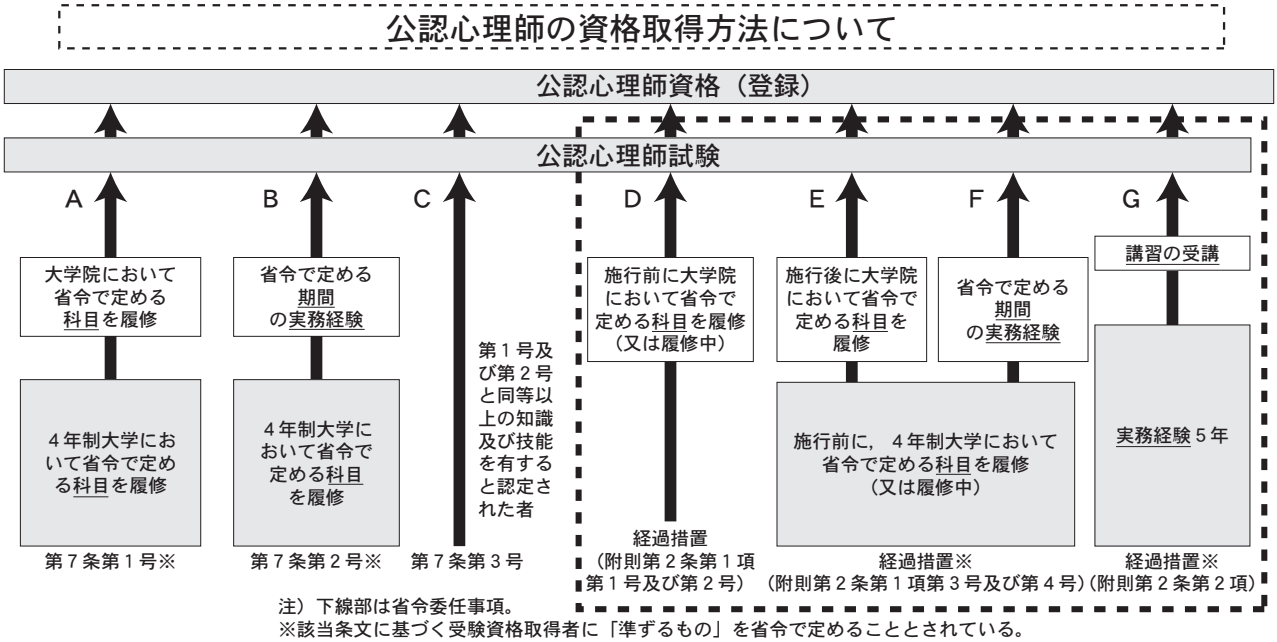
2　公認心理師の受験資格

公認心理師の受験資格は，公認心理師法第７条により，次のように定められています。

⑴　大学において心理学その他の公認心理師となるために必要な科目として施行規則で定めるもの（以下「必要な科目」という。）を修めて卒業し，かつ，大学院において必要な科目を修めてその課程を修了した者等

⑵　大学において必要な科目を修めて卒業した者等であって，卒業後一定期間の実務経験（施行規則で定める施設において施行規則で定める期間以上）を積んだ者等

⑶　文部科学大臣及び厚生労働大臣が⑴及び⑵に掲げる者と同等以上の知識及び技能を有すると認めた者



※ 2019 年度情報。最新情報については各自確認してください。

3　公認心理師施行規則で定められた公認心理師に関する科目（学部）

公認心理師施行規則で定められた公認心理師に関する科目（学部）は以下のとおりです。すべての単位を修得してください。

施行規則で定められた科目名	授業科目	単位数
公認心理師の職責	公認心理師の職責　＊	2
心理学概論	心理学概論	2
臨床心理学概論	臨床心理学概論	2
心理学研究法	心身行動研究法（心理学研究法）	2
心理学統計法	行動統計学（心理学統計法）	2
心理学実験	心理学実験Ａ 心理学実験Ｂ	2 2
知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	2
学習・言語心理学	学習・言語心理学	2
感情・人格心理学	感情・人格心理学	2
神経・生理心理学	神経・生理心理学	2
社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	2
発達心理学	発達心理学	2
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	2
心理的アセスメント	心理的アセスメント	2
心理学的支援法	心理学的支援法	2
健康・医療心理学	健康・医療心理学	2
福祉心理学	福祉心理学	2
教育・学校心理学	教育・学校心理学	2
司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	2
産業・組織心理学	産業・組織心理学	2
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	2
関係行政論	関係行政論　＊	2
心理演習	心理演習　＊	2
心理実習	心理実習　＊	2

上記の科目のうち，＊印の科目は進級要件，卒業要件及び成績評価（GP・GPA）に算定されません。

4　履修上の注意

⑴　３で示された公認心理師に関する科目は，公認心理師の受験資格を取得するための必須科目ですが，一部卒業に必要な単位数には算入されません。なお，心理学実験Ｂは，公認心理師の受験資格取得のためには必須ではありませんが，履修することが望ましい科目です。

⑵　心理実習は，保健医療，福祉，教育，司法・犯罪，産業・労働の５分野に関係する学外施設の見学を中心とした実習（80 時間以上）とします。

心理実習の受講条件は，原則，以下の授業科目すべての単位を修得できていることとします。

公認心理師の職責	２単位	心理学概論	２単位
臨床心理学概論	２単位	福祉心理学	２単位
教育・学校心理学	２単位	司法・犯罪心理学	２単位
産業・組織心理学	２単位	健康・医療心理学	２単位
心理演習	２単位		

※　「心理演習」と「心理実習」については，受講希望者が多数の場合，その他の公認心理師関連科目の成績に基づき受講者制限を実施します。

※　「心理実習」では，別途，実習費が必要となる場合があります。

5　その他

⑴　公認心理師に関する重要な連絡は，学務係前の掲示板の掲示もしくは教務システム（お知らせ，メッセージ）からの通知で行います。必ず，各自で確認してください。

⑵　公認心理師に関するガイダンス等には必ず出席してください。

4．認定心理士の資格取得

1　認定心理士とは

心理学の専門家として仕事をするために必要な，最小限の標準的基礎学力と技能を修得していることを（公社）日本心理学会が認定するものです。指定された科目の単位を修得することによって取得できます。

2　認定申請に必要な履修科目

認定申請に必要な科目領域と単位数ならびに本学における開講科目については，次ページの表の通りです（(　) 内の数字は単位数)。

3　認定心理士申請について

認定心理士の認定申請は，大学を卒業した後で資格取得希望者が個人で申し込むことを原則としています（卒業前に「仮認定」をうけることもできます)。大学を卒業し，その在学期間に取得した単位を認定単位として申請します。

面接試験や筆記試験はなく，一度取得すると更新等の手続きも必要ありません。

資格の申請の手引きおよび申請書類は，(公社) 日本心理学会のホームページよりダウンロードすることができます。

申請には指導教員等の署名・捺印，成績証明書，卒業証明書が必要になります。卒業前に準備しておくと良いでしょう。また，領域 a，b，c については，受講年度のシラバスの提出が必要になります。

「認定心理士」単位認定基準

<table>
<tr><td rowspan="3">基礎科目</td><td>領域ａ
心理学概論</td><td>基本主題</td><td>心理学概説(2)，心理学初歩(2)
＜以上，教養教育科目＞
心理学概論(2)
＜以上，総合科学部開講科目＞</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td>領域ｂ
心理学研究法</td><td>基本主題</td><td>行動統計学（心理学統計法）（２：2017 年度以前入学者は「行動統計学」），
心身行動研究法（心理学研究法）（２：2017 年度以前入学者は「心身行動研究法」，2015 年度以前入学者は「人間行動研究法」）</td><td rowspan="2">８単位以上
※最低４単位分は領域ｃの単位</td></tr>
<tr><td>領域ｃ
心理学実験実習</td><td>基本主題</td><td>心理学実験Ａ(2)，心理学実験Ｂ(2)
2019 年度以前入学者は以下の４科目を履修すること
心理学実験実習Ⅰ(1)，心理学実験実習Ⅱ(1)，
心理学実験実習Ⅲ(1)，心理学実験実習Ⅳ(1)</td></tr>
<tr><td rowspan="7">選択科目</td><td>領域ｄ
知覚心理学
学習心理学</td><td>基本主題</td><td>知覚・認知心理学(2)，学習・言語心理学(2)</td><td rowspan="7">16 単位以上
５領域のうち３領域以上で，それぞれが少なくとも４単位以上
※必ず基本主題を含むこと</td></tr>
<tr><td>領域ｅ
生理心理学
比較心理学</td><td>基本主題</td><td>神経・生理心理学(2)</td></tr>
<tr><td>領域ｆ
教育心理学
発達心理学</td><td>基本主題</td><td>発達心理学（２：2018 年度以前入学者は「生涯発達心理学」，2015 年度以前入学者は「心理学の基礎Ⅰ」）
教育・学校心理学（２：2018 年度以前入学者は「教育心理学」）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">領域ｇ
臨床心理学
人格心理学</td><td>基本主題</td><td>臨床心理学概論（２：2017 年度以前入学者は「臨床心理学」，2015 年度以前入学者は「心理学の基礎Ⅱ」），
感情・人格心理学(2)，健康・医療心理学(2)，福祉心理学(2)，教育相談(2)，心理学的支援法(2)</td></tr>
<tr><td>副次主題</td><td>精神疾患とその治療(2)</td></tr>
<tr><td>領域ｈ
社会心理学
産業心理学</td><td>基本主題</td><td>社会・集団・家族心理学(2)，司法・犯罪心理学(2)，
産業・組織心理学(2)</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>領域ｉ
心理学関連科目
卒業論文
卒業研究</td><td></td><td>スポーツ心理学(2)，卒業研究（４：心理学に関するもの）</td><td>卒論は最大４単位</td></tr>
<tr><td colspan="5">基礎科目，選択科目，その他の科目で総計 36 単位以上が必要</td></tr>
</table>

5．健康運動指導士の資格取得

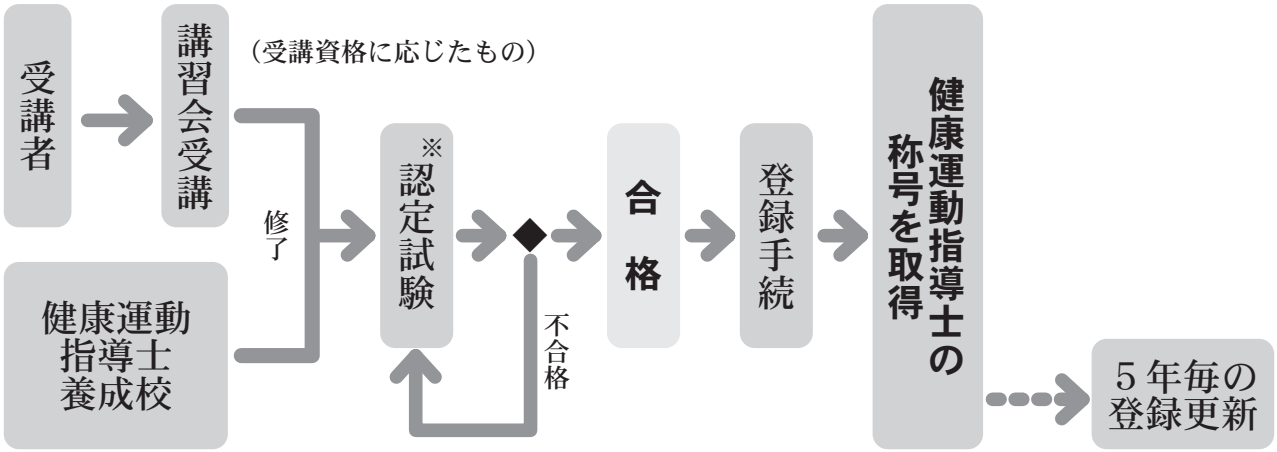
1　「健康運動指導士」について

健康運動指導士は，スポーツクラブや保健所・保健センター，病院・介護施設などにおいて，人々の健康を維持・改善するために，安全かつ適切な運動プログラムを提案・指導する専門家です。厚生労働省所管の⑲健康・体力づくり事業財団が養成・資格の認定・登録事業を行っています。

健康運動指導士は，特に運動を重視した国の施策として展開された第２次国民健康づくり対策（アクティブ80ヘルスプラン）から誕生した資格です。現在，「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21)」が積極的に展開されていますが，メタボリックシンドロームの予防，生活習慣病ハイリスク者への運動指導，少子高齢社会を踏まえた介護予防のための運動指導に関する専門的知識及び技術を有する者として動機づけ，支援，または積極的支援対象者に対して生活習慣の改善のための取り組みに資する働きかけを担う人材として期待されています。

2　「健康運動指導士」養成校＝指定された授業単位を修得することで認定試験が受験できる

健康運動指導士の称号は，次の図のように，健康運動指導士養成講習会を受講するか，または，健康運動指導士養成校の養成講座を修了して，健康運動指導士認定試験に合格した上で，健康運動指導士台帳に登録されなければなりません。



※養成校卒業後４年以内
詳しくは⑲健康・体力づくり事業財団　http://www.health-net.or.jp/shikaku/index.html　を参照

本学部では，社会総合学科心身健康コースに健康運動指導士養成校としての養成プログラムを開設しており，そこで指定された科目の単位修得により認定試験を受験することができます。

3　「健康運動指導士養成プログラム」として指定されている科目

健康運動指導士養成プログラムとして指定されている科目は，年次ごとに開講されており，中には隔年開講のものもあるので，１年から３年までの履修計画を立てて，必要とされる単位を全て修得することが，認定試験の受験資格となります。

	前　　期		後　　期	
2　年	健康科学の基礎	2	健康教育学	2
	運動生理学	2	スポーツ心理学	2
	応用解剖生理学	2		
	コーチング論	2		
	コーチング論実習Ⅰ＊	1	コーチング論実習Ⅱ＊	1
	コーチング論実習Ⅷ＊	1	コーチング論実習Ⅲ＊	1
3　年	健康行動論（集中）	2	スポーツ栄養学（集中）	2
	救急処置法	2	コーチング論実習Ⅱ＊	1
	スポーツ科学実験実習	2	コーチング論実習Ⅲ＊	1
	コーチング論実習Ⅰ＊	1		
	コーチング論実習Ⅷ＊	1		
	ウェルネス・プロジェクト実習　　2			
合計　26　単位				

・コーチング論実習＊は隔年開講科目であるため，2・3年が合同で履修します。

・通年の「ウェルネス・プロジェクト実習」の履修学生のうち「健康運動指導士養成クラス」の学生は，実習先をフィットネスクラブ「ハッピー徳島」と定め，健康増進施設実習・水泳水中運動指導実習として実施します。

・養成校の認定（更新）審査中につき，指定科目の一部が変更になる場合があります。

4　「健康運動指導士養成クラス」による資格取得サポート

心身健康コースに配属された2年次から「健康運動指導士養成クラス」を編成し，クラス担当の指導，教員を置き，履修指導や資格情報，模試などの資格取得のためのサポートを月1回程度で実施します。先輩からのアドバイスや，授業の復習，相互自習など，学生主体となったゼミ形式で，4年の9月，あるいは3月に認定試験を受けるまでの学習を支援します。4年間の在学中に養成プログラム科目にかかるすべての単位を修得したものは，卒業後の受験も認められます（卒業後4年以内）。再受験は可能ですが，できるだけ4年生の2回の試験で合格できるように努力してください。

6．公認スポーツ指導者養成講習会「免除適応コース」（共通科目Ⅰ）

1　日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会「免除適応コース」（共通科目Ⅰ）について

本学部では，日本スポーツ協会のスポーツ指導者養成講習会「免除適応コース」承認校となっています。適応コースとは日本スポーツ協会で実施しているスポーツ指導者養成講習会と同じカリキュラムを本学部で履修することができ，講習が免除されるシステムです。

本学部で免除適応されるのは（共通科目Ⅰ）であり，単位の修得後，オンラインテストに合格すると，「免除適応コース修了」が認定されます。

以下の日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格を取得する場合，共通科目が免除されます（専門科目の受講は必要です）。

コーチ１（競技種目別）
クラブマネジャー
アシスタントマネジャー
ジュニアスポーツ指導員

2　公認スポーツ指導者養成講習会「免除適応コース」（共通科目Ⅰ）として指定されている科目

心身健康コースで開講している下記の科目を履修し，単位を取得する必要があります。

（２年生）

健康体力科学の展開	スポーツ経営学（隔年開講）	スポーツ社会学
コーチング論	スポーツ心理学	健康教育学

（３年生）

スポーツ栄養学（隔年開講）　救急処置法

3　手続等について

⑴　説明会（１年次 12 月開催予定）
⑵　日本スポーツ協会マイページへの登録（無料）
⑶　テキスト（リファレンスブック）購入（4,400 円）
⑷　修了申請
⑸　検定試験（オンラインテスト）

7．アシスタントマネジャーの資格取得

1　日本スポーツ協会公認『アシスタントマネジャー』について

本学部では，日本スポーツ協会が認定するスポーツマネジメント資格「アシスタントマネジャー」の講習会免除適応コースの承認を受けています。

スポーツマネジメント資格には，「クラブマネジャー」と「アシスタントマネジャー」があります。「クラブマネジャー」とは，地域スポーツクラブなどにおいて，クラブ会員が継続的に快適なクラブライフを送ることができるよう，健全なクラブ経営を行うためのマネジメント能力を身につけるための資格です。「アシスタントマネジャー」は，その組織経営のための諸活動をサポートするために必要なスポーツクラブのマネジメントに関する基礎的知識を有し，協働できる能力を身につけるための資格です。本学部において，定められた科目を履修することで，「アシスタントマネジャー」資格取得のための養成講習会の受講を免除されており，４年次および卒業以降の検定試験の受験によって資格取得が可能になります。

2　「アシスタントマネジャー養成コース」として指定されている科目

「アシスタントマネジャー」を取得するためには，心身健康コースで開講している下記の科目を卒業年度までに履修し，単位を修得する必要があります。

それによって，日本スポーツ協会公認「アシスタントマネジャー」の 35 時間の養成講習会の受講を免除され，受験資格を得ることができます。

（２年生）

健康体力科学の展開	スポーツ経営学（隔年開講）	スポーツ社会学
コーチング論	スポーツ心理学	健康教育学

（３年生）

救急処置法	スポーツマーケティング論（隔年開講）
スポーツ栄養学	

3　資格取得に必要な費用

□アシスタントマネジャーテキスト	2,100 円（購入することが望ましい）
□修了証明書	3,300 円
□検定料	11,000 円

4　その他

10 月頃に検定試験の案内，１月頃に修了証明書の手続きについて掲示します。

8．ジュニアスポーツ指導員の資格取得

1　日本スポーツ協会公認『ジュニアスポーツ指導員』について

本学部では，日本スポーツ協会が認定するフィットネス系資格「ジュニアスポーツ指導員」の，講習会免除適応コースの承認を受けています。

「ジュニアスポーツ指導員」とは，発育発達期の身体的･心理的特徴についての専門的な知識と技能を持ち，2歳から15歳の子ども達を対象に，総合的な体づくりと基礎的動作の習得を目的としたプログラムを提供できる指導者の資格です。本学部において，定められた科目を履修することで，「ジュニアスポーツ指導員」資格取得のための養成講習会の受講を免除されており，4年次および卒業以降の検定試験の受験によって資格取得が可能になります。

2　「ジュニアスポーツ指導員養成コース」として指定されている科目

「ジュニアスポーツ指導員」を取得するためには，心身健康コースで開講している下記の科目を卒業年度までに履修し，単位を取得する必要があります。それによって，日本スポーツ協会公認「ジュニアスポーツ指導員」の23時間の養成講習会の受講を免除され，受験資格を得ることができます。

（2年生）

健康体力科学の展開　　スポーツ経営学（隔年開講）　　スポーツ社会学
コーチング論　　スポーツ心理学　　健康教育学
コーチング論実習Ⅰ（隔年開講）

（3，4年生）

スポーツ栄養学（隔年開講）　　救急処置法
ウェルネス・プロジェクト実習　または　教育実習（中学保健体育）

3　資格取得に必要な費用

□ジュニアスポーツ指導員テキスト	2,530円（購入することが望ましい）
□修了証明書	3,300円
□検定料	11,000円

4　その他

10月頃に検定試験の案内，1月頃に修了証明書の手続きについて掲示します。

9．社会調査士の資格取得

社会調査士資格制度について

社会調査士は，一般社団法人　社会調査協会により認定される制度です。

社会調査士資格制度の目的

情報化社会としての現代社会は，おびただしい数の社会調査の行われる社会である。変動の激しい，多極化・複雑化の進む社会的現実をとらえ，生起するさまざまな社会問題への対応と解決を図っていくうえで，社会調査は不可欠の方法である。

こうした社会調査の高まる重要性に比して，その担い手となる専門的人材の育成システムの現状はきわめて未整備の状態にあるといってよい。その結果として，現在実施されている社会調査の一部については，しばしば方法上・倫理上の問題点が指摘されており，社会調査の質的な改善や水準向上を求める声には大きなものがある。

こうした声に応え，事態の改善をはかるためには，なによりも社会調査に関する教育体制を整備し，調査を担当する人材の育成を制度化すると同時に，その専門的職業としての資格の制度化をはかることが必要とされる。このたび日本教育社会学会，日本行動計量学会，日本社会学会の３学会が，相互の連携協力のもとに，「社会調査士」資格の制度化をはかり，「社会調査士資格認定機構」の設立を構想したのは，そうした社会制度に応えることをねらいとするものである。（社会調査士資格認定機構設立趣旨書より）

（平成 20 年 12 月 25 日より，「社会調査士資格認定機構」は，体制を整備し，名称を新たに「一般社団法人　社会調査協会」として新しいスタートを切りました。）

社会調査士資格取得のための標準カリキュラム

社会調査士取得のためには，以下のＡ～Ｇに対応する授業科目単位を修得する必要があります。

Ａ：社会調査の基本的事項に関する科目
Ｂ：調査設計と実施方法に関する科目
Ｃ：基本的な資料とデータの分析に関する科目
Ｄ：社会調査に必要な統計学に関する科目
Ｅ：量的データ解析の方法に関する科目
Ｆ：質的な分析の方法に関する科目
Ｇ：社会調査の実習を中心とする科目
＊　ＥとＦはどちらかひとつを選択してください。

Ａ～Ｇがどの授業科目に対応するかは毎年協会に申請するため，多少変動がありますので，申請の際には必ず，一般社団法人　社会調査協会のホームページ（http://jasr.or.jp/）を参照してください。

本学部では，一般社団法人　社会調査協会の発行する社会調査士資格取得のための必要な科目（社会調査協会標準カリキュラムに準拠）を設置しております。

社会調査士資格には，卒業以前に取得できる「社会調査士（キャンディデイト)」資格と，卒業資格取得後に申請，あるいは，社会調査士（キャンディデイト）資格を変更して取得する正規の「社会調査士」資格があります。資格申請受付期間は毎年変更がありますので，必ず HP を確認してください。

資格取得希望者は，以下の要件に従って書類を準備，申請してください。

社会調査士（キャンディデイト）の場合，申請にあたっては，必ず自身が資格申請要件を有しているかどうか確認してください。

【資格申請要件】

① 在籍期間が２年以上であること

② 社会調査士科目を設置している大学（機関）で標準カリキュラムＡ～Ｇに対応した科目単位を申請時までに，３科目以上単位修得していること

③ ２の単位修得済み科目と今年度履修中の科目の合計が５科目以上であること
（ただしＥ／Ｆ科目は選択制のため１科目と数える）

【資格申請手順】

① 社会調査協会ホームページ（http://jasr.or.jp/）から様式をダウンロードし，必要事項を記入

② 必要書類を準備

１．単位取得を証明する書類

２．科目を履修中であることを証明する書類

③ 資格認定手数料を郵便局にて振込み，領収証コピーを様式裏面に貼付
振込用紙は調査協会から各大学へ送られている，所定の用紙を使用してください。

口座番号：00110 － 1 － 654739

加入者名：一般社団法人　社会調査協会

④ 上記の様式および必要書類を，連絡責任者に提出
（本校連絡責任者　矢部拓也）

注）本規定は，2017 年３月時点のものであり，今後，改訂される可能性があります。申請に際しては，各自，社会調査協会のホームページをよく読んでから申請にのぞんでください。

10. 社会福祉主事の資格取得

社会福祉主事について

社会福祉主事は，「社会福祉法第19条」に規定されている「任用資格」で，福祉事務所現業員として任用される者に要求される資格（任用資格）であり，社会福祉施設職員等の資格に準用されています。「任用資格」とは，社会福祉主事として採用されて始めて「社会福祉主事」と名乗れるということを意味します。任用資格を取得するためには，大学在学中に，下記に示す社会福祉主事任用資格指定科目の内，3科目以上を受講する必要があります。

社会福祉主事の職務は，下記に示す福祉施設等において，福祉各法に定められた援護・育成・公正の措置に関する事務を行うことです。社会福祉主事任用資格の必要な職種は以下のとおりです。

【行政】

1．福祉事務所

現業員，査察指導員，老人福祉指導主事，家庭児童福祉主事［児童福祉事業従事2年以上等］，家庭相談員［児童福祉事業従事2年以上等］，母子相談員

2．各種相談所

知的障害者福祉司［知的障害者福祉事業従事2年以上等］，身体障害者福祉司［身体障害者福祉事業従事2年以上等］，児童福祉司［児童福祉事業従事2年以上等］

【社会福祉施設】

施設長，生活指導員　等

※［　］内は，社会福祉主事任用資格に加えて必要な要件

社会福祉主事任用資格指定科目

【社会福祉法第19条1号に定められた指定科目一覧】

社会福祉概論，社会福祉事業史，社会福祉援助技術論，社会福祉調査論，社会福祉施設経営論，社会福祉行政論，社会保障論，公的扶助論，児童福祉論，家庭福祉論，保育理論，身体障害者福祉論，知的障害者福祉論，精神障害者保健福祉論，老人福祉論，医療社会事業論，地域福祉論，法学，民法，行政法，経済学，社会政策，経済政策，心理学，社会学，教育学，倫理学，公衆衛生学，医学一般，リハビリテーション論，看護学，介護概論，栄養学，家政学

本学部での履修と，社会福祉主事任用資格必要科目履修証明書の発行について

社会福祉主事として任用されるに際しては，卒業証明書と成績証明書によって履修を証明することができることとなっています。但し，採用に際して社会福祉主事任用資格必要科目履修証明書の提示を求められることがあります。その場合には，本学部では，次に示す科目の内の3科目を履修することにより，福祉主事任用資格必要科目履修証明書を発行することができます。

【社会福祉主事任用資格必要科目履修証明書発行のために受講が必要な科目】

本学開講科目（読替科目）	指　定　科　目
・民法Ⅰ及びⅡ	民法
・行政法Ⅰ及びⅡ	行政法
・教育学概論	教育学
・心理学概論	心理学
・福祉社会論	地域福祉論
・社会統計学Ⅰ及びⅡ	社会福祉調査論
・環境倫理学	倫理学
・衛生・公衆衛生学	公衆衛生学
・人体の構造と機能及び疾病	医学一般

※１民法，行政法及び社会統計学はⅠとⅡの両方を受講して１科目と見なされるので，両方とも受講すること。

※２心理学概論は，総合科学部専門科目開講科目のものとする。

11. GIS 学術士の資格取得

1 「GIS 学術士」の資格制度について

「GIS 学術士」とは，GIS の学術を保有する者として，公益社団法人日本地理学会により認定される制度です。

2 「GIS 学術士」の資格制度の目的

「GIS」とは，地理情報科学（Geographic Information Sciences）および地理情報システム（Geographic Information System）を指し，「GIS」の学術とは地理情報をコンピュータで系統的に取得・構築，管理，分析，総合，表示･伝達することに係わる学術を意味します。「地理情報」とは，地理的な位置や範囲と属性情報が対になっている情報を指します。「GIS 学術士」の資格制度は，GIS の知識と技術の向上をはかり，適正な GIS 学術を普及し，もって地理情報科学及び地理学の進歩と社会の発展に貢献することを目的としています。（「GIS 学術士資格認定規定」をもとに作成）。

3 「GIS 学術士」資格取得のための標準カリキュラム

「GIS 学術士」資格取得のためには，以下の【A】～【D】に対応する授業科目単位を修得する必要があります。

【A】：GIS に関連する情報処理を中心とする科目

【B】：GIS の基本的機能と空間データの講義を中心とする科目

【C】：GIS による地図作成・空間分析の実習を中心とする科目

【D】：GIS を利用した卒業論文を執筆する科目（または，それに相当する演習）

（指導教員を選ばないが，卒業論文における GIS 利用の適・不適は，申請書と作成された論文によって，日本地理学会資格専門委員会が判定する。）

総合科学部のどの授業科目が【A】～【D】に対応するかは，年度ごとに多少の変動がありますので，申請の際には必ず，公益社団法人日本地理学会の「資格専門委員会」のホームページ（下記 URL）にある「実績証明団体」の「徳島大学総合科学部社会総合科学科地域創生コース」の項目を参照してください。

http://ajg-certi.jp/

4 「GIS 学術士」資格申請に際して

「GIS 学術士」の取得は卒業後になります（申請は卒業前に可）。ただし，下記の要件を満たしていれば，卒業前に「GIS 学術士（見込み）」の認定を受けることができます。「GIS 学術士（見込み）」が認定されれば，資格要件科目をすべて修得した後に，「GIS 学術士」資格への変更を申請することが可能になります。

○「GIS 学術士（見込み）」の認定要件

① 大学在籍期間が３年以上であること。

② ３の【A】【B】【C】に対応した科目の単位を申請時までに２科目以上修得していること。

③ ②の単位修得済み科目と今年度履修中の科目の合計が３科目以上であること。

5　資格申請手順について

以下では「GIS 学術士（見込み）」の申請手順について簡潔に記します。

①　公益社団法人日本地理学会の「資格専門委員会」のホームページから各種申請書をダウンロードして必要事項を記入します。

http://ajg-certi.jp/

②　単位修得・科目履修を証明する書類を準備します。

③　手数料を払い込みます。（「GIS 学術士（見込み）」は認定審査手数料 1,000 円＋税）。払込金受領書のコピーを申請書の裏面に貼付してください。

【払込先（郵便局）】

振替口座：00130 － 0 － 413143

加入者名：公益社団法人日本地理学会資格専門委員会

＊払込金受領書の「ご依頼人」の欄に，住所，氏名（大学名・学生番号）を記入してください。

④　上記の必要書類一式を公益社団法人日本地理学会資格専門委員会まで郵送してください。

注１）上記の情報は 2019 年 12 月時点のものであり，今後改訂される可能性もあります。申請に際しては，公益社団法人日本地理学会の「資格専門委員会」のホームページを必ず事前に確認してください。不明な点があれば，塚本章宏（「GIS 学術士」徳島大学総合科学部代表担当者）まで問い合わせください。

12. 日本語教員の養成

「クール・ジャパン」の流行や漫画・アニメ，また日本食の人気などで，世界では日本語を学ぶ人たちが増えています。私たちの使っている日本語は，現在世界で398万人が学んでおり（国際交流基金2012），国内でも17万人の人たちが勉強しています（文化庁2010）。さらに，日本政府も国家戦略の一つとして日本国内への留学生や優秀な労働者の積極的な受け入れを進めており，これからも質の高い日本語教師の必要性は高くなっていくと思われます。

日本人なのだから日本語が教えられる，と思うかもしれません。確かに日本人なら誰でも日本語を話しますが，実は日本語教育と国語教育は視点が全く違います。そして，日本語が全くわからない人に，整理して文法を教えたり日本人と上手に会話できるように指導したりするには，十分な知識と技術が必要です。

総合科学部では，次ページにある日本語教育関連の授業を提供していますが，それらの授業を履修しても日本語教師のための資格や免許が得られるわけではありません。でも，日本語教育に関連した事柄を学ぶことで，自分の言語である日本語と言語を含む日本文化や日本人の考え方などを客観的にとらえ直すことができます。また，日本語を使った日本人との円滑なコミュニケーションの仕組みについても学びますから，他の日本人や外国人留学生や友達との良いコミュニケーションのとり方についても理解することができます。もちろん，これらの授業は将来日本語教師として働くための良い土台となります。

日本語教師を職業として目指すなら，一般の教員免許を取得するための授業科目を履修しておくこと，また外国語を体系立てて勉強しておくことを勧めます。

主（副）専攻課程に相当する単位を取得した場合，そのことを証明する証明書を本学部が発行しますので，希望者は所定の手続きを取ってください。証明書を得るために他大学・他学部との間で単位互換を希望する人は，事前に教務委員を通して教務委員会に照会し，履修希望授業科目が文部科学省の示した表Aの科目として認定されるかを確認してください。

表A　文部科学省が日本語教員養成のための標準的教育内容として示した分野と主(副)専攻のための最低修得単位数

記　号	内　　容	主専攻課程	副専攻課程
Ⅰ－(1)	日本語の構造に関する体系的，具体的な知識	18単位	10単位
Ⅰ－(2)	日本語の教授に関する知識・能力	11単位	9単位
Ⅱ	言語学的知識・能力	8単位	4単位
Ⅲ	日本人の言語生活等に関する知識・能力	4単位	2単位
Ⅳ	日本事情	4単位	1単位
	計	45単位	26単位

表Ｂ　分野ごとに本学部で解説している授業科目と認知されうる最大単位数

記　号	授 業 科 目 の 名 称	単位数
Ⅰ－(1)	日本言語概説	2
	応用日本語学概説	2
	日本言語研究	2
	応用日本語学研究	2
	総合科学の基礎Ａ（日本語表現の基礎）	2
	日本言語演習Ⅰ，Ⅱ	8
	＊日本語の敬語	2
Ⅰ－(2)	日本語教育方法論Ⅰ	2
	日本語教育方法論Ⅱ	2
	日本語教授法Ⅰ	2
	日本語教授法Ⅱ	2
	日本語教材研究	2
	＊世界の中の日本語	2
Ⅱ	英語研究Ⅰ	2
	国際語としての英語	2
	Academic Communications Ⅰ	2
	Academic Communications Ⅱ	2
	実用外国語基礎演習Ⅰ	2
	実用外国語基礎演習Ⅱ	2
Ⅲ	異文化間コミュニケーション	2
	日本文化研究Ⅰ	2
	日本文化研究Ⅱ	2
Ⅳ	日本表象文化論Ⅰ	2
	日本表象文化論Ⅱ	2
	比較文化研究	2

＊印の付いた科目は教養教育科目（年度によって名称が変更されることがある。）

13. グローバル人材育成学習プログラム

総合科学部では，学科横断的な複数科目を受講することで一定のまとまった知識や能力を獲得できるようにまとめた一連の科目を「学習プログラム」と名付けてまとめ，「グローバル人材育成学習プログラム」を用意しています。これらの科目の一部のみを受講することもできますが，プログラム所定の単位を修得した場合は，プログラム単位修得証明書を発行します。くわしくは学務係でたずねてください。

この学習プログラムは，所定の科目の修得と短期留学，さらには海外交流協定校※1などへの長期留学（セメスター単位）の経験を踏まえて，異文化に対する豊かな洞察力と確かな語学力を身につけ，国内外の社会で世界的な視野をもって活躍することができる人材を育成することを目的としています。日本文化および多文化理解のための科目履修（1，2年次中心）に，早期（1年次が望ましい）の短期留学を経て，2年次後期以降の長期留学という学習課程をここでは想定しています。

このプログラムには英語を軸とするものと中国語を軸とするものがあります。所定科目とプログラム修了証明書の取得に必要な単位数は表1のとおりです。必要単位数を修得した上で，語学検定試験の成績，短期留学の経験，長期留学での単位修得の有無などを加味して，証明書には複数のランクが設定されています。その種類と取得要件は表2のとおりです。Sランクを取得した場合，学部長による表彰の対象になります。証明書の申請は3年生11月以降から出来ます。すでに証明書を取得している場合でも，語学検定試験の成績向上などにより，再申請が可能です。

英語を軸とするプログラムに参加する場合は1年次終了時に，中国語を軸とするプログラムに参加する場合は2年次終了時までに学務係で登録してください※2。なお，このプログラムへの登録が，海外交流協定校への長期留学（セメスター単位）の条件になっています。交流協定校への留学を希望する皆さんは，必ずこのプログラムに登録してください。

※1 「手引き」27頁参照

※2 ただし，語学検定試験で以下のいずれかの水準を超えた場合は，英語を軸とするプログラムの場合は2年次中途，中国語を軸とするプログラムの場合は3年次中途での登録を認めます。

英　語	TOEFL iBT　80点	TOEFL ITP　550点	TOEIC　730点	実用英語技能検定（英検）準1級	IELTS　6.0点
中国語	中国語検定4級	HSK　2級	TECC　400点		

※ 海外交流協定校への派遣留学について，年に2度の報告会を開催しています。派遣された皆さんは，帰国後にその経験を後輩に伝えるために，そこで報告することが義務づけられています。また，留学を希望する皆さんはその準備のために必ず参加してください。

表１　グローバル人材育成学習プログラム修了証明書取得に必要な単位数

授業カテゴリー	必要単位数	授業科目・題目名※※
日本の社会と文化を理解するための科目	10単位	別表１－１
サマー・スクール参加科目		
グローバル化と現代社会の諸問題を理解するための科目	６単位	
英語運用能力向上のための科目※	８単位	
中国語運用能力向上のための科目※	８単位	
		合計　24単位以上

※英語８単位，中国語８単位はいずれかを選択。
※※授業科目･題目名については別表１－１を参照すること。ただし，教養教育科目の授業題目については年度によって変更になる場合があるので学務係で確認すること。

表２－１　プログラム修了証明書のランク

証明書のランク	ポイント
S	22以上
A	19以上
B	16以上
C	11以上

表２－２　加算ポイント基準（語学検定はいずれか一つを採用する）

語学検定（英語）ランク	ポイント
TOEFL iBT100，TOEIC870，英検１級，IELTS7.0以上	11
TOEFL iBT80，TOEIC730，英検準１級，IELTS6.0以上	8
TOEFL iBT60，TOEIC550，英検２級，IELTS5.0以上	5
TOEFL iBT45，TOEIC450，英検準２級，IELTS4.0以上	2
語学検定（中国語）ランク	ポイント
HSK ５級，HSK口頭試験高級，中国語検定準１級，TECC700点以上	11
HSK ４級，HSK口頭試験中級，中国語検定２級，TECC600点以上	8
HSK ３級，HSK口頭試験初級，中国語検定３級，TECC500点以上	5
HSK ２級，中国語検定４級，TECC400点以上	2
短期語学等研修（３週間以上）	ポイント３
長期（セメスター単位）留学	ポイント
５科目以上単位認定	11
３科目以上単位認定	8
１科目以上単位認定	5
海外インターンシップ経験	ポイント３

※TOEFLはiBT試験を利用する。TOEICはIP試験を除く。

別表１－１　令和２年度開講の授業

授業カテゴリー	科　　目　　名	必要単位数
日本の社会と文化を理解するための科目	**（教養教育）** 徳島を考える 憲法と人権Ⅰ 憲法と人権Ⅱ 江戸時代後期の社会変動と明治維新 能・狂言・文楽・歌舞伎 世界の中の日本語 古代・中世日本の社会 沖縄社会文化論 **（総合科学部科目）** 近現代世界の成立と展開 現代日本社会論 日本研究Ⅰ（Japanese Studies） 日本研究Ⅱ（Japanese Studies）	10 単位
総合科学部サマー・スクール科目	**（専門教育科目）** 総合科学実践プロジェクトＢ	
グローバル化と現代社会の諸問題を理解するための科目	**（教養教育科目）** 異文化／自文化研究へのいざない 国際政治学入門 国際協力論－入門編 現代世界の展開Ⅰ **（総合科学部科目）** 比較宗教学 グローバル交渉史 国際関係論（国際法を含む） 平和学 現代国際情勢概論 国際協力論－応用編 グローバル･ヒストリー 国際語としての英語 総合科学実践プロジェクトＡ，Ｂ，Ｅ	6 単位
英語運用能力向上のための科目※	**（総合科学部科目）** Academic English Ⅰ, Ⅱ Academic Communications Ⅰ, Ⅱ	8 単位
中国語運用能力向上のための科目※	**（教養教育科目）** 中国語入門 中国語初級 **（総合科学部科目）** 実用外国語基礎演習（中国語）Ⅰ, Ⅱ 実用中国語演習	8 単位
	計	24 単位以上

Ⅴ．授業概要（シラバス）

（「学部共通科目」および「実践学習科目」を記載。
他の授業科目はＨＰを参照）

1．総合科学部
学部共通科目

ページ	配当学年		授　業　科　目	単位数等
127	①	必修	総合科学入門講座	1　必修
127	①	選択必修Ⅰ	科学論	2 ┐ 2単位以上
128	①		情報処理基礎論	2 ┘ 必修
129	①	選択必修Ⅱ	総合科学の基礎A（日本語表現の基礎）	2 ┐
129	①		総合科学の基礎B（文化研究の基礎）	2
130	①		総合科学の基礎C（哲学・思想の基礎）	2
131	①		総合科学の基礎D（スポーツ科学の基礎）	2
131	①		総合科学の基礎E（心理学の基礎）	2
132	①		総合科学の基礎F（公共政策学の基礎）	2 10単位以上
132	①		総合科学の基礎G（経済学の基礎）	2 必修
133	①		総合科学の基礎H（社会学の基礎）	2
133	①		総合科学の基礎J（SDG's と地域イノベーション）	2
134	①		Academic English Ⅰ（日本文化・時事発信型英語）	2
135	①		Academic English Ⅱ（4技能アカデミック英語入門）	2
136	②		Extensive Reading（英語文法・語彙構築プログラム）	2 ┘
計				13単位以上

総合科学入門講座

Introduction to Integrated Arts and Sciences

1単位(必修)全1年(前期)

山口　裕之，矢部　拓也，饗場　和彦，依岡　隆児，衣川　　仁

【授業の目的】

現在の日本社会は，高度成長期以来形成されてきた社会的枠組みを揺るがす転換点を迎え，グローバル化・少子高齢化・格差と貧困・都市集中と地方の過疎化などの問題に直面しています。

こうした問題を理解し，解決策を考察するには，多面的・総合的な視点からの，客観的な資料にもとづく研究アプローチが不可欠です。

さらに，考察を実際に問題の解決につなげていくためには，民主的な社会を構成する主権者として，対立する意見を持つ人とも対話し，合意を形成していくことが必要です。

この授業では，「多面的で客観的な思考法」と，「そうした思考にもとづいて他者と合意形成する能力」を獲得することを目的とします。

【授業の概要】

この授業では，「総合科学」の理念にもとづいて，「多面的かつ客観的に考える」技術を講義し，毎回小文を書くことで実践練習を行います。

なお，授業の1回目～6回目までは，「SIH道場」の一環として行います。

【キーワード】

総合科学　多面的思考　民主的な社会を構成する主権者

【到達目標】

・大学生活に適応する上で基礎的な知識を身につける（SIH道場部分）
・日本語で論理的文章を書く能力の基礎を身につける。
・情報リテラシーを身につける。
・総合科学部で行っている幅広い研究の一端を知る。
・留学その他の学習プログラムについて理解する。

【授業の計画】

第１回：４／10　SIH道場⑦ベネッセ・GPS-Academic測定
第２回：４／17　SIH道場⑧：サイバー犯罪（15分）（県警），薬物（30分）（県），学生相談室の利用（15分）（総合相談部門），防災（30分）（田口）
第３回：４／24　SIH道場⑨：留学制度の説明・グローバル人材育成学習プログラムについて（田久保）
第４回：５／１　SIH道場⑩：「総合科学」の理念：多面的・客観的に考える（山口）
第５回：５／８　SIH道場⑪：学術的発想と書き方①（山口）
第６回：５／15　SIH道場⑫：学術的発想と書き方②（山口）
第７回：５／22　総合科学入門講座①：ビブリオバトル実践（依岡）
第８回：５／29　総合科学入門講座②：クラウドファンディングで朝ごはん（矢部）
第９回：６／５　総合科学入門講座③：後期課題発見ゼミのガイダンス
第10回：６／12　総合科学入門講座④：資料・史料の読み方（荒武）
第11回：６／19　総合科学入門講座⑤：主権者として必要な力①（饗場）
第12回：６／26　総合科学入門講座⑥：主権者として必要な力②（饗場）
第13回：７／３　総合科学入門講座⑦：まとめのパネルディスカッション
第14回：７／10　総合科学入門講座⑧：予備日
（授業の順番や日程は変更がありうる。詳細は授業時に説明する。）

【教科書】

『コピペと言われないレポートの書き方教室：3つのステップ：コピペから正しい引用へ』／山口裕之：新曜社，2013年，ISBN：9784788513457

【参考書】

『履修の手引き』／総合科学部：総合科学部，2016年，ISBN：不明

『読書のススメ　四国から，グローカルに』／依岡隆児：徳島新聞社，2010年，ISBN：9784886061294

【教科書・参考書に関する補足情報】

必要に応じてウェブに資料を掲示しますので，指示があればダウンロードまたは印刷して持参してください。

【成績評価方法・基準】

毎回の授業時に行う小テストと，学期中3回程度の宿題小テスト（ウェブシステムで実施），毎回の授業終了後に提出してもらう「授業コメント」（宿題）をもとに成績評価を行います。小テストは一回10点満点，宿題小テストは20点満点，授業コメントは１回５点満点で採点し，総合得点を比例計算で100点満点に換算します。

【再試験の有無】

出席日数が基準を満たしており，学期中の提出物の不備・未提出が不合格の主要な原因の場合には，再提出により再評価する場合があります。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】

授業での宿題や課題をこなしていけば，自然と予習復習ができるはずです。

【WEBページ】

https://web.ias.tokushima-u.ac.jp/shin-kokusai/scienceandhumanity/top.html

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】

（メールアドレス）
山口裕之　yamaguti@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
授業終了後の昼休み

科学論

Science and Society

２単位（選択必修Ⅰ）全１年（後期）

熊坂　元大，渡辺　克典，饗場　和彦，塚本　章宏

【授業の目的】

１．現代社会で生じている「科学の功罪」に関する理解を深めるとともに，それを自分の問題として考えるためのきっかけを得ること。
２．医療問題，研究倫理，環境倫理など，「科学の功罪」に関する主題群に対して，受講者自らが情報収集を行い主体的に情報を発信できる力を身に付けること。

【授業の概要】

講義の中では，現代社会における「科学のあり方」を問い直すことを目的として，「文理融合型」の知のあり方を模索する手掛りを受講生の方に提供する。

本講義は，３部構成から成る。

第１部「科学と生存編」では，ナチスによる人体医学実験などの科学技術の進展における「負の遺産」を概観するとともに，研究倫理や医学の歴史の主題をテーマごとに紹介する。

第２部「地域の中の科学と技術編」では，地域社会における科学と技術のあり方を紹介し，現代科学のあり方を「地域」という言葉をキーワードに問い直す。

第３部「環境倫理編」では，動物実験の倫理や気候変動など，広義の環境倫理をめぐる問題を概説するとともに，各主題への理解を深める。

【キーワード】

科学技術の功罪，生存学，環境倫理，動物倫理，地理学（GIS），地域と科学技術

【到達目標】

・文化・社会と自然との関わりについての理解
・専門的知識を体系的に理解できる能力の育成
・論理的思考力の養成
・日本語の論理的文章を理解できる能力の養成
・日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成
・情報リテラシーの養成
・豊かな人間性の涵養
・高い倫理観の涵養
・自分で問題を発見しようとする態度の養成

【授業の計画】

第１回　オリエンテーション（熊坂・渡辺）
【科学と生存編】
第２回　「ナチスと優生学――人体実験と医療倫理・研究倫理」

（渡辺）
第３回 「優生政策は「過去の遺物」か――被害の諸相と当事者の葛藤」（渡辺）
第４回 「医療と「死にゆく過程」――緩和治療，終末期医療，安楽死・尊厳死」（渡辺）
第５回 「服従を調査する――ミルグラム実験，スタンフォード監獄実験」（渡辺）
第６回 「モンスター・スタディ――仮説と実験について考える」（渡辺）
【地域の中の科学と技術編】
第７回 「保健医療のGIS」（塚本）
第８回 「専門家としての医療者と科学技術」（渡辺）
第９回 「専門科学としての医療と地域連携」（渡辺）
【環境倫理編】
第10回 「生命の位置づけと扱い」（熊坂）
第11回 「科学・技術と私たちの生活」（熊坂）
第12回 「リスクと合意形成」（熊坂）
第13回 「メディアから見る環境問題の捉え方」（熊坂）
第14回 「緩和と適応―気候変動の倫理」（熊坂）
第15回 学期末試験
第16回 総括講義（熊坂・渡辺）

【教科書・参考書に関する補足情報】
参考書籍は，随時講義の中で紹介していきます。

【成績評価方法・基準】
平常点（30点）＋学期末試験（70点）

【再試験の有無】
無し

【受講者へのメッセージ】
皆さんが，現在の科学と技術の「正の側面」と「負の側面」を理解していく上でよい講義だと思います。関心のある方はぜひ受講してください。

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（オフィスアワー）
随時。
事前にメールでアポイントメントをお願いします。

情報処理基礎論

Introducton to Computing

２単位（選択必修Ⅰ）全１年（後期）
豊田　哲也，石田　基広，佐藤　充宏
田口　太郎，矢部　拓也，阿部　正美

【授業の目的】
現代の情報化社会を生きていく上で，さまざまなデータを分析したり，ソフトウェアを扱ったりする機会はますます増えている。諸君がどの専門研究分野に進むにせよ，方法や程度は違っても情報処理の重要性は変わることがない。客観的なデータに基づく検証は，科学における認識の基礎である。また，諸君が卒業後に専門的職業人として活躍するのは，情報処理を避けて通れない。定型的な日常業務はもちろん，重要な意志決定シーンでデータに基づいた的確な判断を求められることは多いだろう。総合科学部では，こうした情報リテラシーをステップごとに身につけるため，体系的なカリキュラムを提供している。学部共通科目「情報処理基礎論」は，そのプラットホームと位置づけられる科目である。この授業では講義と実習を通じて，統計学に関する基礎的な知識を学び，データ分析のための実践的な技能を身につけることができる。

【授業の概要】
授業は導入部分，本篇部分，総括部分の３つからなる。本篇は１つのテーマごとに講義１回と実習１回をセットとし，全部で７つ（または６つ）のセットから構成される。受講者数が多いため，２クラスに分かれて実施する。講義では，データを科学的に理解するために必要な統計学の基礎的事項について解説する。実習では，課題や目的に応じデータを活用するのに役立つ実践的技能を身につけるため，表計算ソフトExcelを用いたトレーニングをおこなう。教材プリントは前もって配布されるので，受講生は授業の前に予習しておくこと。授業教材の提示，自習に役立つ情報提供，課題の提出はすべてLMSを用いておこなう。毎回授業では，内容をふり返り要点をまとめると同時に，質問やコメントの記入を求める。なお，この授業は担当教員がチームで授業の開発と運営にあたっており，教育改善のモデルケースとして位置づけられていることから，受講生諸君の積極的な取り組みが期待される。

【キーワード】
情報処理，統計学，リテラシー，論理的思考力，Microsoft Excel，社会調査士

【到達目標】

No.	到達目標
1	統計学の基礎的な考え方を理解し，科学的なデータの見方や考え方を修得している。
2	Excelの機能を活用したデータの整理や操作法を修得し，実践的に情報を運用する能力がある。
3	総合科学部の専門課程で扱うテーマとそれに即したデータ分析法について関心を深める。

【授業の計画】

回	大項目	中項目	内　容
1	ガイダンス	講義	データの見方，考え方
2	データの尺度と比率(1)	〃	質的データと量的データ，静的比率と動的比率
3	データの尺度と比率(2)	実習	データの入力，比率の計算，表の作成
4	グラフの種類と表現(1)	講義	さまざまなグラフ表現の特性と読み方
5	グラフの種類と表現(2)	実習	データ加工とグラフの作成，学術的なグラフの書式
6	集計表の作成(1)	講義	データベースの形式，単純集計とクロス集計
7	集計表の作成(2)	実習	質的データと因果関係，媒介関係とコントロール変数
8	ヒストグラムと代表値(1)	講義	度数分布表の作成，累積相対度数
9	ヒストグラムと代表値(2)	実習	平均値，中央値，最頻値の求め方
10	データの散らばり(1)	講義	分散，標準偏差，四分位値，尖度，歪度
11	データの散らばり(2)	実習	正規分布，データの標準化
12	２変数間の関係(1)	講義	散布図と相関係数，因果関係と疑似相関
13	２変数間の関係(2)	実習	回帰分析と最小二乗法，決定係数，残差
14	推測統計学への道(1)	講義	母集団と標本
15	推測統計学への道(2)	実習	統計的推定と検定
16	授業のまとめ	講義	統計学的思考法

【教科書・参考書に関する補足情報】
各回の授業時にプリントを配布する。教材はこの授業のために開発されたオリジナルな内容である。参考資料は授業時に指示する。

【成績評価方法・基準】
課題の評価（70％）に授業への取組（30％）を加味して評価する。

【再試験の有無】
おこなわない

【受講者へのメッセージ】
受講者は前提としてWindows操作の基礎知識をすでに獲得していることが求められる（１年次前期に共通教育「情報科学入門」を受講済みであることが前提である）．授業は講義と実習を組み合わせておこない，各回の内容に応じた課題を与える．なお，利用可能な端末の台数によって受講者を制限する場合がある．初回授業ではガイダンスとクラス分けをおこなうので，開講前の９月末に掲示板等で指定された教室に集合すること。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
授業は講義と実習を隔週で実施し，２週セットで１つのテーマを扱う。毎週必ず内容を予習・復習し，与えられた課題は締切までに提出すること。また，eラーニングシステムを活用して授業教材を配信しているので，欠席したときや予習・復習のときに役立ててほしい。

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
豊田　哲也：豊田哲也（総合科学部１号館1S25，toyoda.tetsuya@tokushima-u.ac.jp）
矢部　拓也：１号館南棟１階1S23　社会学研究室
田口　太郎：田口太郎（２号館E棟２F，地域計画学研究室，

Tel：088－656－2235，taguchi@tokushima-u.ac.jp）
石田　基広：2606
佐藤　充宏：１号棟２階2M11（スポーツ社会学研究室）
TEL088－656－7207
（メールアドレス）
豊田　哲也：toyoda.tetsuya@tokushima-u.ac.jp
矢部　拓也：yabe.takuya@tokushima-u.ac.jp
田口　太郎：taguchi@tokushima-u.ac.jp
石田　基広：ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp
佐藤　充宏：satom@ias.tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
豊田　哲也：木曜　12：00－13：00
矢部　拓也：希望者は，随時，メールにてアポを取って下さい。
田口　太郎：適宜。田口へメールにてアポイントを取ってください。
石田　基広：金曜日16時～18時

【備考】

1．地域創生コースで取得可能な資格である社会調査士のカリキュラムのうち，【C】基本的な資料とデータの分析に関する科目（必修）に該当する。
2．地域創生コースで取得可能な資格であるGIS学術士資格のカリキュラムのうち，【A】GISに関連する情報処理を中心とする科目（必修）に該当する。

総合科学の基礎A（日本語表現の基礎）

Foundations of integrated Sciences : A

２単位（選択必修Ⅱ）全１年（前期）
村上　敬一

【授業の目的】

現代日本語の基本的なしくみ（構造）と，その適切な使い方（運用）について理解することを目的とする。

日本語を母語とする者としての最低限必要な知識（音声･文法･語彙など）と，その具体的な運用（社会言語能力）を実践的に学び，高めていく。

【授業の概要】

高校までの「国語」を基礎として，日本語をひとつの言語として客観的に眺めることから始める。現代日本語の具体的な事例に基づいて，ことばに関する研究（言語学）や，日本語を母語としない人たちへの日本語教授法（日本語教育学）の考え方も合わせて解説する。

【キーワード】

現代日本語学　社会言語学　日本語教育学　応用日本語学　日本語の音声　日本語の語彙　日本語の文法

【到達目標】

現代日本語の基本的なしくみ（構造）と，その適切な運用について理解することを到達目標とする。日本語を母語とする者としての最低限必要な知識（音声・文法・語彙など）と，その具体的な運用を実践的に学び，高めていく。

【授業の計画】

第１回：日本語表現と日本語のしくみ
第２回：日本語の音声・音韻
第３回：日本語の文字・表記
第４回：日本語の語彙①（語構成と語構造，語種）
第５回：日本語の語彙②（語の意味，語源，語史）
第６回：日本語の語彙③（新語，流行語，若者語など）
第７回：日本語の文法①（動詞，形容詞）
第８回：日本語の文法②（助動詞，格助詞，終助詞，接続助詞など）
第９回：日本語の文法③（使役，受身）
第10回：日本語の文法④（条件，テンス，モダリティ）
第11回：日本語らしい表現①（助詞の「は」と「が」，とりたて助詞）
第12回：日本語らしい表現②（授受表現）
第13回：日本語の変化と多様性①（男女差）
第14回：日本語の変化と多様性②（世代差）
第15回：日本語の変化と多様性③（地域差）

【教科書】

方言学入門／木部暢子［ほか］　編著：三省堂，2013，ISBN：9784385363936

【参考書】

新しい日本語学入門：ことばのしくみを考える／庵功雄　著，：スリーエーネットワーク，2012，ISBN：9784883195893

【教科書・参考書に関する補足情報】

原則として，教科書と関連する資料に基づいて授業を進めます。ネット上に公開されている，下記の資料を使います。
国際交流基金　http://www.jpf.go.jp/j/
文化庁　国語関連　http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/index.html
国立国語研究所　http://www.ninjal.ac.jp/

【成績評価方法・基準】

授業中の発表など「授業への参加度」（20％）　授業中に行う課題（40％）
授業に関するレポート①（20％）　授業に関するレポート②（20％）

【再試験の有無】

上記の評価方法・基準にて評価し，再評価は行わない。

【受講者へのメッセージ】

授業を受身で「聞く」「受ける」のではなく，積極的な参加を期待します。日常的な小レポートのほか，日本語に関する実践的な能力を身につけるための課題にも，積極的に取り組んでください。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】

（予習）
授業の計画に従って，事前に教科書を読んだり，ウェブ上の資料に目を通したりして，問題点や疑問点を整理しておくことが望ましい。
（復習）
授業の内容をふまえたレポートには，積極的に取り組むこと。

【WEBページ】

国際交流基金　http://www.jpf.go.jp/j/
文化庁　国語関連　http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/index.html
国立国語研究所　http://www.ninjal.ac.jp/

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】

（学生用連絡先）
北棟２階19号室
（メールアドレス）
murakami.kei@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
火曜日　11：00－12：00　村上研究室
事前にメール等で予約すること（緊急の場合は，この限りではない）。

【備考】

この授業は「中学校・国語」および「高校・国語」の教員免許状取得のための「教科に関する科目」（必修）に該当する。

総合科学の基礎B（文化研究の基礎）

Foundations of integrated Sciences : B

２単位（選択必修Ⅱ）全１年（後期）
田島　俊郎

【授業の目的】

伝統やしきたり風習などの文化とは，ある人間の集団，民族や国民や，部族のような人々の集まりの構成員に共有される約束ごとをいう。大はいわゆる民族や部族のような地域的，政治的グループであっても，学生，会社員，医者，などの職業や年齢などによる比較的小さなグループ，さらに遊び仲間のようなごく小さなグループであっても，そのグループに独特の約束ごとをもっている。そういった約束ごとの総体を文化と呼ぼう。

文化を共有するかどうかで，共同体に受け入れられあるいは排除される。文化は時に部外者には不可視であったり，不合理で不可解なものに見えることがある。さらに，集団のなかで共有された規約であるはずなのに，集団の構成員自身にとっても不可視であったり，不合理で不可解に見えることがある。不合理で不可解になった約束ごとは内部の人間にとっても厄介なものになりかねない。時に不可視である約束ごとを可視化するのが，文学や言語学，哲学，美学など，文系の学問方法である。

多文化・異文化理解や専門的知識の体系化を通じて，自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解できるよう，これらの文系の学問方法の基礎を身につける。

【授業の概要】

絵画，言語学，文化人類学，レトリック論，宗教，文学などの領域に題材を取り，文化を読み解く手法について解説する。担当者による講義で知識を提供するが，授業中および授業後のコメントカードにより質問・意見を求めて，理解を共有するよう努める。

【キーワード】

文化，文学，言語学，レトリック，神話，建築，文化人類学

【到達目標】

文化とは何かを認識し，文化事象を分析する様々のアプローチについて学ぶ。さらに文化の表現の諸相にも触れることによって，文化を研究するための基礎能力を獲得する。

日常のテクストなどから隠れた問題を発見し，分析できる。

文学テクストの分析を通じて，個人や社会の問題を発見し，分析できる。

【授業の計画】

1　導入　文化とは何か，文化を研究するとはどういうことか
2　あなたが見る色とわたしが見る色は同じ？
3　見ることの悦楽
4　教会建築
5　宗教，タブーと呪術
6　野生の思考，文化人類学的な考え方
7　神話を読む
8　言語学入門
9　修辞学入門
10　小説を読む⑴芥川龍之介論
11　小説を読む⑵芥川龍之介論
12　ヨーロッパ文学について⑴主題論
13　ヨーロッパ文学について⑵演劇
14　ヨーロッパ文学について⑶19世紀の小説
15　論文の書き方について
16　レポート講評

【教科書】

資料を提示，配布する．

【参考書】

授業中に紹介する．

【成績評価方法・基準】

授業への参加貢献の程度（10 ～ 30%）およびレポート（70 ～ 90%）による。授業への参加貢献は授業内での意見や疑問表明，また各回後に求める振り返りシートへの記載で判断する。レポートは２回提出を求める。レポートの締め切りは，１回目を12月下旬，２回目を１月中旬を予定しています。レポートのいずれか未提出の場合は合格点に達しません。

【再試験の有無】

なし

【受講者へのメッセージ】

コメントや質問などは大いに歓迎します。授業への積極的な参加を期待します。

【WEBページ】

http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/introcul/index.html

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】

（学生用連絡先）
田島　俊郎，2N08，088－656－7144
（メールアドレス）
田島　俊郎：tajimat@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
田島，木曜日12時から13時　2N08（総合科学部１号館北棟２階）

総合科学の基礎C（哲学・思想の基礎）

Foundations of integrated Sciences : C

２単位（選択必修Ⅱ）全１年（前期）
山口　裕之

【授業の目的】

西洋哲学の基本用語を理解することで，西洋文明的な世界観の基本的な構造を把握する。

【授業の概要】

自然科学や資本主義や民主主義など，現代世界の基本的な枠組みを作ったのは，まぎれもなく西洋文明である。それら枠組みには西洋文明の基本的な世界観が反映している。そして，西洋的な世界観を理解するためには西洋哲学を理解しなくてはならない。自然科学や経済学や民主主義の思想はいずれも哲学から派生したものだからである。ところが，実際に哲学を勉強しようとすると，哲学書はなかなか難解である。そこでこの授業では，「知性」や「理性」，「存在」「本質」「実在」「現実」など，基本的な哲学用語の意味や語源に焦点を当てて説明する。

授業には教科書『語源から哲学がわかる事典』（山口裕之著・日本実業出版社）を用いる。毎回，20ページ程度の課題範囲を予習してきてもらい（＝宿題），疑問点やさらに詳しく知りたい点などをe－learningシステム（manaba）によって事前に収集し，それに回答する形で進める（おおむね300 ～ 500字程度）。

授業終了後に，「授業への復習コメント」（おおむね300 ～ 500字程度）を書いてもらい（＝宿題），次回の授業時間の冒頭でフィードバックを行う。

授業時間の終わりに，その週の課題範囲や授業内容についてのマークシート式の小テストを行う（１回５点～ 10点程度）。

これらにより，能動的・主体的に授業に取り組めるようにする。

【キーワード】

哲学・存在論・認識論

【到達目標】

人文科学（哲学）に関わる幅広い知識の理解を目標とする．

日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする．

【授業の計画】

1）イントロダクション：授業の問題意識，進め方，成績基準等の説明。
2）序章：哲学と言葉（課題範囲＝教科書pp.1 ～ 19＋pp.244 ～ 245「英語の歴史」）
3）第１章「哲学」①：哲学のはじまり（pp.21 ～ 38＋p.246「哲学という言葉の初出について」）＋pp.270 ～ 272「ラテン語とギリシア語について」）
4）第１章「哲学」②：「アリストテレスの『形而上学』」から「philosophyの変容」（pp.38 ～ 56＋pp.249 ～ 250「ドイツ語の哲学用語について」，「科学者という言葉について」）
5）第２章「認識」①：「正しい知識」としての「認識」（pp.57 ～ 75）
6）第２章「認識」②：経験知と学問知（pp.75 ～ 90＋pp.253 ～ 254「political　economyの成立と変容」）
7）第３章「存在論」①：「being論」としての存在論（pp.91 ～ 113）
8）第３章「存在論」②：アリストテレスの『形而上学』（pp.113 ～ 130＋pp.255 ～ 256「中世哲学について」「アプリオリと超越論的の違い」）
9）第４章「神学」①：プラトンの神学理論（pp.131 ～ 149）
10）第４章「神学」②：アリストテレスの神学理論（pp.149 ～ 168）
11）第４章「神学」③：近代哲学における神学（pp.168 ～ 176＋pp.257 ～ 262「アレクサンドリアのフィロン」～「ヒューム」）
12）第５章「認識論」①：デカルトの認識論（pp.177 ～ 195）
13）第５章「認識論」②：マルブランシュの認識論（pp.195 ～ 211＋pp.263 ～ 264「動物機械論」）
14）第５章「認識論」③：経験主義哲学における認識論（pp.211 ～ 225）
15）終章「哲学する」：哲学を学ぶことの意味（pp.227 ～ 242＋pp.250 ～ 252「ヌースとロゴスの逆転」＋pp.265 ～ 267「知識の体系」）
16）予備日

【教科書】

語源から哲学がわかる事典／山口裕之著：日本実業出版社，2019，ISBN：9784534057075

【教科書・参考書に関する補足情報】

上記「授業の概要」と「授業計画」，下記「成績評価方法」を参照。

【成績評価方法・基準】

教科書の課題範囲の予習（毎回２点），授業の復習（毎回２点），授業中の小テスト（毎回５～ 10点），e-learningシステムを用いた宿題小テスト（学期中３回程度，20点）の粗点を合計し，比例

計算で100点満点に換算する。
【再試験の有無】
なし。
【受講者へのメッセージ】
予習，授業，復習というサイクルを習慣づけて，毎週しっかり学習しましょう。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
毎回の宿題をやっていれば，最低限度の予習，復習が自然にできるでしょう。さらに，教科書で関心を持ったら，自分で探した本を読んで理解を深めるとよいでしょう。
【WEBページ】
http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/shin-kokusai/philosophy/top.html
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
総合科学部１号館北棟１F，088－656－7615
（メールアドレス）
yamaguti@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
毎週火曜日10：30 ～ 11：30

総合科学の基礎D（スポーツ科学の基礎）

Foundations of integrated Sciences : D

２単位（選択必修Ⅱ）全１年（前期）
佐藤　充宏，三浦　　哉，山口　鉄生，佐竹　昌之，中塚健太郎

【授業の目的】
総合科学としてのスポーツ健康科学の視座を身につける。
【授業の概要】
スポーツ健康科学における各領域の研究内容および方法を紹介する。
【キーワード】
スポーツ，運動，健康，科学
【到達目標】
スポーツ健康科学における各領域の研究課題について理解する。
【授業の計画】
１．総合科学としてのスポーツ健康科学とは（佐藤）
２．スポーツ社会学について（佐藤）
３．オリンピックムーブメントについて（佐藤）
４．運動時の身体機能の特性（三浦）
５．身体活動量の評価（三浦）
６．健康づくりのための生活習慣（三浦）
７．体力について（佐竹）
８．スポーツバイオメカニクスについて（佐竹）
９．スポーツコーチングについて（佐竹）
10．病気と傷害について（山口）
11．スポーツ医学について（山口）
12．生命科学について（山口）
13．スポーツ心理学について（中塚）
14．スポーツメンタルトレーニング－身心の自己調整法－（中塚）
15．「心身健康学に向けて」振返討論会（佐藤）
【教科書】
特になし
【参考書】
プリントを配布する。
【教科書・参考書に関する補足情報】
適宜，資料を配布したり，文献等を提示する。
【成績評価方法・基準】
学習内容（50%），レポート･小テスト･課題への取り組み（50%）を総合的に評価する。
【再試験の有無】
無し
【受講者へのメッセージ】
遠慮なく質問してください。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
各教員より指示があります。
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
佐藤　充宏　2M11　088－656－7207
satom@tokushima-u.ac.jp
三浦　　哉　2M17　088－656－7288
hajime－m@tokushima-u.ac.jp
山口　鉄生　２M16　088－656－7209
t－yam@tokushima-u.ac.jp
佐竹　昌之　2M15　088－656－7212
satake．masayuki@tokushima-u.ac.jp
中塚健太郎　2M14　088－656－7213
nakatsuka@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
授業終了後
【備考】
教員の講義担当日は予定を変更することがある。

総合科学の基礎E（心理学の基礎）

Foundations of integrated Sciences: E

２単位（選択必修Ⅱ）全１年（後期）
佐藤　健二，山本真由美，内海　千種，福森　崇貴
佐藤　　裕，津村　秀樹，横谷　謙次，甲田　宗良

【授業の目的】
心理学に関する基礎的な学術的知識を修得している。地域住民の健康増進との関連において，心理学の基礎的な学術的知識を修得している。
【授業の概要】
心理学の各専門分野について，汎用性の高い概論的な授業内容を講義する。グループ毎に調査・発表を行う演習形式，集団実験を用いた実習形式で行うことがある。
【キーワード】
心理学，健康
【到達目標】
１．心理学に関する基礎的な学術的知識を修得している。
２．地域住民の健康増進との関連において，心理学の基礎的な学術的知識を修得している。
【授業の計画】
１．心理学とは（全員）
２．知覚心理学（佐藤(裕)）
３．認知心理学（佐藤(裕)）
４．学習心理学(1)：学習理論の基本概念（津村）
５．学習心理学(2)：学習理論の展開（津村）
６．社会心理学（佐藤(健)）
７．健康心理学(1)：ストレスと認知の観点から（佐藤(健)）
８．生涯発達心理学（山本(真)）
９．発達臨床心理学（山本(真)）
10．家族心理学（横谷）
11．産業心理学（甲田）
12．臨床心理学（内海）
13．健康心理学(2)災害体験がもたらす心身健康への影響（内海）
14．パーソナリティ心理学（福森）
15．医療心理学（福森）
16．総括（佐藤(健)）
【教科書】
使用しない。適宜，資料を配付する。
【参考書】
必要に応じて，講義の中で紹介する。
【成績評価方法・基準】
担当教員の（最終）回に教室レポート有。各担当教員の平均得点の合計得点を担当教員数で除した数が評点。
【再試験の有無】
無
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
事前に資料が提示された場合，予習しておくこと。復習として，授業中に配布した資料を熟読し，理解を深めること。
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
佐藤　健二：佐藤健二（３号館　3S05室，088－656－7202，
satoken@tokushima-u.ac.jp）
山本真由美：山本真由美（3S06，TEL：088－656－7192，
E-mail：yamamotom@tokushima-u.ac.jp）
福森　崇貴：福森　崇貴（3S08）

津村　秀樹：総合科学部３号館　3S03，Tel：088－656－7191
佐藤　　裕：３号館　南棟　3S02
内海　千種：内海千種：総合科学部３号館南棟３階（3S07）
甲田　宗良：総合科学部３号館３階（3S02）
　TEL：088－656－7286
（メールアドレス）
佐藤　健二：satoken@tokushima-u.ac.jp
山本真由美：yamamotom@tokushima-u.ac.jp
福森　崇貴：t.fukumori@tokushima-u.ac.jp
津村　秀樹：tsumura.hideki@tokushima-u.ac.jp
佐藤　　裕：satoyu@tokushima-u.ac.jp
内海　千種：uchiumi@tokushima-u.ac.jp
横谷　謙次：yokotanikenji@tokushima-u.ac.jp
甲田　宗良：mkoda@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
佐藤　健二：木曜日12：15－12：55
山本真由美：木曜日12：15 ～ 12：45
福森　崇貴：水曜日12：00－12：50
津村　秀樹：適宜（事前に連絡して予約をとってください。）
内海　千種：適宜（事前に連絡して予約を取ってください。）
横谷　謙次：適宜（事前に連絡して予約を取ってください。）
甲田　宗良：毎週木曜日　12：00－12：40　総合科学部３号館３階（3S02）　必ず事前にメールにてご連絡ください。

総合科学の基礎F（公共政策学の基礎）

Foundations of integrated Sciences : F

２単位（選択必修Ⅱ）全１年（後期）
小田切康彦

【授業の目的】
現代社会は，環境問題，社会保障問題，介護問題，過疎化等，非常に多様な問題を抱えている。こうした社会全体の問題として認識されるのが公共問題であり，それらをどのように解決するかという方針や手段が公共政策である。本授業では，こうした公共政策の理念や制度，構造等を体系的に学ぶとともに，その現代的動向と課題について理解することを目指す。
【授業の概要】
授業は，まず，公共政策に関する基礎的な知識として，政府・行政機構の概要，政策の体系・過程・手段等について学ぶ（第１回～第６回）。つづいて，環境，福祉，子育て・医療，経済・産業，まちづくり，教育・文化・スポーツ，外交・国際，といった各政策分野の取り組みに関して，近年の動向と課題について検討する（第７回～第13回）。そして，最後に，受講生による簡単な政策コンペを実施し，市民参加の観点から政策問題の解決方策を探る（第14回）。
【キーワード】
公共政策，国家，地方自治体，政策問題，政策分野，政策体系，政策手段，政策コンペ，グループワーク
【到達目標】
１．公共政策の理念と制度体系を説明できる。
２．公共政策学の現代的実態と課題を説明できる。
【授業の計画】
１．ガイダンス：公共政策とは何か
２．公共政策の主体(1)：国家，政府
３．公共政策の主体(2)：地方自治体
４．公共政策の過程：形成，決定，実施，評価
５．公共政策の体系：政策，施策，事務事業
６．公共政策の手段：規制，経済的手法，情報的手法
７．公共政策の事例(1)：環境，循環型社会
８．公共政策の事例(2)：福祉，社会保障
９．公共政策の事例(3)：子育て，医療
10．公共政策の事例(4)：経済，産業
11．公共政策の事例(5)：まちづくり，市民参加
12．公共政策の事例(6)：教育，文化，スポーツ
13．公共政策の事例(7)：外交，国際化
14．ミニ政策コンペ：市民参加と問題解決策
15．試験
16．総括
【教科書】
特に指定しない（毎回，文献・資料等を配布する）。
【参考書】
政策学入門：私たちの政策を考える／新川達郎　編，：法律文化社，2013，ISBN：9784589035288
身近な公共政策論：ミクロ行政学入門／安章浩，新谷浩史　著，：学陽書房，2010，ISBN：9784313320383
政策科学入門／宮川公男　著，：東洋経済新報社，2002，ISBN：9784492250082
【教科書・参考書に関する補足情報】
・授業は毎回配布する資料・レジュメを基にすすめる。
・その他，関連する文献・資料等は授業のなかで随時紹介する。
【成績評価方法・基準】
コミュニケーションペーパー（20％），授業期間中に実施する２回の小レポート（20％），および期末試験（60％）を総合して評価する。
【再試験の有無】
再試験は行わない。
【受講者へのメッセージ】
各種政策問題の理解のため，物事を総合的・多面的に捉える努力が求められる。また，日ごろから社会問題等に関心を払ってほしい。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
・配布した資料・レジュメをよく復習すること。
・授業外学修として公共政策に関する積極的な情報収集，分析等が求められる。
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
総合科学部１号館中棟３階公共政策学研究室（3M23）
　TEL：088－656－7187
（メールアドレス）
yas-kot@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
随時，電話やメール等で予約受付。
【備考】
各回の授業の中で取り上げる事例等は，社会状況や受講生のニーズを踏まえ，事前に説明したうえで変更する場合もある。

総合科学の基礎G（経済学の基礎）

Foundations of integrated Sciences : G

２単位（選択必修Ⅱ）全１年（前期）
内藤　　徹

【授業の目的】
ミクロ経済学やマクロ経済学の理論的な考え方の習得と基本事項を厳密に把握し理解する。
【授業の概要】
本講義では，消費者理論および生産者理論の議論を行った後，完全競争市場を前提とした市場均衡理論などのミクロ経済学，後半はGDPや景気循環を中心としたマクロ経済学を学びます.
【キーワード】
ミクロ経済学，マクロ経済学，消費者理論，生産者理論，市場均衡，市場の失敗，政府の役割
【到達目標】
ミクロ経済学とマクロ経済学の理論的な考え方の習得と基本事項を厳密に把握し理解する。
【授業の計画】
第１回：イントロダクション
第２回：希少性と資源配分
第３回：需要
第４回：供給
第５回：弾力性とシフト
第６回：政策評価：余剰分析
第７回：独占市場
第８回：国内総生産（GDP）とはなにか
第９回：物価指数と実質値
第10回：景気循環と経済成長
第11回：政府の役割と財政政策
第12回：貨幣と金融政策
第13回：経済の成長と経済政策

第14回：ミクロ経済学とその応用
第15回：定期試験
第16回：総括授業
【教科書】
スタートダッシュ経済学／伊ヶ崎大理，佐藤茂春，大森達也，内藤　徹
【参考書】
ミクロ経済学の基礎／小川　光，家森信善著：中央経済社，2016，ISBN：9784502179518
【教科書・参考書に関する補足情報】
基本的には教科書の内容に沿って解説します．徳島大学LMSでレジュメ・講義スライドを公開します．
【成績評価方法・基準】
期末テスト（100％）
【再試験の有無】
無
【受講者へのメッセージ】
この授業では経済理論の初歩を学びます．近代経済学は大きくミクロ経済学とマクロ経済学に分けることができますが，本講義ではその両者を学びます．
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
（予習）
1．講義前にレジュメをダウンロードする．
（復習）
1．講義終了後に公開される講義スライドを参照し，講義中に理解できなかった点や疑問点を確認する．
2．自己学習で解決できない場合は，担当教員に質問等を行い解決する．
【WEBページ】
徳島大学LMS（Moodle）
http://www.ait.tokushima-u.ac.jp/service/list_out/
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
非常勤講師室
（メールアドレス）
contact@kpu.hustle.ne.jp
（オフィスアワー）
講義終了後（当該教室）
【備考】
・本科目は，教員の免許状取得のための必修科目（教科に関する科目（中学校　社会及び高等学校　公民））です．

総合科学の基礎H（社会学の基礎）

Foundations of integrated Sciences: H

2単位（選択必修Ⅱ）全1年（後期集中）
総合科学部社会総合科学科教員

【授業の目的】
高校までに社会学を学んだ人はほとんどいないだろう。そうした人たちに対して，社会学的な思考法を教えることがこの講義の目的となる。身近なところで起こっている社会現象が，どのようなしくみでなりたっているのか，それを意識的に考えてもらうことで社会学のものの見方を身につけてもらうことを目標とする。
【授業の概要】
秩序と逸脱，環境，集団，階層と教育，権力と支配といったテーマに即して，自分の振る舞いやこれまでの歩みを振り返ってもらう。自分がいかに社会のなかで作られているか，自分と社会がいかにしてつながっているのかを，それぞれのトピックに即して解説していく。
【キーワード】
社会構造，役割，地位
【到達目標】
高校までに社会学を学んだ人はほとんどいないだろう。そうした人たちに対して，社会学的な思考法を教えることがこの講義の目的となる。身近なところで起こっている社会現象が，どのようなしくみでなりたっているのか，それを意識的に考えてもらうことで社会学のものの見方を身につけることを目標とする。
【授業の計画】
①オリエンテーション
②規範・監視・契約
③互酬の連鎖としての社会
④合理性と社会
⑤社会的費用と社会的負担
⑥ネットワークと社会
⑦逸脱と犯罪
⑧ジェンダーと社会
⑨LGBTとセクシュアリティ
⑩主観的現実と客観的現実
⑪真実とは何か:映画『羅生門』鑑賞
⑫教育と選別
⑬進学と階層
⑭望ましい選抜方法
⑮総括授業：レポート講評
【教科書】
特になし
【参考書】
関連する書籍リストを初回に配布する。
【成績評価方法・基準】
詳しくはオリエンテーションの際に資料を配るが，授業中の課題が50%，レポート50%を基本とする。到達度で評価されたい場合には，そうした選択肢も用意する。
【再試験の有無】
なし
【受講者へのメッセージ】
活字をたくさん読んでください。それを社会学的に考える方法を講義で話します。
【備考】
この授業は，「中学校・社会」及び「高校・公民」の教員免許状取得のための「教科に関する科目」（必修科目）に該当する。

総合科学の基礎J（SDG'sと地域イノベーション）

Foundations of integrated Sciences: J

2単位（選択必修Ⅱ）全1年（後期）
吉田　敦也

【授業の目的】
持続可能な地域社会の形成とイノベーション加速に向けた新しい視点として，国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）について学び，その意義や有効性について理解を深めると共に，イノベイティブなまちづくりや地方創生への応用／実践力を身につけます。
【授業の概要】
SDGs（Sustainable Development Goals）は2015年9月に開催された国連サミットで採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた世界共通の目標です。「誰一人置き去りにしない」という考え方のもと17のゴールと169のターゲットが取り上げられました。気候変動や貧困など人類全体で取り組むべき大きな社会課題でありながらも，その解決が地方の小さな町の持続に新しい光を灯すことにもつながることから注目されています。本授業では，対話，ピッチ，共感，問題定義，創発，プロトタイピング，プレゼン，テストなどを中心にしたグループワークとアクティブラーニングを基本に，SDGsについて学び，社会変革リーダー人材としての基礎技能を身につけます。前半は17ゴールと169ターゲットからなるSDGsの内容について，ゲーム，ワークショップ，事例研究の形式で学びます。後半は主にプロジェクト演習の形式で，持続可能な地域社会の形成とイノベーションに必要となる創発力，構想力，対話力，ネット検索力，ICT活用力，場づくり，インパクトデザイン，プロトタイピング，コラボレーション，ファシリテーション技法等について学び，地方創生への応用／実践力を身につけます。
【キーワード】
国連，SDGs，持続可能な開発目標，地域社会，イノベーション，地方創生，グループワーク，アクティブラーニング，対話，共感，ピッチ，社会変革，リーダー人材，場づくり，インパクトデザイン，プロトタイピング，コラボレーション，ファシリテーション，実践
【到達目標】
①　SDGsの内容の理解

② SDGsの取り組みが地域資源の再発見やイノベーション加速にもたらす効果の理解
③ SDGsの理解が基礎となったイノベイティブなまちづくりへの応用／実践力への接近

【授業の計画】

1．オリエンテーション
2．持続可能な開発（SDGs）とは
3．SDGsの背景と理念
4．ゲームで学ぶSDGsのゴールとターゲット
5．ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」
6．共有，エンゲージメント，エイジェンシー
7．地域と社会のイノベーションを加速するSDGs
8．事例研究：日本国内でのSDGsの取り組み
9．事例研究：グローバル社会でのSDGsの取り組み
10. SDGsの視点で捉え直す地域の課題と資源
11. 対話でデザインする地域の未来，場づくり，ファシリテーション
12. インパクトデザイン，ムーンショット理論，バックキャスティング思考
13. プロジェクト演習「小さくても世界に輝くまちづくり」①事実の収集
14. プロジェクト演習「小さくても世界に輝くまちづくり」②個の夢で未来を描く
15. プロジェクト演習「小さくても世界に輝くまちづくり」③とにかく形にしてみる
16. 総括，SDGsにおける大学の役割

【教科書】

授業中に紹介する

【教科書・参考書に関する補足情報】

授業中に案内する

【成績評価方法・基準】

評価方法：①知識供与に対する理解度，②グループワークでの発言量，③課題に取組む積極性，④アイデア創出のための論理思考力と振り返りの力，⑤発表会でのピッチやプレゼンのわかりやすさと訴求力の５項目から評価／判定する

【再試験の有無】

無

【受講者へのメッセージ】

つながって情報共有しながら楽しく学ぶことが大切

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】

地域内で行われているSDGs関連の実践プロジェクトに参加する予定です。休日を利用したツアーを企画するので参加できるよう調整してください。

【WEBページ】

授業のなかでリンクを紹介する

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】

（学生用連絡先）
yoshida@tokushima-u.ac.jp
（メールアドレス）
yoshida@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
オンラインで24時間オープン

【備考】

受講にはGoogleドライブやGmailを使った情報共有への対処を前提とする

Academic English Ⅰ（日本文化・時事発信型英語）

Academic English Ⅰ

２単位（選択必修Ⅱ）全１年（前期）
吉田　文美，山田　仁子，山内　暁彦

【授業の目的】

English for Global Purposesをテーマとして，日本文化及び日本時事を扱う英語の文章を学習する中で，高等学校で学んできた英語のルール（英文法・文型の基本など）と単語熟語力を再確認し，英語を読む力と多少早いスピードで聴く力を定着させる．また，英語で「日本」を考え，理解し，既存の英語力で発信できるようにする．

【授業の概要】

日本文化及び日本時事を扱う読解用テキストに沿って，英語で書かれた文章を辞書なしで読み，英問英答等で理解をさらに深める．また，英語による音読を介して，英語の音声を確認する．リーディング，リスニング，スピーキング，プレゼンテーション等の演習を通して，日本の文化や社会に関して英語で表現するための情報発信型コミュニケーション能力を育成する．

【キーワード】

時事英語，英語の基本ルールの確認，リスニング，発音

【到達目標】

No.	到達目標
1	高等学校で学んできた英語のルール（英文法・文型の基本など）と単語熟語力を再確認する．
2	英語で書かれた文章を前から読む力と多少早いスピードで聴く力を定着させる．
3	英語で「日本」を考え，理解し，既存の英語力で発信できるようにする．

【授業の計画】

回	大項目	内　容
1	第１回	ガイダンス（日本時事・文化で本当に知っていることとは）
2	第２回	日本の精神を発信する
3	第３回	日本の伝統文化を発信する
4	第４回	日本の食・住・娯楽を発信する
5	第５回	日本の観光名所を発信する
6	第６回	日本の政治を発信する
7	第７回	日本の産業を発信する
8	第８回	中間プレゼンテーション（日本文化について）
9	第９回	日本のサブカルチャーを発信する
10	第10回	日本の祝日を発信する
11	第11回	日本の気候を発信する
12	第12回	日本の未来を発信する
13	第13回	日本の家族問題を発信する
14	第14回	日本の変化・課題を発信する
15	第15回	中間プレゼンテーション（日本時事について）
16	第16回	期末試験

【教科書】

新・英語で語る日本事情／江口裕之，ダニエル・ドゥーマス：ジャパンタイムズ，2011，ISBN：9784789014267
英語で説明する日本の文化：これ一冊で！日本のことが何でも話せる／植田一三，上田敏子：語研，2009，ISBN：9784876151899

【参考書】

英語で発信する日本小事典　Encyclopedia of Japan【日英対訳】／IBCパブリッシング　編：IBCパブリッシング，2012，ISBN：9784794601803

【教科書・参考書に関する補足情報】

(1) 高等学校で使用した学習用英和辞典に加えて，『リーダーズ英和辞典』（研究社）等の一般向け英和辞典およびLongman Dictionary of Contemporary English，Macmillan English Dictionary，Cambridge Learner's Dictionary，Collins English Dictionaryなどの英語辞典の使用を勧める。紙媒体，電子辞書，オンライン辞典のいずれでも構わない．
(2) 高等学校で使用した文法書（『チャート式総合英語』『ヴィジョンクエスト総合英語』『総合英語Forest』等）は，引き続き利用すること。新たに本格的な英文法書の入手を希望する場合（英語教員志望者等）は，『ロイヤル英文法』，『実践ロイヤル英文法』（ともに旺文社），『英文法解説』（金子書房），Michael Swan著Basic English Usage（Oxford University Press）のいずれかの購入を勧める．

【成績評価方法・基準】

20%　日本文化についてのプレゼンテーション　20%　日本時事についてのプレゼンテーション
20%　提出物（音読ノート，資料収集ログ等）　40%　期末試験

【再試験の有無】

無

【受講者へのメッセージ】

(1) 各クラスの受講者数を適正なものにするため，受講者人数

を３クラス合計70人程度までとして調整を行う。受講希望者が70人を超えた場合には，プレイスメントテストの成績で上位70名程度を受講可とする。クラス配属は，第１週授業でプレイスメントテストと同時に行う希望調査を参考にする。受講可となった場合も，希望のクラスに配属されるとは限らない。

⑵　受講希望者は，第１週の授業の前日正午までに吉田担当クラスにWEB登録を済ませること（他の教員のクラスには登録しないこと／初回のプレイスメントテストの受講ができなくなる）。

⑶　第１週の授業には，受講希望者は全員出席すること。教室は時間割に記載される教室とは異なるので，学務係前の掲示および教務システムからのメッセージ（メッセージは履修登録済みの場合のみ届く）に注意しておくこと。

⑷　第１週の授業では，各クラスの説明を聞き，受講を希望するクラスを申請し，プレイスメントテストを受けること。

⑸　受講の可否とクラス配属は，第２週の授業前に掲示される。掲示の場所と日時については，第１週の授業で伝えられる。

⑹　第２週より各クラスにおいて通常の授業が開講される。

以下の点に注意してください：

１．第１週の授業の前日正午までに登録をしていない者，初回授業を欠席した者は受講不可とする。

２．受講可とされた者の中から削除者が出た場合も，補充は行わない。

３．受講不可となった場合は，速やかに受講登録の削除を行うこと。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】

各クラスの初回授業で説明します。

【WEBページ】

自習用に以下のWEB教材の利用を勧める（履修登録，成績閲覧等に利用する大学のcアカウントとそのパスワードでアクセス可能である）.

『徳島大学　スーパー英語』：https://tse.ait231.tokushima-u.ac.jp/ac2/mem/home/

徳島大学システムサービス一覧（http://www.ait.tokushima-u.ac.jp/service/list_out/）→『スーパー英語』からも利用可能.

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】

（学生用連絡先）

吉田　文美：総合科学部１号館　北棟１階（1N10）
　Tel：088－656－7124

山田　仁子：総合科学部１号館　北棟１階（1N13）
　Tel：088－656－7129

山内　暁彦：総合科学部１号館　北棟２階（2N10）
　Tel：088－656－7132

（メールアドレス）

吉田　文美：yoshida.ayami@tokushima-u.ac.jp

山田　仁子：hiyamada@tokushima-u.ac.jp

山内　暁彦：yamauchi.akihiko@tokushima-u.ac.jp

メールを送る際には，件名に開講時間と授業題目（金曜1－2AE1）と自分の名字を記入する事.

（オフィスアワー）

吉田　文美：木曜日　12：00～13：00　総合科学部１号館　北棟１階　1N10

山田　仁子：月曜日　16：20～17：00　総合科学部１号館　北棟１階　1N13

山内　暁彦：金曜日　12：00～13：00　総合科学部１号館　北棟２階　2N10

Academic English Ⅱ（４技能アカデミック英語入門）

Academic English Ⅱ

２単位（選択必修Ⅱ）全１年（後期）
中島　浩二

【授業の目的】

グローバル化が進む今の世界で要求される国際的なコミュニケーションの力，すなわち必要に応じて情報を集め，情報発信ができるための最低限の英語力の目安としては，海外の大学で英語で行われる授業でのレベルが基準になります。そこでこの授業では，そのレベルを達成するための一段階として，以下の目標を設定しています。⑴英語で行われる大学の授業で必要な英語の基礎技能を習得する。⑵英語の資料を読み，基本的なレベルの英語のレポートを書き，英語でプレゼンテーションができる。

【授業の概要】

大学レベルの英語で行われる授業活動に必要な，ライティング，リーディング，プレゼンテーションの３つの要素を集中的に訓練します。ライティングでは，自分の考えを論理的に提示する英文パラグラフの書き方を習得し，短いレポートにまとめる方法を学ぶ。リーディングでは，主題や論理構成を的確に把握し「必要な情報を得るためのリーディング」を習得。プレゼンテーションでは効果的な話し方やジェスチャー・論理的な構成・視覚にアピールする資料の作成と利用について，基礎訓練を行います。以上のアクティヴィティーについて，随時課題に取り組むことで，使いながら英語を身に着けてゆきます。

【キーワード】

ESL，Academic English，Reading，Writing，Presentation

【到達目標】

⑴　英語で行われる大学の授業で必要な英語の基礎技能を習得する。

⑵　英語の資料を読み，基本的なレベルの英語のレポートを書き，英語でプレゼンテーションができる。

【授業の計画】

第１回：イントロダクション・ガイダンス
第２回：パラグラフの構成
第３回：パラグラフ内の一貫性
第４回：英語レポート・論文の基本構成
第５回：パラグラフから論文へ
第６回：効果的な資料読解―二つのステップ
第７回：効果的な資料読解―辞書とパラフレーズ
第８回：要約を書く
第９回：論文・批評文を書く
第10回：プレゼンテーション―ボディー・ランゲージ
第11回：プレゼンテーション―自己紹介をする
第12回：プレゼンテーション―メモカードを作る
第13回：プレゼンテーション―Show and Tell
第14回：プレゼンテーション―人前の恐怖を克服する
第15回：プレゼンテーション―事実と見解とを区別して論じる
第16回：期末試験

【教科書】

Study Skills for College English 2nd Ed.／慶應義塾大学経済学部英語部会：慶応義塾大学出版会，2011，ISBN：9784766417944

【参考書】

英語のプレゼンテーション／田中真紀子：研究社，2014，ISBN：9784327452681

【教科書・参考書に関する補足情報】

教科書，参考書，あるいは詳しい授業内容について，初回の授業で説明します。

【成績評価方法・基準】

20％　期末試験，30％　ライティング課題，20％　Rewriting提出

15％　プレゼンテーション準備，15％　プレゼンテーション

【再試験の有無】

再試験は行わない。

【受講者へのメッセージ】

国際教養コースへ進むことを考えている学生は１年次に履修することを強く推奨します。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】

大学のオンラインプログラム「スーパー英語」や共通教育の英語科目と組み合わせて，総合的な英語力アップをめざしてください。

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】

（学生用連絡先）

田久保　浩：１号館北棟２Ｆ　2N12，Tel：088－656－7122

中島　浩二：１号館北棟２Ｆ　2N15，Tel：088－656－7151

樋口　友乃：１号館北棟１Ｆ　1N14，Tel：088－656－6173

（メールアドレス）

田久保　浩：h.takubo@tokushima-u.ac.jp

中島　浩二：nakasima.kj@tokushima-u.ac.jp

樋口　友乃：higuchi.tomono@tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）

樋口　友乃　前期：水曜　12：00～13：00　後期：月曜　12：00～13：00　研究室　※必ず前日までに連絡をとること。

【備考】
この授業は「中学校・英語」「高校・英語」の教員免許状取得のための「教科に関する科目」（選択科目）に該当する。

Extensive Reading（英語文法・語彙構築プログラム）

Extensive Reading

2単位（選択必修Ⅱ）全2年（前期）
吉田　文美

【授業の目的】
e-ラーニングを利用した，英語多読及び語彙構築プログラムでの学習を通じて，4000語レベルまでの語彙力・速読力を到達目標とする。継続的自律学習で英語力の維持及び向上をはかる。

【授業の概要】
継続的自律英語学習で読解力，語彙，文法，聴解を総合的に高める。英語に頻繁に触れ，発展的な英語力を多読・語彙の学習習慣で身に着ける。e-ラーニングシステム「スーパー英語」を利用し，週3回の多読（ER）・語彙学習（VT）課題を自律的に行う。ERとVT課題はPlacementテスト結果でレベルが決定し，月曜～火曜と金曜～土曜のER課題と水曜～木曜のVT課題を期日までに行う。

【キーワード】
読解力，語彙，多読

【到達目標】

No.	到達目標
1	4000語レベル程度の語彙力・速読力を養成する。

【授業の計画】

回	大項目	内　容
1	ガイダンス	e-learningシステムの登録・使用方法・Placement Quiz・課題紹介等
2		ER（Level 1）・VT（Introductory 1000 Level，水～木）速読練習
3		ER（Level 1）・VT（Introductory 1000 Level，水～木）ディクテーション
4		ER（Level 1）・VT（Introductory 1000 Level，水～木）単語力クイズ
5		ER（Level 1）・VT（Introductory 1000 Level，水～木）文法練習
6		ER（Level 2）・VT（Pre-Intermediate 2000 Level，水～木）長文理解
7		ER（Level 2）・VT（Pre-Intermediate 2000 Level，水～木）ディクテーション
8		ER（Level 2）・VT（Pre-Intermediate 2000 Level，水～木）速読練習
9		ER（Level 2）・VT（Pre-Intermediate 2000 Level，水～木）単語力クイズ
10		ER（Level 3）・VT（Intermediate 3000 Level，水～木）文法チェック
11		ER（Level 3）・VT（Intermediate 3000 Level，水～木）ディクテーション
12		ER（Level 3）・VT（Intermediate 3000 Level，水～木）長文理解
13		ER（Level 3）・VT（Intermediate 3000 Level，水～木）速読力チェック
14		ER（Level 4）・VT（Advanced 4000 Level，水～木）語彙力測定
15		ER（Level 4）・VT（Advanced 4000 Level，水～木）文法チェック
16	期末試験	

【教科書】
徳島大学『スーパー英語』 https://tse.ait231.tokushima-u.ac.jp/ac2/mem/home/
徳島大学システムサービス一覧（http://www.ait.tokushima-u.ac.jp/service/list_out/）→『スーパー英語』からも利用可能。自習用にも活用することを勧める。

【参考書】
多読術（ちくまプリマー新書）／松岡正剛：筑摩書房，2009，ISBN：9784480688071

【教科書・参考書に関する補足情報】
授業では，『スーパー英語』のSelected Trainingを利用するが，その他の教材も適宜利用して欲しい。

【成績評価方法・基準】
20%　期末試験　（語彙）
20%　毎週の語彙課題
20%　毎週の多読課題
30%　ERの小レポート（x15）
10%　コース後の継続的自律英語学習プラン

【再試験の有無】
無

【受講者へのメッセージ】
(1) 最初の授業にて，プレイスメントテストを受験してもらう。プレイスメントテストの結果で，学習する講座が異なるので，必ず出席すること。各自の学習する講座は，インターネット教材「徳島大学スーパー英語」のSelected Trainingで示される。
(2) 毎週の積み重ねによる読解能力の向上を目指す。出題された課題の提出期限を守ること。
(3) 今年度は前期と後期に1クラスずつ開講するが，同じ内容なので，どちらか1つを受講すること。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
(1) 毎日『スーパー英語』にアクセスする習慣をつけること。
(2) 一週間で出題された課題がこなせるように，各自で学習する計画を立てること。
(3) 提出期限は細かく規定されており，期限を過ぎた提出は認められない。体調の管理にも気を配り，安定して学習に取り組めるよう，生活習慣も見直しておくこと。

【WEBページ】
徳島大学『スーパー英語』 https://tse.ait231.tokushima-u.ac.jp/ac2/mem/home/
徳島大学システムサービス一覧（http://www.ait.tokushima-u.ac.jp/service/list_out/）→『スーパー英語』からも利用可能。自習用にも活用することを勧める。この他に使用するコンテンツは，授業中に指示をする。

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
吉田　文美：吉田文美（1N10）　Tel：088－656－7124，
E-mail：yoshida.ayami@tokushima-u.ac.jp
メールを送る際には，件名に授業題目開講時間と自分の名字を記入する事。
（メールアドレス）
yoshida.ayami@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
吉田　文美：毎週火曜　12：00～13：00　総合科学部1号館北棟1階　1N10

【備考】
この授業は「中学校・英語」「高校・英語」の教員免許状取得のための「教科に関する科目」（選択科目）に該当する。

2．総合科学部
実践学習科目

ページ	配当学年		授　業　科　目	単位数等
139	①	必修	キャリアプラン入門	2　必修
139	①		課題発見ゼミナール	2　必修
146	②	選択必修Ⅰ	キャリアプラン	2 ┐ 8単位以上 必修
147	③		短期インターンシップ	2
147	②		総合科学実践講義A（グローバル文化論）	2
148	②		総合科学実践講義B（心身健康論）	2
149	②		総合科学実践講義C（日本社会経済論）	2
149	②		総合科学実践講義D（メディアアート論）	2
149	②		総合科学実践講義E（地域創生論）	2
150	②		総合科学実践講義F（多文化共生論）（Foundations of Integrated Arts and Sciences：F(Multicultural Society)）	2 ┘
151	②	選択必修Ⅱ	総合科学実践プロジェクトA（グローバル日本語支援）	2 ┐ 2単位以上 必修
151	②		総合科学実践プロジェクトB（サマープログラム協力）	2
152	②		総合科学実践プロジェクトC（心身健康維持）	2
152	②		総合科学実践プロジェクトD（心身健康問題）	2
153	②		総合科学実践プロジェクトE（国際交流・協力体験）	2
154	②		総合科学実践プロジェクトF（政策実践）	2
154	②		総合科学実践プロジェクトG（アート創生）	2
155	②		総合科学実践プロジェクトH（地域社会文化）	2
155	①		総合科学実践プロジェクトJ（海外体験単位認定科目）	2,4 ┘
計				14単位以上

キャリアプラン入門

Introduction to Career Planning

2単位（必修）全1年（前期）
矢部　拓也，栗栖　　聡，柴田　尭史，畠　　一樹

【授業の目的】
大学ならびに総合科学部を取巻く今日の社会環境，および大学生に求められる社会人基礎力やキャリアデザインについて講義し，初年次学生が自律的で有意義な学生生活を構築するとともに，将来の就職との関連で必要な素養，能力，行動力を養う。またweb版キャリア学習ポートフォリオの作成を開始する。

【授業の概要】
今年度は以下の3点を主題とする。
① 大学生に求められる社会人基礎力，キャリアデザインについて講義を受けるとともに，自らのキャリアデザイン形成に役立つWeb版キャリア学習ポートフォリオの意義と作成方法について理解する。
② 総合科学入門講座で受けた適性検査のフィードバックを通じて，大学での学びやキャリアデザインに必要な能力を理解する。
③ 大学生から社会人になるということ（社会的自立）について，外部講師等がそれぞれの立場から行う，企業・社会等において求められる人間像について講義を受け，エンプロイアビリティを高めるということの意義について理解を深める。受講者はそれらを踏まえて自らのキャリアデザイン・ライフプランを作成する。

上記①・②はキャリアデザインに関する一般的な事項であり，③は実際の現場における実例を踏まえた話題提供であるが，これらの内容を受けて最終回までにレポートが課せられる。

なお，manabaシステムやWeb版キャリア学習ポートフォリオを利用して授業の振り返りや課題レポートを提出することとし，それらを授業に反映させることによって，アクティブラーニングを実施する。

【キーワード】
大学，総合科学，地域社会，キャリアデザイン，ポートフォリオ，職業

【到達目標】
大学の現実と課題を各自が理解し，大学における真摯な学び（広い教養と専門的力の養成）の重要性を自覚し，今後4年間の学習計画を立てることによって，卒業後も自律・自立して学習できる姿勢を身に着ける。

【授業の計画】
① 授業の狙い
② 「ブラックバイト対策」「創新センターの紹介」「徳島元気印イノベータープログラム」
③ 巣立ちプログラムとWebポートフォリオ
④ 適性検査の結果返却とレポートの見方
⑤ 総合系学部卒業のキャリアを活かすには
⑥ 裁判員裁判と裁判所職員の仕事（徳島地方裁判所裁判官）
⑦ 地域経済と中小企業1（徳島県中小企業家同友会・ゲストスピーチとWS）
⑧ 地域経済と中小企業2（徳島県中小企業家同友会・ゲストスピーチとWS）
⑨ 地域経済と中小企業3（徳島県中小企業家同友会・ゲストスピーチとWS）
⑩ 求められる社会人基礎力
⑪ マスコミの社会的役割
⑫ 大学院で学ぶこと
⑬ 公務員の仕事
⑭ 次代の若者へ，仕事を創造すること
⑮ キャリアデザインを考える。＋アンケート
⑯ 総括授業（試験）

上記の内容は講師の都合で順番が変更になることなどがあります。

【教科書・参考書に関する補足情報】
参考資料は授業中に配布する。

【成績評価方法・基準】
評価は討論の参加度合，授業の事前課題，レポート，試験により行う。出席状況については，授業時の点呼やWeb版ポートフォリオの授業コメント及びショートレポート（200字程度）で確認する。

【再試験の有無】
再試験の必要な場合は掲示する。

【受講者へのメッセージ】
各講師の授業には全て参加し，レポートを提出すること。討論・発表への自発的参加が重要である。

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
矢部　拓也：1号館南棟1階1S23　社会学研究室
栗栖　　聡：栗栖（2207－1,0886567185,
skurisu@tokushima-u.ac.jp）
畠　　一樹：建設棟3Fキャリア教育推進室　088－656－9320
（メールアドレス）
矢部　拓也：yabe.takuya@tokushima-u.ac.jp
畠　　一樹：hata.kazuki@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
矢部　拓也：希望者は，随時，メールにてアポを取って下さい。
畠　　一樹：授業開講時間帯以外で随時（AM. 10：00－PM. 17：00）建設棟3Fキャリア教育推進室
栗栖　　聡：水曜日午後3時－5時

課題発見ゼミナール総論

Seminar on Approaches to Issues

（必修）全1年（前期集中）
衣川　　仁

【授業の目的】
総合科学部が目指す教育の特色は，①幅広い視野に立って社会の課題を把握する理解力，②情報分析やコミュニケーションなど実践的な技能，③課題解決のため主体的に行動しようとする態度の3つを養うことにある。この授業では，こうした能力の基礎を形成することを目的に，プロジェクト型学習や課題解決型学習に取り組む。大学での学びに必要なスキルを習得するとともに，人間力の育成とコミュニケーション能力の向上を図る。1年次の学生が自律的・能動的な学修を促進するためのプログラム「SIH道場」の一環として開講され，15名程度の少人数クラスで実施する。

【授業の概要】
課題の発見や解決のためには，単に既存の知識から正解を導き出すだけでなく，自律的に考えて問題点を提示する必要がある。また，他者との協働を通じ調査・考察した内容を発表する方法も習得すべきである。この授業はグループ学習を中心に進められ，プレゼンテーションなど汎用的技能の養成や，学修の振り返りなどアクティブラーニングの要素を取り入れた内容となっている。それぞれのクラスで取り上げるテーマは，担当教員の専門研究分野に近い場合もあれば，一般的なスキルを重視した内容の場合もある。また，クラスによっては決められた授業時間外や休暇中に学外で体験学習をおこなうことがある。

【キーワード】
アクティブラーニング，プロジェクト型学習，コミュニケーション能力，協働力，プレゼンテーション
※詳細については，各クラスのシラバスを参照のこと。

【到達目標】
クラスによって異なるが，以下のような技能・能力の育成を大きな目標とする。
1．コミュニケーション能力（協働力）　2．プレゼンテーション能力　3．レポート作成能力　4．文献調査・情報収集能力
各クラスの目標については，担当者ごとに示されたシラバスを参照すること。

【授業の計画】
クラスによって異なるが，以下の要素から複数のものの組み合わせとなる。
1．ディスカッション　2．プレゼンテーション　3．レポート作成　4．体験学習　5．講読　6．その他
※詳細については，各クラスのシラバスを参照のこと。

【教科書】
各クラスのシラバスを参照のこと。

【参考書】
各クラスのシラバスを参照のこと。

【教科書・参考書に関する補足情報】
各クラスのシラバスを参照のこと。
【成績評価方法・基準】
各クラスのシラバスを参照のこと。
【再試験の有無】
各クラスのシラバスを参照のこと。
【受講者へのメッセージ】
どのクラスに配属されるかは，「総合科学入門講座」の授業中に希望調査をおこない，抽選によって決定する。受講するクラスの担当教員は，副担任として学生生活全般の相談にも対応してくれる。ただし，どのクラスを受講するかは２年次以降のコース配属に影響しない。
【WEBページ】
各クラスのシラバスを参照のこと。
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
各クラスのシラバスを参照のこと。
（メールアドレス）
kinugawa@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
月曜日10：30－12：00　１号館北棟２階　衣川研究室
（事前にメール等による連絡があれば，この限りではありません）

課題発見ゼミナール

Seminar on Approaches to Issues

２単位（必修）全１年（後期）
河田　和子

【授業の目的】
① 一つのテーマについて関連する文献を検索する。
② 役割を分担して調査研究を行う。
③ 建設的なディスカッションを行い，合意形成を行う。
④ 説得力のある原稿を作成する。
⑤ 説得力のあるプレゼンテーションを行う。
⑥ 他のチームのプレゼンテーションを適切に評価する。
【授業の概要】
基本的な流れは，複数の対立する見解のあるテーマについての論文を読み，根拠となる資料を提示しつつ自分の見解を述べる。特に，政治，経済，社会，歴史など多岐にわたる時事問題を扱う。
夏休み前に課題を提示するので，第１回目の授業ではその内容について発表する。レジュメ作成，プレゼンテーションの技法を身に付けた後に，小グループに分かれて調査研究を行い，学期末に発表会を行う。
また土曜日または日曜日を利用し，学外の機関を訪問することも予定している。
発表会では，「評価シート」にもとづいて他のチームの発表を相互に評価する。発表会は，他の課題発見ゼミの一部のクラスと合同で行う。
【キーワード】
文章表現力　学外機関訪問　共同研究　プレゼンテーション
【到達目標】
① 文章表現力を身につける。
② 共同して調査研究する力を身につける。
③ プレゼンテーションの技能を身につける。
【授業の計画】
① 学生による夏休みの学習成果の発表
② 学生による夏休みの学習成果の発表
③ プレゼンテーションの評価基準，文献検索法等について講義
④ 研究テーマの設定(1)：書籍を読み，内容を報告する
⑤ 研究テーマの設定(2)：書籍を読み，内容を報告する
⑥ 研究テーマの設定(3)：各人の設定したテーマをすり合わせてグループ分けを行う
⑦ グループワーク(1)：テーマに即した論文を読み，内容を報告する
⑧ グループワーク(2)：テーマに即した論文を読み，内容を報告する
⑨ グループワーク(3)：発表原稿の構成を考える
⑩ グループワーク(4)：発表原稿の構成に即して，自分の担当部分に関連する論文を読み，原稿を作成する
⑪ グループワーク(5)：自分の担当部分に関連する論文を読み，原稿を作成し，発表原稿の構成を再考する
⑫ 途中経過発表会
⑬ 発表原稿の作成(1)：発表原稿を完成させる
⑭ 発表原稿の作成(2)：パワーポイントファイルを作成し，出来栄えを確認する
⑮・⑯ 発表会
【教科書】
コピペと言われないレポートの書き方教室／山口裕之：新曜社，2013，ISBN：9784788513457
【参考書】
夏休み前のガイダンス，講義中に適宜提示する。
関連する文献を検索する技法を講義するので，自分たちで探すように。
研究の初期には本を，テーマが絞れてきたら論文を読むように。
英語の文献も探し出して読むように。
【成績評価方法・基準】
授業への事前準備・グループワークへの積極的な参加・プレゼンテーションの出来栄え（「評価シート」にもとづく）によって評価する。
【再試験の有無】
なし
【受講者へのメッセージ】
この授業では物事を考える技術・方法について学修しますが，それは文章を読み取る力，論理的な文章を書く力を身につけることと関係します。特に，論理的な文章を書くことにより深く考える力も養われます。自分の意見を的確に伝えるために（発表原稿など），論理的で説得力のある，分かりやすい文章が書けるようトレーニングします。書くのが苦手な人も，自分の考えを文章にまとめることがだんだん楽しくなるよう，そのコツをしっかり習得し練習していきましょう。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
普段から本をたくさん読むこと。
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
総合科学部１号館2N18日本近現代文学研究室
（オフィスアワー）
総合科学部１号館2N18日本近現代文学研究室

課題発見ゼミナール

Seminar on Approaches to Issues

２単位（必修）全１年（後期）
荒武　達朗

【授業の目的】
① 一つのテーマについて関連する文献を検索する。
② 説得力のある原稿を作成し、プレゼンテーションを行う。
③ 数人のグループで調査、報告を行い協働力を養う。
【授業の概要】
一つのテーマについて，多方面から調査研究し，妥当な見解を作り上げる技能を身につける。今年度は「（本クラスでは心理学を題材とした）当たり前を疑う」をテーマとする。夏休み前に関連する文献を提示するので，夏休み中に読んでくること。後期の最初の授業では，関連する内容を講義する。その後，小グループに分かれて調査研究を行い，学期末に発表会を行う。発表会では，「評価シート」にもとづいて他のチームの発表を相互に評価する。発表会は，他のクラスと合同で行う予定である。
【キーワード】
文章表現力・共同研究・プレゼンテーション
【到達目標】
① 文章表現力を身につける。
② 共同して調査研究する力を身につける。
③ プレゼンテーションの技能を身につける。
【授業の計画】
① 学生による夏休みの学習成果の発表
② 学生による夏休みの学習成果の発表
③ プレゼンテーションの評価基準，文献検索法等について講義
④ 研究テーマの設定(1)：書籍を読み，内容を報告する
⑤ 研究テーマの設定(2)：書籍を読み，内容を報告する

⑥　研究テーマの設定(3)：学外機関の訪問
⑦　グループワーク(1)：テーマに即した論文を読み，内容を報告する
⑧　グループワーク(2)：テーマに即した論文を読み，内容を報告する
⑨　グループワーク(3)：発表原稿の構成を考える
⑩　グループワーク(4)：発表原稿の構成に即して，自分の担当部分に関連する論文を読み，原稿を作成する
⑪　グループワーク(5)：自分の担当部分に関連する論文を読み，原稿を作成し，発表原稿の構成を再考する
⑫　グループワーク(6)：自分の担当部分に関連する論文を読み，原稿を作成し，発表原稿の構成を再考する
⑬　発表準備(1)：発表資料を完成させる
⑭　発表準備(2)：発表資料を用いたプレゼンテーションの練習を行う
⑮・⑯　発表会

【教科書】
コピペと言われないレポートの書き方教室：３つのステップ：コピペから正しい引用へ／山口裕之　著，：新曜社，2013，ISBN：9784788513457

【教科書・参考書に関する補足情報】
特になし。

【成績評価方法・基準】
（「評価シート」にもとづく）によって評価する。

【再試験の有無】
なし

【受講者へのメッセージ】
最初からうまくできる人はいません。練習を積み重ねることで自分の考えを説得的につたえる力が身につきます。また土曜日または日曜日に学外に行くことがあります（1，2回を予定）。正規の授業ですので欠席は認めません。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
新聞講読，テレビのニュース・ドキュメンタリー番組の視聴を通じて社会に対する関心を高めておくこと。

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
荒武達朗，２N07
（メールアドレス）
aratake@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
月～金　８：15～35
あるいはメールでアポをとること。

課題発見ゼミナール

Seminar on Approaches to Issues

２単位（必修）全１年（後期）
熊坂　元大

【授業の目的】
①　一つのテーマについて関連する文献を検索する。
②　役割を分担して調査研究を行う。
③　建設的なディスカッションを行い，合意形成を行う。
④　説得力のある原稿を作成する。
⑤　説得力のあるプレゼンテーションを行う。
⑤　他のチームのプレゼンテーションを適切に評価する。

【授業の概要】
一つのテーマについて，多方面から調査研究し，妥当な見解を作り上げる技能を身につける。今年度は「倫理的消費：何が求められていて，何が問題なのか」をテーマとする。夏休み前に関連する文献を提示するので，夏休み中に読んでくること。後期の最初の授業では，関連する内容を講義する。その後，小グループに分かれて調＞査研究を行い，学期末に発表会を行う。発表会では，「評価シート」にもとづいて他のチームの発表を相互に評価する。発表会は，他の課題発見ゼミの一部のクラスと合同で行う。

【キーワード】
文章表現力　共同研究　プレゼンテーション

【到達目標】
①　文章表現力を身につける。
②　共同して調査研究する力を身につける。
③　プレゼンテーションの技能を身につける。

【授業の計画】
①　学生による夏休みの学習成果の発表
②　学生による夏休みの学習成果の発表
③　プレゼンテーションの評価基準，文献検索法等について講義
④　研究テーマの設定(1)：書籍を読み，内容を報告する
⑤　研究テーマの設定(2)：書籍を読み，内容を報告する
⑥　研究テーマの設定(3)：各人の設定したテーマをすり合わせてグループ分けを行う
⑦　グループワーク(1)：テーマに即した論文を読み，内容を報告する
⑧　グループワーク(2)：テーマに即した論文を読み，内容を報告する
⑨　グループワーク(3)：発表原稿の構成を考える
⑩　グループワーク(4)：発表原稿の構成に即して，自分の担当部分に関連する論文を読み，原稿を作成する
⑪　グループワーク(5)：自分の担当部分に関連する論文を読み，原稿を作成し，発表原稿の構成を再考する
⑫　グループワーク(6)：自分の担当部分に関連する論文を読み，原稿を作成し，発表原稿の構成を再考する
⑬　発表準備(1)：発表資料を完成させる
⑭　発表準備(2)：発表資料を用いたプレゼンテーションの練習を行う
⑮・⑯　発表会

【教科書】
コピペと言われないレポートの書き方教室：３つのステップ：コピペから正しい引用へ／山口裕之　著，：新曜社，2013，ISBN：9784788513457

【教科書・参考書に関する補足情報】
夏休み前のガイダンス，講義中に適宜提示する。
関連する文献を検索する技法を講義するので，自分たちで探すように。

【成績評価方法・基準】
授業の事前準備・グループワークへの積極的な参加・冬休みレポート提出・プレゼンテーションの出来栄え（「評価シート」にもとづく）によって評価する。

【再試験の有無】
なし

【受講者へのメッセージ】
「考えること」と，それを「他者に伝えること」は，誰もが日常的に行っています。しかしそこに「論理的に」や「わかりやすく」といった修飾語をつけ加えると，誰もが簡単にできることではなくなります。この授業は，そのための技術の習得に向けた練習機会です。積極的に臨んでください。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
日頃から新聞を読むなどして，社会の出来事についての情報を摂取し，その背景について考えること。

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
総合科学部１号館1N11　Tel　088－656－7150
（メールアドレス）
kumasaka@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
研究室にて随時．ただしメール等にて事前に相談すること．

課題発見ゼミナール

Seminar on Approaches to Issues

２単位（必修）全１年（後期）
佐藤　健二

【授業の目的】
本ゼミナールの目的は，臨床心理学・健康心理学・社会心理学に関する社会的課題について，（グループで）身の回りから発見し，その解決策をプレゼンテーションし，聞き手と議論することを通して，その理解を深めることである。

【授業の概要】
臨床心理学，健康心理学，社会心理学に関する社会的課題について教員が講義した後，文献調査・実地調査をグループごとに実施し，調査結果を発表し，議論する。

【キーワード】
臨床心理学　健康心理学　社会心理学　調査　プレゼンテーション
【到達目標】
1　臨床心理学・健康心理学・社会心理学に関する社会的課題を見つけ出すことができる
2　自らの意見・考えを正しく文章化する能力を身につける
3　プレゼンテーション能力を習得する
【授業の計画】
1　ガイダンス
2－3　講義，グループ案の呈示，グループ分け，発表の順番決め
4－6　文献調査（文献の検索，収集，読解，まとめ方）
7－8　文献調査報告（レジュメのまとめ方と発表の仕方に関する議論）
9－11　実地調査（学校内外における調査など）
12－13　実地調査の結果の発表の準備（プレゼンテーションの仕方）
14－15　実地調査の結果の発表
16　まとめ
【教科書・参考書に関する補足情報】
適宜，授業の中で紹介する
【成績評価方法・基準】
授業での発言，プレゼンテーションの成果から総合的に評価する
【再試験の有無】
なし
【受講者へのメッセージ】
臨床心理学，健康心理学，社会心理学に関する社会的課題を題材にして，文献や実地による調査の仕方，プレゼンテーションや議論の仕方を学ぶ授業です。そのため，通常の開講時間外で実施する場合があります。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
文献および実地調査とその発表に向けて，関連する資料を用いて予習と復習をしてください。
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
佐藤健二（３号館3S05室, 088－656－7202, satoken@tokushima-u.ac.jp）
（メールアドレス）
satoken@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
木曜日12：15－12：55

課題発見ゼミナール

Seminar on Approaches to Issues

２単位（必修）全１年（後期）
佐藤　　裕

【授業の目的】
①　一つのテーマについて関連する文献を検索する。
②　役割を分担して調査研究を行う。
③　建設的なディスカッションを行い，合意形成を行う。
④　説得力のある原稿を作成する。
⑤　説得力のあるプレゼンテーションを行う。
⑥　他のチームのプレゼンテーションを適切に評価する。
【授業の概要】
一つのテーマについて，多方面から調査研究し，妥当な見解を作り上げる技能を身につける。今年度は「(本クラスでは心理学を題材とした）当たり前を疑う」をテーマとする。夏休み前に関連する文献を提示するので，夏休み中に読んでくること。後期の最初の授業では，関連する内容を講義する。その後，小グループに分かれて調査研究を行い，学期末に発表会を行う。発表会では，「評価シート」にもとづいて他のチームの発表を相互に評価する。発表会は，他のクラスと合同で行う予定である。
【キーワード】
文章表現力・共同研究・プレゼンテーション
【到達目標】
①　文章表現力を身につける。
②　共同して調査研究する力を身につける。
③　プレゼンテーションの技能を身につける。
【授業の計画】
①　夏休みの学習成果の発表
②　夏休みの学習成果の発表
③　プレゼンテーションの評価基準，文献検索法等について講義
④　研究テーマに関する講義
⑤　研究テーマの設定(1)：関連書籍を読み，内容を報告する
⑥　研究テーマの設定(2)：各人の設定したテーマをすり合わせてグループ分けを行う
⑦　グループワーク(1)：テーマに即した文献の内容報告・議論
⑧　グループワーク(2)：テーマに即した文献の内容報告・議論
⑨　グループワーク(3)：発表原稿の原案を構想し，不足部分を詰める
⑩　グループワーク(4)：発表原稿の作成
⑪　グループワーク(5)：発表の予行練習
⑫　途中経過発表会
⑬　発表原稿の完成(1)：発表原稿の内容を完成させる
⑭　発表原稿の作成(2)：発表資料・担当部分の確認・レイアウトの整備
⑮・⑯　発表会
【教科書】
コピペと言われないレポートの書き方教室：３つのステップ：コピペから正しい引用へ／山口裕之　著，：新曜社，2013，ISBN：9784788513457
【教科書・参考書に関する補足情報】
夏休み前のガイダンス，講義中に適宜提示する。
関連する文献を検索する技法を講義するので，自分たちで探すように。
【成績評価方法・基準】
授業への事前準備・グループワークへの積極的な参加・プレゼンテーションの出来栄え（「評価シート」にもとづく）によって評価する。
【再試験の有無】
なし
【受講者へのメッセージ】
自分の考えや主張を他者に納得・理解させるためには，どのように話を組み立て，どのような資料を準備する必要があるでしょうか？この授業では，調査研究を通して，そのスキルを身につけてもらいます。積極的に授業に臨んでください。

課題発見ゼミナール

Seminar on Approaches to Issues

２単位（必修）全１年（後期）
三浦　　哉

【授業の目的】
本授業では，「健康づくり」，「競技力向上」をテーマに，地域での中高齢者の健康づくり支援，ジュニアアスリートの競技力向上支援の二つを通じて，指導する力，測定する力，分析する力などを養うことを目的とする。
【授業の概要】
中高齢者の身体機能の特性，中高校生の競技力の現状を理解し，それに対する運動／トレーニングの効果，身体機能の測定方法・分析方法を習得し，実際にフィールドで測定評価，データ分析を行う。さらに，得られた結果を基に課題解決策を模索する。また，受講生相互で課題に対して意見交換してもらい，その意見を共有する。
【キーワード】
健康，スポーツ，身体機能，測定評価
【到達目標】
1　健康に関連した身体の機能・構造について理解できる
2　身体機能を適切な手法で測定・評価できる
3　データを基に課題解決策の提案を思考できる
【授業の計画】
1　ガイダンス
2　「健康」，「体力」，「スポーツ」について
3　体脂肪の測定評価
4　筋肉量の測定評価

5　中高齢者向け体力測定Ⅰ
6　中高齢者向け体力評価方法
7　体脂肪の測定評価方法
8　筋力・筋出力の測定評価方法
9　ハイパワーの測定評価方法
10　ミドルパワーの測定評価方法
11　身体活動量の測定方法
12　運動時のエネルギー消費量の測定評価
13　エネルギー摂取量の測定評価
14　データ解析
15　課題対策
16　総括

【教科書・参考書に関する補足情報】
教務事務システムを通じて資料等を事前に配布します。

【成績評価方法・基準】
成績評価は授業への取り組み姿勢，小レポートなどによる評価（30点）と，プレゼンテーションを含む期末試験による評価（70点）から総合的に評価（合計100点）する。

【再試験の有無】
無

【受講者へのメッセージ】
本授業が学外実習を含むため，通常の開講時間外で実施する場合があります。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
予習として，次回の授業内容に関するキーワードを伝え，事前に関係資料を熟読する。

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
三浦　哉　２M17　応用生理学研究室　088－656－7288
hajime-m@tokushima-u.ac.jp
（メールアドレス）
hajime-m@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
木曜日　11：50 ～ 12：50　応用生理学研究室

課題発見ゼミナール

Seminar on Approaches to Issues

２単位（必修）全１年（後期）
清水　真人

【授業の目的】
①法律問題に関する新聞記事，重要判例，法律文献の購読を通じて，世の中で生じている重要な法律問題について自ら考える能力を身に付ける。②ゼミナール参加者との議論を通じて，相手の意見を的確に理解するとともに，自己の意見を説得的に相手方に伝える能力を身に付ける。③課題レポートの作成・提出を通じて，自分の意見を読み手に正確に伝えるための文章の書き方を身に付ける。

【授業の概要】
本ゼミナールでは，消費者問題および近時マスコミ等に取り上げられている法律問題について，それらに関する文献を購読するとともに，ゼミナール参加者全員でそれらの問題について議論を行います。それにより，それらの問題について理解を深めるとともに，それらの問題が抱える課題を発見し，その課題解決に向けた方策を自ら考える力を身に付けてもらいたいと考えています。

【キーワード】
法律問題に関する課題発見，法律文献の購読，重要判例の検討，新聞記事の購読，法律問題の議論

【授業の計画】
第１回：学生生活における契約の検討－売買契約，賃貸借契約，労働契約，在学契約などの検討
第２回：消費者契約について考える－消費者契約法，特定商取引法の概要など
第３回：消費者金融について考える－消費者金融の実態，利息制限法の概要など
第４回：悪質商法について考える－被害者にならないようにするための方策に関する議論
第５回：金融商品取引について考える－多様な金融商品の登場に伴う課題の検討
第６回：ブラックバイトについて考える－被害の実態，防止策の検討
第７回：ギャンブル依存症対策について考える(1)－実態の把握，業界の状況などの確認
第８回：ギャンブル依存症対策について考える(2)－ギャンブル依存症等対策基本法の検討
第９回：児童虐待防止について考える(1)－被害の実態，法制度の状況の確認
第10回：児童虐待防止について考える(2)－判例法の展開，法改正の検討
第11回：成年後見制度について考える(1)－現状と課題の検討
第12回：成年後見制度について考える(2)－成年後見制度利用促進法，整備法の検討
第13回：夫婦別姓制度について考える(1)－平成27年12月16日最高裁判決の検討など
第14回：夫婦別姓制度について考える(2)－
第15回：キャンパスハラスメントについて考える(1)－被害の実態，具体的事案の検討
第16回：キャンパスハラスメントについて考える(2)－被害防止のための体制整備についての議論
※重大事件の発生や重要判例の公表などにより，ゼミナールで取り上げる問題の順番や内容を適宜変更することがあります。

【参考書】
私法の道しるべ／我妻榮著；遠藤浩，川井健補訂：勁草書房，2013，ISBN：9784326498444
消費者の権利／正田彬著：岩波書店，2010，ISBN：9784004312321
ブラックバイト：学生が危ない／今野晴貴著：岩波書店，2016，ISBN：9784004316022
ギャンブル依存国家・日本：パチンコからはじまる精神疾患／帚木蓬生著：光文社，2014，ISBN：9784334038311
成年後見制度：法の理論と実務／新井誠，赤沼康弘，大貫正男編：有斐閣，2014，ISBN：9784641136588

【教科書・参考書に関する補足情報】
各自，ポケット六法やデイリー六法などの小型六法を用意してください。

【成績評価方法・基準】
ゼミナールにおける質疑応答，議論での発言（50パーセント）
課題レポート８回（50パーセント）

【再試験の有無】
再試験は一切行わない。

【受講者へのメッセージ】
今日では，法制度を理解し，具体的紛争を解決するための法的思考力を身に付けることがますます重要になっています。このゼミナールを通じて課題発見能力を養ってください。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
参考文献やゼミナールでの配布資料を読んで予習・復習を行ってください。

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
まずは，masa10shimizu@yahoo.co.jpにメールで連絡してください。
（メールアドレス）
masa10shimizu@yahoo.co.jp
（オフィスアワー）
時間帯：水曜日14時30分～ 16時
場所：附属図書館１階ラウンジ
それ以外にも適宜，質問や学習相談等に応じますので，メールで連絡してください。

課題発見ゼミナール

Seminar on Approaches to Issues

２単位（必修）全１年（後期）
上原　克之

【授業の目的】
本授業では，基本的人権に関する裁判例を素材として，今後の授業を履修するうえで基礎となる，資料を読み解く力，論理的思考力，報告・討論する力，論理的文章を書く力等を養うことを目

的とします。
【授業の概要】
はじめの２～５回目は，ウォーム・アップとして裁判例に関係ないテーマで自由に討論していきます。６回目以降，報告者をきめ，報告者はテキストを読んで裁判例に関するレジュメを作成して報告します。報告者以外の参加者は事前にテキストを読んだうえで報告内容について討論・検討していきます。後日，報告者は，報告及び討論・検討内容についてレポートを提出します。都合がつけば，裁判の傍聴なども行いたいと思います。
【キーワード】
基本的人権
自由
自己決定権
【到達目標】
１　論理的思考力の養成
２　報告・討論する力の養成
３　論理的文章を書く能力の養成
【授業の計画】
１　ガイダンス
２～５　自由テーマ討論
６　髪型の自由
７　バイクに乗る自由
８　再婚の自由
９　プライバシー権
10　歴史的文化的環境権
11　取材の自由
12　アクセス権
13　自己情報開示請求権
14　平等権
15　生存権
16　総括授業ないし裁判の傍聴（未定）
【教科書】
基本的人権の事件簿　憲法の世界へ（第６版）／棟居快行他：有斐閣，2019，ISBN：9784641281356
【成績評価方法・基準】
各課題毎に課すレポート（80％）と出席や授業への取組みなどの平常点（20％）により評価します。
【再試験の有無】
再試験は実施しません
【受講者へのメッセージ】
しっかり予習をして，授業中は積極的に発言するようにしてください。
新聞等を読んで（ネットだけではだめ），社会の中で起こっていることに関心をもってください。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
テキストを読んでテキストに書かれているポイントをまとめる。
根拠を明らかにしたうえで自分の考えを明確にする。
疑問に思った点を図書資料，インターネットを活用して調べる。
授業中，他の人の意見をメモしておく。他の人に対する自分の意見も考える。
授業で討論して，教員の説明を聞いてもわからない点をさらに自分で調べてみる。
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
行政法研究室（総合科学部１号館中棟３階３M18）
Tel：088－656－7173
（メールアドレス）
uehara@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
水曜日12：00－12：50
行政法研究室（総合科学部１号館中棟３階３M18）

課題発見ゼミナール

Seminar on Approaches to Issues

２単位（必修）全１年（後期）
趙　　彤

【授業の目的】
学習に必要な情報をどのように入手するのか，著書や論文をどう読むのか，レポートをどのように書くのか，研究成果をどう発表し議論するのか。本授業では，大学で学ぶうえで必要となる文章を論理的に読み書きする能力に加え，ディスカッション能力やプレゼンテーション能力等を修得することを目的とする。なお，担当者の研究分野が社会科学に属することから，内容は社会科学的アプローチが中心となる。
【授業の概要】
授業では，次の４つのテーマを扱う。第１は，図書館やデータベース等を利用して文献・資料・データ等を効果的に収集する方法についてである。第２は，そうした文献・資料・データ等の読み方，理解の仕方についてである。第３は，文献・資料・データ等に基づくレポートや論文の書き方についてである。第４は，学習内容や研究成果をプレゼンテーションする方法と発表後のディスカッションの方法についてである。
毎回の授業の進め方について，授業前半部分は担当教員から各テーマに関する解説を行う。授業後半は，各テーマに関連する受講生ワークショップを行う。ワークショップでは，発想法ワーク，グループ・ディスカッション，ディベート等を行う。
【キーワード】
アカデミック・ライティング，クリティカル・リーディング，プレゼンテーション，ディスカッション
【到達目標】
１．文献・資料・データ等の収集ができる。
２．文章を論理的に読み理解できる。
３．文章を理論的に書くことができる。
４．自身の関心についてプレゼンテーションできる。
５．社会問題の解決方法について他者とコミュニケーションを取りながら討議できる。
【授業の計画】
１．ガイダンス
２．大学での学び：論理的思考力
３．情報を集める(1)：論文・資料等の探索・収集
４．情報を集める(2)：データベース等を用いた情報の探索・収集
５．情報を集める(3)：調査等を用いたデータの収集
６．文献を読む(1)：情報の整理法
７．文献を読む(2)：クリティカル・リーディングⅠ
８．文献を読む(3)：クリティカル・リーディングⅡ
９．論文・レポートを書く(1)：文章表現
10．論文・レポートを書く(2)：学術的文章と形式
11．論文・レポートを書く(3)：論文執筆法
12．発表する(1)：プレゼンテーションの手法Ⅰ
13．発表する(2)：プレゼンテーションの手法Ⅱ
14．議論する(1)：ディスカッションとディベートⅠ
15．議論する(2)：ディスカッションとディベートⅡ
16．総括
【教科書】
とくに指定しない。
【参考書】
アカデミック・スキルズ＝Academic Skills：大学生のための知的技法入門／佐藤望　編著，湯川武，横山千晶，近藤明彦　著，：慶応義塾大学出版会，2012，ISBN：9784766419603
大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法／松本茂，河野哲也　著，：玉川大学出版部，2007，ISBN：9784472403439
大学生学びのハンドブック：勉強法がよくわかる！／世界思想社編集部　編，：世界思想社，2008，ISBN：9784790713746
【教科書・参考書に関する補足情報】
・授業は配布する資料・レジュメを基にすすめる。
・文献・資料等は授業のなかで随時紹介する。
【成績評価方法・基準】
授業への取り組み状況（コミュニケーションペーパー及び小レポート：60％），および課題レポート（40％）を基に評価する。
【再試験の有無】
再試験は行わない。
【受講者へのメッセージ】
ディスカッションやディベートへの積極的な参加を期待する。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
・配布する資料・レジュメをよく復習すること。
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
総合科学部１号館中棟３階公共政策学研究室（3M23）

TEL：088－656－7187
（メールアドレス）
zhaotong@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
随時，電話やメール等で予約受付。
【備考】
授業の中で取り上げる小テーマは，社会状況や受講生のニーズを踏まえ，事前に説明したうえで変更する場合もある。

課題発見ゼミナール

Seminar on Approaches to Issues

2単位（必修）全1年（後期）
中村　豊

【授業の目的】
「大学で学ぶ方法」について，その基本を知ることを目標とします。身近なフィールドワークを題材に，自ら考える，調べる，発表する，協力し合いながらひとつの成果を作り出す体験を通して，大学で学ぶ方法の一例を修得します。
【授業の概要】
大学での学びは，教えられたことをそのまま実践するこれまでの学びとは異なって，自らの考えを表現するため，その過程としての行動が重要となってきます。本講義では，身近なフィールドワークやものづくりを通して，自ら考え，調べたことを，グループでの協働を通して表現する場とします。徳島城下町など身近なフィールドワーク，石器作りなどを通して得た疑問，興味をグループで協議し，最終的にはプレゼンテーションをおこないます。
【キーワード】
フィールドワーク，ものづくり，協働作業
【到達目標】
フィールドワークの方法を学ぶ。
自ら考え，行動する習慣を身につける。
共同で意見を出し合い，発表する方法を学ぶ。
【授業の計画】
1．ガイダンス，自己紹介
2．フィールドワークとは何か
3．フィールドワーク1　徳島大学周辺
4．フィールドワーク2　徳島城下町
5．フィールドワーク3　徳島城
6．フィールドワークをふり返る。
7．人類の歴史ともの作りの重要性
8．もの作り1　石器作り
9．もの作りを後世に残す　拓本採り
10．もの作りをふり返る。
11．グループ発表1　テーマ設定
12．グループ発表2　資料集め
13．グループ発表3　資料集め
14．グループ発表4　準備
15．グループ発表5　本番
16．総括授業
【教科書・参考書に関する補足情報】
適宜配布。
【成績評価方法・基準】
授業への取り組み，ミニレポート（30%），課題（30%），グループ発表（40%）
【再試験の有無】
無し。
【受講者へのメッセージ】
授業の計画は，若干変更することがあります。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
フィールドワークやもの作りは，事前に基本的なことを図書館などで調べておくことが重要である。授業で気になったこと，興味を持ったことはそのままにせず，さらに掘り下げるべく質問や図書館で調べるべきである。
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
中村　豊（総合科学部1号館南棟1階1S27,656－7155,
nakamura.yutaka@tokushima-u.ac.jp）
（メールアドレス）
nakamura.yutaka@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
火曜日　PM.12：30－PM.15：00　1号館南棟1階1S27
その他，メールにて調整の上対応

課題発見ゼミナール

Seminar on Approaches to Issues

2単位（必修）全1年（後期）
平木　美鶴

【授業の目的】
本授業ではアートについて調査研究を行い，ディスカッションによる合意の後，プレゼンテーションおよび実行をする。
【授業の概要】
徳島県内のギャラリーや美術館を調査してアートが地域振興や住民に与える影響などを考え，実際に徳島県立近代美術館にてアートボランティアとして経験を実践することで実践までのスキルを養う。
【キーワード】
アート
【到達目標】
アートによる地域貢献を考え実践できる
【授業の計画】
1，ガイダンス
2，描くことについて
3，展示することについて
4，鑑賞について
5，ギャラリーの視察
6，ギャラリー経営について調査
7，美術館の視察
8，美術館のアートボランティアについて
9，展覧会企画としてアイディアを考える
10，展覧会企画として良いアイディアを選び討論
11，アイディアを実践する準備
12，アイディアを実践1
13，アイディアを実践2
14，アイディアを実践3
15，アイディアを実践4
16，まとめ　実践の成果報告
【再試験の有無】
再試験なし
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
地域創生コース絵画表現研究室
2号館東棟2階，部屋番号E203
（メールアドレス）
hiraki.mitsuru@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
2号館東棟2階，部屋番号E203
火曜日12時～13時

課題発見ゼミナール

Seminar on Approaches to Issues

2単位（必修）全1年（後期）
衣川　仁

【授業の目的】
〈大学で学ぶための力〉を高めることを目的とします。学ぶための力とは，具体的には読むこと，書くこと，調べること，考えること，意見を述べること，意見を聞くこと，批判すること…など，数多あります。それらについて，自分で必要だと自覚したうえで，大学での学びに向きあえるようになることを目指します。
【授業の概要】
読むこと，書くこと…など多様な事柄を身につけるために，様々な素材を使って様々な問題を考える予定です。その際，全体を通した大きなテーマとして「歴史」を設定しておきます。あらゆる

モノ・コト・ヒトに歴史がありますが，それぞれの歴史（過去）は，普通は目の前には無いため，普段の生活でそれを意識することもほとんどないことが多いでしょう。ですが，歴史を踏まえて見直してみると，今までとはちょっと違って物事が見えてくることもあります。〈歴史（過去）を知ったくらいで見方が変わるか〉という考え方もあろうかと思いますが，〈歴史を踏まえて考える〉ことは様々な分野で応用できるはずです。個人に加えてグループとしての〈歴史を踏まえて考える〉調査・報告に取り組み，また小説や映画を通じて〈歴史を踏まえて考える〉ことも試みたいと思っています。（ただし，進み具合や時間の都合で扱えなくなるかもしれません）

【キーワード】

歴史

【到達目標】

日本語の論理的な文章を読み，書き，理解できる。
自ら考える姿勢を身につける。
そのために何をやるべきか，自覚できるようになる。
歴史的に考えるとはどういうことか，理解できる。

【授業の計画】

1．ガイダンス・自己紹介
2．グループ報告１・テーマ設定
3．グループ報告２・調査
4．グループ報告３・発表
5．映画をみる１
6．映画をみる２
7．小説を読む１
8．小説を読む２
9．個人報告１・テーマ設定
10．個人報告２・調査
11．個人報告３・発表
12．グループ報告４・テーマ設定
13．グループ報告５・調査
14．グループ報告６・調査
15．グループ報告７・発表
16．総括授業・まとめ

【教科書】

なし。適宜配布する。

【参考書】

なし。

【教科書・参考書に関する補足情報】

適宜配布します。

【成績評価方法・基準】

授業中の課題・発表（40％），授業中の取り組み（議論に参加する姿勢や発表に対するコメント等，30％），授業後の課題（レポート等，30％）などにより評価します。

【再試験の有無】

無

【受講者へのメッセージ】

「授業の計画」はあくまで大まかな予定であり，多少変更する場合があります。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】

図書館で歴史関係の本を借りて読んでみましょう。

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】

（学生用連絡先）
１号館北棟２階（２N02）　088－656－7153
（メールアドレス）
kinugawa@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
月曜日10：30～12：00　研究室（１号館北棟２階）

キャリアプラン

Career Planning

２単位（選択必修Ⅰ）全２年（前期）
畠　　一樹

【授業の目的】

受動的な思考・行動により，自分の「ありたい姿」の認識があいまいとなり，社会に適応するために必要とする能力や素養の養成が鈍化することで，入社後の就職ミスマッチなど様々な問題が顕在化している。

本授業を通して，キャリア形成に関する知識を理解するだけでなく，自らが課外活動を通して自分のありたい姿を実現するための行動計画を立てるとともに，授業終了後もセルフマネジメントができるように下地づくりを行う。

【授業の概要】

1）時代の変遷を知り，現代社会にどのような課題があるのかを考えるとともに，将来，どのような人生を送るのかを自分の内面に問いかけながら気づきを積み上げ，自己理解を深める。
2）自分のありたい姿を実現するために，より具体的かつ長期的に将来ビジョンを描き，現状との比較により，自己の課題設定を行う。
3）学生生活において課題の解決に取り組むための行動計画を立てるとともにセルフマネジメントの方法について学ぶ。
※授業のスタイルとして，随時，質疑応答，グループワーク，ディスカッションなどアクティブラーニングの要素を取り入れる。また，web版キャリア学習ポートフォリオを利用して，毎授業後に気づきなどを授業コメントを通じて作成するとともに，第７，12回の授業時にそれぞれレポート課題が出される。

【キーワード】

思考，自己理解，行動計画，セルフマネジメント，求められる人材

【到達目標】

1）自己理解を深め，将来ビジョンができるだけ具体的に描ける。
2）将来ビジョンと現状の差異（課題）を把握し，その解決に取り組むための行動計画が策定でき，具体的な行動を始めることができる。
3）行動する上での課題解決力や人間関係の形成について理解する。

【授業の計画】

1．ガイダンス
2．社会背景と課題を考える
3．求められる人材
4．思考力を養う
5．感性・精神性を養う
6．自分のあり方を考える
7．自己理解・自己啓発
8．事例を学ぶ(1)
9．事例を学ぶ(2)
10．課題・到達目標の設定
11．実行機会・手段の設定
12．課題解決力を考える
13．人間関係の形成
14．行動計画の完成
15．総括授業，進路情報，アンケート

【教科書】

適宜資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【教科書・参考書に関する補足情報】

キャリア関係の情報（就職，インターンシップなど）は，キャリア支援室（教養教育４号館１F）にて閲覧することが出来ます。また，キャリアカウンセラーへの相談も可能です。

【成績評価方法・基準】

到達目標の達成度を，キャリア学習ポートフォリオ（学習記録）の①授業コメント，②レポートコメント，および副教材による③EQ検査の受診と④付随するワークシートの中の「目標づくりシート」により評価する。

４項目の評価合計（100点満点）が60点以上を合格とする。

【受講者へのメッセージ】

1）原則としてすべての講義に出席し，授業コメントおよびレポートコメントの提出は期限厳守のこと。
2）キャリア学習ポートフォリオを継続的に利用することでキャリア形成に必要な情報を蓄積すること。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】

本講義を知識として理解するだけではなく，課外活動において主体的に行動し，試行錯誤を繰り返すことで，知識の知恵化に取り組んでください。

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】

（学生用連絡先）
建設棟３Fキャリア教育推進室

088－656－9320
（メールアドレス）
hata.kazuki@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
授業開講時間帯以外で随時（AM. 10：00－PM. 17：00）　建設棟３Fキャリア教育推進室

【備考】

１）受講希望者が定員を超える場合は受講者調整を行いますので，指定の期日までに必ず履修登録を済ませておいて下さい。登録されていない場合は，受講できないことがあります。

２）副教材を予定しています。購入額については2200円（税込）となります。履修手続き時（学務係掲示板）および第１回講義（ガイダンス）にあらためて周知します。

短期インターンシップ

Short Term Internship

２単位（選択必修Ⅰ）全３年（前期）
畠　　一樹

【授業の目的】

学生が，在学中に企業や団体の実務の現場で，仕事を通して自己実現を図り，職業観・人生観の育成を行い，自らの専門能力向上にもつなげられること。インターンシップの意義とは，①自主性・独創性のある人材育成②理論の実践による学習効果の向上③企業が求める人材要件の明確化がある。学生にとっての意義は，「社会人として働くということはどのような事なのかを知る」「自分がどういう職業や業種に向いているのかを選択するための経験」「今後の学生生活の目標を明確にする」「就職希望である業種の実情を知りたい」「社会経験を通じて自分に足りない能力を見つける」などがあげられる。

【授業の概要】

①インターンシップとは，企業・行政機関・公益法人・団体等における実習・研修的な就業体験を通じて，自らの将来計画におけるキャリア・デザインについて考える授業である。②前半の事前学習では，学外研修の準備としての知識等を修得する。特にエントリーシートの書き方，企業が何を見ているかについて，グループディスカッション等を通じて学ぶ。③後半では，各自５日間の学外研修を受ける。④社会の一員としてのマナーや責任感や厳しさを体験することにより，自己啓発の機会を得る。

【キーワード】

事前学習，学外研修，インターンシップ，キャリア・デザイン

【到達目標】

①事前学習により，社会人として必要な知識を理解し，社会人，職業人として相応しい行動がとれる。②学外研修で実習テーマの内容を理解するとともに，課題解決に努め，これらの内容を報告書にまとめる能力を養う。

【授業の計画】

１．オリエンテーション・就職活動・大学生活におけるインターンシップの位置づけ
２．事前学習：企業の調べ方・企業情報を探す
３．事前学習：エントリーシートの作成⑴自己分析，自己PRとは
４．事前学習：エントリーシートの作成⑵エントリーシートの組み立て
５．事前学習：エントリーシートの作成⑶志望動機を考える
６．事前学習：グループ討議の基本
７．事前学習：グループ討議：インターンシップの目標設定
８．事前学習：グループ討議：他者評価・相互評価
９．事前学習：ビジネスマナー，インターンシップの心構え
10．学外研修：⑴研修，日誌（授業コメント）作成
11．学外研修：⑵研修，日誌（授業コメント）作成
12．学外研修：⑶研修，日誌（授業コメント）作成
13．学外研修：⑷研修，日誌（授業コメント）作成
14．学外研修：⑸研修，日誌（授業コメント）作成
15．学外研修：⑹講評とまとめ（報告書）

【教科書】

なし

【参考書】

なし

【教科書・参考書に関する補足情報】

適宜資料等を配布する。

【成績評価方法・基準】

事前学習（１～９回）で出席を２／３未満の場合は成績評価の対象外とする．学外研修先の評価も参考とする．

５日間以上のインターンシップの実施が必須である．合計(100点満点）が60点以上を合格とする。

【受講者へのメッセージ】

提出物は締切日を厳守のこと。

学外研修の日程と他の講義の日程が重ならないように注意すること。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】

授業においてワークを多用するが，十分な時間が確保できないこともある。その際には自学自習にて理解を深めること。

【WEBページ】

なし

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】

（学生用連絡先）
建設棟３Fキャリア教育推進室　088－656－9320
（メールアドレス）
hata.kazuki@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
授業開講時間帯以外で随時（AM. 10：00－PM. 17：00）　建設棟３Fキャリア教育推進室

【備考】

キャンパス教育支援システムの「ポートフォリオ」には，インターンシップの情報が数多く掲載されている。大学経由のインターンシップ情報は，就職支援サイトなどに掲載されない優良企業や専門性の高い研修が数多い。各自確認すること。

インターンシップに参加する際には，何を学びたいのか，何を中心課題とするのかなどの具体的な視点や課題をもって臨むこと。また，「知っている」「わかる」から「できる」姿勢で臨む。一例として「あいさつ」がある。つまり，物事に取り組む際の主体性の発揮とコミュニケーション力（発信力・傾聴力）の強化を図ること。さらに，課題発見・発想力強化に役立つことができるようにする。「短期インターンシップ」を通じて，得たいものは何か，思い浮かんだ言葉やキーワードを文字でマッピングしてみる。安易な取り組みに成果は期待できない。就職したい企業，希望の職種，必要な能力は何か。インターンシップで多くの気づき・学びを得ること。

総合科学実践講義A（グローバル文化論）

Issues in integrated Sciences A

２単位（選択必修Ⅰ）全２年（前期）
依岡　隆児，田島　俊郎，新田　元規

【授業の目的】

文学・文化・思想研究を中心に，世界の様々な文化に対して好奇心を抱き，学際的・総合的な比較文化研究の考え方を多面的に示し，グローバル化する世界の文化について，課題や問題点を抽出しながら考察する。この授業を通して，学生はグローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができ，かつ多文化・異文化理解や専門的知識の体系化を通じて，自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解することができる。

【授業の概要】

従来の専門分野にとらわれず，比較という手法を用いながら，学際的・総合的な文化研究を目指していく比較文化的考え方を理解することを目的とする。「比較という方法」「学際性」「総合性」をキーにしてセクションを設け，その枠の中で個別のテーマで論じていく。具体的には，日本を含む世界の様々な文化の在り方や影響関係について，担当の教員が「未知の世界に触れる」「違いを楽しむ」「つながりを見つける」「グローバル化時代における文化を考える」の４セクションに分けて，それぞれのセクションに担当教員が各１回程度講義を提供する。その際，それぞれにテーマを提示したうえで，自分の専門領域から具体的な事例を出しながら論じていく。「自文化と異文化」「文学（レトリック，物語・民間伝承など）」「宗教」「思想」「異文化教育」「映像表現」「文化交流」などからテーマは選ばれることになろうが，その際にも，具体的な話題から普遍的な文化の問題を掘り下げる。

【キーワード】
比較文化，異文化理解，学際性，文化交流，文化変容
【到達目標】
1　国際的感覚を涵養することができる，
2　総合的な文化研究の基本を身につけている．
3　グローバル化する世界の文化について多面的に理解できる。
【授業の計画】
1　ガイダンス　担当教員全員参加
2　導入：比較文化とは何か？　依岡
3　未知の世界に触れる 「雑」という方法：寺田寅彦・山口昌男　依岡
4　未知の世界に触れる　悪はどう表現されてきたか。主に絵画表現　田島
5　未知の世界に触れる　16・17世紀日本におけるキリスト教との接触―キリシタン文献における「破邪」と「顕正」―　新田
6　違いを楽しむ　メルヒェンと民族　依岡
7　違いを楽しむ　他者はどう認識されたか，オリエンタリズム　田島
8　違いを楽しむ　18世紀日本における異文化／自文化認識――蘭学と国学の時代――　新田
9　つながりを見つける　文化交流の場としてのサロン・カフェ　依岡
10　つながりを見つける　ジャポニスムとジャパン・エクスポ　田島
11　つながりを見つける　幕末日本の異文化経験―イギリス人外交官の見た徳島，仙台藩士の見たアメリカ―　新田
12　グローバル化時代における文化を考える　依岡（＋ゲスト？）
13　グローバル化時代における文化を考える　田島（＋ゲスト？）
14　グローバル化時代における文化を考える　19世紀末～20世紀初における「欧化」と「国粋」 ―「明治新世代」の日本認識―　新田
15　授業の総括　担当教員全員参加
【教科書】
必要に応じてプリントなどを配布する．
【参考書】
各教員から授業の中で課題図書が示される．
【成績評価方法・基準】
期末レポートと出席・平常点．期末レポートは３人の教員が提示した課題図書の中からどれか一冊を選び，それを元に授業の内容を踏まえながら論じるもの．平常点は出席，あるいは授業メモの提出によって行う．期末レポート50%，出席・平常点・授業メモ50%
【再試験の有無】
無
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
授業で紹介された文献などは，読んでおくことが望ましい。また授業中に配布したプリントは熟読しておくこと。
【WEBページ】
http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/culturescomparees/2014.html
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
いずれも１号館北棟
新田　元規　2N04　088－656－7161
田島　俊郎　2N08　088－656－7144
依岡　隆児　2N21　088－656－7143
（メールアドレス）
新田　元規：arata.motonori@tokushima-u.ac.jp
田島　俊郎：tajima@ias.tokushima-u.ac.jp
依岡　隆児：yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
新田　元規：水曜日10：00 ～ 13：00　2N04
田島　俊郎：木曜日12：00 ～ 13：00　2N08
依岡　隆児：火曜日12：00 ～ 12：50　2N21

総合科学実践講義B（心身健康論）

Issues in integrated Sciences B

２単位（選択必修Ⅰ）全２年（前期）
山本真由美，福森　崇貴，佐藤　充宏，山口　鉄生

【授業の目的】
健康問題は時代を反映する。その時代の病める部分が個人にも社会にも健康問題として表れてくる。本講義では，現代社会において問題とされている心身健康に関する一連のテーマを扱い，その原理や対処法の学習を通じて心身健康問題の本質を理解することを目的とする。
本科目は，総合科学実践プロジェクトC（心身健康維持）と総合科学実践プロジェクトD（心身健康問題）の基礎となる科目として位置づけられている。
【授業の概要】
現代社会における心身健康に関連する諸問題をスポーツ社会学，心理学，医学の面から概説し，自らの問題として考えてもらう。講義形式を基本として進める。途中でグループでの話し合い，グループワークを取り入れる。
【キーワード】
心，身体，健康，環境，医療，福祉
【到達目標】
1．心身の健康に関する基礎知識（医学的知識を含む）を身につける。
2．医療・産業・福祉などの多様なフィールドに関する知識を身につける。
3．地域社会で活躍する能力の育成：それらの問題に対してどのような対応がなされているかを知る。
【授業の計画】
1．ガイダンス（山本真由美）
2．虐待について（山本真由美）
3．愛着障害について（山本真由美）
4．社会における虐待の背景と予防と対応（山本真由美）
5．ストレスとは：ストレスの定義とその影響（福森）
6．ストレスとは：ストレスへの対処（福森）
7．心－身－社会のつながり（福森）
8．前半まとめ（山本真由美・福森）
9．プロスポーツによるまちづくり（佐藤充宏）
10．障がい者とスポーツ（佐藤充宏）
11．スポーツによるユニバーサルデザイン（佐藤充宏）
12．生活習慣病（山口）
13．運動器障害（山口）
14．リハビリテーションと社会復帰（山口）
15．後半まとめ（佐藤充宏・山口）
16．総括（全員）
【教科書】
発達心理学をアクティブに学ぶ／山本真由美編著：北大路書房，2017，ISBN：9784762830044，本授業の第２～４回で使用する。他の山本真由美の授業でも使用する。
【教科書・参考書に関する補足情報】
教科書を使用する（山本真由美の回）。その他，適宜，資料を配付する。視聴覚機器などを利用する。
【成績評価方法・基準】
担当者別に授業中にレポート課題・試験を実施する。４名の教員の評価を平均した点数が総合評価となる。
【再試験の有無】
無
【受講者へのメッセージ】
授業の目的を理解し，積極的に各テーマに関わってください。
本科目は，平成27年度入学生の「健康と福祉」の読み替え科目である。
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
山本真由美：3S06，TEL：088－656－7192，
E-mail：yamamotom@tokushima-u.ac.jp
佐藤　充宏：１号棟２階2M11（スポーツ社会学研究室）
TEL　088－656－7207
福森　崇貴：3S08
山口　鉄生：2M16

（オフィスアワー）
山本真由美：木曜日12：15 ～ 12：45
山口　鉄生：授業開講時に指示する
福森　崇貴：水曜日　12：00－12：50

総合科学実践講義C（日本社会経済論）

Issues in integrated Sciences C

２単位（選択必修Ⅰ）全２年（前期）
趙　　彤

【授業の目的】
グローバル化が進む世界経済のなかでの日本経済の特徴や課題について理解を深める。
【授業の概要】
日本の経済や社会を見る上で知っておくべき論点である日本的経営とこれからのAIの技術進歩について，それぞれ世界的な視野から基本的な知識を学ぶとともに，今後のあり方について考える。
【キーワード】
日本型経営，年功序列終身雇用，AIと雇用，AIと日本経済
【到達目標】
農産物貿易をめぐる諸問題について基本的な知識を修得している。
日本的経営の実態，及びグローバル化への企業の対応についての基本的な知識を修得している。
【授業の計画】
第１回　イントロダクション
第２回　日本型経営について（全般）
第３回　日本的経営（年功序列終身雇用――豊田）
第４回　日本的経営（系列――豊田）
第５回　日本的経営（グローバル競争の失敗その１――ソニー）
第６回　日本的経営（グローバル競争の失敗その２――シャープ）
第７回　日本的経営（グローバル競争の成功――ソフトバンク）
第８回　日本型経営のまとめ
第９回　ディープラーニングの３条件
第10回　モバイル決済の重要性
第11回　AIが経済に与えるインパクト　その１
第12回　AIが経済に与えるインパクト　その２
第13回　AI　VS　人間
第14回　AI時代のために我々の準備とは
第15回　講義のまとめ
【教科書・参考書に関する補足情報】
教科書・参考文献については，担当教員から指示する。
【成績評価方法・基準】
授業への取り組み（評価の10%），２回の中間テスト（評価の90%）を基にして，担当者の評価を総合して最終評価を行う。成績評価の対象とされるためには担当者の授業の２／３以上の出席が必要だが，やむを得ない事情で欠席する場合には，その旨を担当者に申し出ること。
【再試験の有無】
無し
【受講者へのメッセージ】
日本の経済社会の様々な論点について関心を持ち，それらについて日頃から新聞やテレビなどのニュースや解説を通じて考えるようにしてください。
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
１号館３F　3M21号室　088－656－7176
（メールアドレス）
zhaotong@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
授業の前及び授業終了後

総合科学実践講義D（メディアアート論）

Issues in integrated Sciences D

２単位（選択必修Ⅰ）全２年（前期）
河原崎貴光，平木　美鶴，石田　基広，掛井　秀一，佐原　　理

【授業の目的】
メディアと芸術を用いた地域活性化の例を紹介しつつ，実制作に役立つ知識を身につける。
【授業の概要】
メディア，アート，地域をキーワードとしたオムニバス形式の講義。メディアに関する表現や地域との関わりを重視した表現と共に，メディアとアートを用いた地域活性化の事例や技術的側面も紹介する。授業中に小レポートを課すこともある。
【キーワード】
芸術・地域・メディア
【到達目標】
メディアと芸術を用いた表現と地域活性化事例の理解。
【授業の計画】
第１回　ガイダンス
第２回　河原崎担当「インスタレーションとパブリックアートについて」
第３回　河原崎担当「インターネットとメディアアートについて」
第４回　平木担当「アートによる街作りについて（全国での取り組みについて）」
第５回　平木担当「LED作品による街作りについて（徳島大学の取り組みについて）」
第６回　掛井担当「コンピュータによる表現」
第７回　掛井担当「VRの成り立ち」
第８回　佐原担当「特別講義」
第９回　佐原担当「デザイン思考－イノベーションの方法論」
第10回　佐原担当「プロトタイピングと実践」
第11回　石田担当「オープンデータと地域政策」
第12回　石田担当「地方のためのオープンデータ活用法」
第13回　まとめ
第14回　まとめ
【教科書・参考書に関する補足情報】
特になし
【成績評価方法・基準】
出席とレポート
【再試験の有無】
なし
【受講者へのメッセージ】
実践への応用を前提とした講義の為，能動的な参加を心がけること。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
アートフェスティバルや地域活性化事業について調べておくこと。
【WEBページ】
なし
【備考】
なし

総合科学実践講義E（地域創生論）

Issues in integrated Sciences E

２単位（選択必修Ⅰ）全２年（前期）
桑原　　恵，矢部　拓也，内藤　直樹，塚本　章宏，高橋　晋一
豊田　哲也，田口　太郎，渡辺　克典，中村　　豊，衣川　　仁

【授業の目的】
地域の社会文化現象や地域課題，フィールドワークに関わる基本的理解を深めるとともに，徳島県内で活躍している地域の中核アクター（NGOや地域のリーダー，県・市町村職員等）講師を交えながら，地域の持続的発展に関する活動のあり方や今後の課題について考える。
【授業の概要】
テレビや新聞などのメディアを通じて，県内の過疎高齢化，地域文化の衰退，災害リスク，鳥獣害問題，中心市街地の衰退といっ

た「地域の問題」について見聞きしたことはあると思います。同様に，そうした情報を通じて，さまざまな地域おこし／町おこし活動も紹介されていますが，そうした地域的な課題がなぜ生じてきたか，そうした課題に対して地域や地域住民はどの様に対応しようとしてきたか，さらにはそうした課題・現象をどう捉え，どう対処すべきなのか，問題を体系的に捉え直す必要があります。

この授業では，地域の社会文化的現象をテーマに地域課題への理解を深めるとともに，県内地域の持続的発展に資する活動の第一線にいるさまざまな立場の外部講師も交え，「地域問題」の解決にかかわる地域創生の実践を比較検討します。そのことを通じて，「地域社会」「地域文化」の複雑な構成やその動態に関する知見を獲得するとともに，地域問題を解決して持続可能な地域をつくるための総合的な理論と手法を学びます。この講義はフィールドワークに基づく「地域科学」への入口になります。

【キーワード】

地域づくり，まちづくり，開発／発展，地域問題，地域文化，地域政策，文化財保護と活用，総合科学

【到達目標】

1．具体的な地域問題が発生する仕組みを社会構造・文化構造との関連で把握することができる．
2．地域社会の特質を人文・社会・自然科学を総合して把握できる．

【授業の計画】

1．イントロダクション：「地域創生」とは何か（桑原／矢部）

【第一クラスター：地域創生と文化】

2．講義「埋蔵文化を活かす地域創生」（中村）
3．講義「GISを活かした地域創生」（塚本）
4．講義「地域文化の資源化と地域創生」（高橋）
5．講義「伝統農業と地域文化」（内藤）
6．講義「地域文化とまちづくり」（矢部）
7．講義「文化財・歴史資料と地域文化」（桑原）
8．講義「フィールドワークの方法（歴史資料調査）」（桑原）
9．講義「フィールドワークの方法（地域社会調査）」（矢部）

【第二クラスター：地域創生と環境・まちづくり】

10. 外部講師「徳島県の人口問題・地域創生」（豊田）
11. 外部講師「徳島県における野生動物被害対策」（内藤）
12. 外部講師「文化財を利用した防災教育」（桑原）
13. 外部講師「住民によりそった地域づくりの可能性」（田口）
14. 外部講師「市民が主役のまちづくり」（矢部）
15. 討論「まちづくりと文化創生を考える」（桑原／矢部）
16. 総括「後期　総合科学実践プロジェクトの今後予定」（桑原／矢部）

【教科書】

用いない。配布レジュメに即して進行する。

【参考書】

アクション別フィールドワーク入門／武田丈，亀井伸孝　編，：世界思想社，2008，ISBN：9784790713111

授業中に適宜紹介する。

【教科書・参考書に関する補足情報】

授業ごとのテーマに応じた資料を，適宜紹介します。

また，講師の方々は，彼ら自身が生きた教材です。積極的に質問をしたり，時には彼らの活動に参加するなどして実践的な知識を身につけてください。

【成績評価方法・基準】

毎回の授業で出される課題（80％）ならびに討論への参加状況（20％）によって単位を認定する。

授業担当者は毎回交代し，その都度，課題が出されて授業終了時に提出になりますので，できるだけ欠席しないようにしてください。

【再試験の有無】

行わない。

【受講者へのメッセージ】

講義担当者の都合などにより，講義の順序が変更（日程変更）されることがあります。その場合でも，全体の内容には変更ありません。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】

授業中に紹介された事例の中で関心があるものについて，自分で掘り進める。あるいは自分の目で見るために，教員や講師の先生にお願いするなどして活動に参加することはとても良いことだと思います。

授業の最後の討論で，グループ別に発表してもらうことを予定していますので，授業の中でとくに関心を持ったテーマについては概念や課題，課題解決の方法などを各自が調べておいてください。

【WEBページ】

なし。

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】

（学生用連絡先）
桑原　　恵：総合科学部１号館北棟２階　2N16　日本史研究室（088－656－7157）
矢部　拓也：１号館南棟１階1S23　社会学研究室（088－656－9321）
（メールアドレス）
桑原　　恵：megumik@tokushima-u.ac.jp
矢部　拓也：yabe.takuya@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
桑原　　恵：時間を指定せず，学生からのメールを受けて時間を調整して適宜対応する。
矢部　拓也：希望者は，随時，メールにてアポを取って下さい。

【備考】

講師の方のご都合などで，講師や日程の変更があり得ます。

総合科学実践講義F（多文化共生論）

Foundations of Integrated Arts and Sciences:F (Multicultural Society)

２単位（選択必修Ⅰ）全２年（前期）
SCHIEDGES OLAF

【授業の目的】

This course increases student awareness of historical and contemporary aspects about minorities in Japanese society through examining current media reports.

【授業の概要】

Students taking this course use English in settings that vary from casual conversation to the style of presentations common in academic conferences or business meetings. Students gain experience in choosing topics and materials used during classes. Note taking exercises provide practice in selecting and summarizing essential details of presentations made by native and non-native speakers of English. A wide variety of topics are discussed in class and many of those topics are chosen by students.

【キーワード】

Current media, comparative culture, Japanese society, multiculturalism and migration

【到達目標】

Students in this course will have experience using English to describe orally and in writing their own opinions and experiences as well as commenting on the experiences and viewpoints of others. Oral presentation exercises make students more comfortable in public speaking. Students increase confidence in their foreign language ability by taking a course offered entirely in English by a non-Japanese instructor.

【授業の計画】

1. Course outline, student's responsibilities, presentations
2. What do we mean by "Multiculturalism"? - definitions, theories and examples
3. Multicultural societies - examples, pros and cons of migration : multicultural Japan - an overview
4. Minorities in Japan: LGBT people, Otaku culture, subcultural diversity
5. Issues of migration to Japan/ foreign workers and residents in Japan
6. Mixed nationalities and children in Japan/Japanese communities abroad
7. Refugees in Japan/ Vietnamese people in Japan
8. People from India, Pakistan and Bangladesh in Japan
9. Korean people in Japan, Chinese people in Japan
10. Ryukyuans/Okinawans in Japan/ Ainu people in Japan
11. Nikkei (Japanese Brasilians, Peruvians, Argentinians)
12. The Jewish people in Japan, The Islamic and Christian

community in Japan
13. Returnees to Japan/ Discrimination in Japan/ Crime by foreigners
14. Education for foreign children/ Language issues
15. NGO's and volunteers supporting a multicultural Japan
16. Summary and final discussion
[Note: This schedule is tentative and may be modified due to class size or other factors.]

【教科書・参考書に関する補足情報】
Information will be given in first class.

【成績評価方法・基準】
Class presentations and written summaries of presentations, oral/written examinations and participation will be used for evaluation. Tentative evaluation scheme: Power Point Presentation=30%, Report 40%, Participation in class 30%.

【再試験の有無】
None

【受講者へのメッセージ】
Do not miss more than 3 classes! And come to class on time!
Sleeping in class is strictly forbidden!
Recommended reading about the subject of the course:
Ali Rattansi (2011) - Multiculturalism. A very short introduction. New York: Oxford University Press

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
Olaf Schiedges, Building 1, 1st floor, room No. 09;
phone: 088-656-7136
（メールアドレス）
olaf@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
Friday, 16:20-17:50, Building 1, 1st floor, room No. 09

総合科学実践プロジェクトA（グローバル日本語支援）

Integrated Science Project A

2単位（選択必修Ⅱ）全2年（後期）
村上　敬一，田久保　浩

【授業の目的】
地域や国内外において日本語の支援を必要とする日本語学習者の現状を知り，そこに可能な日本語による支援を考え，実践する。
日本語による支援の実践を通じて，多文化共生，異文化に対する理解を深める。

【授業の概要】
日本国内に15万人超，海外には400万人を超える日本語学習者が存在する。私たちの身近にも，留学生，社会人，子どもたちと，さまざまな背景を持つ日本語学習者が増加の傾向にある。
この授業では，徳島大学の留学生の日本語，徳島県内，日本国内外の日本語学習者について，日本語学習の支援を必要とする人たちの現状を知り，そこにどのような支援ができるか考え，実践する。

【キーワード】
日本語支援　日本語教育　多文化共生　異文化理解

【到達目標】
日本語学校や留学生との交流といった社会体験に基づいて，多様な価値観を理解できるようになるとともに，国際社会の一員としての意識のもとに，グローバル化が進む現代社会に対応できるようになる。

【授業の計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　日本における日本語教育の現状　その１
第３回　日本における日本語教育の現状　その２
第４回　留学生との日本語交流　その１
第５回　留学生との日本語交流　その２
第６回　地域における日本語教育の現状　その１
第７回　地域における日本語教育の現状　その２
第８回　留学生との日本語交流　その１
第９回　留学生との日本語交流　その２
第10回　日本語学校との交流の準備　その１
第11回　日本語学校との交流の準備　その２
第12回　日本語学校見学　（KIJ語学院　その１）
第13回　日本語学校見学（KIJ語学院　その２）
第14回　日本語学校見学（京進ランゲージアカデミー神戸校　その１）
第15回　日本語学校見学（京進ランゲージアカデミー神戸校　その２）
第16回　総括授業

【教科書・参考書に関する補足情報】
必要な資料，情報は，適宜授業の中で紹介します。

【成績評価方法・基準】
概ね以下の点から（　　）内の割合で評価します。
授業への参加度（40%）
徳島大学の留学生に対する日本語支援のレポート（30%）
地域の日本語学習者に対する日本語支援のレポート（30%）

【再試験の有無】
再試験，再評価は行わない。

【受講者へのメッセージ】
日本語に軸足を置いた国際交流に関心のある人を歓迎します。学内外での留学生との交流も多いので，日本語教育に興味があり，積極的に授業参加できる人の受講を期待します。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
日本語による交流を活発に行ないますので，以下の点に留意してください。
【予習】交流授業の準備を入念に行なうこと。
【復習】交流授業の様子を詳しく記録し，異文化理解，多文化共生に生かすこと。

【WEBページ】
KIJ語学院
http://www.kij123.com/Jp/
京進ランゲージアカデミー神戸校
http://www.kla.ac/jp/
国際交流基金関西国際センター
http://www.jfkc.jp/

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
総合科学部１号館２F　２N19
（メールアドレス）
murakami.kei@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
火曜日　11：00－12：00　村上研究室

総合科学実践プロジェクトB（サマープログラム協力）

Integrated Science Project B

2単位（選択必修Ⅱ）全2年（後期集中）
吉岡　宏祐

【授業の目的】
この授業の目的は，グローバリゼーションが進展する現代の世界において，多様な文化・信条・背景を持った人々との相互理解を深めるために，本学部で実施するサマースクールプログラムに参加する海外からの留学生に用意されるさまざまなプログラムの運営に参加することである。実際に多様な留学生と交流することで，実践的な語学運用能力を高めると共に，多様性を尊重しながらさまざまな文化の違い，考え方の違いを認識し，同時に自国の言葉や文化の理解を相互比較の観点から深めることを目的とする。

【授業の概要】
本プロジェクトでは，サマースクールプログラムに参加して協力するために，そのプログラムの円滑な実施を行うべく，受け入れのための準備やプログラムの立案と具体化の実施体制，ディスカッションやグループワーク，インタビューなど，サマースクールプログラムの運営と進行に合わせて実践的に展開する。

【キーワード】
サマースクールプログラム，海外留学生，異文化の理解，語学の実践的運用，交流企画の立案と実施運営

【到達目標】
サマースクールプログラムに参加することで，実践的な語学運用能力を高め，同時に国際交流プログラムの運営と実施によって，マネージメント，コーディネート，リーダーシップ，プレゼンテーションの能力を身に付ける。

【授業の計画】
1．オリエンテーション
2．サマースクールプログラムについての理解と実施計画立案
3．予備調査と準備
4．プログラム実施と運営に向けた準備
5．プログラムの実施と運営
6．プログラムについての分析と評価
7．実施プログラムについての総括作業
8．サマースクールプログラムに関する発表の準備①―資料蒐集の方法について
9．サマースクールプログラムに関する発表の準備②―プレゼンテーションの構想立案１
10．サマースクールプログラムに関する発表の準備③―プレゼンテーションの構想立案２
11．サマースクールプログラムに関する発表の準備④―プレゼンテーション資料の作成１
12．サマースクールプログラムに関する発表の準備⑤―プレゼンテーション資料の作成２
13．サマースクールプログラムに関する発表の準備⑥―プレゼンテーション資料の作成３
14．クラス内におけるサマースクールプログラムに関する発表と相互講評
15．総合科学実践プロジェクト合同発表会での最終報告
【教科書】
指定しない。必要な資料等は授業中に配布する。
【参考書】
参考となる文献については適宜紹介する。
【成績評価方法・基準】
サマースクールプログラムの実施レポート（20%），毎回の取り組み状況（20%），発表（40%），ならびに相互講評（20%）により評価する。
【再試験の有無】
なし
【受講者へのメッセージ】
サマースクールプログラムに参加することで，実際に異文化の世界に触れながら企画運営を経験してみてください。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
対象となる留学生の出身国やその地域の歴史や文化等を把握しておくこと。
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（メールアドレス）
yoshioka.koyu@tokushima-u.ac.jp

総合科学実践プロジェクトC（心身健康維持）

Integrated Science Project C

２単位（選択必修Ⅱ）全２年（通年集中）
佐藤　充宏

【授業の目的】
本授業では，地元プロスポーツチーム（徳島ヴォルティス）の運営体験活動や観戦者調査を通して学生の「前に踏み出す力」,「考え抜く力」,「チームで働く力」といった，いわゆる，ジェネリックスキル（汎用的技能）を養うことを目的としている。
【授業の概要】
本授業は，まず，担当教員やプロスポーツチームスタッフ等より，徳島のプロスポーツチームの歴史やホームタウン活動（地域貢献活動）について紹介する。次に，学生には，プロスポーツ組織が目指す理念や目的を理解してもらった上で，観戦者調査（顧客ニーズ調査）を体験してもらう。さらに，各体験学習後は，プロスポーツ組織を活用したスポーツの楽しみ方を広げる運営・企画について議論し，その内容をプレゼンテーションすることで上記目標を目指していく。
【キーワード】
スポーツ　体験学習活動　グループワーク　プレゼンテーション
【到達目標】
・自分の意見（感じた事や考えたこと）を自分の言葉で表現できる
・運営体験および観戦者調査を活かした企画をみんなで協力してプレゼンすることができる
・スポーツの社会的機能（役割）について理解することができる
【授業の計画】
1．オリエンテーション（徳島のプロスポーツ組織について）
2．プロスポーツチームの歴史とホームタウン活動（地域貢献活動）について
3．プロスポーツチームの接客対応について
4．プロスポーツチームの運営体験１（入場口案内活動）
5．プロスポーツチームの運営体験２（エコステーション活動）
6．プロスポーツチームの運営体験３（フェイスペイント活動）
7．プロスポーツチームの運営体験４（ボールパーク活動）
8．スポーツ科学領野の研究調査の方法について
9．プロスポーツチームの観戦者調査体験１（アンケート調査項目の検討）
10．プロスポーツチームの観戦者調査体験２（アンケート調査分析枠組みの検討）
11．プロスポーツチームの観戦者調査体験３（アンケート調査票の作成）
12．プロスポーツチームの観戦者調査体験４（アンケート調査の実施）
13．プロスポーツチームの運営活動企画１（アイデア創出グループワーク）
14．プロスポーツチームの運営活動企画２（プレゼン作成グループワーク）
15．企画内容のプレゼンテーション
16．総括
【教科書・参考書に関する補足情報】
適宜資料を配布します。
【成績評価方法・基準】
本授業は「授業への取り組み:50%」「リフレクションペーパー:20%」「プレゼンテーション:30%」の３つの視点で総合評価する。
【再試験の有無】
なし
【受講者へのメッセージ】
本授業は学外活動を含みます。７月～９月にかけてのヴォルティス試合日（土曜日）に，スタジアム実習を２回実施します。実習に参加できない学生は単位がでませんので，必ず６月実施のガイダンスに出席して，スケジュールを確認してください。学外活動は，活動場所までは各自で移動となる場合があります。
【WEBページ】
https://www.jleague.jp/aboutj/spectator-survey/
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
部屋番号：2M11，Tel：088－656－7207
（メールアドレス）
satom@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
授業の前後で実施します
【備考】
７月中旬から８月上旬の徳島ヴォルティスのホームゲームで２回の実習を予定しています。

総合科学実践プロジェクトD（心身健康問題）

Integrated Science Project D

２単位（選択必修Ⅱ）全２年（後期）
山本真由美，内海　千種，福森　崇貴，山本　哲也，横谷　謙次

【授業の目的】
近年の我が国においては，「虐待」「被災」「疾患」など，さまざまな家族・地域・社会的な問題が生じている。本講では，この「心と身体の健康」に影響を及ぼすと考えられる諸問題について取り上げ，その実情について知る。特に心理学的諸問題への対応方法について触れ，地域の健康社会づくりを実践するための基礎的知見を修得する。
【授業の概要】
現代の地域社会における心身健康問題を取り上げ，地域住民の「心を支える」ことを中心テーマに議論を行う。「教育」「福祉」「医療」などの分野における心理社会的援助の実際について知り，新たな支援法について提案することで，「健康社会づくり」のため

の知見を深める。
【キーワード】
虐待，災害，疾患
【先行／科目】
『総合科学の基礎E（心理学の基礎）
［Foundations of integrated Sciences: E］』
【到達目標】
1．社会の一員として地域における「心と身体の健康問題」を知る。
2．社会の一員として地域における「健康社会づくり」を実践していくための基礎的知見を修得する。
3．社会の一員として地域における「支援の在り方」について提案できる。
【授業の計画】
1．オリエンテーション：本プロジェクトでのプレゼンテーションについて
2．心理学的支援テーマの検討１：現代社会における問題について
3．心理学的支援テーマの検討２：総合科学の基礎Eでの授業内容を基に話し合い
4．グループ別テーマの話合い
5．体験学習　その１：歴史的背景を知る
6．体験学習　その２：現状を知る
7．体験学習　その３：課題を知る
8．体験学習　その４：課題についての話合い
9．体験学習　その５：支援を考える
10．心理学的支援プロジェクト案の作成
11．心理学的支援プロジェクト案についての発表
12．心理学的支援プロジェクト案についての討論
13．心理学的支援プロジェクト案のプレゼンテーション作成
14．心理学的支援プロジェクト案のプレゼンテーション検討
15．企画内容のプレゼンテーション
16．総括
【教科書・参考書に関する補足情報】
教科書は使用しない。適宜，資料を配付する。
参考書については，必要に応じて講義の中で紹介する。
【成績評価方法・基準】
受講や議論への参加態度，プレゼンテーションの内容を総合的に評価する。
【再試験の有無】
無
【受講者へのメッセージ】
「心と身体の健康問題」について，関連情報を意識しながら日常生活を送っていただきたい。
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
山本　真由美：山本真由美（3S06，TEL：088－656－7192，
E-mail：yamamotom@tokushima-u.ac.jp）
福森　崇貴：福森　崇貴（3S08）
内海　千種：内海千種：総合科学部３号館南棟３階（3S07）
山本　哲也：総合科学部３号館南棟３階（3S04）
（メールアドレス）
山本真由美：yamamotom@tokushima-u.ac.jp
福森　崇貴：t.fukumori@tokushima-u.ac.jp
内海　千種：uchiumi@tokushima-u.ac.jp
山本　哲也：t.yamamoto@tokushima-u.ac.jp
【備考】
夏季休業期間中に実施する場合もある。
本科目を受講するためには，総合科学の基礎E（心理学の基礎）を履修していなければならない。

総合科学実践プロジェクトE（国際交流・協力体験）

Integrated Science Project E

２単位（選択必修Ⅱ）全２年（後期集中）
饗場　和彦

【授業の目的】
国際交流，国際協力をめぐる意義や課題を主に現場体験を通して学び，自らも積極的に関わる意欲を醸成するとともに，行動力，コミュニケーション力，積極性，マナーなどの社会的な基礎力もつける。
【授業の概要】
国際交流・国際協力を実践している専門家から具体的な話を聞きつつ，その取り組みの一端や実際の現場の状況を経験する。体験実習（土日祝に実施）としては,「徳島県三好市にある徴用工（戦中，戦前に日本各地で強制的に重労働を強いられた，朝鮮半島やアジア出身の人々）の現場の見学・調査」と「日本と朝鮮半島や途上国との関係で支援・啓発するためのイベントの企画・実施」を予定している（変更の場合もある）。なお，少人数形式の授業であるため，受講者の上限を20人ほどとする。体験実習の際の交通費などは大学側で負担する。
【キーワード】
国際，交流，協力，実践，グローバル
【関連／科目】
『国際関係論（国際法を含む）［International Relations Ⅰ］』，『平和学［Peace Studies］』
【到達目標】
1　国際交流，国際協力について基本的な知識を得る。
2　広い視野，国際的な視野を持つ。
3　行動力・積極性を身につける。
4　社会性・対人関係力を身につける。
【授業の計画】
1　導入
2　世界の貧困と紛争をめぐる現実と支援　その１
3　その２
4　体験実習（三好市の徴用工問題）の準備
5　体験実習（同上）の実施　その１
6　その２
7　その３
8　その４
9　体験実習（同上）のまとめ
10　体験実習（啓発・支援イベント）の準備
11　体験実習（同上）の実施　その１
12　その２
13　その３
14　その４
15　体験実習（同上）のまとめ
16　総括と補足・プレゼンテーション
【教科書】
なし
【参考書】
授業中，適宜指示，配布する。
【教科書・参考書に関する補足情報】
関連する文献や資料などは授業中に紹介，配布する。
【成績評価方法・基準】
期末レポート（およそ30％）と平常点（およそ70％）。平常点の要素は授業の出欠状況と，現場体験，作業，討論，プレゼンテーションでの取り組み方など。
【再試験の有無】
再試験は行わない。
【受講者へのメッセージ】
2017年はイラク支援のための絵画とトークのイベントを企画・実施，2018年は中国内で抑圧されているウイグル人の問題をテーマに講演会を企画・実施，2019年は日本と朝鮮半島の関係について学ぶ講演会・映画上映を行った。現場実習としては，2017年は大阪のコリアタウンを訪問，2018年は愛媛県松山市にある四国唯一の朝鮮学校に行き生徒らと交流，2019年は三好市の徴用工現場を見学した。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】
体験実習の前に，各自，情報収集や英語表現の確認を行い，また終了後に，発見した知見，疑問についてそれぞれ調べ，考察する。
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
国際政治学研究室（総合科学部１号館中棟３階），088－656－7186。
（メールアドレス）
aiba.kazuhiko@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
月曜日13：30 ～ 15：30，国際政治学研究室（総合科学部１号館

中棟３階）で。この時間以外でも研究室に在室の際はいつでも可。
【備考】
この授業の受講生は，原則として教養教育院の授業「国際協力論－入門編」（前期，火曜９・10講時，饗場担当）を事前に受講，あるいは傍聴しておいてください。

総合科学実践プロジェクトＦ（政策実践）

Integrated Science Project F

２単位（選択必修Ⅱ）全２年（後期集中）
小田切康彦

【授業の目的】
私たちが暮らす地域社会には，経済の発展，環境保全，防災対策等，実に多くの課題が存在しており，そうした諸課題を解決するための地域政策が求められている。本授業では，地域政策の企画立案等に実践的に取り組むことを通じ，公共政策的視点から諸課題の解決策を提示する技術を習得する。
【授業の概要】
少人数のグループに分かれて，地域が抱える課題を解決するためのアイデアや方法をまとめ，その成果を地方自治体に提案する。具体的には，⑴地方自治体が抱える諸課題についての情報収集を行う，⑵グループごとに取り組むテーマを発見･決定する，⑶テーマに関する情報収集，調査，分析を行う，⑷テーマに関わる課題解決策を検討する，⑸成果を地方自治体へ提案する，というステップで授業を進める。
提案を行う地方自治体については関係機関と調整のうえ決定するため，別途あらためて告知する。なお，授業は，原則，金曜日３・４講時に行うこととするが，学外への調査・視察等は，受講生と日程調整の上で決定する。
【キーワード】
地域の課題，公共政策，政策提案，グループワーク，プレゼンテーション
【到達目標】
１．地域の課題を発見できる
２．課題を解決するための政策をつくることができる
３．政策を提案（プレゼンテーション）できる
【授業の計画】
第１回　イントロダクション
第２回　地域の現状と課題⑴：地域の実態
第３回　地域の現状と課題⑵：地域の課題
第４回　課題を発見する⑴：問題解決のプロセス
第５回　課題を発見する⑵：問題解決の手法
第６回　課題を発見する⑶：問題解決ワーク
第７回　課題の報告
第８回　課題解決策の検討⑴：情報収集
第９回　課題解決策の検討⑵：情報整理
第10回　課題解決策の検討⑶：ギャップの定義
第11回　課題解決策の検討⑷：解決策素案の提出
第12回　課題解決策の検討⑸：解決策の具体化
第13回　課題解決策の検討⑹：解決策の決定
第14回　課題解決策の検討⑺：政策案としてのまとめ
第15回　政策案発表
第16回　全体プレゼンテーション
【教科書・参考書に関する補足情報】
授業に必要な文献・資料等は，適宜配布する。
【成績評価方法・基準】
授業への積極的な参加（コミュニケーションペーパー提出，グループワークへの貢献）70％，プレゼンテーション内容30％
【再試験の有無】
なし
【受講者へのメッセージ】
・グループワークが重要になります。
・授業時間外の（グループごと）自主学習が求められます。
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
総合科学部１号館中棟３階公共政策学研究室（3M23）
TEL：088－656－7187
（メールアドレス）
yas-kot@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
随時，電話やメール等で予約受付。

総合科学実践プロジェクトG（アート創生）

Integrated Science Project G

２単位（選択必修Ⅱ）全２年（後期）
平木　美鶴，河原崎貴光，石田　基広，掛井　秀一，佐原　　理

【授業の目的】
芸術をキーワードにして私達の住む地域を活性化するための方法を模索し作品制作することを通して実践力を身につける。
【授業の概要】
アートや情報を使った地域活性化事業について理解し，地域に相応しいアート作品やワークショップを考え制作をする。これまでの例としては，センサーを使った参加型LED作品の制作や絵本をアニメーションにした映像作品等の制作展示をした。
【キーワード】
芸術・情報・地域
【到達目標】
地域を理解しその場や状況に相応しい作品制作展示または情報発信ができる。
【授業の計画】
第１回：地域活性化事業について
第２回：アートや情報を使った地域活性化事業について
第３回：美術や情報を使った地域活性化を発想し意見交換
第４回：美術や情報を使った地域活性化を発想し意見交換及び役割分担
第５回：共同作業による作品制作（説明）
第６回：共同作業による作品制作（制作１）
第７回：共同作業による作品制作（制作２）
第８回：共同作業による作品制作（制作３）
第９回：共同作業による作品制作（制作４）
第10回：共同作業による作品制作（制作調整）
第11回：地域住民との共同作業による作品制作（制作完成）
第12回：作品の設置作業
第13回：作品の保守管理及び説明ガイド１
第14回：作品の保守管理及び説明ガイド２
第15回：テスト
第16回：制作の振返り及び反省
【参考書】
菜の花里美発見展記録集／北川フラム：現代企画室，2003，ISBN：9784773803006
大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ2000／北川フラム：現代企画室，2001，ISBN：9784773801088
【成績評価方法・基準】
地域活性化事業を理解した積極的な参加とレポートを評価する。
【再試験の有無】
なし
【受講者へのメッセージ】
実践的な活動が多いため休日やその他の時間に授業を開く事もある。
【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】
（学生用連絡先）
２号館東棟２階，部屋番号E203　TEL／FAX　088－656－7167
（メールアドレス）
hiraki.mitsuru@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
毎週火曜日　11：50～12：50　２号館東棟２階，部屋番号E203絵画表現研究室

総合科学実践プロジェクトH（地域社会文化）

Integrated Science Project H

２単位（選択必修Ⅱ）全２年（後期）

桑原　　恵，矢部　拓也，塚本　章宏，高橋　晋一，豊田　哲也
田口　太郎，渡辺　克典，中村　　豊，衣川　　仁，内藤　直樹

【授業の目的】

この授業を通して，地域社会で生じている事象に関する実地調査を行い，文献で読んだことを実社会の中で発見する能力を養成し，実践力を高める。特に，学外で素材を集める作業をおこなうことにより，自ら問題や資料を発見して研究を進める基礎力を養う。

【授業の概要】

担当者の専門は，歴史学，考古学，地理学，地域計画・政策，人類学，社会学と多岐にわたる。また，研究で扱う素材も古文書，地図，統計データ，フィールドワークと異なるが，フィールドワークをベースに学外で研究素材を収集・調査する点では共通している。授業では，それに必要な知識の習得，実地での素材収集，その加工や分析，それをもとにしたレポート執筆を行う。

2020年度は主に2019年度に続いて，「埋葬に関する意識の変化」をテーマにフィールドワークを行う予定。

【キーワード】

地域社会，地域文化，地域創生，まちづくり，郷土史，発掘，巡検，参与観察，調査

【到達目標】

実地調査の基礎を学ぶことを通じて，自ら研究に必要な素材・視点を探してそれをもとにレポートをまとめる能力をつけるようにする。

【授業の計画】

１．夏休み期間中の課題発表
２．弔いの変化について，日本史と社会学的観点からミニ講義
　　グループ編成
３．グループ活動⑴課題設定（調査先，調査のテーマ決定に向けて）
４．グループ活動⑵課題設定（調査先，調査のテーマ決定）
５．本調査に向けた準備
６．本調査⑴
７．本調査⑵
８．データの解読，分析⑴
９．データの解読，分析⑵
10．中間発表⑴
11．追加調査
12．グループごとの調査結果まとめ⑴
13．グループごとの調査結果まとめ⑵
14．レポート執筆⑴
15．最終レポートの発表と講評
16．総括

【参考書】

さまよう遺骨：日本の「弔い」が消えていく／NHK取材班　著，日本放送協会，：NHK出版，2019，ISBN：978－４－14－088578

【教科書・参考書に関する補足情報】

参考書は，講義期間中，受講生に貸与するので個別に購入する必要はない。

【成績評価方法・基準】

中間レポート（40％），最終レポート（40％），フィールドワーク時の調査メモのコピー（20％）で総合的に評価する。

【再試験の有無】

行わない。

【受講者へのメッセージ】

総合科学実践講義Eの16週目に，この講義の受講生に対して，夏休み期間中の課題を与える予定。

調査はグループごとに行い，発表もグループでまとめて行うようにする。

個別の評価については，調査時のメモを確認しておこなう。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】

グループでの討論や参考書の内容などを参考に，テーマに関して自分でさらに掘り進めることが重要です。関心のある概念や課題，課題解決の方法などを各自が調べるように心掛けてください。調査を行うことがこの講義の主眼です。教員に紹介される調査先にこだわらず，学生自身で調査先を見つけ，アポを取って，調査することも良い経験となります。

適宜アドバイスを受けながら，調査の基礎を身につけるように努力して下さい。

【WEBページ】

なし。

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】

（学生用連絡先）
桑原　　恵：桑原　恵　総合科学部１号館北棟２階　2N16（088－656－7157）
矢部　拓也：１号館南棟１階1S23　社会学研究室（088－656－9311）
（メールアドレス）
桑原　　恵：megumik.tokushima-u.ac.jp
矢部　拓也：yabe.takuya@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
桑原　　恵：時間を指定せず，学生からのメールを受けて時間を調整して適宜対応する。
矢部　拓也：希望者は，随時，メールにてアポを取って下さい。

【備考】

調査先については，2019年度の調査先も参考になります。2019年度の内容は講義中にお伝えします。

総合科学実践プロジェクトJ（海外体験単位認定科目）

Integrated Science Project J

４単位（選択必修Ⅱ）全１年（通年集中）

田久保　浩，村上　敬一，内藤　直樹，Maddox，
Notley Matthew，スタージ　ドナルド

【授業の目的】

グローバル化が進む今の社会においては，多くの社会的ないし経済的課題は，従来のように国内的視点からでは解決できません。自らの国際的な経験にもとづいて，世界的な視野をもって対処してゆかねばなりません。世界を自分の目で見て，認識するため，あるいは，キャリアにつながる経験をするため，語学習得や異文化間のコミュニケーションにチャレンジする体験のため，また，それにより自分の専攻分野での勉強をより深める機会を提供するため，「実践プロジェクトJ」においては，さまざまな海外研修プログラムを用意しています。ここで得た語学学習の成果や，さまざまな国際経験を学生各自の専攻テーマやゼミでの学びに生かしてください。

【授業の概要】

目的とする海外経験によって，⑴語学研修，⑵海外文化体験研修，⑶調査，フィールドワーク，⑷海外キャリア経験等に分けられます。自分の目的や関心に応じて，次の海外研修プログラムから参加を希望するものを選んでください。夏季に実施されるプログラムは４月に説明会を開催し，５月に申し込みを行います。春季に実施されるプログラムは10月に説明会があり，11月に申し込みが行われます。１年生のオリエンテーションや２年生の総合科学実践講義等の授業でも案内をしますが，説明会等の案内に注意してください。

１．南イリノイ大CESL英語研修（夏，４週間，４単位）
２．モナッシュ大学MULEC英語研修（夏４週間，４単位）
３．クイーンズ大学ESL英語研修（夏，３週間，２単位）
４．慶北大学校韓国文化体験研修（夏，２週間，２単位）
５．復旦大学中国語研修（夏，４週間，４単位）
６．US-JAPAN FORUMカリフォルニア・イノベーション研修（夏，２週間，２単位）
７．グレナンガ国際高校美術・日本語教育インターンシップ（夏～秋，４週間，４単位）
８．ラトヴィア文化交流研修（夏，２週間，２単位）
９．武漢・南京大学日中文化交流プログラム（夏，２週間，２単位，三隅先生引率）
10．スペイン地域創生文化研修（夏，２週間，２単位，マドックス先生引率）
11．ディズニー・ユース・カレッジ・プログラム（夏，２週間，２単位）
12．開南大学中国語／英語研修・台湾文化体験（夏，２週間，２単位）

13. ネパール海外フィールドワーク（夏，２週間，４単位，内藤直樹先生引率）
14. フリンダーズ大学演劇専攻学生との共同学習プログラム（夏，２週間，２単位）
15. オークランド大学ELA英語研修（春，４週間，４単位）
16. クイーンズ大学ESL英語研修（春，４週間，４単位）
17. 南イリノイ大学CESL英語研修（春，４週間，４単位）
18. 復旦大学中国語研修（春，４週間，４単位）
19. 台湾育達科技大学文化交流研修（春，２週間，２単位，村上敬一先生引率）
20. ポルトガル文化交流研修（春，２週間，２単位，ナム先生引率）
21. US-JAPAN FORUMグローバルプロ基礎コース（春，２週間，２単位）
22. ケニヤ海外フィールドワーク（春，２週間，２単位）

【キーワード】

留学，インターンシップ，異文化，コミュニケーション，国際経験

【到達目標】

・外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。
・グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能，情報発信能力，マネジメント・コーディネート能力を有し，地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。

【授業の計画】

今年度実施のプログラム
（プログラム名，単位数，実施国都市，実施期間，宿泊形態，参加費用目安，プログラム内容）

1．南イリノイ大学CESL英語研修（４単位），アメリカ・イリノイ州，カーボンデール，８月中旬～９月中旬，大学寮，￥500,000
　少人数レベル別クラスによる，文法，発音，会話，リスニング，リーディング，ライティング研修。英語の総合的コミュニケーション力向上を図る。問い合わせ：国際課。

2．モナッシュ大学MULEC英語研修（４単位），オーストラリア，メルボルン，８月中旬～９月中旬，ホームステイ，￥450,000
　少人数レベル別クラスによる集中したトレーニングにより，総合的な英語力アップを図る。応募者はTOEIC400点以上のスコアが必要。問い合わせ：国際課。

3．クイーンズ大学ESL英語研修（３単位），カナダ，オンタリオ州，８月下旬～９月下旬，レベル別クラスによる，４技能トレーニングにより，総合的な英語力アップを図る。現地大学の学生との交流プログラムもある。問い合わせ：国際課。

4．慶北大学韓国文化体験研修（２単位），韓国・大邱，８月上旬～中旬，大学寮，￥140,000
　韓国語レッスン，韓国歴史文化授業，陶芸体験，テコンドーなどの体験授業，市内ツアー，ソウルツアーを含む。参加者３名に慶北大学生１人のバディーがついて交友が深められる。問い合わせ：国際課。

5．復旦大学中国語研修（４単位），中国･上海，８月上旬～下旬，大学寮，￥250,000
　レベル別に基礎から上級におよぶ質の高い中国語の授業を提供している。また，書法，絵画，切り紙，太極拳などの文化体験，上海地域の見学プログラムを含む。

6．US-JAPAN FORUMカリフォルニア・イノベーション研修（夏，２週間，２単位）問い合わせ：国際課。

7．オーストラリア，グレナンガ国際高校・美術・日本語教育インターンシップ（４単位），オーストラリア・アデレード，７月下旬～９月下旬，ホームステイ，￥550,000
　４週間にわたって中学校での美術授業の補助を行い，日本の美術や伝統を紹介しながら日本語も同時に教えるという授業に参加するプログラム。

8．ラトヴィア文化交流研修，ラトヴィア･イェルガワ，リガ（２単位），９月中旬～下旬，ホテル泊，￥400,000
　ラトヴィア農業大，ラトヴィア大を拠点として，現地の学生や市民たちと日本文化紹介のプレゼンテーション，および映像や展示，料理などの実演と交流の催しを企画実施する。問い合わせ：スタージ先生。

9．スペイン地域創生文化研修，スペイン，クエンカ州（２単位），８月下旬～９月中旬，宿舎泊，￥260,000
　スペインの伝統的な農村に滞在し，地域の住民と交流しながら村祭りの準備および運営のボランティアを経験することで，異文化理解，国際交流を行うと同時に，地域創生の実践活動について学ぶ。

10. ディズニー・ユースカレッジ・プログラム（２単位），研修地アメリカ，フロリダ州，ホテル泊，￥400,000
　９月中旬　国際交流，異文化コミュニケーション，チームラークの向上を目指す。
　映像技術，ショービジネスの裏側などのリベラルアーツの授業や，リーダーシップ，チームワークなどについてなど，様々なアクティビティを通してリーダーシップ・トレーニングを受ける。

11. 開南大学中国語／英語研修・台湾文化体験（２単位），台湾・桃園，８月中旬～８月下旬，大学寮，￥125,000
　英語研修グループと中国語研修グループとに分かれて，それぞれ合計1.5時間×20講時の語学研修を行う。陶芸・紙漉きなどの文化体験，一泊小旅行，協定校同士の友好を深めるための学生同士の交流活動を含む。問い合わせ：荒武先生。

12. ネパール海外フィールドワーク（４単位），ネパール９月中旬～下旬，￥248,000
　途上国の農村部において，国際協力事業が対象社会に与える長期的な影響を測定する社会調査（フィールドワーク）に必要な知識とスキルを習得する。国際協力についての理解を実地研修で深める。８回分の事前授業。16回分の事後授業を含む。社会調査士資格関連科目（G科目）。最小催行人数，２名，最大参加人数，８名。問い合わせ：内藤直樹先生

13. 寧波大学　日中文化交流研修―　中国寧波市（９月）国際交流基金のプログラムとして参加費用が援助される。

14. フリンダーズ大学演劇専攻学生との共同学習プログラム（９月末）ホームステイ等　￥360,000

15. オークランド大学ELA英語研修（４単位），ニュージーランド，オークランド，２月下旬～３月下旬，ホームステイ，￥450,000
　レベル別クラスによる少人数の集中トレーニングにより総合的な英語力アップを目指す。週末にはデイツアー，小ツアー，その他のアクティヴィティーがある。問い合わせ：国際課

16. クイーンズ大学ESL英語研修（４単位），カナダ，オンタリオ州，２月中旬～３月下旬，レベル別クラスによる，４技能トレーニングにより，総合的な英語力アップを図る。現地大学の学生との交流プログラムもある。問い合わせ：国際課。

17. 復旦大学中国語研修（４単位），中国・上海，２月下旬～３月下旬　￥250,000
　平日の午前は習熟度別のクラスに分かれての中国語の授業。午後は，中国文化に関する授業（英語），上海市内や近郊での見学，文化体験のプログラム。問い合わせ：新田元規先生。

18. 南イリノイ大学CESL英語研修（４単位），アメリカ，イリノイ州，２月中旬～３月中旬　￥500,000
　レベル別に少人数で，文法，発音，リーディング，ライティング，特にリスニングとスピーキングを強化した，集中したトレーニングを行い，総合的な英語力アップを目指す。他に文化研修やキャンパスイベントなどが行われる。

19. 育達科技大学文化交流研修（２単位），台湾・造橋郷，３月上旬～中旬，大学宿舎，￥100,000
　育達科技大学にて，応用日本語学科学生との交流授業，中国語会話，書道，中華料理実習などを行なうほか，近隣高校日本語学科生徒との交流を行なう。問い合わせ：村上敬一先生。

20. ポルトガル文化交流研修，ポルトガル，レイリア市（２単位），３月上旬～中旬，ホテル泊，￥220,000
　徳島市との姉妹都市レイリアのレイリア工科大を拠点として，現地の学生や市民たちと日本文化紹介のプレゼンテーション，および映像や展示，料理などの実演と交流の催しを企画実施する。問い合わせ：スタージ先生。

21. ハノイ教育大学連携ベトナム・スタディー・ツアー（２単位），ベトナム・ハノイ，３月中旬～下旬，ホテル泊，￥160,000
　ハノイ教育大学の教員による研修，同大学生との文化交流活動，意見交換，ベトナムの伝統芸能研修，文化・自然に触れるツアー。問い合わせ：国際課。

22. 国際プロフェッショナル養成基礎コース（２単位），アメリカ・カリフォルニア州，３月上旬，ホテル泊，￥350,000
　英語レッスン，サンノゼ州立大学訪問，イノベーション専門家による講演，ディスカッション，Google，Canon USA，Apple，Intel等のビジターセンター見学。鹿児島大学との連携によるプログラムのため，実施の詳細は未定。総科の国際交流

ページに注意してください。問い合わせ：国際課。

23. ケニヤ海外フィールドワーク（春，２週間，２単位）問い合わせ：内藤直樹先生

【教科書・参考書に関する補足情報】

各プログラムごとの詳しいシラバス，日程表は，４月以降「総合科学部国際交流のすべて」2020年度版に掲載し，配布します。

【成績評価方法・基準】

認定か不認定かの２段階評価。海外研修の全期間に参加し，指示に従って研修前の事前説明会，事前学習，研修後の事後学習，発表会，レポートを提出した場合，認定と評価される。認定される単位数は個別の海外プログラムごとに定められる。

【受講者へのメッセージ】

実際に世界に出て自分の目で見て，体験する経験は他には代用ができません。大学時代の国際交流経験は将来に向けての貴重な財産になります。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】

プログラムの開催される国や地域について，事前に関心をもって自主的に調べて，理解を深めておくようにしてください。

【WEBページ】

総合科学部の「国際交流」のページ
http://www.souka-international-tokushima-u.net

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）】

（学生用連絡先）
田久保　浩：総合科学部１号館２F　2N12　TEL　088－656－7122
村上　敬一：総合科学部１号館２F　2N19　TEL　088－656－7117
内藤　直樹：1S20
（メールアドレス）
h.takubo@tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）
田久保　浩：毎週水曜日　12：00－14：20
村上　敬一：火曜日　16：20－17：30　村上研究室
事前にメール等で予約すること（緊急の場合は，この限りではない）。

【備考】

各プログラムは，最少催行人数に達しない場合，ないし受入れ団体や共催団体の都合等により，募集を取りやめることがあります。最新の情報は総合科学部の「国際交流」のページに掲載します。

国際教養コースの学生は，「総合科学実践プロジェクトJ」より少なくとも２単位，できれば４単位を修得することを推奨します。

海外での研修においては，参加者の安全確保のため，引率や現地の責任者の指示を守ってください。また，予防接種等，指示された準備をしてください。

パスポートは，航空券の手配に必要です。早めに準備しておいてください。

科目登録は，４月にオンラインで登録する必要はありません。４月の説明会の後，エントリーシートを学務係に提出し，プログラムに参加後，全ての課題を提出したのちに単位が認定されます。

VI. そ　の　他

コース担当教員一覧表

社会総合科学科

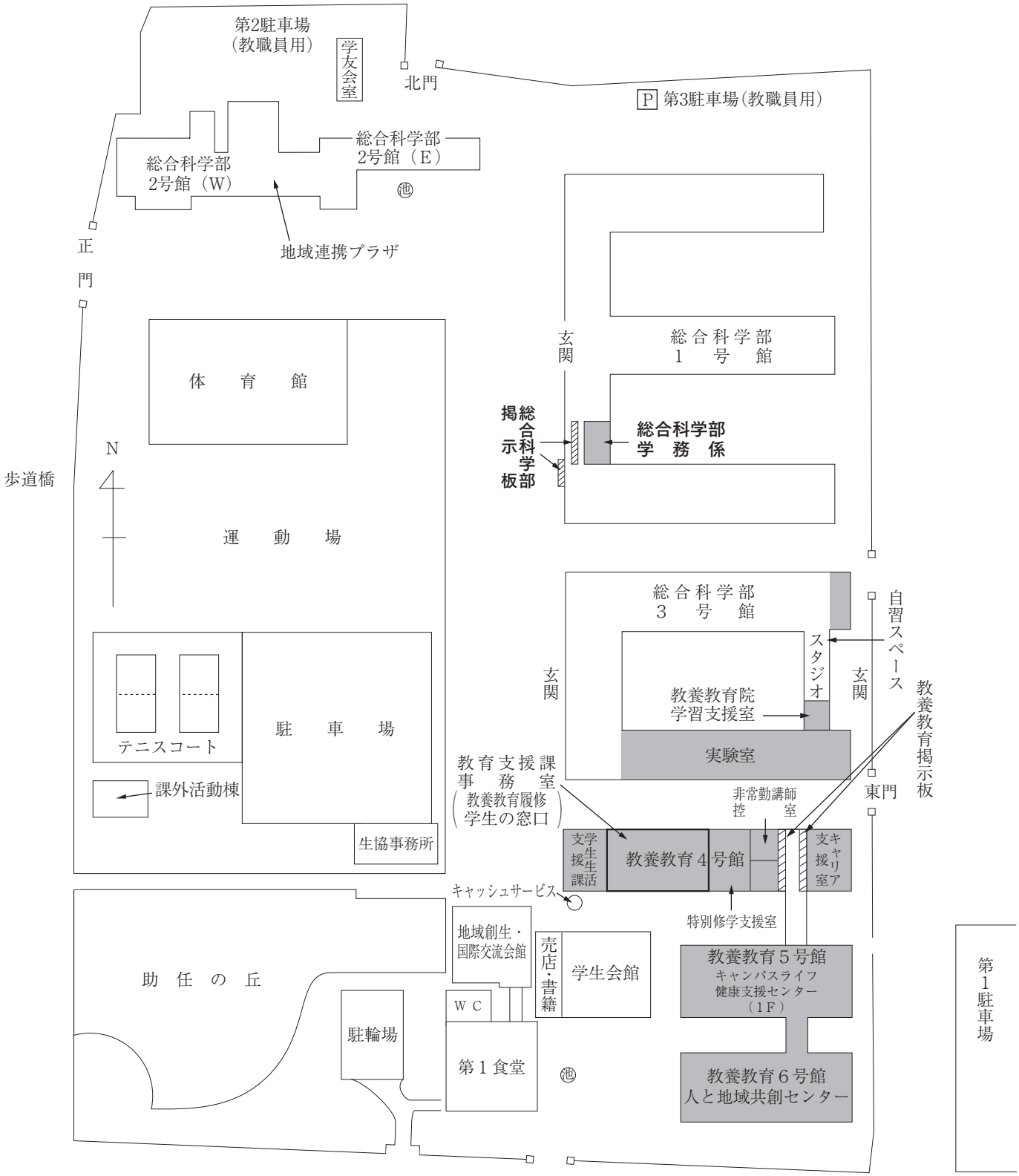
コース名	職名	氏名
国際教養コース	教授	荒武達朗
	教授	井戸慶治
	教授	佐久間亮
	教授	スティーヴンズ，メリディス・アン
	教授	田久保浩
	教授	田島俊郎
	教授	堤和博
	教授	ヘルベルト，ヴォルフガング
	教授	㊐ 村上敬一
	教授	依岡隆児
	教授	山口裕之
	准教授	新田元規
	准教授	今井晋哉
	准教授	熊坂元大
	准教授	座喜純
	准教授	田中佳
	准教授	富塚昌輝
	准教授	㊗ 中島浩二
	准教授	㊎ 樋口友乃
	准教授	山内暁彦
	准教授	山田仁子
	准教授	吉岡宏祐
	准教授	吉田文美
	准教授	シートゲス，オラフ
	講師	㊚ 服部恒太
心身健康コース	教授	坂田大輔
	教授	佐藤健二
	教授	佐藤充宏
	教授	㊗ 佐藤裕
	教授	㊐ 三浦哉
	教授	山口鉄生
	教授	山本真由美
	准教授	内海千種
	准教授	佐竹昌之
	准教授	中川隆彦
	准教授	中塚健太郎
	准教授	福森崇貴
	准教授	㊚ 横谷謙次
	准教授	山本哲也
	講師	㊎ 津村秀樹
	講師	甲田宗良

㊐：コース長　㊎：教務委員　㊚：学生委員　㊗：就職委員

コース名	職名	氏名
公共政策コース	教授	㊐ 饗場 和彦
	教授	栗栖 聡
	准教授	上原 克之
	准教授	㊚ 小田切 康彦
	准教授	清水 真人
	准教授	㊗ 趙 彤
	講師	㊎ 柴田 尭史
地域創生コース	教授	石田 基広
	教授	衣川 仁
	教授	桑原 恵
	教授	髙橋 晋一
	教授	豊田 哲也
	教授	中村 豊
	教授	㊐ 平木 美鶴
	教授	㊗ 矢部 拓也
	准教授	掛井 秀一
	准教授	河原崎 貴光
	准教授	佐原 理
	准教授	㊚ 田口 太郎
	准教授	㊎ 塚本 章宏
	准教授	内藤 直樹

㊐：コース長　㊎：教務委員　㊚：学生委員　㊗：就職委員

総合科学部(教養教育棟を含む)建物配置図



講義室・実験室および教員研究室配置図

〔１階〕

総合科学部１号館

国際教養コース

（ヘルベルト）（座喜）（三隅）（オラフ）（吉田文）（熊坂）

1N01 渭水会
1N02 多目的室
1N03 学部図書室 書架 書架
1N04 国際教養コース図書閲覧室
1N05 国際教養コースゼミ室
1N06 国際教養研究室
1N07 国際教養研究室
1N08 教養教育研究院
1N09 国際教養研究室
1N10 国際教養研究室
1N11 国際教養研究室

WC
閲覧室
周密書架
1N12 国際教養コース院生研究室
1N13 国際教養研究室
1N14 国際教養研究室
1N15 国際教養ゼミ室１
1N16 国際教養研究室
1N17 国際教養研究室
1N18 国際教養研究室

（山田）（樋口友）
（井戸）（服部恒）（山口裕）

展示室
1W01 学生交流プラザ
1W02 事務用倉庫

生物資源産業学部・理工学部・教養教育院

1W03 非常勤講師控室
オープンスペース
1M01 機器センター1
1M02 事務室
1M03 実験室1
1M04 実験室2
1M05 実験室3
1M06 実験室4
1M07 実験室5
1M08 実験室6
WC
1M09 実験室 課程1 博士学生 後期
1M10 実験室 課程2 博士学生 後期
1M11 実験室 課程4 博士学生 後期

玄関

WC
1M12 センター8 機器
1M13 研究室 産業学部 生物資源
1M14 院生研究室
1M15 研究室 産業学部 生物資源
1M16 研究室 産業学部 生物資源
1M17 研究室 産業学部 生物資源
1M18 研究室 理工学部
1M19 研究室 院教養教育
1M20 研究室 産業学部 生物資源
1M21 博士後期課程学生研究室１
1M22 実験室3 課程1 博士学生 後期
1M23 実験室P2 課程2 博士学生 後期
1M24 実験室5 課程4 博士学生 後期

（佐々木）（赤松）（山下）（真壁）（渡部）（山城）

1W04 学務係資料室
1W05 書庫
1W06 学務係

地域創生コース

（塚本）

EV
WC
置ごみ場
1S01 課長室
1S02 学部長室
1S03 研究室 課程2 博士学生 後期
1S04 GIS共同利用室
1S05 ゼミ室1 地域創生コース
1S06 ゼミ室2 地域創生コース
1S07 作業スペース
WC
1S10 地域創生研究室
1S11 事務・調査資料室
1S12 地域創生コースゼミ室
1S13 地域創生コース学生スペース２

ホール

1S08 地域創生コース学生・院生研究室
1S09 地域創生コース学生スペース１

1S14 印刷室1
1S15 更衣室（男）
1S16 更衣室（女）
1S17 総務係
1S18 公共政策コース共同研究室
1S19 地域創生研究室
1S20 考古資料保管室
1S21 地域創生研究室
1S22 地域創生研究室
1S23 地域創生研究室
1S24 地域政策プロジェクト室
1S25 地域創生研究室
1S26 研究室
1S27 地域創生研究室
1S28 地域創生研究室

（髙橋）（渡邉）（矢部）
（豊田）（平井）（中村）（内藤）

〔２階〕

国際教養コース

（衣川）（ｽﾃｨｰｳﾞﾝｽﾞ）（新田）　（荒武）（田島）（大村）（山内）　（田久保）　（吉岡）（中島）

2N01 Culture Lounge	2N02 地域創生研究室	2N03 国際教養研究室	2N04 国際教養研究室	2N05 国際教養研究室	2N06	2N07 国際教養研究室	2N08 国際教養研究室	2N09 教養教育院研究室	2N10 国際教養研究室	2N11 教養教育院研究室	2N12 国際教養研究室	2N13 English Communication Room	2N14 国際教養研究室	2N15 国際教養研究室

WC（男女）	2N16 地域創生研究室	2N17 国際教養研究室	2N18 国際教養研究室	2N19 国際教養研究室	2N20 教養教育院研究室	2N21 国際教養研究室	2N22 国際教養研究室	2N23 国際教養研究室	2N24 国際教養研究室	2N25 国際教養情報実習室		2N26 国際教養資料室	2N27 国際教養コース学生研究室

2W01 第２会議室

（桑原恵）（堤）（河田）（村上敬）（羅）（依岡）（佐久間）（今井晋）（田中佳）

2W02 第３会議室

心身健康コース

（坂田）（中川）

2W03 印刷室２	2M01 心身健康研究室	2M02 心身健康研究室	2M03 健康社会デザイン第２分析室	2M04 健康社会デザイン第１分析室	2M05 運動生理学第２実験室	2M06 スポーツ健康増進ラボラトリー	2M07 健康心理コーズゼミ室	WC	2M08 運動生理学第１実験室

ごみ置場	2M09 心身健康プロジェクト準備室	2M10 心身健康研究室	2M11 心身健康研究室	2M12 スポーツ科学院生研究室	2M13 心身健康プロジェクト資料室	2M14 心身健康研究室	2M15 心身健康研究室	2M16 心身健康研究室	2M17 心身健康研究室	2M18 健康運動指導士養成支援室	2M19 前室	準備室
WC											スポーツ科学実験室	実験室

（佐藤裕）（佐藤充）　（中塚）（佐竹）（山口鉄）（三浦）

2W04 数理科学コース演習室

2W05 数理科学コース情報実習室

理工学部

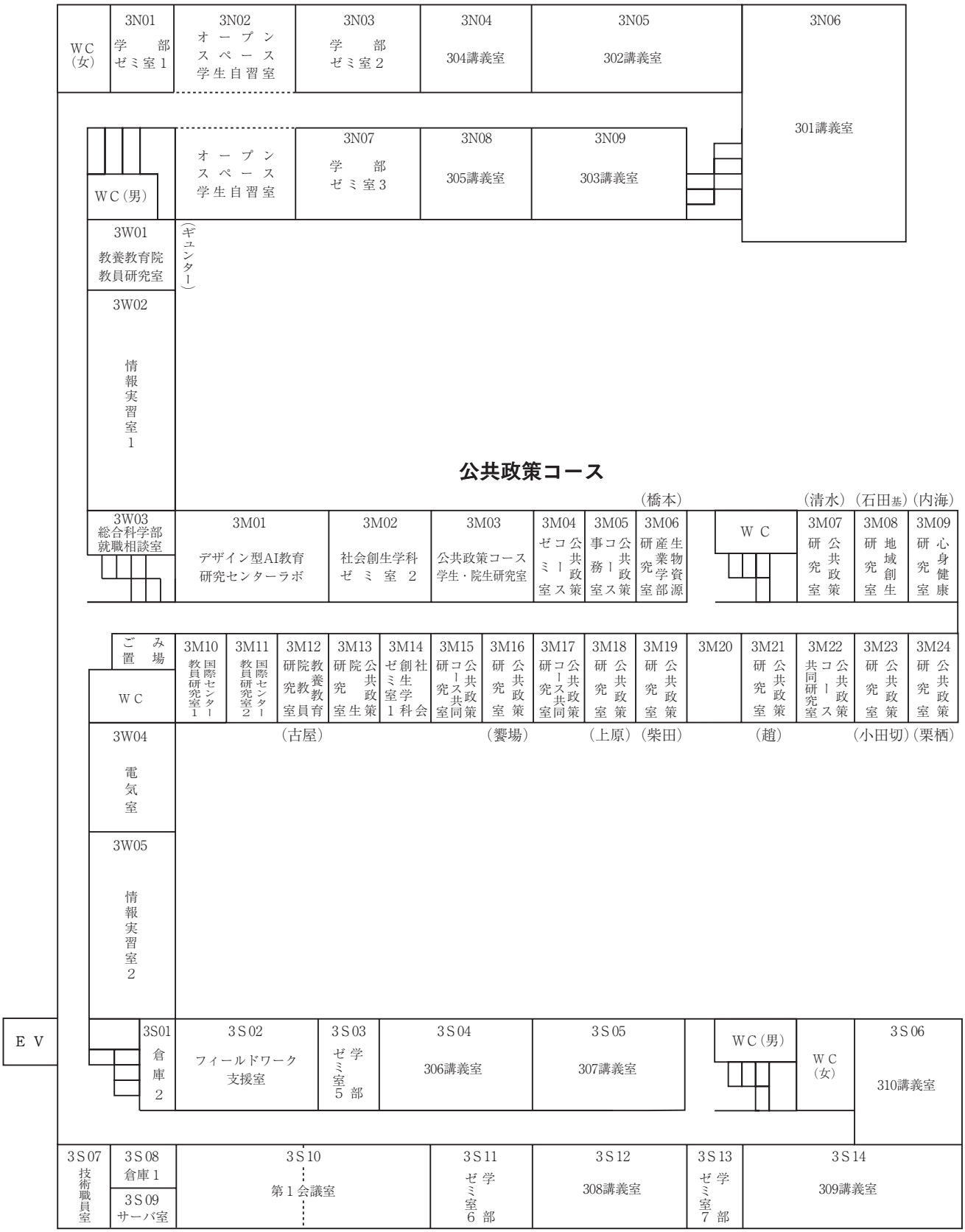
（小野）　（中山慎）（宇野）（鍋島）（大沼）

EV	2S01 サーバ室	2S02 数理科学コーズゼミ室１	2S03 数理科学コース学生実験室	2S04 数理科学コーズ院生研究室	2S05 数理科学研究室	2S06 数理科学コーズゼミ室３	2S07 数理科学研究室	2S08 数理科学研究室	2S09 数理科学研究室	2S10 数理科学研究室	WC	2S11 数理科学コース図書閲覧室
												2S12 数理科学コース資料室

2S13 総理数ゼミ室１科合	2S14 総理数ゼミ室２科合	2S15 数理科学コーズゼミ室２	2S16 数理科学コース学生研究室	2S17 数理科学コーズゼミ室４	2S18 数理科学研究室	2S19 数理科学研究室	2S20 数理科学研究室	2S21 数理科学研究室	2S22 数理科学研究室	2S23 数理科学研究室	2S24 数理科学コースセミナー室	

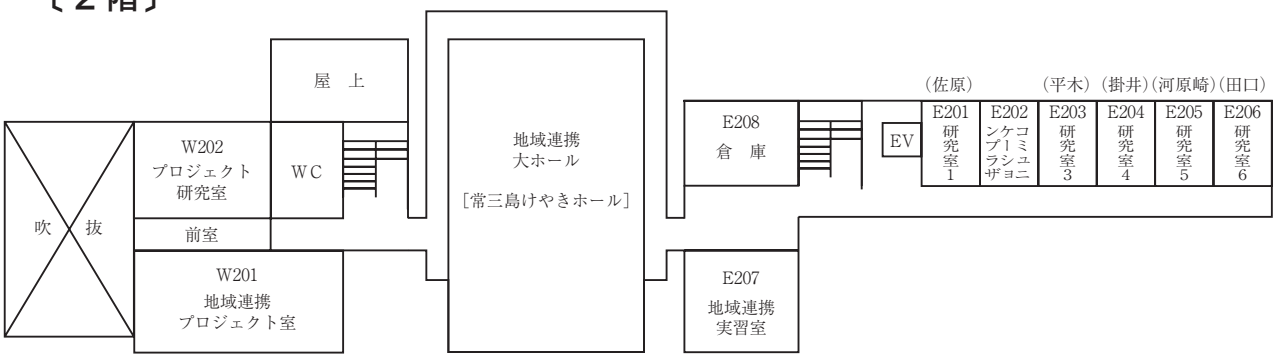
（村上公）（白根）（守安）（大渕）（片山）（蓮沼）

〔３階〕

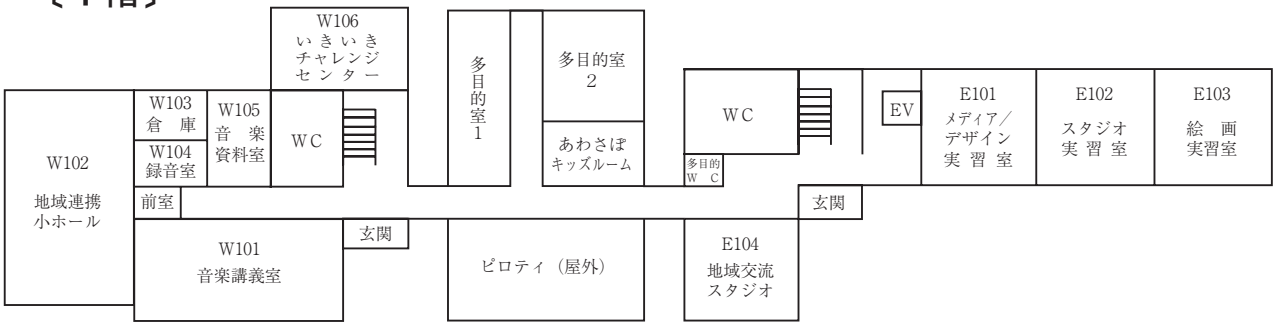

WC（女）
3N01 学部ゼミ室１
3N02 オープンスペース 学生自習室
3N03 学部ゼミ室２
3N04 304講義室
3N05 302講義室
3N06 301講義室
WC（男）
オープンスペース 学生自習室
3N07 学部ゼミ室３
3N08 305講義室
3N09 303講義室
3W01 教養教育院教員研究室
（ギュンター）
3W02 情報実習室１
公共政策コース
（橋本）
（清水）（石田基）（内海）
3W03 総合科学部就職相談室
3M01 デザイン型AI教育研究センターラボ
3M02 社会創生学科ゼミ室２
3M03 公共政策コース学生・院生研究室
3M04 公共政策コースゼミ室
3M05 公共政策コース事務室
3M06 生物資源学部研究室
WC
3M07 公共政策研究室
3M08 地域創生研究室
3M09 心身健康研究室
ごみ置場
WC
3M10 国際センター教員研究室１
3M11 国際センター教員研究室２
3M12 教養教育院教員研究室
3M13 公共政策研究室
3M14 社会創生学科ゼミ室１
3M15 公共政策コース共同研究室
3M16 公共政策研究室
3M17 公共政策コース共同研究室
3M18 公共政策研究室
3M19 公共政策研究室
3M20
3M21 公共政策研究室
3M22 公共政策コース共同研究室
3M23 公共政策研究室
3M24 公共政策研究室
（古屋）
（饗場）
（上原）（柴田）
（趙）
（小田切）（栗栖）
3W04 電気室
3W05 情報実習室２
EV
3S01 倉庫２
3S02 フィールドワーク支援室
3S03 学部ゼミ室５
3S04 306講義室
3S05 307講義室
WC（男）
WC（女）
3S06 310講義室
3S07 技術職員室
3S08 倉庫１
3S09 サーバ室
3S10 第１会議室
3S11 学部ゼミ室６
3S12 308講義室
3S13 学部ゼミ室７
3S14 309講義室

2　号　館

〔２階〕

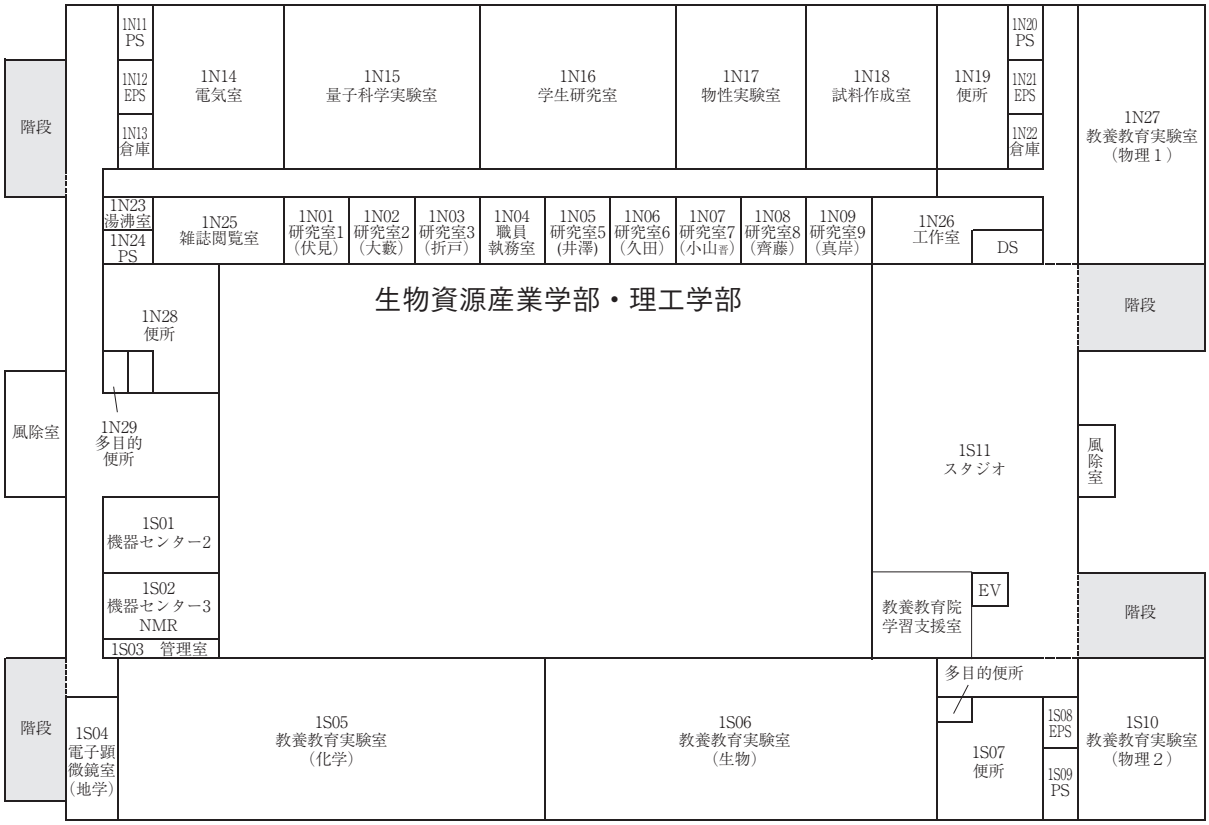

屋　上
W202
プロジェクト
研究室
WC
吹　抜
前室
W201
地域連携
プロジェクト室
地域連携
大ホール
［常三島けやきホール］
E208
倉　庫
EV
（佐原）
（平木）（掛井）（河原崎）（田口）
E201
研究室1
E202
ンケコ
プ1ミ
ラシュ
ザヨニ
E203
研究室3
E204
研究室4
E205
研究室5
E206
研究室6
E207
地域連携
実習室

〔１階〕

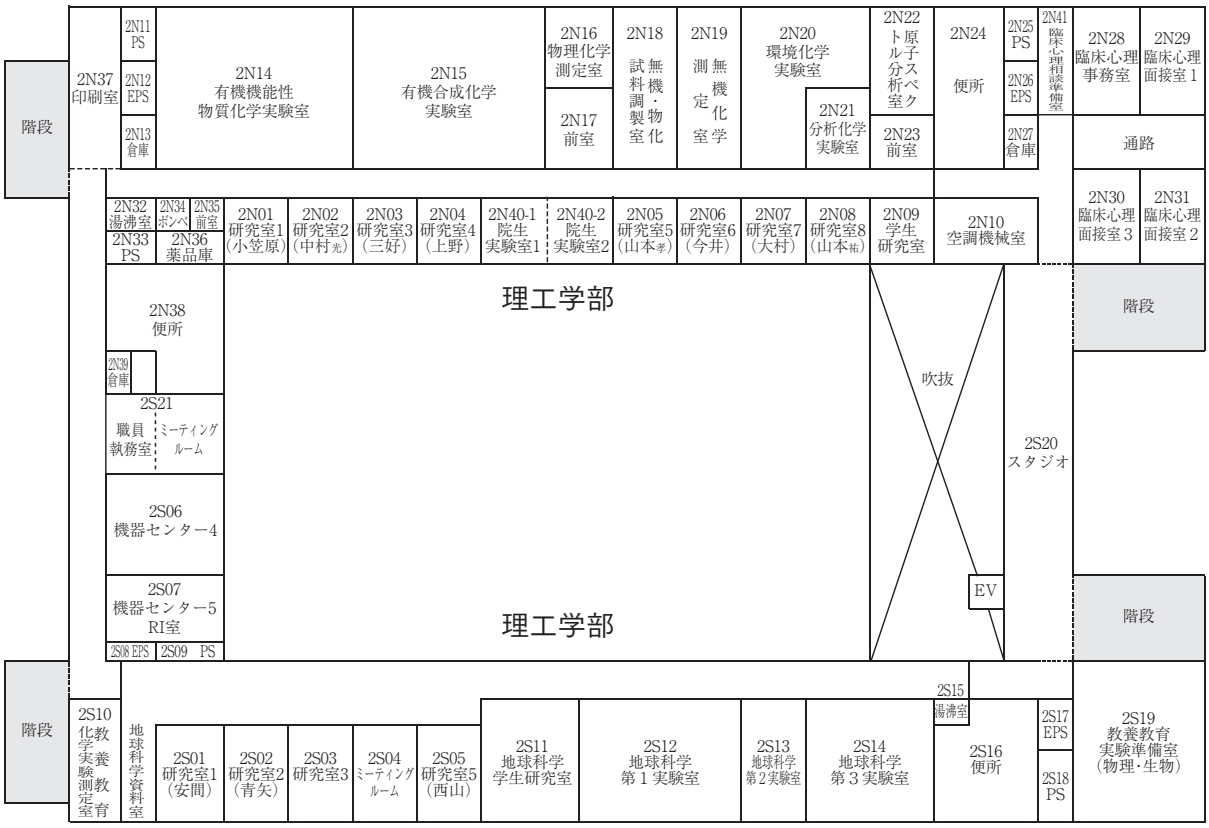

W106
いきいき
チャレンジ
センター
W102
地域連携
小ホール
W103
倉　庫
W104
録音室
W105
音　楽
資料室
WC
前室
W101
音楽講義室
玄関
多目的室1
ピロティ（屋外）
多目的室2
あわさぽ
キッズルーム
WC
多目的
W　C
E104
地域交流
スタジオ
玄関
EV
E101
メディア／
デザイン
実習室
E102
スタジオ
実習室
E103
絵　画
実習室

3　号　館

〔１階〕

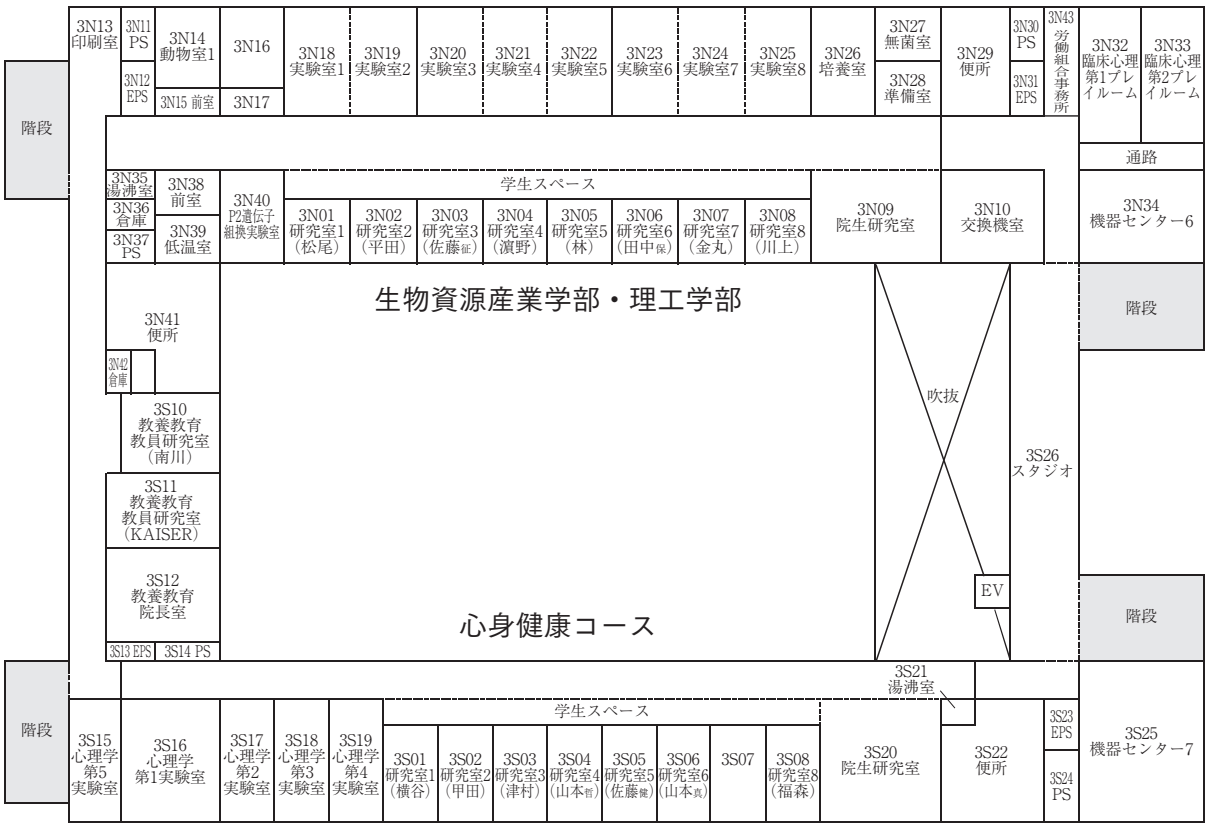

1N11 PS
1N12 EPS
1N13 倉庫
1N14 電気室
1N15 量子科学実験室
1N16 学生研究室
1N17 物性実験室
1N18 試料作成室
1N19 便所
1N20 PS
1N21 EPS
1N22 倉庫
1N27 教養教育実験室（物理１）
階段
1N23 湯沸室
1N24 PS
1N25 雑誌閲覧室
1N01 研究室1（伏見）
1N02 研究室2（大藪）
1N03 研究室3（折戸）
1N04 職員執務室
1N05 研究室5（井澤）
1N06 研究室6（久田）
1N07 研究室7（小山晋）
1N08 研究室8（齊藤）
1N09 研究室9（真岸）
1N26 工作室
DS
生物資源産業学部・理工学部
1N28 便所
1N29 多目的便所
風除室
1S11 スタジオ
1S01 機器センター2
1S02 機器センター3 NMR
1S03　管理室
教養教育院学習支援室
EV
多目的便所
1S04 電子顕微鏡室（地学）
1S05 教養教育実験室（化学）
1S06 教養教育実験室（生物）
1S07 便所
1S08 EPS
1S09 PS
1S10 教養教育実験室（物理２）

〔２階〕


2N37 印刷室
2N11 PS
2N12 EPS
2N13 倉庫
2N14 有機機能性物質化学実験室
2N15 有機合成化学実験室
2N16 物理化学測定室
2N17 前室
2N18 無機・物化試料調製室
2N19 無機化学測定室
2N20 環境化学実験室
2N21 分析化学実験室
2N22 原子分析室
2N23 前室
2N24 便所
2N25 PS
2N26 EPS
2N27 倉庫
2N41 臨床心理相談準備室
2N28 臨床心理事務室
2N29 臨床心理面接室１
通路
2N30 臨床心理面接室３
2N31 臨床心理面接室２
2N32 湯沸室
2N33 PS
2N34 ボンベ
2N35 前室
2N36 薬品庫
2N01 研究室1（小笠原）
2N02 研究室2（中村光）
2N03 研究室3（三好）
2N04 研究室4（上野）
2N40-1 院生実験室1
2N40-2 院生実験室2
2N05 研究室5（山本孝）
2N06 研究室6（今井）
2N07 研究室7（大村）
2N08 研究室8（山本祐）
2N09 学生研究室
2N10 空調機械室
階段
2N38 便所
2N39 倉庫
理工学部
吹抜
2S20 スタジオ
2S21 職員執務室
ミーティングルーム
2S06 機器センター4
2S07 機器センター5 RI室
2S08 EPS
2S09　PS
EV
2S10 化学実験教育測定室
地球科学資料室
2S01 研究室1（安間）
2S02 研究室2（青矢）
2S03 研究室3
2S04 ミーティングルーム
2S05 研究室5（西山）
2S11 地球科学学生研究室
2S12 地球科学第１実験室
2S13 地球科学第２実験室
2S14 地球科学第３実験室
2S15 湯沸室
2S16 便所
2S17 EPS
2S18 PS
2S19 教養教育実験準備室（物理・生物）

3　号　館

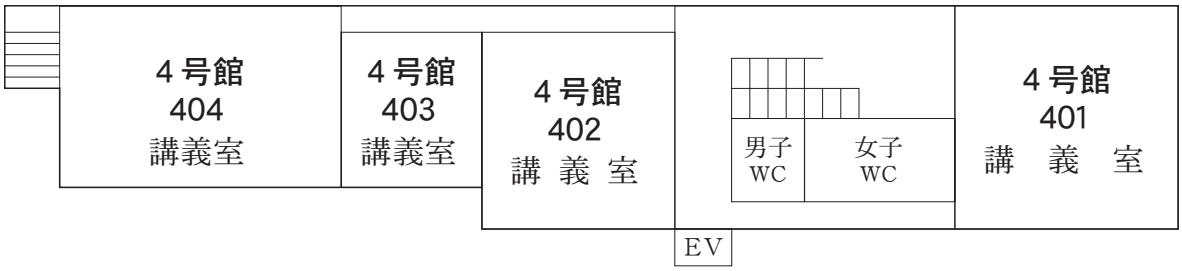
〔3 階〕


3N13 印刷室
3N11 PS
3N14 動物室1
3N16
3N18 実験室1
3N19 実験室2
3N20 実験室3
3N21 実験室4
3N22 実験室5
3N23 実験室6
3N24 実験室7
3N25 実験室8
3N26 培養室
3N27 無菌室
3N29 便所
3N30 PS
3N43 労働組合事務所
3N32 臨床心理第1プレイルーム
3N33 臨床心理第2プレイルーム
階段
3N12 EPS
3N15 前室
3N17
3N28 準備室
3N31 EPS
通路
3N35 湯沸室
3N38 前室
3N40 P2遺伝子組換実験室
学生スペース
3N09 院生研究室
3N10 交換機室
3N34 機器センター6
3N36 倉庫
3N39 低温室
3N37 PS
3N01 研究室1（松尾）
3N02 研究室2（平田）
3N03 研究室3（佐藤証）
3N04 研究室4（濵野）
3N05 研究室5（林）
3N06 研究室6（田中保）
3N07 研究室7（金丸）
3N08 研究室8（川上）
生物資源産業学部・理工学部
3N41 便所
3N42 倉庫
吹抜
3S26 スタジオ
3S10 教養教育教員研究室（南川）
3S11 教養教育教員研究室（KAISER）
3S12 教養教育院長室
EV
心身健康コース
3S13 EPS
3S14 PS
3S21 湯沸室
3S15 心理学第5実験室
3S16 心理学第1実験室
3S17 心理学第2実験室
3S18 心理学第3実験室
3S19 心理学第4実験室
3S01 研究室1（横谷）
3S02 研究室2（甲田）
3S03 研究室3（津村）
3S04 研究室4（山本哲）
3S05 研究室5（佐藤健）
3S06 研究室6（山本真）
3S07
3S08 研究室8（福森）
3S20 院生研究室
3S22 便所
3S23 EPS
3S24 PS
3S25 機器センター7

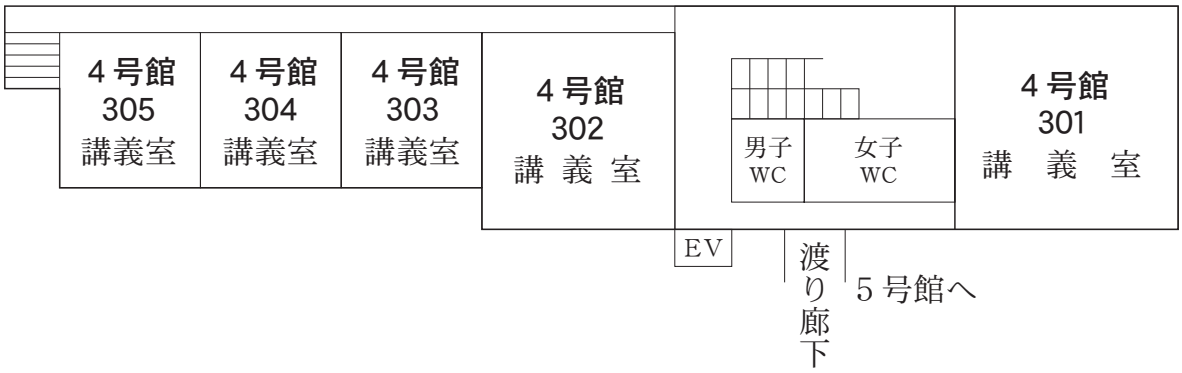
教養教育４号館

教養教育講義室と教養教育の窓口，授業料免除･奨学金の窓口，キャリア支援室などがあります。

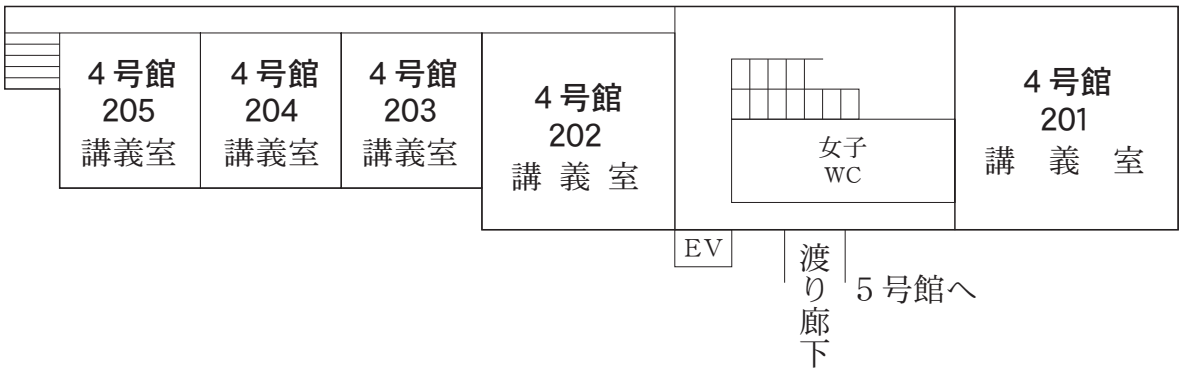
〔４階〕



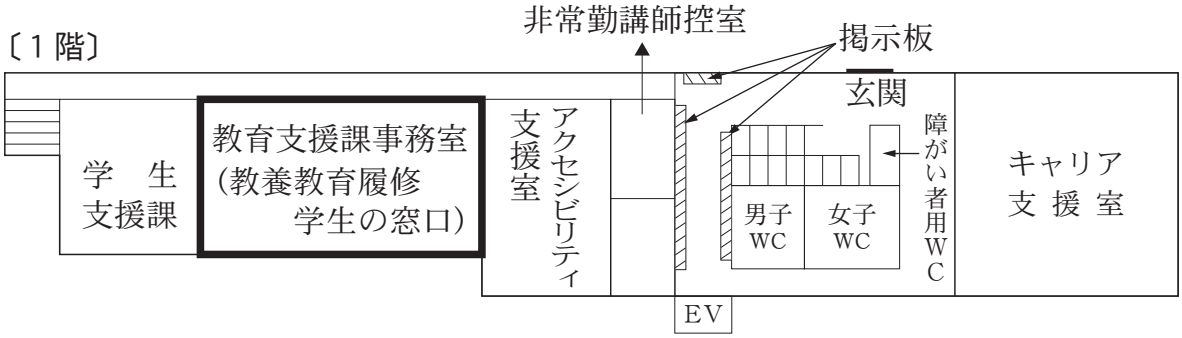
〔３階〕



〔２階〕



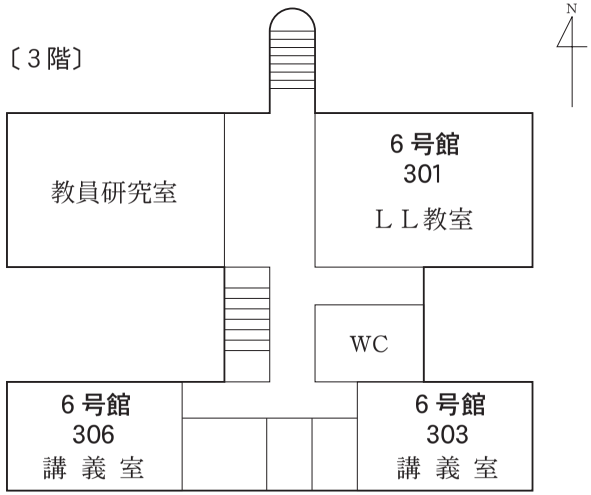
〔１階〕



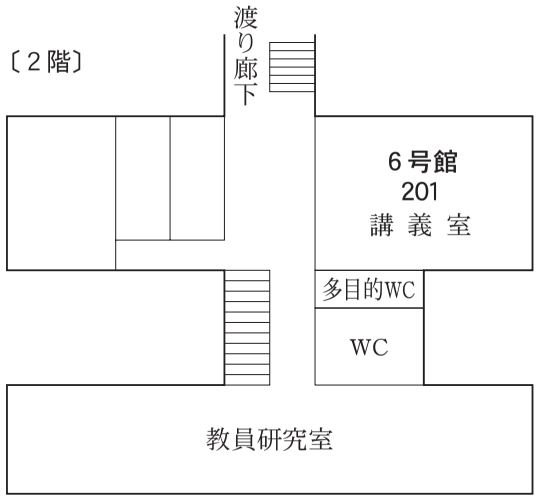
教養教育６号館

教養教育講義室などがあります。

〔３階〕



〔２階〕

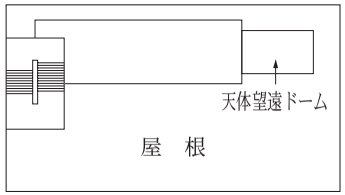


教養教育５号館

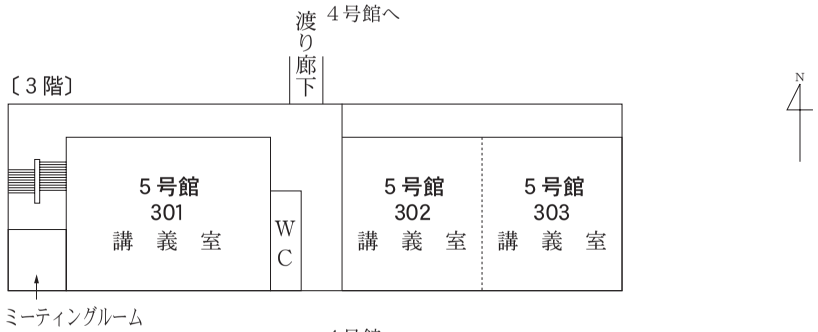
教養教育講義室（学生自習スペース含む）とキャンパスライフ健康支援センターがあります。

〔４階〕

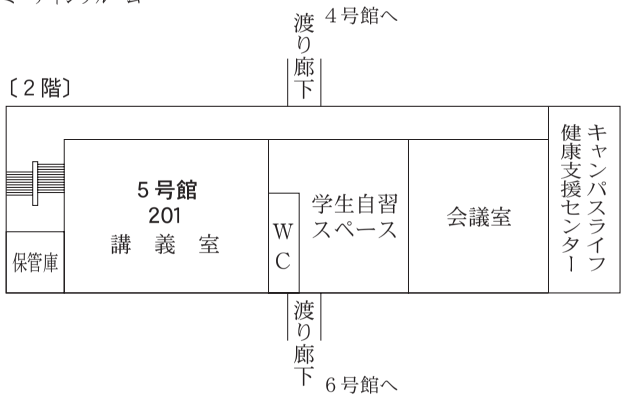
〔屋階〕



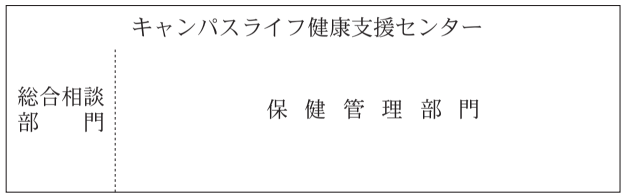
〔３階〕



〔２階〕



〔１階〕



理工学部講義室配置図

N
変電室
知能情報・北棟
知能情報・南棟
フロンティア研究センター
情報センター院生棟
２階:
(情)1-A [202]
(情)1-B [202]
３階:
(情)2-C [301]
光応用工学科
産学官連携プラザ
総合研究実験棟
カフェ
シンボルストリート
風洞実験室
建設系実験室
降雨実験室
水理実験室
生物資源産業学部学務係２Ｆ
建設棟
環境防災研究センター
多目的ホール（３階）
図書館
池
正門
第２食堂
カフェテリア
工業会館
薬品庫
化学・生物棟
実習機械棟
創新教育センター
機械棟
掲示板
会計課経理係（授業料等納付場所）
理工学部共通講義棟
車庫
電気電子棟
守衛室
１階:学務係, 総務係, 予算管理係
会計課経理係
（授業料等納付場所）
２階:K201～K206
CALL(学生自習室)
３階:K301～K309
長期インターンシップ支援室
４階:K401～K407
５階:K501～K507
６階:K601, K602,
創成学習スタジオ

令和2（2020）年度　総合科学部学年暦

4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8 (1)	9 (1)	10 (1)	11
12	13 (1)	14 (1)	15 (2)	16 (2)	17 (2)	18
19	20 (2)	21 (2)	22 (3)	23 (3)	24 (3)	25
26	27 (3)	28 (3)	29	30 (4)		

5月

日	月	火	水	木	金	土
					1 (4)	2
3	4	5	6	7 (5)	8 (5)	9
10	11 (4)	12 (4)	13 (4)	14 (6)	15 (6)	16
17	18 (5)	19 (5)	20 (5)	21 (7)	22 (7)	23
24	25 (6)	26 (6)	27 (6)	28 (8)	29 (8)	30
31						

6月

日	月	火	水	木	金	土
	1 (7)	2 (7)	3 (7)	4 (9)	5 (9)	6
7	8 (8)	9 (8)	10 (8)	11 (10)	12 (10)	13
14	15 (9)	16 (9)	17 (9)	18 (11)	19 (11)	20
21	22 (10)	23 (10)	24 (10)	25 (12)	26 (12)	27
28	29 (11)	30 (11)				

7月

日	月	火	水	木	金	土
			1 (11)	2 (13)	3 (13)	4
5	6 (12)	7 (12)	8 (12)	9 (14)	10 (14)	11
12	13 (13)	14 (13)	15 (13)	16 (15)	17 (15)	18
19	20 (14)	21 (14)	22 (14)	23	24	25
26	27 (15)	28 (15)	29 (15)	30 (16)	31 (16)	

8月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3 (16)	4 (16)	5 (16)	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

10月

日	月	火	水	木	金	土
				1 (1)	2 (1)	3
4	5 (1)	6 (1)	7 (1)	8 (2)	9 (2)	10
11	12 (2)	13 (2)	14 (2)	15 (3)	16 (3)	17
18	19 (3)	20 (3)	21 (3)	22 (4)	23 (4)	24
25	26 (4)	27 (4)	28 (4)	29 (5)	30 (5)	31

11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4 月(5)	5 (6)	6 (6)	7
8	9 (6)	10 (5)	11 (5)	12 (7)	13 (7)	14
15	16 (7)	17 (6)	18 (6)	19 (8)	20 (8)	21
22	23	24 (7)	25 (7)	26 月(8)	27 (9)	28
29	30 (9)					

12月

日	月	火	水	木	金	土
		1 (8)	2 (8)	3 (9)	4 (10)	5
6	7 (10)	8 (9)	9 (9)	10 (10)	11 (11)	12
13	14 (11)	15 (10)	16 (10)	17 (11)	18 (12)	19
20	21 (12)	22 (11)	23 (11)	24 (12)	25 (13)	26
27	28	29	30	31		

1月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12 (12)	13 (12)	14 (13)	15	16
17	18 (13)	19 (13)	20 (13)	21 (14)	22 (14)	23
24	25 (14)	26 (14)	27 (14)	28 (15)	29 (15)	30
31						

2月

日	月	火	水	木	金	土
	1 (15)	2 (15)	3 (15)	4 (16)	5 (16)	6
7	8 (16)	9 (16)	10 (16)	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

3月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

凡 例

- ■……春季，夏季，冬季，学年末休暇等
- □……新入生オリエンテーション
- ■……総括授業・定期試験期間
- ▨……追再試期間
- ▭……開学記念日
- ◯……入学試験等
- ◎……入学式・卒業式
- ●……大学祭
- ◯……祝祭日

※（　）の数字は授業回数を示す。

総合科学部の英語表記の頭文字「IAS」をモチーフに、人と人をつなぐかたちを描きながら、奥行きのある「諸科学の融合」を表現したシンボルマーク。「諸科学の融合」は「人と人との和合」「世界中の人々の融和」につながっていくことに期待を込めている。

大学への問い合わせ及び緊急連絡先

〇徳島大学総合科学部事務課学務係

ＴＥＬ　088－656－7108

ＦＡＸ　088－656－9314

Faculty of Integrated Arts and Sciences

Tokushima University